

富山県小矢部市

桜町遺跡発掘調査報告書

木製品・繊維製品・植物編

2007年

小矢部市教育委員会

富山県小矢部市
桜町遺跡発掘調査報告書

木製品・繊維製品・植物編

2007年

小矢部市教育委員会



繩文時代中期末～後期初頭 構築材



繩文時代中期末～後期初頭 施設材



縄文時代中期末～後期初頭 その他の加工材



縄文時代中期末～後期初頭 器具材

序

小矢部市には悠然とした空気が流れています。三方を丘陵で囲まれ、市域中央には小矢部川が貫流する土地柄にその源があるのかもしれません。人はこの地に有史以前から現在まで連綿とつながる歴史を築いてきました。

桜町遺跡は市の北西に位置しており、国道8号小矢部バイパス建設に伴い事前に発掘調査を行いました。その結果、縄文時代をはじめ、奈良・平安時代、鎌倉時代、江戸時代の豊富な資料が発見されています。

本書では、昭和62年度から平成14年度にかけて実施した発掘調査により出土した縄文時代の遺物の中から、現代に続く木工技術の初期段階に位置づけることができる大型や、精巧な小型品などの木製品をはじめ、織維製品・植物などの有機質遺物について報告するものです。

通常の遺跡では土の中で腐蝕してしまうような脆弱な出土品が、大量に良好な状態で発見されたことにより、遺跡への市民の関心が高く、文化財保護啓発の一助となっております。このことから、発掘調査から整理作業まで慎重かつ正確に行わなければならないものと痛感し邁進してまいりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまでご理解とご協力をいただきました地元の方々をはじめ、国土交通省富山河川国道事務所、桜町遺跡調査等検討委員会・同専門部会委員各位、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センターの諸機関の方々および関係各位には格別なご指導を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

平成19年3月

小矢部市教育委員会
教育長 西川 康夫

例　　言

1. 本書は、富山県小矢部市桜町に所在する桜町遺跡の発掘調査報告書のうち、第6巻目にあたる「木製品・繊維製品・植物編」である。
2. 発掘調査報告書は、これまで、平成14年度に「弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ」、平成15年度に「縄文遺構編Ⅰ　弥生・古墳・古代・中世編Ⅱ」、平成16年度に「縄文遺構編Ⅱ　弥生・古墳・古代・中世編Ⅲ」、17年度に「縄文土器・石器編Ⅰ」を刊行している。
3. 発掘調査は、国道8号小矢部バイパスの建設に伴うもので、小矢部市教育委員会が国土交通省から委託を受けて実施した。
4. 本書に収録している木製品は、桜町遺跡のうち、昭和62年度に発掘調査を行った中出地区、昭和63年度、平成8年度、平成9年度、平成10年度に発掘調査を行った舟岡地区第1調査区、第6調査区から出土したものと、平成11年度に発掘調査を行った舟岡地区第2調査区、平成12年度、平成14年度に発掘調査を行った舟岡地区第3調査区から出土したものである。
5. 本書の作成は、小矢部市教育委員会が行った。作成にあたり、桜町遺跡調査等検討委員会(田中琢委員長・小林達雄委員長)の指導を受けた。担当者は下記のとおりである。

・2006年度　総括　文化スポーツ課　課長　森下博幸

　　主務　　同上　　主事　中井真夕

　　事務　　同上　　課長補佐　安念幹倫　　主任　高木場万里

6. 本書の編集・執筆は、小矢部市教育委員会文化スポーツ課職員の協力を得て、中井真夕が行った。写真撮影は、出土状況を当市職員がを行い、遺物はアーガス・フォト・スタジオ赤羽仁論に委託した。
7. 樹種鑑定は、当遺跡検討委員である鈴木三男東北大教授の監修のもと、各専門機関に委託した。
8. 本書は、ほかに本書を収めたCD-ROM 1枚が付いている。本書の実測図版・写真図版の表示は次のとおりである。
 - 1) 遺物の報告番号は通し番号を付した。ただし、繊維製品と植物の報告番号は再び各々1～54、1～3を付した
 - 2) 引用・参考文献は、著者と発行年(西暦)を〔 〕で文中に示し、巻末に一括して掲載した。
 - 3) 実測図版の縮尺は、大型品から小型品まで大きさに大差があるので、基本的に頁ごとにそろえた。写真図版の縮尺もおなじである。出土状況写真は任意である。主要な遺物については別に縮尺1/30にそろえて比較したものを参考にしていただきたい。
9. 出土遺物と調査に関する資料は、桜町遺跡出土木製品管理センターで保管している。
10. 出土品の整理および報告書作成中、下記の方々から多大な御教示・御協力を得た。記して深甚なる謝意を表したい。(敬称略、五十音順)

伊藤隆三・上野幸夫・岸本雅敏・木村勝彦・久々忠義・沢田正昭・鈴木三男・小島俊彰・小林達雄・西井龍儀・能代修一・宮本長二郎・山田昌久・渡辺誠

目 次

第Ⅰ章 調査の概要	1
1 調査区別調査状況	
A 舟岡地区 第1調査区・第6調査区	1
B 舟岡地区 第2調査区	1
C 舟岡地区 第3調査区・第4調査区	1
D 中出地区	1
2 造構別出土状況	1
3 時期別出土状況	2
第Ⅱ章 整理の方法	4
1 記載方法	4
2 出土点数について	4
3 分類方法について	6
4 記述について	6
A 本文	7
B 観察表	7
C 図面図版・写真図版	8
第Ⅲ章 遺物	10
1 造作材	10
A 構築材	10
B 施設材	11
C その他の加工材	13
2 器具材	18
A 石斧柄	18
B 石斧留め具	19
C 楔(楔状木製品)	19
D 堀棒	20
E 錫状木製品	20
F 削りだし棒材	20
G 弓	20
H 刳りもの	21
I 不明漆塗製品	22
J 素材	22
K 槍	22
L 編錐状木製品	22
第Ⅳ章 繊維製品	23
第Ⅴ章 植物	25
第Ⅵ章 転用材について	26
第Ⅶ章 まとめ	28
参考文献	30
抄録	52

図版目次

卷首図版

- 卷首図版 1 構築材 縄文時代中期末～後期初頭
- 卷首図版 2 施設材 縄文時代中期末～後期初頭
- 卷首図版 3 その他の加工材 縄文時代中期末～後期初頭
- 卷首図版 4 器具材 縄文時代中期末～後期初頭

図 版

第1図 調査区位置図	3
第2図 分類フローチャート	5
第3図-1 木材の部分名称	8
第3図-2 木口からみえる木取り	8
第3図-3 容器等の削りものの木取り	8
第4図 実測図の表現記号	8
第5図 器具材の部位名称と測定箇所	9
第6図 造作材の測定箇所	9
第7図 スギ薄板材の幅・厚さの分布図	16
第8図 舟岡地区構築材（1）柱材 中期末～後期初頭	53
第9図 舟岡地区構築材（2）柱根 中期末～後期初頭	54
第10図 舟岡地区構築材（3）柱根 中期末～後期初頭	55
第11図 舟岡地区構築材（4）柱根 中期末～後期初頭	56
第12図 舟岡地区構築材（5）柱根 中期末～後期初頭	57
第13図 舟岡地区構築材（6）柱根 晩期中葉	58
第14図 舟岡地区構築材（7）柱根 晩期中葉	59
第15図 舟岡地区構築材（8）柱根 晩期中葉	60
第16図 舟岡地区構築材（9）柱根 晩期中葉	61
第17図 舟岡地区施設材（1）杭群 中期末以前	62
第18図 舟岡地区施設材（2）杭群 中期末以前	63
第19図 舟岡地区施設材（3）水場材 中期末～後期初頭	64
第20図 舟岡地区施設材（4）水場材 中期末～後期初頭	65
第21図 舟岡地区施設材（5）水場材 中期末～後期初頭	66
第22図 舟岡地区施設材（6）水場材 中期末～後期初頭	67
第23図 舟岡地区施設材（7）水場材 中期末～後期初頭	68
第24図 舟岡地区施設材（8）水場材 中期末～後期初頭	69
第25図 舟岡地区施設材（9）水場材 中期末～後期初頭	70
第26図 舟岡地区施設材（10）水場材 中期末～後期初頭	71
第27図 舟岡地区施設材（11）水場材 中期末～後期初頭	72
第28図 舟岡地区施設材（12）水場材 中期末～後期初頭	73

第 29 図	舟岡地区施設材 (13) 水場材	中期末～後期初頭	74
第 30 図	舟岡地区施設材 (14) 水場材	中期末～後期初頭	75
第 31 図	舟岡地区施設材 (15) 水場材	中期末～後期初頭	76
第 32 図	舟岡地区施設材 (16) 水場材	後期末～晚期前葉	77
第 33 図	舟岡地区施設材 (17) 水場材	後期末～晚期前葉	78
第 34 図	中出地区施設材 (18) 水場材	中期末～後期初頭	79
第 35 図	中出地区施設材 (19) 水場材	中期末～後期初頭	80
第 36 図	中出地区施設材 (20) 水場材	中期末～後期初頭	81
第 37 図	中出地区施設材 (21) 水場材	中期末～後期初頭	82
第 38 図	中出地区施設材 (22) 水場材	中期末～後期初頭	83
第 39 図	舟岡地区その他の加工材 (1) 丸木材・分割材	中期末以前	84
第 40 図	舟岡地区その他の加工材 (2) 丸木材	中期末～後期初頭	85
第 41 図	舟岡地区その他の加工材 (3) 丸木材	中期末～後期初頭	86
第 42 図	舟岡地区その他の加工材 (4) 丸木材	中期末～後期初頭	87
第 43 図	舟岡地区その他の加工材 (5) 丸木材	中期末～後期初頭	88
第 44 図	舟岡地区その他の加工材 (6) 丸木材・半割材	中期末～後期初頭	89
第 45 図	舟岡地区その他の加工材 (7) 半割材	中期末～後期初頭	90
第 46 図	舟岡地区その他の加工材 (8) 半割材	中期末～後期初頭	91
第 47 図	舟岡地区その他の加工材 (9) 半割材	中期末～後期初頭	92
第 48 図	舟岡地区その他の加工材 (10) 半割材	中期末～後期初頭	93
第 49 図	舟岡地区その他の加工材 (11) 半割材・分割材	中期末～後期初頭	94
第 50 図	舟岡地区その他の加工材 (12) 分割材	中期末～後期初頭	95
第 51 図	舟岡地区その他の加工材 (13) 分割材	中期末～後期初頭	96
第 52 図	舟岡地区その他の加工材 (14) 分割材	中期末～後期初頭	97
第 53 図	舟岡地区その他の加工材 (15) 分割材	中期末～後期初頭	98
第 54 図	舟岡地区その他の加工材 (16) 分割材	中期末～後期初頭	99
第 55 図	舟岡地区その他の加工材 (17) 分割材	中期末～後期初頭	100
第 56 図	舟岡地区その他の加工材 (18) 分割材	中期末～後期初頭	101
第 57 図	舟岡地区その他の加工材 (19) 分割材	中期末～後期初頭	102
第 58 図	舟岡地区その他の加工材 (20) 分割材	中期末～後期初頭	103
第 59 図	舟岡地区その他の加工材 (21) 分割材	中期末～後期初頭	104
第 60 図	舟岡地区その他の加工材 (22) 分割材	中期末～後期初頭	105
第 61 図	舟岡地区その他の加工材 (23) 分割材	中期末～後期初頭	106
第 62 図	舟岡地区その他の加工材 (24) 板目板	中期末～後期初頭	107
第 63 図	舟岡地区その他の加工材 (25) 板目板	中期末～後期初頭	108
第 64 図	舟岡地区その他の加工材 (26) 板目板	中期末～後期初頭	109
第 65 図	舟岡地区その他の加工材 (27) 板目板	中期末～後期初頭	110
第 66 図	舟岡地区その他の加工材 (28) 板目板	中期末～後期初頭	111
第 67 図	舟岡地区その他の加工材 (29) 板目板	中期末～後期初頭	112
第 68 図	舟岡地区その他の加工材 (30) 板目板	中期末～後期初頭	113

第69図 舟岡地区その他の加工材 (31) 板目板	中期末～後期初頭	114
第70図 舟岡地区その他の加工材 (32) 柱目板	中期末～後期初頭	115
第71図 舟岡地区その他の加工材 (33) 柱目板	中期末～後期初頭	116
第72図 舟岡地区その他の加工材 (34) 柱目板	中期末～後期初頭	117
第73図 舟岡地区その他の加工材 (35) 柱目板	中期末～後期初頭	118
第74図 舟岡地区その他の加工材 (36) 柱目板	中期末～後期初頭	119
第75図 舟岡地区その他の加工材 (37) 柱目板	中期末～後期初頭	120
第76図 舟岡地区その他の加工材 (38) 柱目板	中期末～後期初頭	121
第77図 中出地区その他の加工材 (39) 分割材	中期末～後期初頭 (上図)、舟岡地区器具材 (1) 削りもの中期末以前 (下図)	122
第78図 舟岡地区器具材 (2) 石斧柄	中期末～後期初頭	123
第79図 舟岡地区器具材 (3) 石斧柄	中期末～後期初頭	124
第80図 舟岡地区器具材 (4) 石斧柄	中期末～後期初頭	125
第81図 舟岡地区器具材 (5) 石斧柄	中期末～後期初頭	126
第82図 舟岡地区器具材 (6) 石斧柄	中期末～後期初頭	127
第83図 舟岡地区器具材 (7) 石斧留め具・楔	中期末～後期初頭	128
第84図 舟岡地区器具材 (8) 堀棒	中期末～後期初頭	129
第85図 舟岡地区器具材 (9) 堀棒	中期末～後期初頭	130
第86図 舟岡地区器具材 (10) 鋸状木製品	中期末～後期初頭	131
第87図 舟岡地区器具材 (11) 鋸状木製品	中期末～後期初頭	132
第88図 舟岡地区器具材 (12) 削りだし棒材	中期末～後期初頭	133
第89図 舟岡地区器具材 (13) 弓	中期末～後期初頭	134
第90図 舟岡地区器具材 (14) 弓 (拡大)	中期末～後期初頭	135
第91図 舟岡地区器具材 (15) 削りもの	中期末～後期初頭	136
第92図 舟岡地区器具材 (16) 削りもの	中期末～後期初頭	137
第93図 舟岡地区器具材 (17) 削りもの	中期末～後期初頭	138
第94図 舟岡地区器具材 (18) 削りもの	中期末～後期初頭	139
第95図 舟岡地区器具材 (19) 削りもの・不明漆塗製品	中期末～後期初頭	140
第96図 舟岡地区器具材 (20) 素材	中期末～後期初頭	141
第97図 舟岡地区器具材 (21) 素材	中期末～後期初頭	142
第98図 舟岡地区器具材 (22) 素材	中期末～後期初頭	143
第99図 舟岡地区器具材 (23) 素材	中期末～後期初頭	144
第100図 舟岡地区器具材 (24) 素材	中期末～後期初頭	145
第101図 舟岡地区器具材 (25) 梯	後期末～晩期前葉	146
第102図 舟岡地区器具材 (26) 石斧留め具・編錘状木製品	後期末～晩期前葉	147
第103図 舟岡地区器具材 (27) 削りだし棒材	縄文時代以降 (古墳時代)	148
第104図 造作材区別・時期別比較 (1 : 30)		149・150
第105図 舟岡地区織維製品 (1)		151
第106図 舟岡地区織維製品 (2)		152
第107図 舟岡地区織維製品 (3)		153

第 108 図 舟岡地区織維製品（4）	154
第 109 図 舟岡地区織維製品（5）	155
第 110 図 舟岡地区織維製品（6）	156
第 111 図 舟岡地区織維製品（7）	157

表

表 1 時期別出土数	5
表 2 木製品観察表 構築材（1）	31
表 3 木製品観察表 施設材（1）	31
表 4 木製品観察表 その他の加工材（1）	32
表 5 木製品観察表 器具材（1）石斧柄	36
表 6 木製品観察表 器具材（2）石斧柄留め具	36
表 7 木製品観察表 器具材（3）楔（楔状木製品）	36
表 8 木製品観察表 器具材（4）堀棒	36
表 9 木製品観察表 器具材（5）鏨状木製品	36
表 10 木製品観察表 器具材（6）削りだし棒材	36
表 11 木製品観察表 器具材（7）弓	37
表 12 木製品観察表 器具材（8）剃りもの	37
表 13 木製品観察表 器具材（9）不明漆塗製品	37
表 14 木製品観察表 器具材（10）素材	37
表 15 木製品観察表 器具材（11）櫛	37
表 16 木製品観察表 構築材（12）編錘状木製品	37
表 17 木製品観察表 構築材（2）	37
表 18 木製品観察表 施設材（2）	38
表 19 木製品観察表 その他の加工材（2）	41
表 20 織維製品観察表	50

写真図版

図版 1 舟岡地区構築材（1）柱材 中期末～後期初頭
図版 2 舟岡地区構築材（2）柱根 中期末～後期初頭
図版 3 舟岡地区構築材（3）柱根 中期末～後期初頭
図版 4 舟岡地区構築材（4）柱根 中期末～後期初頭
図版 5 舟岡地区構築材（5）柱根 中期末～後期初頭
図版 6 舟岡地区構築材（6）柱根 晩期中葉
図版 7 舟岡地区構築材（7）柱根 晩期中葉
図版 8 舟岡地区構築材（8）柱根 晩期中葉
図版 9 舟岡地区構築材（9）柱根 晩期中葉
図版 10 舟岡地区施設材（1）杭群 中期末以前
図版 11 舟岡地区施設材（2）水場材 中期末～後期初頭
図版 12 舟岡地区施設材（3）水場材 中期末～後期初頭

図版 13	舟岡地区施設材 (4) 水場材	中期末～後期初頭
図版 14	舟岡地区施設材 (5) 水場材	中期末～後期初頭
図版 15	舟岡地区施設材 (6) 水場材	中期末～後期初頭
図版 16	舟岡地区施設材 (7) 水場材	中期末～後期初頭
図版 17	舟岡地区施設材 (8) 水場材	中期末～後期初頭
図版 18	舟岡地区施設材 (9) 水場材	中期末～後期初頭
図版 19	舟岡地区施設材 (10) 水場材	中期末～後期初頭
図版 20	舟岡地区施設材 (11) 水場材	中期末～後期初頭
図版 21	舟岡地区施設材 (12) 水場材	中期末～後期初頭
図版 22	舟岡地区施設材 (13) 水場材	中期末～後期初頭
図版 23	舟岡地区施設材 (14) 水場材	中期末～後期初頭
図版 24	舟岡地区施設材 (15) 水場材	後期末～晚期前葉
図版 25	舟岡地区施設材 (16) 水場材	後期末～晚期前葉
図版 26	中出地区施設材 (17) 水場材	中期末～後期初頭
図版 27	中出地区施設材 (18) 水場材	中期末～後期初頭
図版 28	中出地区施設材 (19) 水場材	中期末～後期初頭
図版 29	中出地区施設材 (20) 水場材	中期末～後期初頭
図版 30	中出地区施設材 (21) 水場材	中期末～後期初頭
図版 31	舟岡地区その他の加工材 (1) 丸木材・分割材	中期末以前
図版 32	舟岡地区その他の加工材 (2) 丸木材	中期末～後期初頭
図版 33	舟岡地区その他の加工材 (3) 丸木材	中期末～後期初頭
図版 34	舟岡地区その他の加工材 (4) 丸木材	中期末～後期初頭
図版 35	舟岡地区その他の加工材 (5) 丸木材	中期末～後期初頭
図版 36	舟岡地区その他の加工材 (6) 丸木材	中期末～後期初頭
図版 37	舟岡地区その他の加工材 (7) 丸木材・半割材	中期末～後期初頭
図版 38	舟岡地区その他の加工材 (8) 半割材	中期末～後期初頭
図版 39	舟岡地区その他の加工材 (9) 半割材	中期末～後期初頭
図版 40	舟岡地区その他の加工材 (10) 半割材	中期末～後期初頭
図版 41	舟岡地区その他の加工材 (11) 半割材	中期末～後期初頭
図版 42	舟岡地区その他の加工材 (12) 半割材	中期末～後期初頭
図版 43	舟岡地区その他の加工材 (13) 半割材・分割材	中期末～後期初頭
図版 44	舟岡地区その他の加工材 (14) 分割材	中期末～後期初頭
図版 45	舟岡地区その他の加工材 (15) 分割材	中期末～後期初頭
図版 46	舟岡地区その他の加工材 (16) 分割材	中期末～後期初頭
図版 47	舟岡地区その他の加工材 (17) 分割材	中期末～後期初頭
図版 48	舟岡地区その他の加工材 (18) 分割材	中期末～後期初頭
図版 49	舟岡地区その他の加工材 (19) 分割材	中期末～後期初頭
図版 50	舟岡地区その他の加工材 (20) 分割材	中期末～後期初頭
図版 51	舟岡地区その他の加工材 (21) 分割材	中期末～後期初頭
図版 52	舟岡地区その他の加工材 (22) 分割材	中期末～後期初頭

- 図版 53 舟岡地区その他の加工材 (23) 分割材 中期末～後期初頭
図版 54 舟岡地区その他の加工材 (24) 分割材 中期末～後期初頭
図版 55 舟岡地区その他の加工材 (25) 分割材 中期末～後期初頭
図版 56 舟岡地区その他の加工材 (26) 板目板 中期末～後期初頭
図版 57 舟岡地区その他の加工材 (27) 板目板 中期末～後期初頭
図版 58 舟岡地区その他の加工材 (28) 板目板 中期末～後期初頭
図版 59 舟岡地区その他の加工材 (29) 板目板 中期末～後期初頭
図版 60 舟岡地区その他の加工材 (30) 板目板 中期末～後期初頭
図版 61 舟岡地区その他の加工材 (31) 板目板 中期末～後期初頭
図版 62 舟岡地区その他の加工材 (32) 板目板 中期末～後期初頭
図版 63 舟岡地区その他の加工材 (33) 板目板 中期末～後期初頭
図版 64 舟岡地区その他の加工材 (34) 板目板 中期末～後期初頭
図版 65 舟岡地区その他の加工材 (35) 桁目板 中期末～後期初頭
図版 66 舟岡地区その他の加工材 (36) 桁目板 中期末～後期初頭
図版 67 舟岡地区その他の加工材 (37) 桁目板 中期末～後期初頭
図版 68 舟岡地区その他の加工材 (38) 桁目板 中期末～後期初頭
図版 69 舟岡地区その他の加工材 (39) 桁目板 中期末～後期初頭
図版 70 舟岡地区その他の加工材 (40) 板目板・桿目板 中期末～後期初頭
図版 71 舟岡地区その他の加工材 (41) 桁目板 中期末～後期初頭
図版 72 舟岡地区その他の加工材 (42) 桁目板 中期末～後期初頭
図版 73 中出地区その他の加工材 (43) 分割材 中期末～後期初頭（上図）、舟岡地区器具材（1）
　　削りもの 中期末以前（下図）
- 図版 74 舟岡地区器具材（2）石斧柄 中期末～後期初頭
図版 75 舟岡地区器具材（3）石斧柄 中期末～後期初頭
図版 76 舟岡地区器具材（4）石斧柄 中期末～後期初頭
図版 77 舟岡地区器具材（5）石斧柄 中期末～後期初頭
図版 78 舟岡地区器具材（6）石斧柄 中期末～後期初頭
図版 79 舟岡地区器具材（7）石斧柄 中期末～後期初頭
図版 80 舟岡地区器具材（8）石斧留め具、楔 中期末～後期初頭
図版 81 舟岡地区器具材（9）堀棒 中期末～後期初頭
図版 82 舟岡地区器具材（10）堀棒 中期末～後期初頭
図版 83 舟岡地区器具材（11）鍛状木製品 中期末～後期初頭
図版 84 舟岡地区器具材（12）鍛状木製品 中期末～後期初頭
図版 85 舟岡地区器具材（13）削りだし棒材 中期末～後期初頭
図版 86 舟岡地区器具材（14）弓・部分拡大 中期末～後期初頭
図版 87 舟岡地区器具材（15）削りもの 中期末～後期初頭
図版 88 舟岡地区器具材（16）削りもの 中期末～後期初頭
図版 89 舟岡地区器具材（17）削りもの 中期末～後期初頭
図版 90 舟岡地区器具材（18）削りもの 中期末～後期初頭
図版 91 舟岡地区器具材（19）削りもの 中期末～後期初頭

- 図版 92 舟岡地区器具材 (20) 不明漆塗製品 中期末～後期初頭
- 図版 93 舟岡地区器具材 (21) 素材 中期末～後期初頭
- 図版 94 舟岡地区器具材 (22) 素材 中期末～後期初頭
- 図版 95 舟岡地区器具材 (23) 素材 中期末～後期初頭
- 図版 96 舟岡地区器具材 (24) 素材 中期末～後期初頭
- 図版 97 舟岡地区器具材 (25) 素材 中期末～後期初頭
- 図版 98 舟岡地区器具材 (26) 櫛 後期末～晚期前葉
- 図版 99 舟岡地区器具材 (27) 石斧留め具・編錘状木製品 後期末～晚期前葉
- 図版 100 舟岡地区器具材 (28) 削りだし棒材 繩文時代以降（古墳時代）
- 図版 101 舟岡地区纖維製品 (1) 中期末～後期初頭
- 図版 102 舟岡地区纖維製品 (2) 中期末～後期初頭
- 図版 103 舟岡地区植物 中期末～後期初頭

第Ⅰ章 調査の概要

1. 調査区分調査状況

調査にて縄文時代に属する木製品等は1,776点出土している。出土状態は以下の3つに大別できる。ひとつは、遺構および遺構を構成している材である。水場や、柱穴などの遺構を検出している。つぎに水が溜まりやすい場所であったことを利用し、材木が乾燥し割れることから防ぐため貯木されていた木材。大型の材は杭で止めてあった。最後に流木であった材、の3タイプである。

A. 舟岡地区 第1調査区・第6調査区

第1調査区は、2つの谷筋が合流し子撫川へ流れ出る出口部分に位置し、低地である。北側に隣接する第6調査区は、谷の中に中洲状に形成された台地となっている。低地部分では子撫川からの入水と谷からの排出水によって水の動きに押引きがあり、水が溜まりやすい場所となっていたと考えられる。実際に現地では、大規模な土石流層間にラミナ状堆積層が認められた。調査区中央部の南北断面には、土石流層堆積と、砂もしくはシルト層堆積が交互に堆積する状況を確認できた。縄文時代中期末から後期初頭頃に属する遺構は土石流堆積層上に築かれ、出土した木製品の大半を占める1,049点はその時期のものである。

B. 舟岡地区 第2調査区

第2調査区は、第1調査区の西側に隣接している。この場所は縄文時代から中世までの遺物を含む各土層が堆積している。縄文時代後・晩期に属する土器・石器が大量に出土している。この調査区の更に西側に続く第3調査区の縄文遺構が、縄文時代末に発生した土石流によって流された遺物であるが、木製品は出土していない。縄文時代以降の川から削りだし棒材など3点が出土し、今回報告している。

C. 舟岡地区 第3調査区・第4調査区

第3調査区は、東側に隣接する第2調査区から続き、西方向と南西方向からの谷筋が合流する場所である。第4調査区はそのさらに西側に位置する。合流部から西側では、縄文時代後期末から晩期の遺構・遺物を良好な状態で検出した。一方、合流部から東側および第2調査区にかけては、南西方向からの流水により大規模に削平されて残っていない。縄文時代の木製品は遺構に伴い出土したもので354点ある。環状木柱列や貯蔵穴、柱穴、水場などの遺構を検出している。

D. 中出地区

中出地区は舟岡地区の第1・第6調査区の東側に続く場所である。子撫川に沿う自然堤防上に広がる平地である。舟岡地区が谷間に位置し、土石流堆積と整地層との交互に堆積する状況であるのに対し、比較的穏やかに堆積している。縄文時代中期末頃には、東側に隣接する舟岡地区第1・第6調査区から続く川に築かれた木組み遺構を検出している。この遺構に伴い18点の木製品が出土している。

2. 遺構別出土状況

出土した木材のうち18%は、遺構の構成材である。本報告では施設材に区分している。遺構の種類は水場、柱穴、土坑、貯蔵穴、環状木柱列である。遺構の位置や性格など詳細については、

2004、2005 年度刊行「桜町遺跡発掘調査報告書－縄文遺構編 I、II－」[2004・2005 小矢部市教育委員会]を参照されたい。本書では概要に留める。

水場 水場遺構は流水を濾めるための木組み（枠材）と作業するための足場がある。それらの材を留める杭もある。水場は縄文時代中期末～後期初頭の時期では 5 基、縄文時代後期後葉～晩期では 2 基を検出している。検出状況から設置された場所は、川の中や、水辺であったことが窺える。木材を方形に組み杭で固定した木枠状であるものが中期には 3 基、晩期には 1 基ある。木材を積み重ねある一定の長さに揃えて並べ、杭で固定した足場が中期に 1 基ある。

木材群 木組みではないが、木材や木製品等が集中して置かれた場所が中期末～後期初頭で 6 箇所で検出している。川の中や岸辺に木材を並べて杭で留めた状態であるものが多い。木材の大きさや形状が多様であること、杭で固定してあるものの寄せ固めて置いた状態であることから、水場の施設としての要素が見受けられない。木製品が集積されている場所では、完成品と未完成品が混在し、これから加工されるような木材が集中されて置かれていた。水中にて保管していたものと考えられる。

柱穴 木柱根を伴う柱穴は、中期末～後期初頭では 15 基、晩期では 4 基ある。柱穴の掘り込みや配列が不明確であることから竪穴住居や掘立柱建物などの建物を構成するものとは断定できない。また実際に柱が残っている上坑では、柱根の径には細太いが混在する。その穴の配置も点在し、建物等の存在は考え難い。おそらく、径 80 cm 程度ある柱については、建物ではなくトーテムポール等の集落の位置や性格を表すものではないかという可能性がある。その他の太さの柱についても同じような配置状態であるため、建物等の存在を想定するのは困難である。

土坑 土坑は、中期末～後期初頭で 194 基、晩期では 92 基が検出されている。径に大小あるが、そのうち中期では 40 基、晩期では 18 基に堅果類がまとまって入っており貯蔵穴であると考えられる。晩期のものは、穴をほり木材で木枠をつくり、樹皮等を切り揃えて蓋をした状態で検出している。

環状木柱列 環状木柱列は、主に円形の線上で一定の間隔をおいて穴をほり、半載形や板状の柱を入れた遺構である。縄文時代晩期の北陸地方にある特徴的な遺構である。検出例が少なく、遺構の持つ性格などは解明されていない。桜町遺跡では約 6m の円環を 2 環検出している。線上に 8 基の土坑、このうち 7 基に半径 50～60 cm の半載柱が実際に残り、うち 2 本は円弧を削り板状に加工されていた。周辺から漆塗堅櫛など呪術的な要素が高い遺物が出土していることから、祭祀などに関係する施設という見方が強い。時期をあまり置かず同環状にはほぼ同様の穴の位置で、建替えが行われたようである。

3. 時期別出土状況（表1）

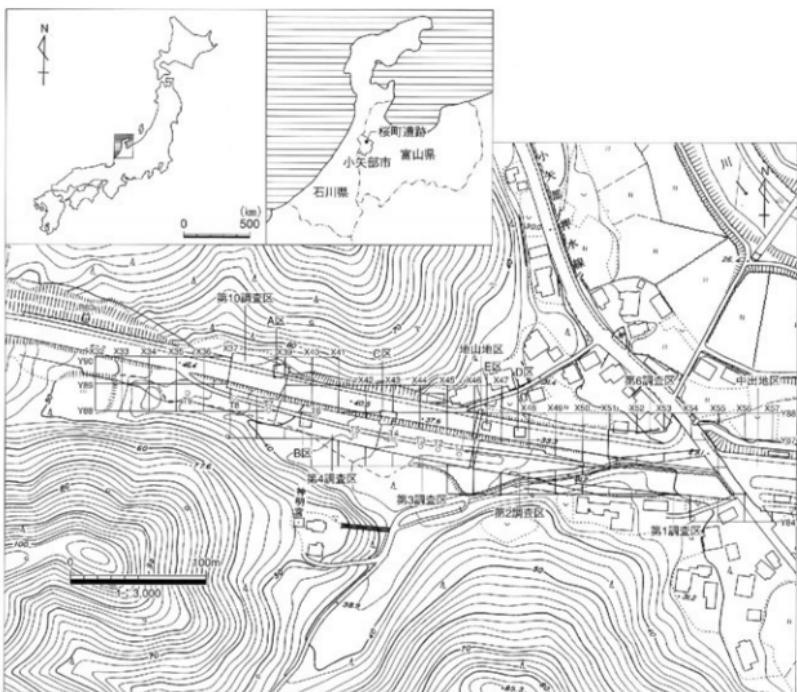
概要 本書で報告する舟岡地区第1～4・6 調査区、中出地区から出土した木材や木製品は、層位や遺構から、縄文時代の 4 時期に分けることができる。

縄文時代中期 舟岡地区第1・6 調査区および中出地区では、縄文時代中期末以前の遺構群と縄文時代中期末～後期初頭の遺構群、それに伴う遺物が検出された。遺構群は中期中葉頃におきた土石流層の堆積後に築かれたものである。この土石流堆積の層中の木材を放射性炭素年代測定の AMS 法により測定した結果、約 7,000～8,000 年前の時期が得られた。しかし堆積層には、中期前葉～中期中葉の上器片が

混入していた。このことから縄文早期～中期中葉の長期間において、主に土石流が堆積と流失を繰り返し、中期末～後期初頭の遺構群が構築できる基盤層が形成された。この基盤層より下層の土石流堆積層上に構築されていた遺構群の時期は、中期の範疇ではあるが、詳細な時期については決定できない。土石流堆積層上に築かれた遺構群の木材は、同じくAMS法により年代測定をおこなっている。その年代値は、4,000年前を前後するものであり、中期末～後期初頭に属することを裏付ける結果であった〔2004小矢部市教育委員会(付載3)〕。中出地区では、第1調査区から続いている川跡を検出している。

縄文時代後・晚期 舟岡地区第3・第4調査区では、南西方向からの削平を免れた縄文時代後期末～晚期の遺構や遺物を検出した。層位や遺物から、後期末～晚期前葉と晚期中葉～後葉の二時期が考えられる。検出した遺構に伴って木柱や木材が出土している。

縄文時代以降～古墳時代 舟岡地区第2調査区は、縄文時代以降の川跡が3本検出されている。時期は古墳時代から古代である。しかし縄文時代晚期の土器・石器が大量に出土した。これは調査区西側に続く第3調査区にあった遺物包含層が、南西方向からの流失によって削平されたものが堆積した結果である。



第1図 調査区位置図 (1 : 3,000)

第Ⅱ章 整理の方法

1. 記載方法

桜町遺跡は、昭和55年度から本年までの27年間かけて調査してきた。このうち本発掘調査は11年間の歳月を費やした。今回報告する木質遺物は、主に舟岡地区第1~4・6調査区、中出地区の調査地で、昭和61年度~平成元年と、平成9年度~平成15年度の発掘調査で出土したものである。

木材や木製品を、次項のフローチャートに基づき分類したことにより、区別に報告する方法を採用した。縄文時代の木製品の器種分類については、確立されていない。それは他の遺物に比べて、出土量が著しく少なく、遺物の出土状態によっては観察が不可能であるような脆弱物であるものが多く、再利用のための加工を受け本来の形状が変わってしまったものなどあり、統計的な分類は進んでいない。以上のことと踏まえて、当遺跡検討委員の山田昌久首都大学准教授にご教授頂き、フローチャートを作成した。

本来は調査区分、調査年度別、時期別に報告するべきではある。しかし、本遺跡は複合遺跡であることと、長期間に亘る調査であったため、同区内で年度を何年も越えて調査している。[小矢部市2004]このことは、本来の遺物について報告する前に、同じような説明を何度も繰り返すことになる。したがって今回は、第Ⅰ章にて、調査区分、調査年度、時期について概要を説明する方式を探った。第Ⅱ章では、整理の方法について述べ、第Ⅲ章以降は遺物の説明をする。

2. 出土点数について（表1）

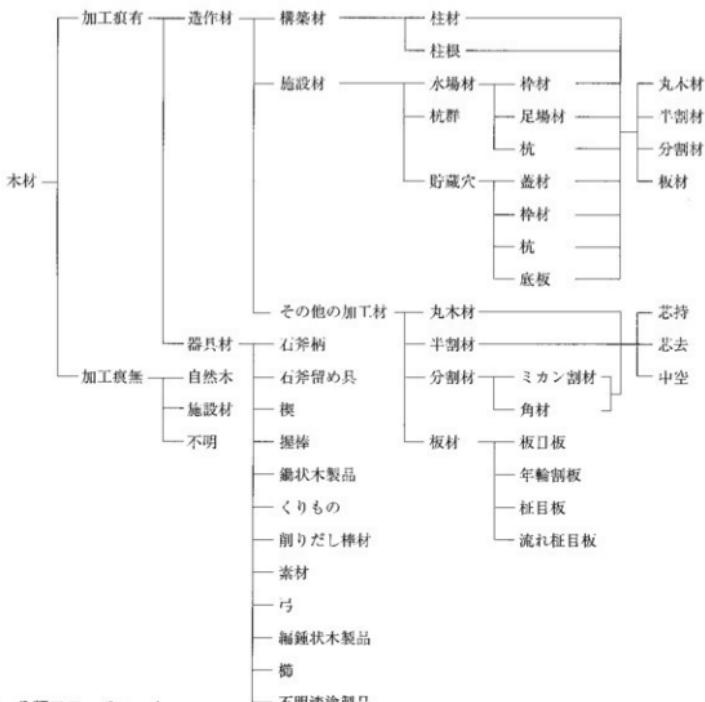
縄文時代に属する木材・木製品の出土総数は、1,776点である。この数字は、一個体としてカウントできる遺物のものである。現地において出土直後は、1,600m³ある調査地内の半分程度が、木材で一杯になったという印象が強くある。しかし、大半の出土木材の状態は、腐食や欠損、土圧や木材同士が重なっていることによる潰れで変形しており、どこまでを一個体としてよいか判断しかねる状態で出土した。平成9年度当時にマスコミ等で取り上げられた良好な状態の木材は、全体の15%程度である。この15%の遺物について、今回図面および写真図版で提示する。

時期別の出土数について全体数に対しての割合は次のとおりである。中期末以前(中期の範疇)19.8%、中期～後期初頭59.6%、後期末～晚期初頭17.1%、晚期中葉3.4%である。この比率差は、中期の遺構・遺物を検出した舟岡地区第1・第6調査区および中出地区と、晚期の遺構・遺物を検出した舟岡地区第3・第4地区では、立地や塗かれた遺構の性格が大きく異なることに起因する。また、晚期遺構面の調査では、自然流路中に流木として自然木を検出している。しかし川底で検出したものではないし、同時期やその後の時代に、川幅や水量などの規模が違うものの、ほぼ同じ場所で流れていることから、縄文時代の後・晚期の木材とは決定できない。このため晚期の自然木はカウントしていない。

加工の有無については、加工有りが61%、加工無しが39%である。加工された木材は、完成品と未完成品に関わらず樹皮剥ぎや枝払いが行われている。この行為は、同じ条件下で埋まっていた木材の残存状態に少なからず影響するものと思われる。中期遺構面では、トチノキが自生していた根部分を検出した。これは比較的、残存状態は良好であった。自然木でカウントしている。

総数 1,776点							
縄文時代中期以前 (中期内に属する) 355点		縄文時代中期末～ 後期初頭 1,067点		縄文時代後期末～ 晚期前葉 293点		縄文時代晚期中葉 61点	
加工痕有	加工痕無	加工痕有	加工痕無	加工痕有	加工痕無	加工痕有	加工痕無
構築材	施設材	その他の加工材	器具材	構築材	施設材	その他の加工材	器具材
0点	7点	70点	2点	10点	104点	438点	98点

表1 時期別出土点数



第2図 分類フローチャート

3. 分類方法について（第2図）

出土した木材は、加工の有無から、造作材と器具材と自然木の3つに大別した。

造作材は、次の3つの要素を持つ。石斧等による粗加工、残存形態および使用材が比較的大型、使用材種はほとんどがクリである。加工痕や出土状態から、構築材・施設材・その他の加工材に区分した。この区分の詳細については以下に記述する。

器具材は、石斧やほかの小型道具による細加工、完成形が想定できて使用材が比較的小型、使用樹種は製品ごとに適材種を使用している。12種類に区分した。

自然木は、伐採痕や樹皮剥きなどの初期段階の人的加工が施されていない木材とする。川の中の流木が多い。しかし自然木であった材でも、遺構の構成材として使用されている場合も考えられるが、当遺跡では存在しなかった。人の手が加わっていない材は、傷みやすいため、残り得なかったと考えられる。

造作材

構築材 加工痕や出土状況から何らかの構造物を想定できる柱根と柱材である。中期は10点、晩期15点。加工痕がある材の全体総数1,083点中で約2%の割合である。柱根は、土坑や環状木柱列から出土した。柱材1点は貯木状態であった。いわゆる貫穴1箇所と棟穴2箇所が施され、高床建物の中柱材であると想定できる材である。この材は昭和63年度調査において縄文時代の建築材が出土したと注目され、平成9年度調査では大量の木材が出土して、建築材が大量に出土した印象を強く残した。実際に穴や欠きこみなどの加工痕が施されている材は確かに多い。しかし建築材として建物のどの部分に使用されるかは不明確である。遺構からは建物跡は検出していないことなどを鑑み、本報告では前述した定義に当てはまる25点を構築材として位置づけた。

施設材 水場、杭群、貯蔵穴の遺構構成材である。中期は111点、後・晩期は201点。加工痕がある材の全体総数1,083点中から28.8%の割合である。木材を一固体で観察した場合、ほど穴等の明瞭な加工痕が數々認められる。しかし本来の使用形状は何であったかは判らない。それは資源を最大限有効に使用していたと思われる縄文人が、木材を一次、二次と使用し最後は燃料材、灰となつて自然に帰依し循環させていたと考えられるからである。今回遺物として出土した状況は、利用経過中の木材である。したがって施設材として区分した。

その他の加工材 前述の構築材や施設材に当てはまらないが、人工的な加工痕が認められる木材である。中期508点、後晩期133点。加工痕がある材の全体総数1,083点中から59%の割合である。両時期とも主に分割されただけの材が多い。

4. 記述について

記述には、本文、観察表、図面図版、写真図版を用いる。前述したようにフローチャートによる区分を基本とする。そのうえで縄文時代内の、時期別についても区分内で分ける。

なお、今回報告するにあたり図示する遺物は、保存処理済後に図面実測（測定値も含む）、写真撮影をおこなった。通常は処理前に実測をおこなわなければならない。しかし検出時は一見しっかり見えていた木材も、実態として中身は腐食していた。大量の木材は遺構の構成材であったため、一固

体としては重なっている部分もあり全長や幅は正確には測定できなかった。全体は航空測量を実施。一固体としては取り上げ後の損傷が著しく、処理作業を先に行う事にした。

A 本文 基本的に図示した遺物について、観察表で表記しきれないことについて記述する。区分別に造作材・器具材・自然木に出土数・分布状況を明らかにし、各々の種別ごとに説明する。

B 観察表 基本的に図示した279点について示す。このほか加工痕が認められる木材776点については、最小限必要なデーターを記載し観察表を作成した。自然木693点については集計したデーターを報告する。また、以下に示す①～⑫の計測項目は基本的な項目であるが、器具材については種別により観察表を別に作成した。

- ① 報告番号 図面図版、写真図版に付けた番号。遺物によっては図面・写真・観察表のみが掲載されているものがあるが、ひとつの遺物にひとつの番号である。ただし、繊維製品および植物の報告番号については、再び繊維製品が1～54、植物は1～3を付した。
- ② 区分 フローチャートによって分別した。
- ③ 種別 区分ごとにその材の出土状態や形体から付した。なお、器具材は『木器集成図録 近畿原始篇』[1993奈良国立文化財研究所]や他の遺跡の遺物記録を参考に名称を付けた。
- ④ 木取り 現状で木口面に残る木目を以下のように示した。山田氏によると縄文時代には切断道具は石斧や木具しかないので、弥生時代以降に存在する金属具による板目は出来難い。板目の木目は、実は年輪に沿って接しているとのこと。称して「年輪割り」である。確かに板目面が無い年輪割は板材のうちの約62%を占める。しかし割合は少ないが板目はある。そこで本書ではご教授を受けながら、板目板(材)を使用する。ここに陳謝したい。なお、山田氏による木材の分割方法については、本書と同時に発刊する「桜町遺跡発掘調査報告書 総括編」(2007小矢部市教育委員会、以下[2007総括編]と略す)にて報告される。

丸木材 樹心を含む芯持ち材であること。

半割材 樹心を通り2分割しているもの。

偏半割材 樹心を避けて2分割しているもの。芯持ちと芯去り材となる。

分割材 半割材や偏半割材のように接線方向に割った後で、放射方向に割ったもの。芯持ちと芯去り材となる。

板目板(材) 接線方向に割るもしくは削るもの。

柾目板(材) 放射方向に割るもしくは削るもの。

削り出し材 接線方向や放射方向に関わらず削り出して成形しているもの。芯持ちと芯去り材となる。

横木取り 容器の口と底部が柾目(接線方向)にくるもの。

縦木取り 容器の口と底部が木口面にくるもの。

⑤ 芯 樹芯部の有無。

⑥ 樹種 東北大学植物園長の鈴木光男桜町遺跡調査等検討委員に同定を依頼した。一部については、能代修一氏と(株)パリノ・サーヴェイに依頼した。詳しくは[2007総括編]「」における鈴木氏の報告に譲る。

- ⑦ 調査区
- ⑧ 遺構
- ⑨ 時期
- ⑩ サイズ 長さ、幅・径、厚さ・高さ
- ⑪ 炭化・樹皮 部分的に炭化部・樹皮が残存するもの。欄に○を記入。
- ⑫ 備考 特記する事項。

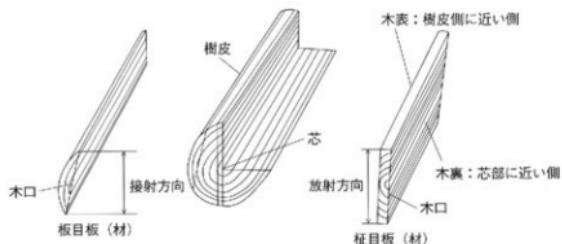
C 図面図版・写真図版

報告番号と同番号である。わずかであるが写真図版のみの遺物もある。

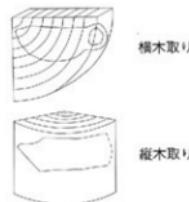
区別別に報告していく。前述したとおり保存処理後の図面作成・写真撮影である。

図について 基本的には展開図法により、正面・側面・断面である。必要に応じて裏面や底面を加えたものや、基本より減らしたものがある。

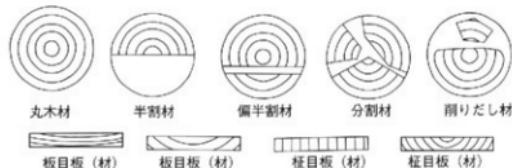
断面図 木口面に認められる年輪は、木取りを表現している。実際の年輪数ではない。また出土材種はクリが多く、道管が放射状に配列されているため、ねじれているものが多い。加えて断片で木口面が潰れており、実際の木目とは一致しない。



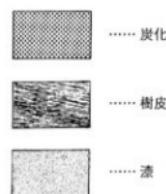
第3図-1 木材の部分名称



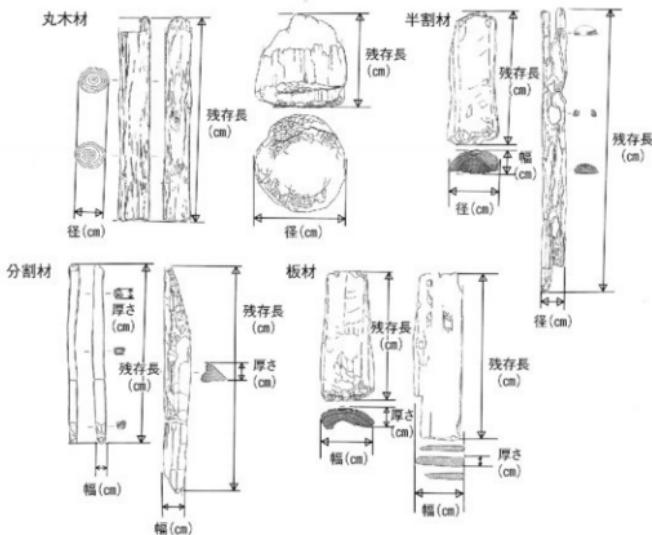
第3図-3 容器等の割り物の木取り



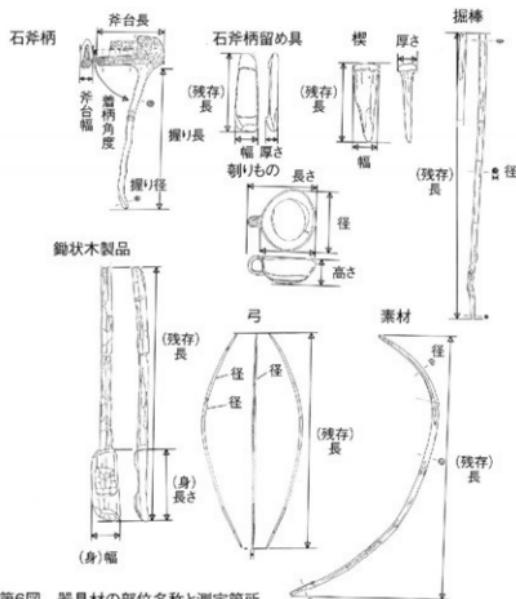
第3図-2 木口からみえる木取り



第4図 実測図の表現記号



第5図 造作材の測定箇所



第6図 器具材の部位名称と測定箇所

第Ⅲ章 遺 物

基本的には加工痕が認められた材については、調査区や出土遺構、出土年度、計測値などは観察表にて個別で示しているので、そちらを参照されたい。ここでは、観察表に書ききれなかった表現を中心に記す。

1 造 作 材

A 構築材（表2・17、第1～16図、図版1～9）

中期末～後期初頭では10点、(1～10) 晩期中葉では15点(11～21、280～283) 出土している。このうち良好な状態の遺物を20点保存処理し図化している。ほか5点については、出土状況が真と観察表で報告する。

1は昭和63年度調査・第1調査区東端で出土した「高床建物柱」の中柱材と想定された柱材である。川の中から他の木材と集積された状態で出土した。杭などで固定された痕跡もなく集められている。のことから乾燥防止のため貯木されていたものと考えられる。

形状は295cm、径24cmある直状の柱。一先端から約80cmは先細りしている。この部分が埋設された状況下であったという見方もできる。もう一方の先端部は完結しているか否かは判然としない。柱のはば中央に貫穴と称されたほぞ穴が1箇所ある。12×10cm。側面幅15cmに幅いっぽいの穴があけられている。棟穴とする欠き込みは4箇所。前述のはぞ穴の貫通方向に即して2穴1組で横棟を両方向から受ける。各々は9～10×6～7.5cm。深さは木表側から9～11.5cm。同組の2穴間は7cmの陸橋が残る。棟穴2組間は芯々で80cmである。

*貫穴や棟穴は建築用語で既定的な意味合を持つ。貫穴は穴に二開通して柱を渡すものをいう。当遺跡の場合、実際に穴に柱が入っていた状態での出土状況ではない。したがって厳密にいとはぞ穴となる。

2～5、10は、前述(第I章2)のとおり建物等の構造物のプランが想定できない柱穴から出土した径39～61cmある柱根。残存長は31～71cm。伐採時の痕跡や樹皮をはいだ痕跡がある以外に特記すべき加工痕は認められない。3の底面には樹芯部を残し14cmの欠き込みがある。削痕が幾つも見られ底面に平坦面を作っている。木を運搬するための目途穴であった可能性も指摘されたが、樹皮側に引っ掛ける突起部分の痕はまったく認められない。現代において当遺跡周辺で林業に従事する方から、伐採時に根入りが樹芯部を越え、自重で倒木した際に底面の一部に割れたさざくれが残り、それを除去する作業の痕跡に類似していることを伺った。

11～21、280～283は環状木柱列の柱根である。11～16は同環状と考えられ径49～65cm、残存長28～50cm。同様に19～21が同環状と考えられ径24～55cm、残存長15～24cm。12～17は芯部を残す略半裁。半裁面は丁寧に削り整えられ、底面は平坦に仕上げられている。11と12、21は各々の同環中の門扉部であるとされる。芯部を残す略半裁であるが円弧が削られ柵目材ともいえる。幅55～62cm、厚さ15～21cm、残存長24～44cm。両面とも丁寧に整えられている。底面は平坦である。280と282は前述の二環状の同上にはあてはまらないが、周辺の柱穴から出土した。検出形状は円形を呈しているが、残存状態が悪く取り上げはできなかった。断割で確認

したところ、底面は平坦であろう。径約35cm、残存長約20cm。発掘調査時は少なくとも2回の立替プランを検出しているが、同じ場所、同様のプランでもっと立替が行われていた可能性が指摘されている。その際にそのまま放置されたものであるかもしれない。〔2005小矢部市〕

B 施設材（表3・18、第17～38図、図版10～30）

中期末以前では7点（22～28）、中期末～後期初頭では104点（29～57、479～538は舟岡地区、64～78は中出地区）、後期末～晚期前葉では201点（58～63、284～477）出土している。このうち良好な状態の遺物を57点保存処理し図化している。ほか144点については、観察表で報告する。

22～28は杭群である。流路の進路方向に直行して二組の列を成していた。径約8～16cmの丸木材、残存高は約24～71cm。底面は先端を樹芯部やそれに近いように尖らせてある。樹皮剥ぎはされているが粗削りである。樹種はクリ、イヌガヤ、ハンノキ節、エノキ属などさまざまで、構成材としての役割を果たすためだけの加工であると思われる。

29～39、278は水場を形成し、方形の木枠の側板や水流を調整する水口板、作業のための足場などがある。足場材は径約13～45cm。残存長は約150～350cm。樹種はすべてクリである。

29は偏半削材である。木裏側の削面を設置面としている。残存長は約334cm、径45cm。一方先端は調査用鉄矢板にて切断され調査区外へ延び、もう一方は切断痕が認められる。木表側には32×48cmのほぞ穴が一箇所。幹上部側の端部から250cm離れて位置する。このほぞ穴から26cmすみ12×12、深さ2cmの抉りが2箇所ある。さらにすすみ径85cmの1/4の円状を呈する抉りが2箇所、中央部分に18×54cmの陸橋を挟んで左右対称で作られている。その先は調査区外へ進むため不明である。平成9年度出土時には、丸太柱の芯を残し一部削り取っているのは、水場を構成するためであったと推測された。転用材と称される所以である。同様に前述の小型高床柱に対して大型高床柱と称され、今回ほぞ穴と報告する部分は貫穴、その他は装飾加工とみなされ、桜町遺跡調査等検討委員である宮本長二郎東北工科大学教授は「神殿柱」である可能性を指摘された。小矢部市教委としては推測の域を脱しないうえ、対応する柱穴が特定できること、高床建物の柱とする根拠としては縱置きとするか横置きにするかについてもあいまいさを否めないことから、出土状況をも鑑みて施設材と区分した。

30～32、34は足場材である。31以外丸太材である。4本並べた状態で流路に即して水辺に設置されていた。個々は両端を切断し長さ調整が行われている。このうち30には一端部に25×26cmの欠き込みが1箇所施されている。

33と278は水場の足場材である。33は径24cmの丸太材で両端切断されている。一端部は部分的に残して年輪サンプルを採取した痕跡である。278は板目材で、一面には6×12cm、深さ3cmの2箇所の欠き込みがあり、断面はU字形を呈する。うち1箇所は端部にかかるため、U字形の立ちあがりが片方無い。

36は水場の木枠である。長側面を設置面にし、径2～3cmの細い杭で6ヶ所留めてあった。対する長側面には、4×10cm、深さ4.5cmのほぞ穴が2箇所施されている。水場の機能に反映しない加工である。

37～39は水場の水流調整用の板である。37は柾目板、38,39は板目板である。石斧での板作りは容易いことではなかったであろう。しかし両面とも丁寧に削られ、長辺短辺部ともに角が立っている。面には年輪が現れており水流によって磨耗しながら削られた可能性が考えられる。

40～50、279は長さ約10m、幅3mの人気で水辺に築かれた足場材である。大小400点以上の木材で構成されていたが、このうち明瞭な加工痕が認められる12点を図版化した。ほかは観察表のみで報告する。樹種は大型の木材にはクリが多く、小型は様々である。以下特質する木材について、記述する。

40は残存長381.6cm、径16cmの丸木材である。同側面上に5×6cm、深さ1.5cmの欠き込みが2箇所施されている。

41は残存長241cm、径約10cmの二股丸木材である。二股木部分の両先端と根元部には切断痕が認められ、股部分には他材を受けていたと見られる痕跡が認められる。樹皮剥ぎは施されているが、他には特質すべき加工痕は認められない。他の遺跡で検出される柱穴から、一般的な竪穴住居の柱材のサイズに合致するものと考えられる。

42は残存長220cm、径33cmの半割材である。一面には3箇所のほぞ穴が穿かれている。穴の側面や底面など全て平滑で丁寧に仕上げられており、3箇所はほぼ同じサイズで、幅32cmで、厚さ13～15cmのうち木裏側を3cm残し、木表側は幅9cm、厚さ4.5cmの陸橋部を残して削り抜かれている。陸橋部の両端には約2cmの溝ができる、これは繩掛けの痕跡ではないかと考えられる。両端部の一端は欠損しているようそこでから約7cmの部分から3箇所のほぞ穴が芯々で約60cmの間隔で作られている。3箇所口から約30cm進んだ部分からもう一端部にかけての長さ約60cmは、全体的に粗れしており、この部分が埋設されていた可能性が考えられる。

45は残存長132.4cm、幅14.7cmで、一端部には径4.5cmの突起部があり、平成9年度の発掘調査時には、ほぞとしていたが、今回報告するにあたり切断する際に残った部分である可能性が高いと考えるものである。

47は残存長228cm、幅14.4cmで偏半割材である。一端部から約60cm部分には現状では大きく欠損し、接合も困難であるが、出土時には繩掛け用の目途穴があるとされていた。木材表面が粗れしており、現地では土によって保護している状態であったため、取上げ時には崩れて失ったものである。

49は残存長134cm、幅27.2cmの柾目板で、両端は欠損しているようである。一端部から約20cm進み、幅27cmのうち両端に5cm幅を残して、28×15cmの長方形のほぞ穴が木表側からあけられている。このほぞ穴からもう一端部にむかひ、約17cmの長さで幅27cmいっぱいに削り込まれているが、その先は欠損しており、全体形状は不明である。

51～57は水場構成材である。水場は流路に平行して4×2.8mの長方形型に築かれている。大小90点以上の木材で構成されていたが、このうち明瞭な加工痕が認められる7点を図版化した。

52、53は残存長が違うものの、木表側に段やえぐり込みなどの加工が施されており、施設では枠材の一部として使われていた。これは、後述するその他の加工材の111と同一材と見られ、そこで概要を説明する。

54は残存長182cm、幅約10cmの断面が扇型の分割材である。一端部には先端部をゆるく尖らせ

20 cmほど平坦面をつくった後、径 4 cm のくびれを両方向から削りだしている。後述するその他の加工材の 131 は先端部のみが残存している。

56、57 は残存長約 240 cm で、幅約 20 cm の板目板である。2 本は平行に並べられて、組み合わされて、水を引き込む菅のような役割を持っていたと見られる。56 の一端部には 20 × 15 cm、厚さ 6 cm の方形を作りだし残している。これに対して 57 の一端部には一辺が約 15 cm の三角柱状に削りだしている。両材の側面を立てに置き、前述 57 の先端部から約 10 cm 離し、同様の方向に 56 の方形のつくりだし部分を置いて、平行に並べている。両材とも、もう一方の端部は幅約 15 cm、厚さ約 12 cm の板に削りだされている。57 には板の側面に、90 度の角度で幅 15 cm、厚さ 2 cm の板が一部残る。本来は加工のある先端部から 1.5 m の長さで残っていたが、取上げ時に崩壊したため残らなかった。

58～63 は、貯蔵穴の構成材である。基本的に穴の大きさに即して正方形に組まれた枠組みと蓋材がある。このうち明瞭な加工痕や残存状態がよい遺物 6 点を図版化した。ほかは観察表のみで報告する。貯蔵穴は樹皮そのものを使用し、他の材も樹皮が付いた状態であるものが多く、遺構検出時は状態が良好であるが、取上げに際しては大型の木材でも崩壊するもの多かった。

63 は残存長 56.7 cm、幅 27.3 cm の板材で一部欠損している。一面は炭化しており、この面が貯蔵穴の底面にされていた。炭化することで腐食を防いでいたものと見られる。

64～78 は、水場構成材である。先端をある程度尖らせた分割材を地面に突き立てた状態で検出した。これらの杭の間に挟まるように長方形の板が長辺を設置面とした状態で出土した。流路の中に築かれていることから、水場として機能していたとみられる。64～74 は残存長約 42～82 cm、径約 4～15 cm の芯去りの分割材である。先端は粗く削られて尖らせてある。

75 は残存長 109 cm、幅 39.6 cm、厚さ 5.9 cm の板である。杭群の中で水流調整の役割を果たしていたものと見られるが、両面とも平滑で削痕が認められ良好な状態である。一端部に施されている扇型の曲線部の加工は、杭群に使用される前の状態の残部であると考えられるが不明である。

76～78 は断面形状が板、先端は粗く削られ厚さ約 3 cm と薄くなっている。

C その他の加工材（表 4・19、第 39～77 図、図版 31～73）

中期以前では 70 点（79～83、945～1009）、中期末～後期初頭では 438 点（84～202、うち 200～202 は中出地区出土材である、626～944）、後期末～晩期前葉は 87 点（539～625）、晩期中葉は 46（1010～1055）点出土している。このうち良好な状態の遺物を 124 点は保存処理し図化している。ほか 564 点については、観察表で掲載する。各時期では、木口面に現れている木取りから、丸木材、半割材、分割材、板目材（板）、柾目材（板）に分類した。残存状態が悪く木口面からの情報が明確でないものが多い。出土した材の 74% がクリであることから、放射組織によって年輪が確認し難いのも一要因ではある。したがって全部ではないが専門家や専門機関に協力をお願いした。それでも不明なものは観察表での記入を避けた。

79 は、1 万年前以前に湖沼堆積層が形成された後に発生した土石流の堆積し層を形成していく過程で自生していた樹木の一部である。全体は根から幹、枝までが全体的に残っている自然木であると判断したが、幹のこの部分にのみ明らかな加工痕があった。全体は出土状態が悪かったので、取り上げ

は現状部分のみに留めた。周辺では縄文早期の押型文様がある土器が出土したが、堆積状況から木材の時期決定はできない。16 cm × 12 cm、深さ 5 cm の欠き込みが施され、樹種はカエデ属である。

80 は半径 18.3 cm と推定され、残存高 18.3 cm の柱根である。約半分のみの残存であるが、樹芯部に向かい削りぬいた痕跡が見受けられるが、全体に摩滅しており加工痕か自然に痩せたのか判別できない。底面には伐採痕が認められ、樹種がクリであることから柱根とした。

83 は、土石流層に流された状態で出土した。断面形状から板目材である。芯を年輪に沿って抜いてあり溝ができる。これをもって柄のように使用したかは、出土状況と照らしても考え難い。

84、85 は二股材である。Y 字材と称され当遺跡でもその使用方法などが大変注目された材である。2 本は大きさや加工が酷似している。根元から二股の先端までは 251.6 cm と 260 cm。二股の間は芯々で約 90 cm あり、幹は約 30 cm の丸木、樹種はクリである。根元は水平に切断され、幹から二股に分岐する部分でやや反っている。この反りの内側になる側に丁寧な削り加工が施され、平らな面を作っている。この削りは二股木の先端まで続く。両先端部は水平に切断され、12 × 6 cm で深さ 6 cm の欠き込みがあり、ほかの材木が当たった痕跡は認められない。また 2 本とも反りの反対側には樹皮を剥いだ際にのこる削痕が顕著に残る。しかし、径 1 ~ 8 cm の大小の節が 84 で 7 箇所、85 で 8 箇所があり、節は枝払いはあるものの突起部分は除去していない。よって使用法の一案である権型木製品の「修羅」のような擦痕は認められない。また、85 の根元部分がやや細くなっているが、削痕によるものである。東北工科芸術大学の宮本長二郎氏は、この部分が埋土され二股木の先端を上に向け立てていたと述べられたが、埋設により痩せたとはいえない。よって立てられていた可能性は少ない。対して 84 の根元部分には樹皮を剥ぐ際にできた痕跡が認められる。

86 ~ 95 は丸木材に区分した 10 点である。86 には両端に芯部の切り残し痕が残る。88 は一先端に伐採時の痕跡が顕著に残り、この痕跡より枝幹材であったと判る。

94 ~ 96 (96 は後述する半割材に区分) は、平安時代の流路が、下層にある縄文時代の包含層に達している層位で並べてまとめてあった木材群である。残存長は約 2.7 ~ 3.4 cm、径約 15 cm の丸太材 2 点と半割材である。

96 ~ 110 半割材に区分した 14 点である。97 は木表側の弧を削り平坦にしようとしている。両側面は明瞭ではないが削痕が認められ、先端部には切断痕が、もう一方には欠き込みが認められる。

98 ~ 107 は割り面には特に加工痕が認められないが、片もしくは両端部に切断痕が認められる。101 は、出土時には割り面を上面に検出し、周辺には削った一部がつぶれたクルミのわずかな集積と敲石 1 点が出土した。裏面となる木表側はやや扁平に潰れているのに対し、木裏側は年輪が潰れ明瞭ではないが窪みが認められる。出土状況と木材の状態から「調理台」としての役割、つまり石皿のように使用していたのではないかと考えている。片端部には切断痕が、もう一方は樹芯部が切り残されている。

108 は径約 45 cm の偏半割材である。木裏側には、削ったというよりも樹芯部を残し削りとったようで節も削ってある。木表側は一部を残し斜めに削り平坦面をつくっている。横断からみると楔状である。両端部は欠損もしくは雑に切り取ったような痕跡がみえる。

109は年輪の若い外側部分でいわゆる辺材であるが、径は36cmの丸木材が想定される。注目しているのは、片端部に短辺の両端が突起状に残りそこから角部分を丸く削っている部分である。推定ではあるが、突起状がもう少し延び反転しておなじような形状がつくられていた場合、ほぞ穴であった可能性が考えられる。

110は辺材部分ある。短辺の片端部に切断痕があるもう一方は残存状態がよくない。割り面には削痕による多少の起伏がみられる。これは割った際に残った部分を除去した痕ではないかと考えられる。木表側は樹皮が剥いである以外に特に加工は観察できない。

111～155は分割材に区分した45点である。これを便宜上、以下の3つのグループにわけた。ひとつは加工痕が顕著であるものや丸木に対して分割面積が大きいもので111～125を当てている。ふたつは木口が三角形を呈している、いわゆるミカン削材で126～136を当てている。みつたはミカン削材の一部を除去し木口が四角形を呈し、いわゆる角材になるもので137～155を当てている。以上は残存形状からの主観的な決めごとであることや、木材の形状が複雑であるものがあるので、専門的な見地からは誤りである場合がある。ご容赦願いたい。

111は木口からは分割材であるが一部板状になっている。木裏側は割ったというより自然に割けたのではないかと思われる。この木材については自生していた根部分を意識して加工を施している。先端部は三角形を呈し頂点は尖らせてあり、径5～10cmの梢円状の欠き込みが7箇所で深さは3～5cm程度。幅10.2cmの帯状の段が作られている。この分割材は流路にひっかかるように出土している。この流路の上流部にあたる近接地では、水場施設を検出している。その構成材の2点の木材が非常に類似している。施設材で報告した52、53である。3点は接合できなかったが同じように幹の根元部に欠き込みや段などが施されている。おそらく同材であると思われる。その場合、根元部を上部とし、そこに加工のある柱材が想定される。この柱材と非常に類似した材が北海道の忍路土場遺跡で出土している。横木を受ける柱ではないかと考えられている。1998年度に出土した際に特異な形状や加工から「彫刻柱」と称した材である。現状では柱材とはいえないが、欠き込みや段は、柱材であっても装飾の意味合いをもつかもしれない。

112の木裏側は割ったままである。端部は一端に半円形を呈しているが、その形状に道具を使った痕跡は認められない。両端は欠損している。ほぼ中央部に木表側からあけられた径約10cmの穴があり、ほぞ穴の可能性が考えられる。

113は木口からは、分割材であるが一部板状である。板状の先端部から84cm部分に幅16cmで木裏側を0.7cm残して、木表側には幅4.5cm、厚さ0.5cmの陸橋部を残して削りぬいている。この陸橋部下の穴は高さ約3cmと小さく、その意図する効果は疑問であるため、この以前に使用されていた状況で施された加工である可能性が高い。一端部は分割材状で、先端から105cmまで10×6.5cmの断面方形を呈す。端部から12.4cm部分は幅はやや膨らみグリップエンド状となる。1997年度の出土時には板状部分にある加工を「ワタリアゴ仕口」としていたが、その後2001年度に「貫穴がある材」として訂正した。今回の本報告では厳密にはほぞ穴として報告する。

115、116は芯去りの板目の材である。木表側は樹皮剥ぎ以外に加工は認められない。両端部は

切断してある。

118は長辺の一側面全体がはつられてゆるくカーブを描く。一端部は切断されているが、もう一方は欠損している。

120は木表側の円弧部が抜かれゆるく溝ができている。木裏側には芯部が残り、両端部は欠損している。

121、122は全体的に摩滅し、両端部は欠損している。123～125は一端もしくは両端に切断痕が確認できる。

126～130、132～136は一端および両端部に切断痕が確認できる。分割面には割った以外の加工は認められないが、樹皮は剥いである。

131は分割面には特に加工はないが、先端部をゆるく尖らせ10cmほど平坦面をつくった後、くびれを削りだしている。木口は7×8cmの扇形となる。施設材に区分した54の先端部にも類似した加工がある。この2点は残存長も大幅に違うが、54のような長さがあれば、くびれ部分は別の柱材や横材に引っ掛ける役目を持つものではないかと考えられる。他の遺跡での類似品を探している。

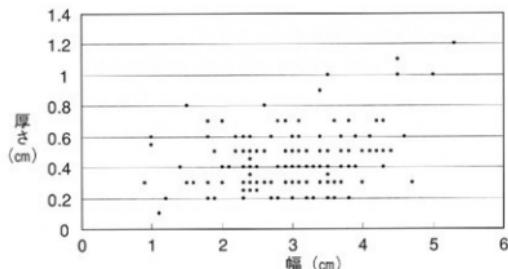
137～151は木口の形状から角材状になるものである。扇形に分割後、木表木裏側とともに角面を削るもしくは削るなどが行われている。削るには年輪に沿って剥がしている部分もいくつか認められる。139、140、142、146、151などがそれに当たる。端部は欠損しているものが多いが、先端部を尖らせたものや、細くなっているものがある。137、139、143、145、149、151が該当する。

152～155は木口が三角形状である。ミカン割り材との違いは木表側を弧の部分を割り平坦面をつくっていることである。片端の先端は尖っている。

137～155の出土状況は木材の集積であったり流木であったりするものであるが、杭としての機能があった可能性が高い。

156～177は板目板（材）に区分した22点の遺物である。

156～158は年輪に沿って割いてある。樹種はスギ。今回実測図や写真図版にて掲載するのは残存長が長いものを3点選抜した。ほか161点の固体数がある。合わせて164点について厚さ、幅を計測したものを点グラフにて以下のとおりまとめた。（第7図）割くという手法では、厚さは0.6～1.8cm、幅3～4cmが平均的である。割いた面は多少の起伏があるもののささくれた状態のものはない。クリ材の場合は割ったあとで邪魔な部分を除去するために削った痕がみられるが、このスギの板材164点について削痕は認められなかった。金属製の道具が出現した後も、細く薄い板材を要した場合、針葉樹などの放射組織が



第7図 スギ薄い板材の幅・厚さ分布図（164点分）

複雑でない材種では割いて調達した可能性はある。しかし縄文時代以降の加工材については建築部材などの大型材や多種に分類された木製品を中心に報告され、単に切断したり割ったりなどの木材については報告例が少ない。

159～161は年輪に沿って割った材である。とくに159は両面ともやや摩滅しているが本表側には潰れている。両端部は欠損しているが、長辺の一側辺には、はつられてゆるいカーブが認められる。このカーブには別の材が当たられたような痕跡は確認できない。

162～170は両面とも分割した後、木表木裏側を削りとて平坦面を作っている。端部は片および両端に切断痕が認められる。幅が10～25cmあり、厚さは2.3～10.1cmとある。

171、173～177は前述の162～170と同様な加工であるが、側辺部が割るもしくは切断されているが、明瞭な角は作られていない。

172は先端部にむかいやや薄く削られている。先端部は一側辺が斜めに切り取られ、バターナイフのような形状で、その部分は先端から片面にかけて炭化している。もう一方の端部は欠損しているが径約8cmの棒状になる。この棒状を柄と仮定するならば、火を扱う作業につかう道具の可能性も考えられる。177の先端部には同様の切り取り途中の加工痕がみられるが、もう一方の端部は切断痕か欠損か断定できない。

178～199は柾目板（材）に区分した21点の遺物である。

178は片面に段が3箇所作りだされている。3箇所間隔を段の頂点の芯々で測ると約30cmである。板の厚さは約8cmであるが、2箇所の段の間には約4cmの深さまで掘り込んである。この裏面は平坦である。両端部は欠損しており、全体形は不明である。

179は178と同様に片面に段が3箇所作られている。違いは段と段の間に明瞭なカーブがあることである。このカーブを他の木材を当てるためのものであると仮定した場合、径65cm程度ある円状の外形線に当たる。両端部が欠損しているため、全体形が不明である。

180,181,185,188は先端部に面ができる。前述の172,177のように片刃のような形状である。181はその部分が片面だけ炭化している。もう一方の端部は欠損か先に延びるのか判断できなかった。

182は両端が欠損しているが、両面や両側辺部は削ってあり角やカーブがつくられている。

183、184、186、187、189は片端や両端部が欠損している。両辺に角ができるるものも認められる。両面には削痕が認められるものがある。

190～194は両面とも丁寧に削られている。両側辺部には角面ができている。両端は一部分欠損しているが、190や193はほぼ完形であろう。

195は全体的に摩滅し、面の中央部分が欠損しており、片面は炭化している。両側辺部は削られて角面ができている。両端部はこれでほぼ完結しているであろう。

196、197、199は分割材に分類できるが板材に分類した。端部がゆるやかであるが尖らせてある。

198は先端部や側辺部に面がある。長辺の側辺部ははつられ、ゆるやかにカーブしている。

200～202は中出地区から出土した遺物で、分割材に区分する。両端部は一部分に欠損があるが、ほぼ完形品であろう。先端部はまるく尖らせてあるため、施設材にあった杭状の木材と同種ものであろう。

2 器 具 材

中期末以前では 2 点 (203、204)、中期末～後期初頭では 65 点 (205～269、ただし 264 は他 17 点・269 は 16 点を個体数としている)、後期末～晚期前葉は 5 点 (270～274)、縄文時代以降は 3 点 (275～277) 出土している。合計 75 点の遺物について保存処理後に岡化し今回報告している。器具材は、第Ⅱ章でも述べたように完成形が想定できるものから、12 種類に区分した。使用樹種は製品ごとに適材種を使用している。造作材のように突出してクリではなく、出土点数に応じている。保存処理後に観察したことによって、その他の加工材と同様に残存状態が悪いというより本口面が小面積で情報が明確でないものが多い。したがって全部ではないが専門家や専門機関に協力をお願いした。それでも不明なものは観察表での記入を避けた。

A 石斧柄 (表 5、第 78～82 図、図版 74～79)

205～223 は欠損しているが完成形が想定できること、枝幹材を使用していること、同時期出土の他の遺跡で類似品が出土していることなどから石斧柄とした。全て組み合わせ式の膝柄である。組み合わせ方法は、石斧刃を縦方向に置き、作り出した板に石斧の基部を当て、両側面と上面から 3 方向から別材の留め具で押さえ縄などの紐状品で縛るものである。このような状態で 1996 年に新潟県の大武遺跡で出土している。この方法であれば長さや幅が違う石斧を装着できる。当遺跡では同じ中期末～後期初頭の時期に比定できる磨製石斧は、長さ 8～15cm の中・大型ではほぼ長方形の定角式が多く出土している。樹種はヤブツバキやミズキなどの硬い樹種が使用されている。枝幹材を利用し枝を柄の部分に、幹を斧台部として加工している。柄は基本的に原木のままで使用し、樹皮剥ぎがおこなわれている。先端部のみ切断し長さ調整をしている。斧台部は枝から続く幹部分を削りだしている。加工の程度から欠損しているものも含め完成品 (205～215) と未成品 (216～223) にわける。なお、完成品に欠損品が多いのは使用されていたためであろう。欠損は、柄の握り部分が欠損するものが多いが、斧台の欠損の仕方には 2 通りある。ひとつは、斧台の当て板部分との境目で縦に割れているもの (207、208) もうひとつは同じく斧台の中心から上下で割れているもの (209) がある。

* 205 について 1998 年度刊行 小矢部市・小矢部市觀光協会出版『桜町遺跡』の 33 頁掲載の 5 は、206 に 205 の斧台と柄の部分を反転させ合成した図面である。1997 年度に出土した石斧柄は 5 点あるが、完形品はなかった。そこで斧柄部分を想定するため 1988 年度に出土した 205 から合成した。その際に復元部分について示すべきであったし、注釈するべきであった。本报告で訂正する。

205 は完成品の完形品である。斧台には小型の道具での加工痕が明瞭に認められる。石斧を装着する部分は 5 cm、留め具を当てる板状部分は 9 cm である。先端部には縄などを掛けた突起状の作り出しがある。握り部は 57.6 cm、径 2.8 cm で樹皮は剥いである。先端部は切断されている。

206～208 は斧台部から留め具を当てる板材から先端部にかけて欠損している。208 には柄部が残存する。すべて 205 と同様の形状であったと推定される。

209 は斧台の上部半分と縄掛け部分、柄の端部が欠損している。

210、213 は摩滅しているが小型の石斧柄である。斧台の留め具を当てる板の一部は認められるが、そこから先端部にかけて欠損している。斧台から柄に続く部分がわずかに残っている。

211 は摩滅し柄部分は欠損している。斧台については留め具を当てる板が一部欠けているが、縄

掛けの突起も認められる。

212は斧台の繩掛け部と柄が欠損しているが小型石斧柄である。ほぼ完形品であろう。

214は斧台のみである。留め具を当てる板はほぼ完存し、繩掛けの突起部分は欠損している。一部炭化しているが、製品として使用していた後に何等かの火を受けたものと思われる。柄は欠損している。

216～219は斧台となる幹部分のみが残存している。幹径は7～9cm。制作過程として台基部からある程度を形成し、その後で繩掛けや留め具を当てる板をつくられることが推測できる。219も同様の制作過程であろう。柄が残存している。

220は斧台のみが残存しているが、幹が縦に半分程度割れている。制作過程での欠損であろう。

221は斧台の留め具を当てる板を作りだし、台基部を作成中に柄も併に欠損したものと考えられる。斧台先端は切断のみが施されている。

222は斧台となる幹部分のみ残存。斧台先端が切断され、台基部はやや削り痕が認められる。

223は素材のままで樹皮が付いている。斧台となる幹部分が他の未成品と比べて小ぶりであるが、完成品を推定するとかなり小型であると思われる。

B 石斧留め具（表6、第83・102図、図版80・99）

224～226は中期末～後期初頭、273は後期末～晚期前葉に属する。他の遺跡で出土例があること、欠損部分はあるが、完成形が組合せ式石斧柄の留め具としての形態が想定できること、273では繩掛け部分に繊維体が残存していたことなどから、石斧柄の留め具とした。

224は片端が欠損している。石斧柄の當て板と触れる部分はほぼ偏平であるが、石斧と接触する部分はゆるくカーブしている。このカーブする側が石斧装着時に前方部になる。残存する端部には端から2cm余りを残して削り込まれ、繩ないし組などを架ける引っ掛け部分であったものであろう。失った端部に向かい幅は狭くなる。また226は摩滅し残存状態が良くないが、同様の形態が認められる。

これらに対し225は完形品である。片面は両端部を繩掛けのために先端から約1.5～2cmを残して後は平らに削られている。端部の形状は片方の幅がやや細くなっているが、こちらが前方部となる。その裏側は石斧の當て板や石斧と触れる面部分はほぼ水平で、使用回数が少ない可能性が考えられる。

273はほぼ完形品である。前述の中期の遺物と比べ約2倍の大きさがある。形状は、石斧柄と触れる面は偏平であるのは同様であるが、縄縛固定のための加工にはやや違いが認められる。中期は繩か紐掛けのために単に引っかかりを削り出してあったのに対し、晚期は前方部となる側に、幅2.5cm程度の溝状の削りこみが施されている。後方部となる側は、先端を丸く尖らせ、突起状に作りだしている。その溝みには繊維体が付着していた。裏側面は水平部分からゆるくカーブする。

C 楔（表7、第83図、図版80）

228は、頭部を打ちつけられた痕跡と形状から楔とした。片端は先端部を薄く尖らせ、もう一方は先端部が径約2cmの円形で敲打され潰れており径2.1mmの石がめり込んでいる。これに対して227は中央部が約2cmの厚みがあるが両先端部に向い約1/3程度薄くなり、両先端部に打ちつけた痕跡が認められない。形状から材と材の隙間に差し込む使用法が想定され、現状では楔状木製品に留める。いずれも完成品で完形品であると考えられる。楔は木を分割するために欠かせない道

具であるが、完成品であっても小型製品であるため、実際に使用しているものであればあるほど、形状は劣化し残り難い遺物と考えられる。

D 堀棒（表8、第84・85図、図版81・82）

229～233は、先端部に潰れたような痕跡と形状から堀棒とした。5点はすべて完成品である。229、230は完形品で、いずれにも先を細く尖らせた先端部と先に向いうすく扁平に削った先端部がついている。尖らせた先端部では地面を突いて土をほぐし、扁平な先端部で土を掘ったと考えられる。229は実際に使用していたものか両先端部が潰れている。

E 鋤状木製品（表9、第86・87図、図版83・84）

234～237は、残存する形状から土堀道具である鋤状木製品とした。使用痕は明確ではない。234、235は完成品の欠損品、236、237は未成品である。

234は、鋤の身部から柄にかけて残存する。そのうち刃にあたる部分半分と先端部を失っている。柄はほぼ円形で、径約3cm。身から続く部分が一番広く幅5.2cmある。刃部は先端部にむかいやや内湾し、厚さ約5mmと薄く削られている。

235は、鋤の身部のみが残存。厚さは約1cmの板状。柄に続く付け根を中心にして、身の天端の両側に向い斜めにカーブする。この部分は現代にあるスコップにも通じ、足を掛けたりなどしている。そこから先端にかけてはほぼ直真ぐ伸びている。先端部はやや潰れている。両側辺はやや薄く削られている。

236は未成品であるがほぼ全体が残存する。柄はやや角が残るが径約3cmとなろう。身は厚さ3.8cmの板状で片面中央部には、7×8.5cmの長方形に削られ窪んでいる。先端部は斜めになるよう削られている。

237は鋤状木製品として、身部であるか柄の持ち手でグッリブエンド部分であるか判別し難い。図版等では身部であるように配置した。

F 削りだし棒材（表10、第88・103図、図版85・100）

238～241は中期初頭～後期初頭、275～277は繩文時代以降の古墳時代に属する。残存する形状と加工から削りだし棒材とした。両端もしくは片端部が欠損しているが、7点とも完成品であろう。径は約2cm程度で、断面形状は円形、半円形、梢円である。

275は、先端部に施された加工から木弓の可能性が高い。弓とした場合、弦となる端部には弦かけ溝が作られているが、棒槌は切られてはいない。

G 弓（表11、第89・90図、図版86）

242は、完成品で、両端から弓幹までは全体の約2/3が残存する。全長は推定約177cm、径約2cmで、樹種はニシキギの削りだされた木弓である。両端の弦には弦かけ溝が作られている。弓腹中央には両弦の弦かけ溝まで、棒槌が切られている。弓幹には1～4cmの長さで、繊維状の糸か紐が丁寧に巻き付けてあることが確認出来る。漆分析の結果、全体に茶黒色の漆が塗布されているが、この部分は特に厚いことが判明した。実用品であるとしたら、矢を当てる箇所は決して一箇所ではないと思われ、強化したものとも考えられる。しかし、5箇所あることを考慮すると飾り弓である可能性が高い。

H 剥りもの（表 12、第 77・91 韓 5 図、図版 73・87～91）

203、204 は中期末以前、243～254 は中期末～後期初頭に属する。残存形態と加工から剥りものとした。254 を除き完成品である。

203、204 は土石流層から出土した小片で、かなり残存状態が悪く摩滅している。剥りものとしたのは両面に削った痕跡がわずかであるが認められること、断面から観察すると先端部から面にかけてゆるやかに内湾していることから、器の口縁部と判断した。

243 は、体部の側面に把手が付く。ほぼ完成品である。高さは 6.7 cm で、底部の内底面は平坦で、外面はゆるやかに丸みが作られ、口縁部は体部肩から外反する。口縁の平面形は径 17 × 19 cm の楕円形を呈す。底部には幅約 3 cm の帯状の作り出しが施され、一見、目玉のような模様である。内面と、外面の口縁部と底部の作り出しに、ベンガラ漆が塗布されている。把手の両基部の付け根は、断面方形で幅約 3.4 cm、そこから握り部は幅約 2 cm × 厚さ約 1.2 cm を測り、ほぼ円形を呈している。

244 は完成品であるが、縱割れした口縁部の約 1/2 のみが残存する。残存高は約 10 cm で、口唇部にかけてやや内湾し、端部は水平である。そこに約 4 cm 幅の注口が作りだされた片口の容器と推測している。片口の基部から端部には 2 cm 幅の帯を浮き彫りしている。厚さはほぼ一定であるが、片口部分のみ若干肥厚する。内外面ともに丁寧に磨かれ、ベンガラ漆が塗布されている。

245 は、高杯と推測している。完成品とみられるが、軸部は無く、裾広がりした脚部のみ 3/4 程度残存している。復元径は 22 cm である。内面は削り抜いてあるが、欠損しているので形状は不明である。底面は水平である。厚さは約 1.7 cm、裾部でやや肥厚する。外面には裾部に向い縱方向に約 2 cm 幅の帯状の彫りこみが施され、黒色とベンガラ漆が交互に塗布されている。また裾端部 5 mm 幅でベンガラ漆が綴っていたと推測される。

246～251 は、小破片であるが主に外面に赤色漆が塗布されており、完成品の欠損品ではあるが、残存形状から容器であろうと推測できる。厚さは 2～5 mm である。247 は外側が炭化しているが 2 次的なものであろう。249 は内外面や側面にベンガラ漆が塗布されており、高杯の脚部の可能性もあるが、小破片であるため判然としない。

252、253 は大型容器の可能性が考えられる。各々両面とも厚さ約 1.5～2.5 cm で平らである。削りは丁寧である。253 は、一側面の端部が水平に削られており、ここが立ち上がる面であった可能性もある。図面では表現しきれなかったが、片面の中央部分で炭化しており、1 cm 程度の円形の炭化痕が 6 箇所認められる。二次的に火起しの台として使用した可能性が考えられる。また、252 と 253 は板目板で木目の流れが似ていること、樹種がトチノキで同じである事などから、接合点はないが同一材であるかもしれない。

254 は、鉢形容器の未完成品である。樹種はトチノキで、木の節もしくはコブ部分を利用し深さを得ようとしているところみられる。外面は粗く削りある程度の丸みをつくっている。内面は所々に炭化痕が残るが、丁寧に削っている。変形した楕円を呈す身の頂部に把手状の張り出しが 1 箇所ある。この部分はそのまま把手となるか、片口となるのかはわからない。

I 不明漆塗製品（表 13、第 95 図、図版 92）

255 は、残存形状や加工などから完成品であるが不明品とした。材質は不明であるが、植物の表皮を利用したものであると推測され、表面に漆が塗布されている。本来ならば、繊維製品に入れるものであろうが、出土当時は弓弭の可能性も示唆されていたため、器具材に入れた。端部の始末がされていないことから、完形品の状態が仮定できない。漆の塗膜分析結果より、朱漆であることが判明した。他に赤色漆が塗布された製品はあるが、判明しているものは全てベンガラである。唯一、朱が用いられているこの製品のもう意味は興味深い。当遺跡調査等検討委員会の鈴木、山田両委員は、「把手」の可能性をご指導頂いたが、不明品とした。

J 素材（表 14、第 96～100 図、図版 93～97）

256～269 は、採取時に切り取られた、もしくは折取られたような状態が端部に残る。長さは約 50～121 cm、径は約 0.6～3.3 cm で、均一的なものではない。表皮は、一部残っているものもあるが、ほとんどのものが剥かれている。形状は 256～263 が曲棒状、264～269 が直棒状である。断面形態は、丸木で一部半割のものがある。264 と 269 以外は全て、単独で方々から出土している。出土当時は、曲棒状の 2 本を組み合わせて、タモの輪として使用したものと推測されたが、端部に縛ったり巻きつけたりした痕跡は認められない。さらに残存状態が整っており、採取時や表皮剥き以外に顕著な加工が施されておらず、使用後の製品とも認められない。以上のことから素材と位置付けた。

K 櫛（表 15、第 101 図、図版 98）

270～272 は、後期末～晩期前葉に属する。同時期の他の遺跡からの出土も多く、残存率や状態が悪いものがあるが、櫛とした。3 点とも結歯式である。漆の塗膜分析では、全面をベンガラ入り漆を塗布されることと判明したが、材質については分析をしたが判らなかった。271 は無加飾であるが、272 は中央部に透かし彫り、歯の結合部分には幅 2～4 mm の 2～3 条の沈線で加飾されている。頂部には 2 本の角状の作り出しがあったものと推測できる。歯は 16 本あったことが認められるが、全て失っている。

L 網錐状木製品（表 16、第 102 図、図版 99）

274 は、後期末～晩期前葉に属する。木表側には樹皮がほぼ全面に残り、木裏側は平らに削られている。一端には、先端部を 2.5 cm 程度残して木表側に溝状に削り、丸く作りだしている。この形状から編錐の可能性は高いが、名古屋大学渡辺誠名誉教授のご指摘やご指導を受け、同時期の他遺跡での出土例や、平安時代より以前には類例がないことより、現状では編錐状木製品に留める。

第Ⅳ章 繊維製品

概要

桜町遺跡では、出土した繊維製品は実際に使用されていたと考えられ、水辺に部分的に残った断片であるものがほとんどであるため、本来の形状は不明確である。さらに取り上げ後は劣化し崩壊する遺物も多く、今回提示する総点数は、保存処理前に図化できたもの、水浸け保管しているもの、保存処理したものなど、何等かの形で提示できる遺物を対象としてカウントした。総点数は54点である。基本的なことは観察表で示し、図示した遺物について観察表で表記しきれないことについて記述していく。⁷写真図版は前述のとおり取り上げ後の状態が悪く、出土状況写真6点、遺物写真1点のみの掲載となった。

一般的に「編む・組む」の技法によるものをザルやカゴと呼称しているが、明確な定義は無いに等しい。したがって、桜町遺跡から出土した繊維製品についても、各種書面および公的な場において、ザル・カゴと固有名詞で示しているが、感覚的な口縁部の開口具合によるものである。

そこで今回報告するにあたり、繊維製品について3種類に分類した。各点数は以下のとおりである。木を細長く削いて柔軟性を持たせたものや樹皮、植物の繊維体などを編む・組むの手法で平面や立体物をつくりだすものを「カゴ類」とし46点、繊維体を撚るおよび撚ったものを紡ったものを「糸」とし7点、繊維体であるもの「糸」として1点である。時期については、全て出土状況や共伴する遺物より縄文時代中期末～後期初頭に帰属するものと考えられる。

材質同定については、東北大学鈴木三男教授が監修のもと、(財)元興寺文化財研究所の井上美知子氏に依頼し、詳細は〔総括編2007〕にて掲載している。なお、縄文土器底部に残る繊維製品等の圧痕については、中田節子氏に依頼し〔総括編2007〕にて概要を報告している。

遺物について

A カゴ類（表20、第104～110図、図版101）

観察表にて示す材質の「タテ」は、骨組みの基本となり動きのない材料を指し、これに対して「ヨコ」は骨組みに絡んで動く材料を指している。「縁部」は、細長い材に、主に樹皮を巻いたものを指す。

「縁部」と「タテ」「ヨコ」が組み合わされたものから、残存する部位を判定した。しかし、全体形状がわかる遺物は2点のみであり、その他は口縁部または体部と記した。材質同定については全て鑑定したが、判明したものは観察表に示した。

1は底部となるであろう中央部分を失っているが、口縁部から底部にかけてゆるやかに湾曲しており、全体形がわかる。部分的に残存する口縁部は本片若しくは網枝3～4本を、7mm幅の樹皮で螺旋状に巻きつけたものを1本の束とし、この束を2本並べて縁部としている。樹皮を螺旋状に巻きつける方向が斜めに整っているのは、樹皮を幹から剥ぐ際に付いた癖を利用していると考えられる。体部はもじり編みの技法で、タテ・ヨコともに1本で、5mm間隔に直線状に並ぶタテ各1本に対して、ヨコは1cm間隔の1本で握っている。体部から口縁の間は、ヨコだけで編み込み繋がる。

2は部分的に欠損しているが、口縁部から底部まで残る。全体的に扁平で、土圧で潰れたものか

どうか、もしくは本来の形状であるかは不明である。口縁とみられる部分は、円周の3/4程度が残存する。木片若しくは細枝5本を束ね、全周ではなく2~3cm間隔で同様の材質を使い巻き留めている。この巻き束ねたものの向土を、更に幅3mm程の樹皮若しくは同様の材質で巻き留めて一周している。体部は、底部中央よりタテを放射状にひろげ、ヨコで捩り円を描き、口縁へ編み込んでいる。

3~5は口縁部より体部がわずかに残存する。口縁部は、木片若しくは細枝数本を束ね、樹皮若しくは同様の材質で巻き留めている。体部は一定間隔のタテに、ヨコは1本から2本でかがり捩る。

6~17ははじり編みの体部のみが残存する。一定間隔のタテに、ヨコは1本から多くて3本かがり捩る。またこのヨコの間隔は、狭く詰めているもの、それに比べて開いているものがあり、用途に応じて作り分けているのである。しかしながらこの間隔は一定であるものがほとんどであるが、6や10のように部分的に詰めた箇所、7のようにヨコだけで編み込む箇所がある。7は口縁部と体部とを繋げる技法であると考えられる。

18~22は網代編みである。このうち18~20は口縁部と体部が、それ以外は体部のみが残存する。木片もしくは細枝を樹皮で巻き留めた口縁部に、「1超え1潜り2送り」で繋がる。19と20の口縁部は、体部と同質の材を使用して作製しているようであるが、それぞれ体部からのタテから「2超え2潜り1送り」、「1超え1潜り1送り」繋がっている。

23~27は口縁部もしくは、持ち手などの用途を考えさせるが、使用方法は不明である。23は木片若しくは細枝5~6本を束ね、幅6mm程度の樹皮で巻き留めたものが、4重位にまとめられている。直線にすると40cmを超える。24~26は23と同様の作りであるが、24には、これを2重にし樹皮で留めている部分がある。なお、中央には網代編みの体部があるが、本来の位置は留めていない。26にも2重にした部分のみが残存している。27は樹皮のみが残存している。

28~42は残存状態が悪く、図版等は掲載できない。

B 繩 (表20、図版102)

縩とした遺物は7本あるが、全て断片である。このうち状態が良いものを3点の写真図版掲載した。なお、材質については同定した結果、不明であった。43は纖維体を右に撚り、それを輪にしていたのか半円状に残存している。撚りは緩んだものか、纖維体が10数本確認できる。45は8~12本の纖維体を右撚りにしたもの、結んだ部分のみが残存する。この結び方は「本結び」と呼ばれ、現代でも使われている。46は7~10本の纖維体を右撚りにし、それ同士を左に撚り合わせた全長約12cmの直状である。出土した縩は7本あるが、46は断片であるにも関わらず緩んではない。

C 糸 (表20、図版102)

糸は断片で3点ある。纖維体を数本重ね合わせたものを、ベンガラ漆で塗り固め、各々太さ約1.5mm~2.5mm、長さ約1.2~1.4mmの大きさである。3点は接合できないが、大きさや仕様から同一個体と考えられる。全国で13例目となる出土である。

第V章 植物

概要

今回報告する遺物は、ヒョウタン 2 点とコゴミ 1 点である。時期については、3 点とも出土状況および共伴する遺物から縄文時代中期末～後期初頭に属するものと考えられる。他に出土したクリ、トチ、コナラなどの堅果類などの植物遺体については、古代の森研究室の吉川純子氏に依頼し(総括編 2007)にて報告する。

遺物について(図版 103)

1 は頭部より蔓につながる果梗付着部が切断されており、その下につづく果皮部は最大径 7.8 cm で球形を呈し、壺のような容器と比喩できる。中身はきれいに欠き出され、欠損部分からその作業痕跡が認められる。水辺に設置された構成材とする大型材の下から出土した状況から、水場での作業に使用していたものと考えられる。

2 は果皮部のみが残存する。果皮の上部に掛けて切断されており、楕型容器のように最大径 6.7 cm の球形を呈している。やはり中身は欠き出されている。土坑内に開口部を上にした状態で置かれていた。使用方法は不明であるが、器としての様相が伺える。

3 はコゴミと呼称しているが、正式にはクサソテツであると同定された。長さは約 6 cm で先端部が渦を巻いている。水辺で水景が減少した時期に、クルミや他の種子と固まつた状態で岸に埋まつたものと見られる。収穫時期が違うが食用となるクルミと出土したことから、食用に採取されたものと考えられる。平成 9 年度に出土した際に、分析依頼した結果報告を以下に掲載する。

報告文

小矢都市桜町遺跡出土のシダ類の幼体は、クサソテツ (*Matteuccia struthiopteris* L.) T odaro) と考えられる。シダ類の幼体は基本的には「ゼンマイ状」にまくものが多い。の中でもゼンマイ (*Osmunda japonica* T hunb.) は、茎に鱗片が発達しないので、ゼンマイではない。今回のものは、全体の形状や茎に鱗片があること、断面の形態などから、クサソテツと考えられる。随伴する種子化石がトチノキやミズキ、アメガシワなどであることや、遺跡の立地から考えると、シダ植物が生育していた環境としては、開けた人里と森の境界にあたり、沢沿いの湿った日当たりのよい林縁部のような環境が想定できる。クサソテツはこのような環境に好んで生育することから、生育環境としても調和的であるといえる。

クサソテツは別名コゴミともいわれ、食用になる。コゴミの食用の歴史に関しては定かではないので、当時食用とされていたかに関しては不明である。しかしワラビなどと違い、アルカリ(灰汁など)によるあくぬきが不要であることから、簡便に食用にことができる。したがって、当時利用されていた食用としての可能性もある。(分析はパリノ・サーヴェイ株に依頼したが、同定については立教大学理学部 岩槻邦男教授の協力を得たものである。)

第VI章 転用材について

転用材とする見方

桜町遺跡で出土した木材は、加工の度合いが高いほど、表裏の面で全く様相が違う木材が見られる。つまり一面は平滑で丁寧な仕上げが施されているが、その反対面は割ったもしくは剥ぎ取ったような痕跡がそのまま認められるのである。そのギャップが顕著であるため、当市教育委員会や調査指導を頂く方々も、木柱などは転用時に半削にされたのであろうという見方をしていた。したがって縄文時代には木材という資源を余すところなく活用していたと考えるわけである。他の遺跡においても木材については、幾度か使用変更を繰り返し、最後は燃料となり土に還るといった見方がなされている。

特にこの様相を呈する木材は、施設材と区分した木材に多く見られる。施設材は全体総数のうち18%を占める。このうち掲載した遺物の29、31、36、42、47、49、56、57については、木表側に「欠込み」や「ほぞ穴」の顕著な加工が施されているが、木裏側には分割する作業痕は認められるものの、反対側で見せ付けられた高度な加工技術は全く使われてはいない。特に29は「欠込み」が木裏側に向けて深く抉られており、現状の厚さからは、縱横いずれの使用法でも強度が保てない。したがって、水場の構成材にした際に削ったものと考えられるのである。56、57は組み合わされて遺構の一部を構成している。57は板材板としているが、一側面に対して90度の角度で板が立ち上がる。本来の形状は角材であり、水場に構成される際に木表側の板を厚さ3cmで残し、削り取ったものと推測される。

以上のように現在の形状から、別の形状を推測することができる木材については、転用材として認めることができると思われる。

転用材以外の見方と比較をする

平成16年12月に開催されたシンポジウム「考古学から建築材・建築技術を考える」では、京都大学大学院生の村上由美子氏により、平成14年度に小矢部市で行った環状木柱列の復元実験の結果をもとに、クリの丸木を半削りする際に、ねじれて割れて真直ぐ割ることが容易ではないことを発表した。

これを受けて、転用時に半削りされたという見方を再検討すべきであり、削ることの意義について、また、どのような方法なら望む位置で割ることができるのかを考えたい。

丸太に加工を施し使用したものを、木材の分割順序で、半分から放射状に削っていく。この作業を石器のみで行うこと自体が困難と思われる。そのため、木材を水浸しにし、ある程度表面に石器などの刃が入りやすい状態にするものと考えられる。こうして乾燥しきった木材を削ることを可能としたのであろう。したがって施設を構成する時に木材の厚さや長さの調整分割をしたかもしれないが、水に浸す時間は必要である。この貯木時に部分的に水から顔出し状態で出ているところが、腐食した可能性が考えられる。腐食部分を除去した木材が使用された可能性を考えられる。

次に、転用材と考えた場合、木材を分割し施設を構成する部材にすることが目的であって、構成材としての役割を果たせば丁寧に仕上げる必要性はないのかもしれない。時間を掛けて木材を分割する行為には、単純に材料としての数が増やすことができること、厚さや長さを調整することが必要な施設であることなど考えられる。目的に合う木を探し伐採し運搬する労力と、既存する木材の中から目的に沿

う形に加工する労力を比べた場合、後者を選択したのであろうか。水辺に築かれた全長約10mの足場遺構SX-2には、以前の形状のまま見られる構成材が多い。この施設は水辺の斜面に約1mの木材を積み重ねたもので、厚さや長さの調整はあまり重要視されなかったと考えられる。これに対して、水場遺構のSX-1やSX-14は構成材には、その遺構の持つ役割にはあまり反映しない顕著な加工が施された構成材が多く見られる。

また、その他の加工材に区分した中にも顕著な加工が施されている木材が多く、貯木している状態で出土している。貯木することは、転用するために保管しておく木材と、加工途中木材の保管などの目的が考えられる。しかしその中の、48と49の使用目的不明である「Y字材」においては表裏で加工頻度が違う。使用する部分や見せることを意識した部分のみを顕著に仕上げるといったスタンスは、どの時代の遺物や遺構にも見受けられる。Y字材が完成品であるとした場合は、その意識が働いたものと考えている。

以上のことから、木材を有効に使い回すために転用していることは間違いない。そして特に施設の構成材への転用時には、やはり厚さや長さの調整は行われていた可能性が高い。クリがねじれて割れることを考慮しつつ、木材が水分をどのくらい吸収したら思うとおりの場所で割っていくことができるかを熟知していたものと推察される。

第VII章　まとめ

1. 本書では、桜町遺跡舟岡地区・中出地区から出土した縄文時代の木製遺物について報告した。一部、古墳時代の遺物も掲載した。
2. 木製遺物は、加工の有無をはじめ使用材種や使用目的から、造作材・器具材・自然木に大別した。
3. 造作材は、石斧等による粗加工、芯持ち・芯去り材ともに比較的大型材であり、使用材種はほとんどがクリである。
4. 造作材は、構築材、施設材、その他の加工材に分類した。構築材は、主に加工痕や出土状況から何等かの構造物が想定できる柱根と柱材である。施設材は、出土状況が遺構の構成材であるもの。桜町遺跡では、水場、杭群、貯蔵穴を確認している。その他の加工材は、構築材や施設材に当てはまらないものの、人工的な加工痕が認められる木材である。分割されただけの木材が多い。
5. 造作材には、建築材に施される建物の部位名称に則して、縫手・仕口と称する加工痕が認められる。しかし、各々は検出された遺構に反映しない部分に顕著な加工が施されていること、該当する建物遺構を検出していないことから、明確に建築材であるとは断言できない。このうち何等かの構造物が想定できる構築材については、柱根が土坑に埋設された状態である。これに対して、柱材は遺構に伴う出土ではないが、その形状から小型高床建物の中柱として仕口として認められることから、構築材に分類するとともに、建築加工の初期段階に位置付けられる遺物と認められる。
6. 造作材については、中期末～後期初頭の遺物は、木取りから径 30 cm の材を中心に行探し分割している。ただし径約 50 cm を超える木材は分割しないで丸太の状態で使用している。後期末～晩期中葉の遺物は、出土数は少ないが、径 50 cm を超える木材を分割し遺構を築いている。中期以降人口が増加したことが影響し、木材の需要が増加したものと考えられ、木材加工に携わる人口が増えたのではなかろうか。当遺跡から出土した石器のうち、木材の伐採や加工に用いられたと考えられる磨製石斧の出土量やその内容にその傾向が現れている。磨製石斧を大小のサイズに分類し、それぞれ 15 cm 以上、10 ~ 15 cm 未満、10 cm 未満を基準とする。中期では、大と小のサイズが多いものの中のサイズもある程度出土している。しかし後・晩期では大と小のサイズがやはり多いが、中のサイズは大小のサイズと比べて極端に少ない。中期には径 30 cm の材が使用材の中心であったことから、中のサイズの石斧でも伐採や切断することが可能であったものと考えられる。しかし両時期の出土量が極端に違うことや、遺構から見える生活基盤が一概に比較できるものではないため、あくまでも木材に施された加工痕からその比較を試みたものである。
7. 器具材は、石斧や小型の道具による細加工、完成形が想定できて比較的小型の木材や製品になっているもの、また製品ごとに適材を使用している。
8. 器具材は 12 種類に分類した。このうち完成形が想定できないが、完成品の欠損品である製品は不明漆塗製品とした。そのほか石斧柄、石斧留め具、楔、堀棒、鍔状木製品、削りだし棒材、弓、

- 削りもの、素材、櫛、編錘状木製品の11種類である。分類した全ての製品については、欠損部分があるものの完成形が想定出来ることを前提にしており、各々の分類基準は以下のとおりである。石斧柄は枝幹材を使用し、同時期の他遺跡において類似品が出土していること。石斧留め具は他遺跡の出土例から、その使用形状が想定でき、繩掛け部分に纖維体が付着していたこと。楔は一先端部に打ち付けられた痕跡があることやもう一端が薄く扁平であること。堀棒は両先端におのの尖らせた部分と扁平にした部分をつくってあること。鏃状木製品は、鏃の身部と柄の部分のどちらか一方と見られる残存形状であること。削りだし棒材や弓、削りものは、残存する形状とその加工状況より判断した。素材は採取時の痕跡や表皮剥ぎ以外に顕著な加工は施されておらず、使用痕が認められないこと。櫛は、他の遺跡でも良好な状態での出土例が多く、本遺跡から出土したものは残存率や状態が悪いものの櫛とした。編錘状木製品は、完形品の完成品であり編錘の可能性が高いが、同時期の他遺跡での出土例がないことより編錘状木製品とした。
9. 造作材の構築材、施設材、その他の加工材の3種類では、使用樹種は圧倒的にクリが多い。それぞれの割合は、構築材が100%、施設材が97.1%、その他の加工材が74%を占める。しかし、器具材は、突出した樹種は無く、割合は出土数に比例する。
10. 自然木は、自生していた状態の木材と、自然に折れたりして川岸や川にあった木材等の二種類がある。どちらも自然木にカウントしているが、出土状態に差が表れる。前者は樹種に関係なく、良好な状態で出土している。対して後者は磨滅して出土時やさらにその後の水浸保管中の劣化が著しい。このことから、同じ時期の条件下において埋没していた木材には、以下の木材の加工頻度の順で残存状態に少なからず影響があるものと考えられる。加工が施されている木材は、その加工が樹皮剥ぎや枝払いなどの軽度な内容であっても、残存状態は概ね良好である。次に、加工が施されていない自然木は、自生していた木材、そうでない木材の順で残存状態に良し悪しが認められる。
11. 繊維製品は、カゴ類、縄、糸の3種類に分類した。それぞれの基準は以下のとおりである。カゴ類は木を細長く削いて柔軟性を持たせたものや樹皮、植物の纖維体などを編む・組むの手法で平面や立体物をつくりだすもの。縄は纖維体を撚るおよび撚ったものを絞ったもの。糸は纖維体であるもの。出土状況や共伴する遺物より中期末～後期初頭に帰属するものと考えられる。
12. 植物は、ヒヨウタン2点とコゴミ1点出土している。いずれも出土状況や共伴する遺物より中期末～後期初頭に帰属するものと考えられる。コゴミは食用に採取されたものと考えられるが、1点しか出土していないことや、他の低湿地遺跡での出土例がないことから、食用に採取したものと容易に考えてよいか懸念される。今後の出土に期待するとともに、再考する必要がある。
13. 木材を有効に使い回すために転用していることは間違いない。特に施設の構成材への転用時には、厚さや長さの調整は行われていた可能性は高い。クリがねじれて割れることを考慮し、木材が水分をどのくらい吸収したら思うどおりの部分で割ることができると熟知していたものと推察される。

参考文献

- 上市町教育委員会1984「北陸自動車道遺跡調査報告－上市町木製品・総括編」
- 佐竹義輔、原 寛・山理俊次・富成忠夫編1989「日本の野生植物」平凡社
- (財) 北海道埋蔵文化財センター1989「忍路土場遺跡・忍路5遺跡」第4分冊
- 山田昌久1999「縄文時代の鍬鋤類について」『人類誌集報 1999』
- 小矢部市教育委員会1990「富山県小矢部市桜町遺跡—船岡地区の重要な遺跡確認緊急調査—」
- 上原真入1993「木器集成図録－近畿原始編」史料第36冊 奈良國立文化財研究所
- 加藤晋平・小林達雄・藤本義編1983「縄文文化の研究」7道具と技術 横山
- 名久井文明1999「樹皮の文化史」吉川弘文館
- 山田昌久1999「縄文時代の鍬鋤類について」『人類誌集報 1999』222～230頁 東京都立大学考古学報告 4
- 小西祐子編2000「第37回フォラム 先史時代の木造建築技術」木造建築研究フォラム
- 谷川栄子2000「草をぬむ」社団法人農山漁村文化協会
- 桜町遺跡発掘調査団2001「桜町遺跡調査概報」学生社
- (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団2002「シンポジウムよみがえる青田遺跡 川辺の縄文集落」
- 山田昌久編2003「考古資料大観 第8巻－弥生・古墳時代 木・鐵維製品－」小学校
- 橋本正博2003「第Ⅷ章 木製品」『八日市地方遺跡 I - 小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 - (第2分冊 遺物報告編)』
- 小矢部市教育委員会2003「富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査報告書－弥生・古墳・古代・中世編I」
- 小矢部市教育委員会2004「富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査報告書－縄文遺構編 I 、弥生・古墳・古代・中世編 II 」
- 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団2004「日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書V 青田遺跡」
- 小矢部市教育委員会2005「富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査報告書－縄文遺構編 II 、弥生・古墳・古代・中世編 III 」
- 小矢部市教育委員会2005「出土建築材資料集－縄文・弥生・古墳時代－」
- 桜町遺跡発掘調査団2005「桜町遺跡シンポジウム 考古資料から建築材・建築技術を考える」記録集
- 岡山市教育委員会2005「南方(済生会)遺跡－木器編－」
- 鳥取県埋蔵文化財センター2005「青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告1－木製品・かご－」
- 山田昌久2007「21世紀の木質遺物研究は既存の考古学研究を超えていく」「木器研究最前線!」
- 出土木器が語る考古学 発表資料集(財) 大阪府文化財センター

表2 木製品観察表 構造材(1)

報告番号	区分	種別	木取り	寸	耐候	断面	時期	長さ(cm)	幅・高(cm)	厚さ(cm)	表面	備考
1	構造材	柱	半削材	○ クリ	1	SX009	繩文時代中期～後期初期	295.2	24.0	24.6	一端欠損。ほぞ穴とえりつり穴のある棒。	
2	構造材	柱	丸木材	○ クリ	6	—	繩文時代中期～後期初期	71.3	47.2	—	底面に石斧等による加工痕あり。	
3	構造材	柱	丸木材	○ クリ	6	SX18	縄文時代中期～後期初期	56.0	54.8	—	底面に右肩等による加工痕および欠損みあり。	
4	構造材	柱	丸木材	○ クリ	6	—	縄文時代中期～後期初期	53.4	61.2	—	底面に右肩等による加工痕あり。中空。	
5	構造材	柱	丸木材	○ クリ	6	—	縄文時代中期～後期初期	51.4	39.0	—	残存状態良好。	
6	構造材	柱	丸木材	○ クリ	1	—	縄文時代中期～後期初期	24.8	24.3	—	底面に右肩等による加工痕あり。	
7	構造材	柱	丸木材	○ クリ	1	—	縄文時代中期～後期初期	34.0	30.0	—	底面に右肩等による加工痕あり。	
8	構造材	柱	丸木材	○ クリ	1	SX01	縄文時代中期～後期初期	41.6	17.8	—	底面に右肩等による加工痕あり。	
9	構造材	柱	丸木材	○ クリ	1	P-1	縄文時代中期～後期初期	53.0	25.5	—	底面に右肩等による加工痕あり。	
10	構造材	柱	丸木材	クリ	6	SX08	縄文時代中期～後期初期	—	実測値より約 65cm	—	崩壊している。	
11	構造材	半抜柱(柱状)	略半寸	クリ	3	SX119	縄文時代中期中葉	44.7	62.4	21.3	木取付の側面角、底面を削ぎ、底面木柱付(柱頭入り口部)による加工痕あり。	
12	構造材	半抜柱(柱状)	略半寸(板状)	クリ	3	SX121	縄文時代晚期中葉	43.2	65.4	16.5	木表面の側面角、底面を削ぎ、底面木柱付(柱頭入り口部)による加工痕あり。環状木柱付柱状。	
13	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX187	縄文時代晚期中葉	28.0	43.7	21.4	底面に右肩等による加工痕あり。環状木柱付柱状。	
14	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX134	縄文時代晚期中葉	35.0	54.0	21.6	底面に右肩等による加工痕あり。環状木柱付柱状。	
15	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX136	縄文時代晚期中葉	50.1	62.1	27.3	底面に右肩等による加工痕あり。環状木柱付柱状。	
16	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX186	縄文時代晚期中葉	30.5	49.0	26.4	底面に右肩等による加工痕あり。環状木柱付柱状。	
17	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX145	縄文時代中期中葉	39.6	44.7	25.2	底面に右肩等による加工痕あり。環状木柱付柱状。	
18	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX158	縄文時代晚期中葉	14.5	26.4	9.0	底面に右肩等による加工痕あり。環状木柱付柱状。	
19	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX169	縄文時代晚期中葉	15.6	24.0	11.4	底面に右肩等による加工痕あり。	
20	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX106	縄文時代晚期中葉	21.1	35.6	18.4	底面に右肩等による加工痕あり。環状木柱付柱状。	
21	構造材	半抜柱(柱)	略半寸	クリ	3	SX126	縄文時代中期中葉	24.6	55.5	15.3	木表面の側面角、底面を削ぎ、底面木柱付(柱頭入り口部)による加工痕あり。環状木柱付柱状。	

表3 木製品観察表 旗設材(1)

報告番号	区分	種別	木取り	寸	耐候	断面	識標	時期	長さ(cm)	幅・高(cm)	厚さ(cm)	表面	備考
22	旗設材	柱	丸木材	○ イメガタ	1	SX19	縄文時代中期末～後期	43.6	8.0	7.7	—	一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。	
23	旗設材	柱	丸木材	○ クリ	1	SX18	縄文時代中期末～後期	49.4	9.0	9.4	—	一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。	
24	旗設材	柱	丸木材	○ エノハ半	1	SX19	縄文時代中期末～後期	71.0	8.4	10.0	—	一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。	
25	旗設材	柱	丸木材	○ ハンニキ半	1	SX19	縄文時代中期末～後期	61.6	8.5	8.2	—	一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。	
26	旗設材	柱	半削材	クリ	1	SX19	縄文時代中期末～後期	23.8	14.5	7.4	—	一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。	
27	旗設材	柱	半削材	クリ	1	SX19	縄文時代中期末～後期	27.8	14.2	8.2	—	一端に切断等の加工痕あり。しがらみ。	
28	旗設材	柱	半削材	クリ	1	SX19	縄文時代中期末～後期	35.4	15.6	10.1	—	端に切断等の加工痕あり。しがらみ。	
29	旗設材	水場・足場	半削材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	330.0	45.0	25.0	両端欠損。ほぞ穴とくぼみのある材(大豊田社付)。木表面に加工痕あり。		
30	旗設材	水場・足場	丸木材	○ クリ	1	SX001	縄文時代中期末～後期初期	271.8	15.0	12.0	—	一端に欠損みあります。	
31	旗設材	水場・足場	半削材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	341.4	28.5	12.8	—	両端欠損。ほぞ穴あり。	
32	旗設材	水場・足場	丸木材	○ クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	351.2	13.6	11.6	—	先端品。	
33	旗設材	水場・足場	丸木材	○ クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	154.0	23.2	19.6	—	一端は木表面を一部のこし、半輪サンプル採取。	
34	旗設材	水場・足場	板目材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	207.0	12.5	5.5	○ 一端は先端に凹い跡跡。		
35	旗設材	水場・足場	半削材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	300.0	37.2	19.2	—	両端欠損。斜面に丁字接合。	
36	旗設材	水場・足場	板目材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	197.1	26.1	12.6	—	短測定用に3箇所のほぞ穴あります。	
278	旗設材	水場・足場	丸木材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	166.5	29.0	19.0	—	同一曲面SIC、2箇所のほぞ穴あります。	
37	旗設材	水場・足場	丸木材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	58.4	12.0	4.0	—	内面は丁寧に調整。板目材内寸サンプル採取。	
38	旗設材	水場・足場	板目版	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	81.6	15.8	2.2	—	両端欠損。両面は丁寧に削り替。	
39	旗設材	水場・足場	板目版	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初期	86.2	19.4	4.8	—	両面は平滑。年輪サンプル採取。	
40	旗設材	水場・足場	丸木材	○ クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初期	381.6	16.0	19.0	—	端欠損。2箇所の欠損みあります。	
41	旗設材	足場材	一形(細手)	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初期	241.0	9.5	10.8	—	先端および一端丸削りに切断痕あります。	
42	旗設材	足場材	半削材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初期	220.0	33.0	16.0	—	先端品。木表面に3箇所のほぞ穴あります。	
43	旗設材	足場材	半削材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初期	310.2	42.0	14.4	—	割れに修理の跡跡あります。	
44	旗設材	足場材	板目材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初期	276.8	14.0	6.8	—	年輪に沿って削られている。	
270	旗設材	足場・足材	板目版	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初期	200.0	15.0	5.0	—	調査欠損。	
45	旗設材	水場・足場	丸木材	○ クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初期	132.3	14.7	7.2	—	一端端に向かう状の作り出しあり。	

調査番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査DC	透彌	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚・高さ(cm)	炭化	腐質	備考
46	施設材	水槽・配管材	一芯材	クリ	1	SX002	縄文時代中期末～後期初期	124.5	32.5	11.8		完品。二股木先端に切断面あり。		
47	施設材	水槽・配管材	半断材	クリ	1	SX002	縄文時代中期末～後期初期	228.0	14.4	7.0		両端欠損。本茎側に調査面あり。		
48	施設材	足場材	分断材	クリ	1	SX002	縄文時代中期末～後期初期	212.4	15.0	14.4		斜面に櫛状の削痕あり。		
49	施設材	水槽・配管	板目板	クリ	1	SX002	縄文時代中期末～後期初期	134.0	27.2	6.4		曲がり。一方にはぞざと段段あり。		
50	施設材	水槽・配管材	板目板	クリ	1	SX002	縄文時代中期末～後期初期	94.0	15.0	5.8		放射状網目に沿って割たくまみあり。		
51	施設材	水槽・配管材	分断材	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初期	157.8	21.3	12.0		一端は先端部を丸く削り尖らせてある。		
52	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初期	200.0	31.2	19.2	○	斜め木表面部分の凹凸む。その凹凸間に5箇所のねじき跡と2箇所の縫隙がある。		
53	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初期	88.5	26.1	12.9		一端は、二等辺三角形状で先端は尖らせてある。1箇所の縫隙あり。		
54	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初期	182.0	10.7	13.3		一先端は直角面が三角形に丁寧に削りだされている。		
55	施設材	水槽・配管材	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初期	77.3	22.0	7.5		年輪に沿って削れています。		
56	施設材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初期	210.0	20.8	6.0		全表面は一端部が外状につくりだされているが、一方の端部にかけて薄く削る跡。		
57	施設材	板目板	板目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初期	232.4	15.0	0.0		全表面は外状につくりだされていて、一方の端部にかけて削る跡。		
58	施設材	貯蔵穴・蓋	丸木材	○ ゴンズイ	3	SK244	縄文後期末～晩原古墳	46.4	8.0	6.0	○	両端に切削痕あり。		
59	施設材	貯蔵穴・蓋	丸木材	○ ゴンズイ	3	SK244	縄文後期末～晩原古墳	55.0	6.0	5.2	○	両端に切削痕あり。		
60	施設材	貯蔵穴・蓋	分断材	クリ	3	SK248	縄文後期末～晚原古墳	49.0	5.6	5.2		両端に切削痕あり。		
61	施設材	貯蔵穴・蓋	板目板	クリ	3	SK248	縄文後期末～晚原古墳	45.5	5.0	2.6		両端に切削痕あり。		
62	施設材	貯蔵穴・蓋	板目板	クリ	3	SK249	縄文後期末～晚原古墳	33.8	24.5	5.8		両端に切削痕あり。		
63	施設材	貯蔵穴・底版	板目板	クリ	3	SK249	縄文後期末～晚原古墳	56.7	27.3	3.5	○	一端のみ炭化している。		
64	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	中世	SX01	縄文時代(小字明葉～後期初期)	44.9	6.0	6.0		一端欠損。		
65	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	51.0	6.0	3.0	○	先端部が丸く尖らせてある。		
66	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	69.6	7.3	6.0		一丸端部が丸く尖らせてある。		
67	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	58.1	5.2	3.4		一端欠損。先端部は丸く尖らせてある。		
68	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	69.2	5.2	3.8		一先端部が丸く尖らせてある。		
69	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	33.8	4.3	3.3		一先端部が丸く尖らせてある。		
70	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	45.0	8.1	6.1		一端欠損。一先端部は薄く扁平である。		
71	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	近世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	70.2	6.2	3.6		断面形は三角形。一先端部は一部分が尖らせてある。		
72	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	近世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	82.6	8.4	4.6		断面形は長方形。一先端部は丸く尖らせてある。		
73	施設材	水槽・配管	半削材	ヨニケルミ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	42.7	15.8	10.5	○	一端欠損。底面に加工痕あります。		
74	施設材	水槽・配管	分断材	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	141.6	11.1	6.4		断面形は長方形。先端部は丸く尖らせてある。		
75	施設材	水槽・配管	板目板	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	106.0	39.6	5.9	○	曲がり。楕円形。水槽の枠材。		
76	施設材	水槽・配管	板目板	クリ	中世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	42.1	8.1	1.3		断面は厚さ1.3cmと薄く、四角窓は丸く尖らせてある。		
77	施設材	水槽・配管	板目板	クリ	近世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	59.0	6.7	3.1		丸窓はやや薄く丸く尖らせてある。		
78	施設材	水槽・配管	板目板	クリ	近世	SX01	縄文時代中期末～後期初期	65.4	9.2	3.4		曲面形は切断面か前かれかは不明瞭である。		

4 木製品観察表 その他の加工材(1)

調査番号	区分	種別	木取り	芯	樹種	調査DC	透彌	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚・高さ(cm)	炭化	腐質	備考
79	その他の加工材	丸木材	丸木材	○ カエデ	1	SIK16	縄文時代初期以前	144.0	18.0	19.8		曲面は芯の際に切断した。火炎込み部は、芯に抉られ、斜めに削った形のU字型を呈します。		
80	その他の加工材	半削材	半削材	クリ	1	SIK16	縄文時代中期以前	19.6	36.6	18.3		底面に伐採痕。		
81	その他の加工材	分断材	分断材	カツラ	1	SIK17	縄文時代中期以前	50.1	6.3	5.0		一端欠損。断面形は方型。剥離の調整面なし。		
82	その他の加工材	分断材	分断材	クリ	1	H10	縄文時代中期以前	85.2	12.0	8.9		一端欠損。剥離の調整面なし。		
83	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	1	H10	縄文時代中期以前	172.8	10.0	4.0		木表面より芯部にむかひ深さ1～2cmを裏面に削りぬいています。樹脂は斜面。		
84	その他の加工材	丸木材	一走丸木	○ クリ	1	SIK04	縄文時代中期～後期初期	251.6	48.0	25.0		芯部が、分岐から2本股木先端にかけて丁寧な調整面があり。「波木」海舟先端には火炎込みがあります。		
85	その他の加工材	丸木材	二走丸木	○ クリ	1	SIK04	縄文時代中期～後期初期	250.0	42.0	24.0		二面舟「先端部欠損」。一方が削れていてある。分岐部から先端にかけて剥離加工により。		
86	その他の加工材	丸木材	丸木材	○ カマツ	1	不明	縄文時代中期～後期初期	28.4	4.1	3.1	○	曲面部を切り落し。芯部が吸る。折り返りのものもか。		
87	その他の加工材	丸木材	丸木材	○ ムラキ	1	SD06	縄文時代中期～後期初期	52.5	6.7	5.8	○	両端部に切削痕。一方の端部はゆるく剥離して削かれています。		
88	その他の加工材	枝幹材	枝幹材	クリ	1	SIK06	縄文時代中期～後期初期	75.8	6.6	5.6		一端部には伏技痕が削痕に残る。もう一方は先端にぬりかって削まる。		

報告番号	区分	種別	木取り	芯	商標	調査	時期	長さ(cm)	幅・厚さ(cm)	高さ(cm)	変化度	箇所	備考	
									横	縦				
89	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	I	繩文時代中期末～後期初期	63.0	17.0	16.0	○	木表面は変化している。曲面部は欠損。		
90	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	103.1	18.5	14.5	○	表面が欠損。ただし一方は切削痕の可能性がある。	
91	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	106.0	20.0	14.0	○	表面が変化しており、一方端は平らになるように削ってある。	
92	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	I	SX04	繩文時代中期末～後期初期	246.0	12.5	11.3		肉端に切削痕あり。	
93	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	266.8	22.0	20.5		中央部分は欠損。	
94	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	I	SX08	繩文時代中期末～後期初期	272.7	11.2	9.6		断面端は円形であるが、一端は平。	
95	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	I	SX08	繩文時代中期末～後期初期	266.1	13.3	13.6		円形に切削痕あり。一端添は木表面の溝曲部が削かれている。	
96	その他の加工材	丸木材	丸木材	○	クリ	I	SD08	繩文時代中期末～後期初期	328.5	13.5	0.6		断面的に欠損。断面部は半円形であるが、一方端は削かれている。	
97	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	119.0	22.4	10.5		断面的に欠損。一方添および木表面に調整痕があり。側面に削痕が認められる。端端部に切削痕あり。	
98	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		6	SC01	繩文時代中期末～後期初期	26.0	7.1	3.8		端および断面的に欠損。	
99	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	57.6	10.1	4.2		部分的に欠損。断面部に切削痕あり。	
100	その他の加工材	半削材	半削材	クリ									一端欠損。もう一方は切削痕あり。	
101	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SX11	繩文時代中期末～後期初期	60.0	22.5	10.9		木表面に削痕あり。一方には調整痕が認められ、角が削られている。	
102	その他の加工材	半削材	半削材	ムクノキ	I	I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	105.6	7.5	3.6	○	一端部は折り重なったような切削痕あり。	
103	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	44.3	23.0	13.5		一端欠損。もう一方は切削痕あり。年輪に直する切削痕あり。	
104	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	74.0	16.2	8.3	○	部分的に欠損。木表面や木裏面に調整痕があり。側面にも削痕が認められる。	
105	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	16.4	9.2	4.8		両端部に調整痕があり。	
106	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	42.2	10.5	6.3		両端部に切削痕あり。	
107	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	46.6	13.6	5.7		端および断面的に欠損。木表面に削痕があり。	
108	その他の加工材	偏平削材	偏平削材	○	クリ	I	SX01	繩文時代中期末～後期初期	150.4	44.6	30.4		中央部分で端部を削取。一端欠損。木表面および芯表面に削痕あり。	
109	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	94.4	26.4	10.8		両端部および芯表面に削痕あり。	
110	その他の加工材	半削材	半削材	クリ		I	SX04	繩文時代中期末～後期初期	379.8	37.8	16.0		端部を削取。一端欠損。木表面および芯表面に削痕あり。	
111	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I	SX14	繩文時代中期末～後期初期	202.0	38.0	13.2		端部を削取。形状は一部削伏。木表面には段階状に削取られ。	
112	その他の加工材	T字削材	T字削材	クリ		I	SX04	繩文時代中期末～後期初期	305.0	31.0	9.5		端部を削取。形状はT字削伏。木表面には段階状に削取られ。	
113	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I	SX03	繩文時代中期末～後期初期	310.0	15.5	8.0		端部を削取。形状は一部削伏。木表面には段階状に削取られ。	
114	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	20.1	18.3	7.6		端部欠損。一方に調整痕あり。	
115	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I	SX01	繩文時代中期末～後期初期	53.6	24.4	11.0		芯部除去。一端部には切削痕あり。	
116	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I	SX01	繩文時代中期末～後期初期	58.6	23.6	9.2		芯部除去。端部に切削痕あり。	
117	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I	SX04	繩文時代中期末～後期初期	187.0	20.0	9.0	○	部分的に欠損。	
118	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I	SX13	繩文時代中期末～後期初期	162.5	29.0	16.5		一端欠損。一端辺に削痕あり。	
119	その他の加工材	丸木材	丸木材	クリ		I	SX04	繩文時代中期末～後期初期	166.5	9.3	5.9	○	部分的に欠損。木全体の2/3削化している。	
120	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I							両端部が削取。木表面には芯中央が削被に削り取られている。	
121	その他の加工材	分割材	分割材	エノキ属	I	I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	37.9	12.7	6.6		両端欠損。	
122	その他の加工材	分割材	分割材	クリ		I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	43.0	17.7	12.4		一端部欠損。もう一方に削痕あり。	
123	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	6	SK02	繩文時代中期末～後期初期	69.3	15.0	8.5	○	一端部に削痕があり。芯表面に削痕あり。		
124	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	30.7	4.4	2.9		両端部に切削痕あり。	
125	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	6	SG01	繩文時代中期末～後期初期	29.1	14.8	7.8		両端に切削あり。木表面に調整痕あり。		
126	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	I	SD06	繩文時代中期末～後期初期	70.6	5.9	4.6		一端欠損。もう一方に切削痕あり。	

番号	区分	種別	木取り	芯	表面	組合	造構	時期	長さ(cm)	幅(径)(cm)	厚さ(cm)	炭化	腐皮	備考
127	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	79.8	7.5	3.6			部分的に欠損。両端部に切削痕あり。	
128	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	122.1	13.6	10.2			端および部分的に欠損。木先端に調整痕あり。	
129	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	133.2	9.0	8.7			一端に切削痕あり。	
130	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	22.7	5.7	4.0			一端欠損。もう一方に切削痕あり。	
131	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	26.8	8.2	6.3			断面は複数。先端から裏込み。もう一方にかけてくびれをつくる。その先是欠損している。	
132	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	61.9	5.4	5.2			内縫切削。棒状。	
133	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	67.2	7.8	6.0	○		端欠損。一方方は先端にかけて鋭利な切削痕がある。	
134	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	42.9	5.3	4.6			両端切削。棒状。	
135	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	43.0	4.4	3.1			部分的に欠損し、全体形状は不明。	
136	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	47.2	4.6	5.4			棒状。両端の端より不規則。	
137	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SX04	绳文時代中期末～後期初頭	80.0	5.0	4.2			棒状。内縫切削。	
138	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	64.0	5.1	5.6			端欠損。棒状。	
139	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	139.2	7.8	5.2			棒状。先端は細く尖らせてある。	
140	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	104.1	6.9	4.5			棒状。	
141	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	96.6	6.3	3.9	○		棒状。	
142	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	32.4	4.5	2.8			棒状。一端欠損。	
143	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	54.3	7.1	2.9			部分的に欠損。両端部に切削痕あり。棒状。	
144	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	49.6	7.2	3.3			棒状であるが、両端欠損し形状が不明瞭。	
145	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	69.1	4.7	3.3	○		棒状で、両先端にかけて尖らせてある。	
146	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	6		绳文時代中期末～後期初頭	58.7	7.0	3.1			棒状。一端丸が丸く尖らせてある。	
147	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	1	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	56.4	6.5	5.6			部分的に欠損。棒状。	
148	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	56.4	7.3	3.5			棒状。内縫に切削痕あり。一端は部分的に欠損。	
149	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	75.4	5.0	4.1	○		棒状。両端丸く尖らせてある。	
150	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	98.7	8.7	5.4			端欠損。もう一端は切削。棒状。	
151	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	109.8	10.5	4.8			棒状。既存は不良。部分的に欠損。一端は切削。	
152	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	69.5	4.9	3.3			棒状。既存は不良。	
153	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	88.0	6.6	5.0			棒状。内縫切削。一端は先端部にかけて尖る。	
154	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	94.4	7.5	4.2			棒状。既存は不良。部分的に欠損。	
155	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	104.8	8.6	5.6			棒状。内縫切削。一端は先端部に根状に溝がある。	
156	その他の加工材	板目板	板目板	スギ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭	59.4	4.2	1.8			両端は接着力方に削ぎ、両端は折れ。部分的な欠損による材料取扱いため。	
157	その他の加工材	板目板	板目板	スギ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭	66.6	3.0	0.6			両端は接着力方に削ぎ、両端は折れ。部分的な欠損による材料取扱いため。	
158	その他の加工材	板目板	板目板	スギ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭	93.8	4.4	0.6			両端は接着力方に削ぎ、両端は折れ。部分的な欠損による材料取扱いため。	
159	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX01 (2)	绳文時代中期末～後期初頭	129.0	30.0	12.6			両端欠損。両端よりおよび側面に調整痕あり。一端にはやるく根を引き抜いた。	
160	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	31.0	12.6	2.7			両端欠損。	
161	その他の加工材	板目板	板目板	エノキ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	44.7	20.9	4.2	○		既存不良。	
162	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	80.8	13.1	4.6			部分的に欠損。一端に切削痕。側に調整痕あり。	
163	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	79.4	16.0	3.2	○		両端および部分的に欠損。	
164	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX01	绳文時代中期末～後期初頭	95.1	24.3	5.4			両端欠損。	
165	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	绳文時代中期末～後期初頭	46.4	25.8	10.1			木表面の全部分を削ぎ去る。アゼルム。短辺の一端は片山形となる可能性あり。	

報告番号	区分	種別	木取り	芯	粗榧	継ぎ	道接	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	化度	傷度	備考
156	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	53.1	16.8	4.5			一先端に切断痕あり。もう一方は欠損。	
157	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX13	縦文時代中期末～後期初頭	61.2	17.7	3.8			残存不良。	
158	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	99.0	16.5	6.0			残存不良。	
159	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	41.5	10.0	2.3			一面に調整痕あり。一端は欠損。	
171	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	40.7	14.4	6.4	○		両面に調整痕あり。凹凸切削。	
172	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	35.6	16.5	5.5	○		一先端は調査縫を残す。両面には調整痕あります。	
173	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	44.6	9.3	2.9			一面に調整痕あり。先端に切断あります。	
174	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	45.2	7.2	3.0			両面に調整痕あり。一端は残存から一段2mmに掛けて調整。	
175	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	52.3	15.5	5.5			一先端、斜めに切削。背面に調整痕あります。	
176	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	30.8	11.1	6.4			両面切削。両面に調整痕あります。	
177	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	28.8	15.5	5.4			両面切削。一先端は丸くある。	
178	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	109.5	28.8	7.8			両面に調整痕あり。一面には欠き込みにより段を2つする。後の中央部分が薄削している。両端欠損。	
179	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX14	縦文時代中期末～後期初頭	123.6	37.4	13.4			両面に調整痕あり。一面には欠き込みにより段を2つする。段の中央部分が薄削している。両端欠損。	
180	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX01	縦文時代中期末～後期初頭	29.6	8.0	1.7			両面に調整痕あり。一辺が直角に削り曲げる形である。逆に欠損がある。	
181	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX13	縦文時代中期末～後期初頭	34.4	12.2	2.7	○		両面に調整痕あり。部分的に欠損は試料採取によるもの。両端欠損。	
182	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX14	縦文時代中期末～後期初頭	15.6	6.8	1.6			両面に調整痕あり。一面には端部から端部にかけて縫をえ曲げ作成を行っている。	
183	その他の加工材	板目材	板目材	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	34.1	16.8	8.0	○		両面に調整痕あり。端部に切削痕あります。	
184	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	23.0	9.0	1.7			両面に調整痕あり。端部および一面間に切削痕あります。	
185	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	32.5	6.5	2.5			両面に調整痕あり。一先端部から斜めに切削。	
186	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	43.6	8.0	2.9			両面に調整痕あり。一端部欠損。	
187	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	34.0	12.1	2.5			両面に調整痕あります。	
188	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	29.1	14.5	2.7			両面に調整痕あり。一面は二角形を形成し、先端に鋸でできている。厚さは一方に向いて厚くなる。	
189	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I		縦文時代中期末～後期初頭	43.3	13.0	5.6			両面に調整痕あり。内部部に切削痕。一先端部には1cm程度の円形突出部がつぶくられています。	
190	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	100.7	22.5	3.2			両面に調整痕あります。	
191	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX01	縦文時代中期末～後期初頭	96.6	24.0	3.5			両面に調整痕あります。両端欠損。	
192	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	49.7	14.2	4.0			両面に調整痕あります。部分的欠損。	
193	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX01	縦文時代中期末～後期初頭	75.0	21.7	4.0			両面に調整痕あります。部分的欠損。	
194	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX01	縦文時代中期末～後期初頭	65.0	12.5	2.8			両面に調整痕あります。部分的欠損は試料採取によるもの。	
195	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	82.2	31.2	8.4	○		円盤炭化。面内中央欠損。	
196	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	83.6	11.9	5.3			一端部に切削痕あり。木表面は凸凹面をカット。	
197	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	85.7	10.1	4.6	○		両面に調整痕あります。部分的欠損。	
198	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	73.9	14.4	4.7			両面に調整痕あります。部分的欠損。	
199	その他の加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD06	縦文時代中期末～後期初頭	71.9	11.8	2.7			両面に調整痕あります。部分的欠損。	
200	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	中出		縦文時代中期末～後期初頭	44.2	6.1	3.4			両端部切削。杭として使用された道接の一端。	
201	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	中出		縦文時代中期末～後期初頭	28.0	3.2	2.3			一端欠損。杭として使用された道接の一端。	
202	その他の加工材	分割材	分割材	クリ	中出		縦文時代中期末～後期初頭	33.4	5.0	1.9			部分的に欠損している。杭として使用された道接の一端。	

表5 木製品調査表 器具材(1)石斧めぐみ

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)				備考(基準角度など)		
								長さ	幅・径	厚さ・高さ	幅・径			
205	器具材	神柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	27.8	4.6	57.6	2.8	73°
206	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	(1.0)	3.3			
207	器具材	神柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	(8.3)	3.5	(3.3)	—	
208	器具材	神柄	樹根	木	松野村	コナラ	I	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	(8.2)	3.2	58.0	2.2	
209	器具材	神柄	樹根	木	松野村	コナラ	I	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	18.5	2.7	(45.0)	2.6	(77°)
210	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	10.8	2.6			
211	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ナシモ科	I	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	21.2	3.7	—	—	
212	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	23.7	3.4	(20.9)	2.3	70°
213	器具材	神柄	樹根	木	松野村	松政丸	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	(13.3)	3.0	(2.8)	3.0	(59°)
214	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	(14.8)	3.7	—	—	
215	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ツバキ	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	—	—	(28.6)	3.2	
216	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	22.2	4.8	—	—	未成品
217	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	24.6	6.6			未成品
218	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SD15	縄文時代中期末～後期初頭	36.6	8.2	—	—	未成品
219	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	(23.5)	3.4	61.4	2.8	(68°)未成品
220	器具材	石柄	樹根	木	松野村	コナラ	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	26.2	3.6	—	—	未成品
221	器具材	石柄	樹根	木	松野村	クリ	I	SL05	縄文時代中期末～後期初頭	(36.0)	—	—	—	未成品
222	器具材	石柄	樹根	木	松野村	ヤツリ竹	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	14.5	—	—	—	未成品
223	器具材	石柄	木	松野村	ヤツリ竹	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	15.3	5.0	43.0	4.0	(80°)未成品	

表6 木製品調査表 器具材(2)石斧留め具

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)				皮化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ	幅・径			
224	器具材	石斧留め具	木手骨	木	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	8.0	2.4	1.0				完成品。組み合わせ式の石斧柄の押さえ具。一部欠損。	
225	器具材	石斧留め具	無手削	木	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	8.0	2.7	1.6				完成品の欠損品。神前的の匂い込みが認められる。	
226	器具材	石斧留め具	箆半削	木	SK02	縄文時代中期末～後期初頭	9.8	2.8	1.3				完成品であるが、解説している。	
227	器具材	石斧留め具	右序削	木	SK260	縄文時代中期末～後期初頭	16.0	4.5	3.5				完成品。櫛抜け部に櫛端部の断片付着。	

表7 木製品調査表 器具材(3)楔

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)				皮化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ	幅・径			
227	器具材	楔	削材	ヤマツリ	I	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	15.0	3.5	1.1				注記跡は認められないが、画面に崩壊有り。
228	器具材	楔	削出材	政丸	I	XS2.9	縄文時代中期末～後期初頭	8.1	2.8	2.0				完成品の欠損點か、一方の内底部は打圧で流れでキノコ状、潰れた面に右側に円柱がめり込んでいる。

表8 木製品調査表 器具材(4)櫛

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)				皮化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ	幅・径			
229	器具材	櫛	丸木	ムササビ シキブ	I	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	141.7	3.7	2.7				完成品。一方は先端を丸く尖らせてある。もう一方はヘラ状。
230	器具材	櫛	丸木	ムササビ シキブ	6	SG01	縄文時代中期末～後期初頭	127.8	3.2	2.6				完成品。片端は鋸くぐる。もう一方はヘラ状に丸くえぐられている。
231	器具材	櫛	丸木	ムササビ シキブ	I	SL13	縄文時代中期末～後期初頭	30.7	3.4	1.8				完成品の欠損点。全体的に彫刻している。
232	器具材	櫛	丸木	ムササビ シキブ	I	SL02	縄文時代中期末～後期初頭	40.6	3.1	2.5				完成品の欠損点。
233	器具材	櫛	丸木	ムササビ シキブ	I	SL02	縄文時代中期末～後期初頭	16.5	3.1	2.2				完成品の欠損点。櫛のへつ状端部が齊整。先端が摩耗して潰れている。

表9 木製品調査表 器具材(5)鍼状木製品

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)				皮化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ	幅・径			
234	器具材	鍼状木製品	平削材	クリ	I	SD06	縄文時代中期末～後期初頭	27.5	5.2	3.2				完成品の欠損点。刃の先端は溶化している。
235	器具材	鍼状木製品	板削材	クリ	I	SL01	縄文時代中期末～後期初頭	43.0	14.0	3.2				完成品の欠損点。刃の半分が残存。全体的に溶けた跡。
236	器具材	鍼状木製品	削出材	ヤマツリ	I	SL01	縄文時代中期末～後期初頭	79.2	8.2	3.9				鍼の未完成品。
237	器具材	鍼状木製品	平削材	クリ	I	SD08	縄文時代中期末～後期初頭	37.0	5.5	2.5				未完成品。刃の断端部分の可動性を考えられる。

表10 木製品調査表 器具材(6)削りだし棒材

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	調査区	遺構	時期	サイズ(cm)				皮化	樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ	幅・径			
238	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	I		縄文時代中期末～後期初頭	43.6	2.4	2.2				完成品の欠損点か、削りだし丸棒、両端欠損。
239	器具材	削りだし棒材	削出材	クリ	I	SL02	縄文時代中期末～後期初頭	32.0	2.0	1.4				完成品の欠損点か、両端削りだし丸棒、両端欠損。
240	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	I	SPM5	縄文時代中期末～後期初頭	23.2	1.6	1.3				完成品の欠損点。やや削り内側削りだし丸棒。
241	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	I		縄文時代中期末～後期初頭	25.0	2.6	1.8				完成品の欠損点。斜面削りだし丸棒が削り込まれている。
275	器具材	削りだし棒材	削出材	スギ	I	SD08上層	縄文時代	31.4	2.7	2.9				完成品の欠損点。刃の刃のような作り削りがある。

276	器具材 木材	削りだし 削材	削出材	スギ	2	S D05	古墳時代	33.7	2.5	1.5		完成品の欠損品。
277	器具材 木材	削りだし 削材	削出材	スギ	2	S D05	古墳時代	37.2	1.1	0.7		残存状態不良。

表11 木製品調査表 器具材(7)剝もの

報告 番号	区分	種別	木取り	樹種	樹皮 有無	通鑑	時期	サイズ(cm)			樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ		
242	器具材 木材	丸木材	ニシキギ	1	SX13	鶴文時代中期末～後期前葉	176.0	2.4	2.0			完成品の欠損品。茶色漆塗。

表12 木製品調査表 器具材(8)剝りもの

報告 番号	区分	種別	木取り	樹種	樹皮 有無	通鑑	時期	サイズ(cm)			樹皮	備考	
								長さ	幅・径	厚さ・高さ			
203	器具材	削りもの	ケヤキ	1	SD20	鶴文時代中期中葉以前の十石造層	6.3	6.7	2.6			骨器の口縫部か?	
204	器具材	削りもの	ケヤキ	1	SD20	鶴文時代中期牛頭山灰灰土	7.9	9.6	2.4			器物の口縫部か?	
213	器具材	削りもの	楓木取り	ケヤキ	1	SU135	鶴文時代中期末～後期前葉	7.5	20.3				完成品。外見は表面に木紋彫刻、内外面に赤漆が、裏面の支撑部分には黒漆を留めた。
244	器具材	削りもの	蘿木取り	イヌガヤ	1	SD06	鶴文時代中期末～後期前葉	19.8	7.3				完成品の欠損品。片口部分から脇部の一部が残る。茶色漆塗。
245	器具材	削りもの	トチノキ	1			鶴文時代中期末～後期前葉	4.9	15.3				完成品の欠損品。高付状の本漆塗部の両面に表面にのみ赤色漆塗。
246	器具材	削りもの	小桐	1	S005	鶴文時代中期末～後期前葉	11.4	6.9	1.1				完成品の欠損品。内外面に赤色漆塗。
247	器具材	削りもの	楓木取り	YBS3	1	X518	鶴文時代中期末～後期前葉	13.0	11.8	2.0	○		完成品の欠損品。
248	器具材	削りもの	楓木取り	ケヤキ	6	SG01	鶴文時代中期末～後期前葉	14.1	19.0	1.7			完成品の欠損品か。わずかだが、赤色漆が認められる。
249	器具材	削りもの	ケヤキ	1	SD05	鶴文時代中期末～後期前葉	4.3	3.8	1.5	○		完成品の欠損品。内外面に赤色漆塗。	
250	器具材	削りもの	ケヤキ	1	SK26	鶴文時代中期末～後期前葉	15.0	15.0	0.5	○		完成品の欠損品。内外面に黒色漆塗。	
251	器具材	削りもの	ケヤキ	1	SD06	鶴文時代中期末～後期前葉	17.4	7.0	0.4			完成品の欠損品。表面に赤色漆塗。	
252	器具材	削りもの	板根	1	S009	鶴文時代中期末～後期前葉	55.6	9.7	2.3	○		完成品の欠損品か。大型内部の可能性あり。	
253	器具材	削りもの	楓木取り	トチノキ	1	SD06	鶴文時代中期末～後期前葉	59.2	17.6	2.6	○		完成品の欠損品か。人形容器の可能性あり。
254	器具材	削りもの	楓木取り	トチノキ	1	SU135	鶴文時代中期末～後期前葉	20.3	14.8	9.8	○ ○		未製品。所々に焼き焦げ感が残る。

表13 木製品調査表 器具材(9)不明漆塗製品

報告 番号	区分	種別	木取り	樹種	樹皮 有無	通鑑	時期	サイズ(cm)			樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ		
255	器具材	不明漆塗 製品		1			鶴文時代中期末～後期前葉	6.3	2.6	1.2		完成品の欠損品。未塗。

表14 木製品調査表 器具材(10)素材

報告 番号	区分	種別	木取り	樹種	樹皮 有無	通鑑	時期	サイズ(cm)			樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ		
236	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	S006	鶴文時代中期末～後期前葉	72.1	2.2	1.9	○	円筒形に削られたもののか。加工痕はない。
237	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	S006	鶴文時代中期末～後期前葉	83.9	2.5	2.9	○	圓筒形に削られたもののか。加工痕はない。
238	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	S006	鶴文時代中期末～後期前葉	91.7	2.4	2.5	○	圓筒形に削られたもののか。加工痕はない。
239	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	SX04	鶴文時代中期末～後期前葉	87.4	2.0	2.0	○	圓筒形に削られたもののか。加工痕はない。
260	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	SD05	鶴文時代中期末～後期前葉	77.8	3.3	2.2	○	圓筒形に削られたもののか。加工痕はない。
261	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	SX13	鶴文時代中期末～後期前葉	68.3	1.6	1.6	○	圓筒形に削られたもののか。加工痕はない。
262	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1		鶴文時代中期末～後期前葉	121.5	3.5	2.9	○	圓筒形に削られたもののか。加工痕はない。
263	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1		鶴文時代中期末～後期前葉	96.0	1.5	1.8	○	圓筒形に削られたもののか。加工痕はない。
264	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	S006	鶴文時代中期末～後期前葉	20.0	0.6	0.5	○	全体の2/3程度に削られたものか。加工痕はない。
265	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	S006	鶴文時代中期末～後期前葉	90.5	1.4	0.7	○	全体の2/3程度に削られたものか。加工痕はない。
266	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	S006	鶴文時代中期末～後期前葉	70.8	3.0	2.9	○	一端だけ削られたものか。削痕部は黒色漆塗。
267	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	SD138	鶴文時代中期末～後期前葉	44.3	1.9	0.6	○	一端だけ削られたものか。削痕部は黒色漆塗。
268	器具材	木材	丸木材	イヌガヤ	1	S004	鶴文時代中期末～後期前葉	84.7	2.3	1.8	○	一端だけ削られたものか。削痕部は黒色漆塗。
269	器具材	木材	丸木材	ニレ木	1	SX13	鶴文時代中期末～後期前葉	50.4	3.0	2.4	○	一端だけ削られたものか。長さは一定ではない。

表15 木製品調査表 器具材(11)櫛

報告 番号	区分	種別	木取り	樹種	樹皮 有無	通鑑	時期	サイズ(cm)			樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ		
270	器具材	梳具式鏡面			岐		鶴文時代中期末～後期前葉	3.0	2.0	0.5		赤色漆塗。
271	器具材	梳具式鏡面			3		鶴文時代中期末～後期前葉	5.4	4.2	1.0		赤色漆塗。
272	器具材	梳具式鏡面			3		鶴文時代中期末～後期前葉	6.8	7.3	0.8		赤色漆塗。

表16 木製品調査表 器具材(12)編縫状木製品

報告 番号	区分	種別	木取り	樹種	樹皮 有無	通鑑	時期	サイズ(cm)			樹皮	備考
								長さ	幅・径	厚さ・高さ		
274	器具材	編縫木製品	カマツ	3	SK171	鶴文時代後期末～後期前葉	19.5	5.5	3.0	○	完成品。両端の断面、縫合の突起の作り込みがあり。	

表17 木製品調査表 構築材(2)

報告 番号	区分	種別	木取り	樹種	樹皮 有無	通鑑	時期	サイズ(cm)			樹皮	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
280	構築材	丁取柱	柏半柱	クリ	3	SK117	鶴文時代中期中葉	11.0		6.5		
281	構築材	半取柱	柏半柱	クリ	3	SK137	鶴文時代中期中葉	12.0				

282	構造材	柱組	丸木	クリ	3	SK235	謹文時代後期中葉	26.0					
283	構造材	柱組	丸木	クリ	3	SK240	謹文時代後期中葉	18.5					

表18 木製品調査表 施設材(2)

調査番号	区分	調別	木取り	樹種	銅蓋込	遺構	時期	高さ (cm)	幅・幅 (cm)	厚さ (cm)	変形 度	腐度	備考
284	施設材	防戻穴・蓋材	半割材	櫟孔材	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	56.0	7.0	3.0	○		
285	施設材	防戻穴・蓋材	半割材	クリ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	34.0	4.5	3.0			
286	施設材	防戻穴・蓋材	ヨシノ割材	クリ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	117.0	8.0	7.5			
287	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK245	謹文時代後期末～晚期前葉	120.0	6.5	3.5			
288	施設材	防戻穴・蓋材	角材	クリ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	29.0	4.0	3.0	○		
289	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	クリ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	14.5	7.5	0.3			
290	施設材	防戻穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	13.0	7.0	0.3			
291	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	32.5	10.0	2.0			
292	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	—	8.5	2.5			
293	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	不明	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	70.0	2.0	1.2			
294	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	ムラサキシキブ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	43.0	3.5	3.0			両端に切削痕
295	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	チドリノキ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	33.0	2.5	2.0			
296	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	フジ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	48.5	1.7	1.0			
297	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	ムラサキシキブ	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	37.0	5.0	2.5			
298	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	コナラ類	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	16.5	2.5	1.5	○		
299	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	小明	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	46.0	6.5	1.5			
300	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	小明	3	SK244	謹文時代後期末～晚期前葉	27.0	13.0	0.8			
301	施設材	防戻穴・蓋材	ミソハグ材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	85.0	24.0	0.3			片側端に切削痕
302	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	ケヤキ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	—	55.0	8.0	5.5	○	
303	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	チドリノキ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	24.0	4.0	4.0			
304	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	不明	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	9.0	4.5	0.3			
305	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	ケヤキ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	92.0	34.0	0.3			
306	施設材	防戻穴・蓋材	半割材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	18.5	13.5	6.0			両端に切削痕
307	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	55.0	8.0	5.5	○		
308	施設材	防戻穴・竹筒	丁字材	チドリノキ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	43.0	13.5	9.0			
309	施設材	防戻穴・竹筒	ミカン割材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	39.0	3.5	2.0	○		
310	施設材	防戻穴・竹筒	丸木材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	73.5	6.5	4.5			両端に切削痕
311	施設材	防戻穴・竹筒	板根材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	40.0	4.0	1.0	○		片側端化粧
312	施設材	防戻穴・竹筒	丸木材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	53.0	15.0	12.5	○		切削痕
313	施設材	防戻穴・竹筒	楡木	不明	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	10.0	6.3	0.3			
314	施設材	防戻穴・竹筒	丸木材	ヤマグワ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	61.5	7.3	5.2			
315	施設材	防戻穴・竹筒	ミカン宮材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	75.0	11.5	7.0	○		切削痕
316	施設材	防戻穴・竹筒	板根材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	59.5	12.0	5.0	○		
317	施設材	防戻穴・竹筒	板根材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	29.0	3.0	2.5			
318	施設材	防戻穴・竹筒	ミカン宮材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	44.5	3.5	2.0	○		
319	施設材	防戻穴・蓋材	口口材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	32.0	4.5	2.0			
320	施設材	防戻穴・竹筒	ミカン割材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	57.0	9.0	8.0	○		抜け跡あり
321	施設材	防戻穴・竹筒	板根材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	34.0	10.0	3.5			抜け跡あり
322	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	62.0	6.5	5.5	○		
323	施設材	防戻穴・蓋材	樹皮	不明	3	SK249	謹文時代後期末～晚期前葉	8.0	5.5	4.0			
324	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	37.5	5.5	3.0			
325	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	41.5	5.0	1.8			
326	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	ムラサキシキブ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	11.0	2.5	1.5			
327	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	不明	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	16.5	1.8	1.0			
328	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	ニワトコ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	7.0	1.8	1.2			
329	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	クリ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	13.0	4.0	0.5			
330	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	71.0	11.5	6.0			
331	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	22.0	8.5	3.0			
332	施設材	防戻穴・蓋材	枝	トチノキ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	—	1.5	1.0			
333	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	トチノキ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	8.0	4.0	3.0			
334	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	6.2	4.0	1.0			
335	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	トチノキ	3	SK151	謹文時代後期末～晚期前葉	10.0	3.5	2.6			
336	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	コナラ類	3	SK260	謹文時代後期末～晚期前葉	53.0	5.5	4.5			
337	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	トチノキ	3	SK260	謹文時代後期末～晚期前葉	7.5	3.0	0.5			
338	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	カズアシ	3	SK260	謹文時代後期末～晚期前葉	61.5	2.5	2.0			
339	施設材	防戻穴・蓋材	枝	ヤマグワ	3	SK260	謹文時代後期末～晚期前葉	8.0	0.7	0.5			
340	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	ヤマグワ	3	SK260	謹文時代後期末～晚期前葉	24.0	4.5	3.0			
341	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK260	謹文時代後期末～晚期前葉	32.0	1.8	1.5			
342	施設材	防戻穴・蓋材	板根材	クリ	3	SK260	謹文時代後期末～晚期前葉	52.0	13.0	6.0			
343	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	クリ	3	SK260	謹文時代後期末～晚期前葉	17.0	7.0	0.5			
344	施設材	防戻穴・蓋材	楡木	不明	3	SK158	謹文時代後期末～晚期前葉	13.5	5.0	1.5			
345	施設材	防戻穴・蓋材	丸木材	クリ	3	SK158	謹文時代後期末～晚期前葉	33.5	2.5	2.5	○		
346	施設材	防戻穴・蓋材	樹皮	クリ	3	SK158	謹文時代後期末～晚期前葉	36.0	4.0	3.0			

報告 番号	区分	種別	小取り	酒種	製造 年月	時期	高さ (cm)	幅・深 (cm)	厚 (cm)	炭化 度	腐 度	備考
347	施設材	貯藏穴・塗材	削材	エノノ尾丸	3 SK138	縦文時代後期末～縦明前葉	11.5	2.0	1.5			
348	施設材	貯藏穴・塗材	削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	37.0	4.0	0.5			
349	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	ムラサキシキブ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	37.5	2.5	2.0			
350	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	トヨリコゾク	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	21.0	1.0	0.5			
351	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	15.0	1.0	0.5			
352	施設材	貯藏穴・塗材	半削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	40.0	20.0	9.0			
353	施設材	貯藏穴・塗材	削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	68.0	7.0	4.0			
354	施設材	貯藏穴・塗材	半削材	不明	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	9.5	3.5	2.0			
355	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	39.0	4.5	1.0			
356	施設材	貯藏穴・塗材	削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	14.5	1.0	0.5			
357	施設材	貯藏穴・塗材	削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	8.0	1.5	0.5			
358	施設材	貯藏穴・塗材	ミカン削材	トヨリコゾク	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	17.0	1.5	1.5			
359	施設材	貯藏穴・塗材	焼化材	不明	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	7.5	4.5	3.5	○		
360	施設材	貯藏穴・塗材	削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	14.5	5.0	2.5			
361	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	カニデニム	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	26.5	2.5	1.8			
362	施設材	貯藏穴・塗材	削材	不明	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	13.0	1.5	1.0			
363	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	ヤマダワ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	11.0	2.5	1.0	○		
364	施設材	貯藏穴・塗材	木片	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	11.0	3.0	1.5			
365	施設材	貯藏穴・塗材	削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	16.0	3.5	2.5			
366	施設材	貯藏穴・塗材	削材	不明	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	7.0	3.0	1.0	○		
367	施設材	貯藏穴・塗材	板目板	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	44.5	4.0	1.5			
368	施設材	貯藏穴・塗材	削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	31.0	6.5	4.0			
369	施設材	貯藏穴・塗材	ミカン削材	クリ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	30.0	5.5	2.5			孔あり、加工か?
370	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	不明	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	7.0	6.5	5.0			片端に切削痕
371	施設材	貯藏穴・塗材	削材	トチノキ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	5.0	4.0	1.0			
372	施設材	貯藏穴・塗材	削材	トチノキ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	6.5	4.5	2.0			
373	施設材	貯藏穴・塗材	木片	トチノキ	3 SK173	縦文時代後期末～縦明前葉	8.0	4.5	3.5			
374	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	5.0	6.0	0.5			
375	施設材	貯藏穴・塗材	木片	クリ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	5.0	1.5	1.0			
376	施設材	貯藏穴・塗材	木片	クリ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	7.5	3.0	1.5			
377	施設材	貯藏穴・塗材	未片	クリ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	6.5	2.5	1.5			
378	施設材	貯藏穴・塗材	板目板	クリ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	5.5	3.5	1.0			
379	施設材	貯藏穴・塗材	板目板	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	小判	小判	1.0	○		
380	施設材	貯藏穴・塗材	板目目打	クリ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	20.0	9.5	1.5			
381	施設材	貯藏穴・足湯 材	削材	クリ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	14.0	21.0	8.5			
382	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	トチノキ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	33.0	11.0	9.5	○	○	本筋木成形か? 削りあり
383	施設材	貯藏穴・塗材	板目目打	ヤケヤナギ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	15.0	7.5	3.5	○		
384	施設材	貯藏穴・塗材	削材	オニカルミ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	19.0	2.0	1.8			
385	施設材	貯藏穴・塗材	ミカン削材	クリ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	42.0	7.5	3.8			
386	施設材	貯藏穴・塗材	板目目打	クリ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	53.0	8.0	4.2	○		
387	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	ヤケヤナギ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	30.0	17.0	0.5			
388	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	ヤケヤナギ	3 SK261	縦文時代後期末～縦明前葉	18.0	14.0	0.4			
389	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	クリ	3 SK01	縦文時代後期末～縦明前葉	14.5	6.0	5.5			残3
390	施設材	水槽・坑	削材	クリ	3 SK01	縦文時代後期末～縦明前葉	31.5	7.5	5.5			残2
391	施設材	水槽・坑	丸木材	クリ	3 SK01	縦文時代後期末～縦明前葉	12.0	8.0	6.0	○	坑1	
392	施設材	水槽・坑	ミカン削材	クリ	3 SK01	縦文時代後期末～縦明前葉	44.0	4.5	3.5			坑5
393	施設材	水槽・坑	削材	クリ	3 SK01	縦文時代後期末～縦明前葉	9.5	3.5	2.2			坑6
394	施設材	水槽・坑	削材	クリ	3 SK01	縦文時代後期末～縦明前葉	46.5	7.5	5.0			坑6
395	施設材	水槽・坑	ミカン削材	クリ	3 SK01	縦文時代後期末～縦明前葉	46.5	7.0	6.0	○	坑7	
396	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	24.0	1.5	1.0			
397	施設材	貯藏穴・塗材	丸木材	カマツカ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	23.5	4.0	3.5			片端切削痕
398	施設材	貯藏穴・塗材	木片	クリ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	17.0	2.0	0.5			
399	施設材	貯藏穴・塗材	木片	平削	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	13.0	2.5	2.0			
400	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	16.0	5.5	1.0			
401	施設材	貯藏穴・塗材	半削材	カマツカ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	12.0	4.5	1.0			
402	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	13.0	19.0	0.2			
403	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	コナラ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	23.0	21.0	0.4			
404	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	16.5	10.0	0.5			
405	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	19.0	24.5	0.3			
406	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	11.5	3.5	0.2			
407	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	16.0	5.0	0.2			
408	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	クリ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	24.0	27.0	0.5			
409	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	24.0	8.0	0.3			
410	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	クリ	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	18.0	10.0	0.5			
411	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	13.0	13.0	0.4			
412	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	34.0	11.0	0.8			
413	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	29.0	25.0	0.4			
414	施設材	貯藏穴・塗材	削皮	不明	3 SK171	縦文時代後期末～縦明前葉	25.0	5.5	1.0			

番号	区分	種別	木取り	樹種	調査	通査	時期	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	度数	被皮	備考
415	施設材	防護小・薦材	樹皮	不明	3	SK171	縄文時代後期末～前期の葉	25.0	11.0	1.0			
416	施設材	防護小・薦材	庭目板	クリ	3	SK171	縄文時代後期末～前期の葉	12.0	6.5	3.5			
417	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	14.0	6.0	0.8			
418	施設材	防護小・薦材	庭目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	18.5	3.5	1.0			片端切削痕
419	施設材	防護小・薦材	庭目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	28.0	5.0	1.0			
420	施設材	防護小・薦材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	29.5	2.0	1.2			
421	施設材	防護小・薦材	木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	45.0	3.0	1.0			
422	施設材	防護小・薦材	丸木材	不明	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	21.0	4.0	0.5			
423	施設材	防護小・薦材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	20.0	1.5	1.2			
424	施設材	防護小・薦材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	25.0	1.2	1.0			
425	施設材	防護小・薦材	丸木材	不明	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	24.0	1.5	1.2			
426	施設材	防護小・薦材	板目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	29.0	7.5	2.0			
427	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	20.0	3.5	0.8			
428	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	32.0	5.5	1.0			
429	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	39.0	10.5	0.8			
430	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	14.0	7.0	0.8			
431	施設材	防護小・薦材	樹皮	ウルシ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	41.0	3.0	1.5			
432	施設材	防護小・薦材	丸木材	ヤエギ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	11.0	3.0	2.0			
433	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	20.0	13.0	1.2			
434	施設材	防護小・薦材	板目板	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	46.5	11.0	1.2			
435	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	55.0	19.0	1.5			
436	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	44.0	21.5	1.5			
437	施設材	防護小・薦材	樹皮	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	35.0	7.0	1.0			
438	施設材	防護小・薦材	板目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	25.5	6.0	1.2			
439	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	10.0	4.0	1.0			
440	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	23.0	6.0	1.0			
441	施設材	防護小・薦材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	39.0	10.0	1.0			
442	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	37.5	13.0	1.5			
443	施設材	防護小・薦材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	43.0	9.0	4.5			
444	施設材	防護小・薦材	庭目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	60.0	13.0	3.0			
445	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	43.5	18.5	1.0			
446	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	16.0	6.0	1.2			
447	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	64.0	12.0	1.0			
448	施設材	防護小・薦材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	25.0	1.8	1.0			
449	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	62.0	10.0	1.2			
450	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	78.0	15.0	1.0			
451	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	12.0	5.0	1.0			
452	施設材	防護小・薦材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	67.0	3.5	2.5			
453	施設材	防護小・薦材	丸木材	トチノキ園	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	24.0	1.5	1.2			
454	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	49.0	18.0	1.2			
455	施設材	防護小・薦材	丸木材	オニグルミ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	97.0	4.5	2.5			
456	施設材	防護小・薦材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	69.0	24.0	1.2			
457	施設材	防護小・薦材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	65.0	10.0	5.0			
458	施設材	防護小・薦材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	89.0	16.0	1.0			
459	施設材	防護小・薦材	半割材	ケンボンシ属	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	25.0	6.0	3.0			
460	施設材	防護小・薦材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	10.0	11.0	5.0			
461	施設材	防護小・薦材	枝	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	19.0	2.5	1.5			
462	施設材	防護小・荐材	樹皮	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	29.0	6.0	4.0			
463	施設材	防護小・荐材	樹皮	不明	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	43.0	5.5	0.8			
464	施設材	防護小・荐材	丸木材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	71.0	9.5	8.0			
465	施設材	防護小・荐材	半割材	ヤマツリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	83.0	5.5	2.0			
466	施設材	防護小・荐材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	80.0	8.0	5.0			
467	施設材	防護小・荐材	枝	オニグルミ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	40.0	4.5	2.0			
468	施設材	防護小・荐材	樹皮	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	69.0	3.0	2.5			
469	施設材	防護小・荐材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	56.0	16.0	1.0			
470	施設材	防護小・荐材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	83.0	17.0	1.5			
471	施設材	防護小・荐材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	39.0	14.0	1.0			
472	施設材	防護小・荐材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	18.0	5.5	0.7			
473	施設材	防護小・荐材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	74.5	20.0	1.3			
474	施設材	防護小・荐材	樹皮	トチノキ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	52.0	15.5	1.3			
475	施設材	防護小・荐材	樹皮	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	30.0	6.5	3.0			
476	施設材	防護小・荐材 (鉛)	板目板	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	38.0	4.5	2.0			
477	施設材	防護小・荐材 (鉛)	羽材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	61.0	4.0	4.0			
478	施設材	防護小・荐材	半割材	クリ	3	SK248	縄文時代後期末～前期の葉	27.0	13.0	1.5			
479	施設材	防護小・荐材	半割材	クリ	1	SK002	縄文時代後期末～後期の葉	100.0	15.0	10.0			
480	施設材	防護小・荐材	分刻材	クリ	1	SK002	縄文時代中期末～後期の葉	174.0	18.0	13.0			
481	施設材	防護小・荐材	分刻材	クリ	1	SK002	縄文時代中期末～後期の葉	89.0	22.0	5.0			

番号	区分	種別	木取り	留縫	端縫	時期	長さ(cm)	幅・高さ(cm)	厚さ(cm)	樹皮	備考
492	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	118.0	9.0	8.0	
493	施設材	足場材	偏半留材	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	38.0	8.0	7.0	
494	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	74.0	7.0	6.0	
495	施設材	足場材	丸木材	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	110.0	13.0	5.0	
496	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	140.0	19.0	9.0	
497	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	86.0	8.0	4.0	
498	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	142.0	7.0	6.0	
499	施設材	足場材	丸木材	ハンノ節	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	35.0	5.0	4.0	
500	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	153.0	18.0	7.0	
501	施設材	足場材	偏半留材	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	97.0	9.0	7.0	
502	施設材	足場材	偏半留材	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	138.0	10.0	8.0	
503	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	57.0	15.0	4.0	
504	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	57.0	15.0	4.0	
505	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	128.0	8.0	3.0	
506	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	102.0	7.0	5.0	
507	施設材	足場材	水端・杭	不明	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	55.0	9.0	8.0	
508	施設材	足場材	水端・杭	不明	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	110.0	25.0	11.0	
510	施設材	足場材	水端・杭	板目板	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	70.0	8.0		
511	施設材	足場材	水端・杭	板目板	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	55.0	12.0		
512	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	138.0	7.0	4.0	
513	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	78.0	6.0		
514	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	140.0	21.0	7.0	
515	施設材	水端・足場	丸木材	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	200.0	30.0		
516	施設材	足場材	板目板	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	50.0	10.0	2.0	
517	施設材	足場材	板目板	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	50.0	10.0	2.0	
518	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	70.0	20.0	10.0	
519	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	30.0	7.0	5.0	
520	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	68.0	10.0	5.0	
521	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	65.0	18.0	6.0	
522	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	27.0	10.0		
523	施設材	水端・杭	削材	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	100.0	20.0			
524	施設材	水端・杭	板目板	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	47.0	15.0			
525	施設材	水端・杭	削材	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	40.0	7.0			
526	施設材	水端・杭	板目板	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	90.0	10.0			
527	施設材	水端・杭	板目板	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	45.0	5.0			
528	施設材	水端・杭	削材	クリ	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭					
529	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	250.0	130.0	26.0	
530	施設材	足場材		クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	250.0	12.0	10.0	
531	施設材	足場材	板		1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	110.0	12.0	6.0	
532	施設材	足場材	偏半留材		クリ	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	98.0	8.0	8.0	
533	施設材	足場材	偏半留材		クリ	SK02	縦文時代中期末～後期初頭				
534	施設材	足場材	偏半留材		クリ	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	77.0	8.0	5.0	
535	施設材	足場材	偏半留材		クリ	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	100.0	9.0	6.0	
536	施設材	足場材	偏半留材		クリ	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	40.0	5.0	4.0	
537	施設材	足場材	削材		クリ	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	165.0	16.0	5.0	
538	施設材	足場材	板目板		クリ	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	120.0	25.0	7.0	
539	施設材	水端・足場	丸木材	クリ	1	SK01(2)	縦文時代中期末～後期初頭	376.0	28.0		
540	施設材	水端・足場	削材	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	320.0	66.0		
541	施設材	足場材	板目板	クリ	1	SK02	縦文時代中期末～後期初頭	200.0	15.0	5.0	

表19 木製品観察表 その他の加工材(2)

番号	区分	種別	木取り	留縫	端縫	時期	長さ(cm)	幅・高さ(cm)	厚さ(cm)	樹皮	備考
542	加工材	削材	削材	スギ	3	SK01	縦文時代中期末～後期初頭	44.0	3.5	2.0	
543	加工材	ミカン削材	ミカン削材	トイノキ	3	SK01	縦文時代中期末～後期初頭	34.0	4.5	2.5	
544	加工材	化粧材	西化材	トイノキ	3	SK01	縦文時代中期末～後期初頭	10.0	5.5	5.0	○
545	加工材	木片	木片	トイノキ	3	SK01	縦文時代中期末～後期初頭	12.5	4.5	2.0	
546	加工材	桐根	桐根	トイノキ	3	SK01	縦文時代中期末～後期初頭	30.0	1.7	1.4	

報告 番号	区分	種別	木取り	樹種	園 芸 区	測定	時期	長さ (cm)	幅・径 (cm)	まよ 度	化 度	備考
547	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	57.0	4.0	2.2	-	
548	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	63.0	12.0	2.5	-	
549	加工材	ミカン割材	ミカン割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	54.0	6.0	2.0	-	
550	加工材	樹皮	樹皮	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	28.0	21.0	1.6	-	
551	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	154.0	13.0	2.5	-	
552	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	37.0	2.0	1.8	-	
553	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	20.0	7.5	0.5	-	
554	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	9.5	4.0	0.8	-	
555	加工材	ミカン割材	ミカン割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	100.0	9.0	4.5	-	
556	加工材	半割材	半割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	76.0	16.0	5.5	-	
557	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	9.5	5.5	0.7	-	
558	加工材	枝	枝	オニクルミ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	51.0	4.5	1.0	-	
559	加工材	枝	枝	カエデ属	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	38.0	4.5	1.2	-	
560	加工材	丸木材	丸木材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	168.0	17.0	15.0	-	
561	加工材	削りだし材	削りだし材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	36.5	2.5	1.3	-	
562	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	22.0	2.5	1.5	-	
563	加工材	半割材	半割材	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	23.5	5.0	2.5	-	
564	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	11.0	8.0	3.0	-	
565	加工材	新め版	新め版	スギ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	40.0	7.0	1.5	-	
566	加工材	削材	削材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	27.0	5.5	1.5	-	
567	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	15.5	3.0	1.5	-	
568	加工材	丸木材	丸木材	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	19.0	3.0	2.0	-	
569	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	30.0	6.5	2.3	-	
570	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	21.0	12.0	2.0	-	
571	加工材	板目切材	板目切材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	30.0	4.5	2.2	-	
572	加工材	炭化材	炭化材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	-	-	-	○	端に強烈な
573	加工材	丸木材	丸木材	イヌイガ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	31.0	2.5	2.5	○	端に強烈な
574	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	12.0	10.0	4.5	○	
575	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	16.0	8.8	0.8	-	
576	加工材	ミカン割材	ミカン割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	30.0	8.0	3.0	○	
577	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	43.5	16.0	3.0	-	
578	加工材	樹皮	樹皮	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	21.0	13.0	0.4	-	
579	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	22.0	5.5	2.5	-	
580	加工材	樹皮	樹皮	スギ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	6.5	4.0	0.4	-	
581	加工材	板目割材	板目割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	35.0	6.5	4.5	○	
582	加工材	削りだし材	削りだし材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	20.0	4.0	2.0	-	
583	加工材	削材	削材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	21.0	8.0	3.5	-	
584	加工材	削材	削材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	16.0	3.5	1.5	○	
585	加工材	炭化材	炭化材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	34.0	6.0	2.5	○	
586	加工材	炭化材	炭化材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	13.5	5.0	2.2	○	
587	加工材	割材	割材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	40.0	10.0	2.5	-	
588	加工材	削材	削材	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	17.0	3.5	2.0	○	
589	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	11.0	3.0	1.0	-	
590	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	10.0	3.5	1.2	-	
591	加工材	枝	枝	イヌイガ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	17.0	0.8	0.8	-	
592	加工材	樹皮	樹皮	不明	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	14.0	5.0	0.3	-	
593	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	17.0	0.7	0.7	-	
594	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	10.5	1.5	1.2	-	
595	加工材	枝	枝	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	20.5	2.0	1.5	-	
596	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	13.0	2.5	1.8	○	
597	加工材	炭化材	炭化材	コナラ節	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	不明	-	-	○	
598	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	15.5	4.0	1.8	-	
599	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	18.0	4.0	0.7	-	
600	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	29.0	2.2	0.8	-	
601	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	12.5	3.0	1.0	-	
602	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	6.5	4.5	1.0	-	
603	加工材	羽材	羽材	コナラ節	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	53.0	5.5	2.5	○	
604	加工材	研目板	研目板	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	14.0	1.4	0.3	-	
605	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	7.0	3.5	1.5	-	
606	加工材	木片	木片	オニクルミ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	24.0	3.0	1.8	-	
607	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	14.0	2.5	1.2	-	
608	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	23.0	3.0	2.5	-	
609	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	8.0	3.5	1.0	-	
610	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	24.0	3.5	0.4	-	
611	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	6.5	5.0	0.8	-	
612	加工材	樹皮	樹皮	小町	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	4.0	4.0	0.6	-	
613	加工材	枝	枝	小町	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	9.5	4.0	0.3	-	
614	加工材	木片	木片	クリ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	10.5	6.0	2.5	-	
615	加工材	樹皮	樹皮	ヤエキ	3	SX01	縦文時代後期末～鶴朝前葉	12.5	6.0	1.0	-	

規格番号	区分	種別	木取り	樹種	調査方法	遺構	時期	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ・高さ(cm)	変化度	被度	備考	
616	加工材	樹根	樹根	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	26.0	1.5	1.3				
617	加工材	樹根	樹根	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	21.0	3.0	2.0				
618	加工材	樹根	樹根	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	32.0	5.0	2.0				
619	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	26.5	2.0	1.5				
620	加工材	枝	枝	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	15.0	1.8	0.6				
621	加工材	枝	不明	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	28.0	4.0	3.0				
622	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	13.0	6.0	1.2				
623	加工材	木片	木片	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	12.0	3.5	2.0				
624	加工材	木片	木片	オニクルミ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	10.5	5.0	3.5				
625	加工材	樹皮	樹皮	トチノキ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	8.5	3.5	0.5				
626	加工材	木片	木片	クリ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	19.5	2.5	1.0				
627	加工材	半削材	半削材	クリ	3	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉	87.0	8.5	3.5				
628	加工材	削りだし材	削りだし材	オニクルミ	3	SK248	縄文時代後期末～弥生前葉	57.0	2.5	1.5				
629	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK01	縄文時代後期末～弥生前葉							
630	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
631	加工材	板目板	板目板	アザダ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
632	加工材	板目板	板目板	広葉樹	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
633	加工材	分削材	分削材	クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
634	加工材	分削材	分削材	クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
635	加工材	分削材	分削材	クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
636	加工材			クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
637	加工材			クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
638	加工材			クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
639	加工材			クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
640	加工材	端半削材	端半削材	クリ	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭							
641	加工材	丸木材	丸木材	コナラ節	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭							
642	加工材			クリ	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭							
643	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭							
644	加工材	丸木材	丸木材	未定名	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭							
645	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭							
646	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭	62.0	15.0	5.0				
647	加工材			トネリコ属	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭							
648	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK04	縄文時代中期末～後期初頭							
649	加工材			クリ	1	SK04	縄文時代中期末～後期初頭							
650	加工材			ヤマウルシ	1	SK04	縄文時代中期末～後期初頭							
651	加工材			ヤマウルシ	1	SK04	縄文時代中期末～後期初頭							
652	加工材	丸木材	丸木材	コナラ節	1	SK13	縄文時代中期末～後期初頭							
653	加工材	丸木材	丸木材	未定名	1	SK05	縄文時代中期末～後期初頭							
654	加工材	板	板	クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
655	加工材	丸木材	丸木材	ヤブツバキ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭	38.0	8.0	7.0				
656	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭	69.0	13.0	2.0				
657	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK04	縄文時代中期末～後期初頭							
658	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
659	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK01(2)	縄文時代中期末～後期初頭							
660	加工材	丸木材	丸木材	ムクノク属	1	SK02	縄文時代中期末～後期初頭							
661	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
662	加工材	丸木材	丸木材	カエデ属	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭	132.0	7.0	4.0				
663	加工材	丸木材	丸木材	未定名	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
664	加工材	丸木材	丸木材	未定名	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
665	加工材	板	板	クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
666	加工材	丸木材	丸木材	ヌルダ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
667	加工材	丸木材	丸木材	ハギ属	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
668	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK04	縄文時代中期末～後期初頭	330.0	27.0	23.0				
669	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭	230.0	40.0	22.0				
670	加工材			コナラ節	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
671	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭	40.0	10.0	8.0				
672	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭	110.0	25.0	10.0				
673	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭	220.0	10.0	9.0				
674	加工材	板目板	板目板	オニクルミ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
675	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭	86.0	11.0	4.0				
676	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
677	加工材			クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
678	加工材			クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
679	加工材	丸木材	丸木材	クメギ節	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
680	加工材			トチノキ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
681	加工材			クリ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
682	加工材			トチノキ	1	SK01	縄文時代中期末～後期初頭							
683	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK05	縄文時代中期末～後期初頭	52.0	10.0	9.0				
684	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK05	縄文時代中期末～後期初頭	90.0	8.0	5.0				

報告 番号	区分	種別	本取り	樹種	調査 段	道傍	時期	長さ (cm)	幅・深 (cm)	茎・葉 (cm)	変化	樹皮	備考		
													上	下	
685	加工材	丸木村	丸木材	クリ	1	SN05	銅文時代中期末～後期初頭	290.0	13.0	10.0					
686	加工材			クリ	1	SN05	銅文時代中期末～後期初頭	146.0	11.0	6.0					
687	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SN01	銅文時代中期末～後期初頭	135.0	24.0	12.0					
688	加工材			ムクノキ	1	SN01	鐵文時代中期末～後期初頭								
689	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SN01	銅文時代中期末～後期初頭	48.0	4.0	4.0					
690	加工材	分割材	分割材	モクレン属	1	SN01	銅文時代中期末～後期初頭	48.0	4.0	4.0					
691	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SN01	銅文時代中期末～後期初頭	48.0	4.0	4.0					
692	加工材	丸木村	丸木材	キハガ	1	SN01	鐵文時代中期末～後期初頭								
693	加工材			クリ	1	SN01	銅文時代中期末～後期初頭								
694	加工材	丸木村	丸木材	クリ	1	SN01	銅文時代中期末～後期初頭								
695	加工材			クリ	1	SN05	鐵文時代中期末～後期初頭	64.0	14.0	8.0					
696	加工材			クリ	1	SN05	鐵文時代中期末～後期初頭	110.0	20.0	19.0					
697	加工材			クリ	1	SN05	鐵文時代中期末～後期初頭	110.0	20.0	19.0					
698	加工材	板目板	板目板	トチノキ	1	SN02	銅文時代中期末～後期初頭	20.0	4.0	0.3					
699	加工材	板目板	板目板	トネリコ属	1	SN02	銅文時代中期末～後期初頭								
700	加工材			広葉樹	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
701	加工材			クリ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
702	加工材			ハンノキ属	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
703	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SN02	銅文時代中期末～後期初頭								
704	加工材			クリ	1	SN01(2)	鐵文時代中期末～後期初頭								
705	加工材	丸木村	丸木材	未同定	1	SN01(2)	鐵文時代中期末～後期初頭								
706	加工材			クリ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
707	加工材			ニワトコ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
708	加工材			クリ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
709	加工材			クリ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
710	加工材			トネリコ属	1	SN02	銅文時代中期末～後期初頭								
711	加工材			クリ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
712	加工材			クリ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
713	加工材	偏半割材	偏半割材	トチノキ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
714	加工材	丸木村	丸木材	クリ	1	SO135	鐵文時代中期末～後期初頭								
715	加工材	丸木村	丸木材	クリ	1	SN05	鐵文時代中期末～後期初頭	52.0	10.0	7.0					
716	加工材	丸木村	丸木材	カエデ属	1	SD140	鐵文時代中期末～後期初頭								
717	加工材	丸木村	丸木材	カエデ属	1	SD140	鐵文時代中期末～後期初頭								
718	加工材	丸木村	丸木材	イヌクサ属	1	SD140	鐵文時代中期末～後期初頭								
719	加工材			カツラ	1	SK11	鐵文時代中期末～後期初頭								
720	加工材	丸木村	丸木材	未同定	1	SK11	鐵文時代中期末～後期初頭								
721	加工材			クリ	1	SK11	鐵文時代中期末～後期初頭								
722	加工材			イヌガヤ	1		鐵文時代中期末～後期初頭								
723	加工材			イヌガヤ	1		鐵文時代中期末～後期初頭								
724	加工材	下剥材	下剥材	トチノキ	1	SK12	鐵文時代中期末～後期初頭	94.0	12.0	4.0					
725	加工材	板目板	板目板	コナラ道	1	SK12	鐵文時代中期末～後期初頭	40.0	5.5	3.0					
726	加工材			オニクルミ	1	SD138	鐵文時代中期末～後期初頭								
727	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SD138	鐵文時代中期末～後期初頭	50.0	9.0	3.0					
728	加工材			クリ	1	SD138	鐵文時代中期末～後期初頭								
729	加工材	板目板	板目板	トチノキ	1	SD01	鐵文時代中期末～後期初頭	45.0	13.0	3.0					
730	加工材	板	板	トチノキ	1	SD01	鐵文時代中期末～後期初頭								
731	加工材			不明	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭								
732	加工材			イヌガヤ	1	SD135	鐵文時代中期末～後期初頭								
733	加工材			クリ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭	32.0	7.0	0.5					
734	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SN05	鐵文時代中期末～後期初頭	36.0	7.0	5.0					
735	加工材			クリ	1	SN05	鐵文時代中期末～後期初頭								
736	加工材	丸木村	丸木材	ケンボナシ属	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭	171.0	10.0	8.0					
737	加工材	板	板	クリ	1	SN02	鐵文時代中期末～後期初頭	35.0	12.0	2.0					
738	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SN05	銅文時代中期末～後期初頭								
739	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SN05	銅文時代中期末～後期初頭								
740	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SN05	銅文時代中期末～後期初頭								
741	加工材	板目板	板目板	コナラ属	1	SK13	鐵文時代中期末～後期初頭								
742	加工材	板目板	板目板	コナラ属	1	SK13	鐵文時代中期末～後期初頭								
743	加工材			クリ	1	SN05	鐵文時代中期末～後期初頭	59.0	13.0	5.0					
744	加工材			クリ	1	SN01	鐵文時代中期末～後期初頭	175.0	18.0	10.0					
745	加工材			クリ	1	SN01	銅文時代中期末～後期初頭	175.0	16.0	10.0					
746	加工材			クリ	1	SN01	鐵文時代中期末～後期初頭	63.0	5.0	3.0					
747	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SN01	鐵文時代中期末～後期初頭	118.0	5.0	4.0					
748	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SN01	鐵文時代中期末～後期初頭	70.0	45.0	3.0					
749	加工材			クリ	1	SN03	銅文時代中期末～後期初頭								
750	加工材	丸木村	丸木材	ヤマウルシ	1	SN03	鐵文時代中期末～後期初頭								
751	加工材			カエデ属	1	SK14	鐵文時代中期末～後期初頭								
752	加工材			ユズリハ属	1	SK14	鐵文時代中期末～後期初頭								
753	加工材			クリ	1	SK14	鐵文時代中期末～後期初頭								

番号	区分	種別	木取り	樹種	高さ cm	造詣	時期	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	変化	樹皮	備考
754	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
755	加工材	分割材		クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭	82.0	28.0	18.0			
756	加工材	板目板		クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭	118.0	16.0	6.0			
757	加工材	板目板		クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭	57.0	15.0	5.0			
758	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭	57.0	15.0	6.0			
759	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
760	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
761	加工材	分割材		クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
762	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
763	加工材	板目板		クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
764	加工材	半削材		クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
765	加工材	板目板		クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
766	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
767	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
768	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭	40.0	15.0	13.0			
769	加工材			クリ	1	SX14	绳文時代中期～後期初頭						
770	加工材	板目板		クリ	1	SX01	绳文時代中期～後期初頭	79.0	13.0	6.0			
771	加工材			クリ	1	SX01	绳文時代中期～後期初頭						
772	加工材			オニグルミ	1	SX01	绳文時代中期～後期初頭						
773	加工材			クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
774	加工材			クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
775	加工材			クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
776	加工材			クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
777	加工材	エノキ属		クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭	100.0	15.0	9.0			
778	加工材			クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭						
779	加工材			クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭						
780	加工材	板目板		クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭						
781	加工材	板目板		クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭						
782	加工材	板		クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭						
783	加工材			クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭						
784	加工材	板目板		クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭						
785	加工材	削りだし材	削出し材	クリ	1	SX01(2)	绳文時代中期～後期初頭	110.0	6.0	6.0			
786	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
787	加工材	板目板	板目板	スギ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭	12.0	3.0	0.3			
788	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
789	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX01	绳文時代中期～後期初頭	160.0	25.0				
790	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭	90.0	20.0				
791	加工材			スギ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭	60.0	3.0				
792	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭	110.0	16.0	12.0			
793	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭	42.0	10.0	3.0			
794	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭	19.0	9.0	4.0			
795	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
796	加工材			イヌガヤ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
797	加工材			イヌガヤ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
798	加工材			トドノキ	1	SX13	绳文時代中期～後期初頭						
799	加工材			クリ	1	SX13	绳文時代中期～後期初頭						
800	加工材			イヌガヤ	1	SX13	绳文時代中期～後期初頭	83.0	9.0	4.0			
801	加工材			クリ	1	SX13	绳文時代中期～後期初頭						
802	加工材			クリ	1	SX13	绳文時代中期～後期初頭						
803	加工材			クリ	1	SX13	绳文時代中期～後期初頭	130.0	25.0	4.0	○		
804	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX04	绳文時代中期～後期初頭	104.0	12.0	10.0			
805	加工材			クリ	1	SX04	绳文時代中期～後期初頭	104.0	10.0	10.0			
806	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX05	绳文時代中期～後期初頭						
807	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX03	绳文時代中期～後期初頭						
808	加工材			クリ	1	SX03	绳文時代中期～後期初頭						
809	加工材			クリ	1	SX03	绳文時代中期～後期初頭						
810	加工材			クリ	1	SX03	绳文時代中期～後期初頭						
811	加工材			クリ	1	SX03	绳文時代中期～後期初頭						
812	加工材	板目材	板目材	オニグルミ	1	SX01	绳文時代中期～後期初頭						
813	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
814	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
815	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
816	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
817	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
818	加工材	板目材	板目材	スギ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
819	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
820	加工材			クリ	1	SX02	绳文時代中期～後期初頭						
821	加工材	板目材	板目材	クリ	1	SX01	绳文時代中期～後期初頭						
822	加工材	板	板	クリ	1	SX12	绳文時代中期～後期初頭						

報告 番号	区分	種別	木取り	断面	調査 位置	構造	時期	長さ (cm)	幅・高 (cm)	厚・深 (cm)	器化	褐色	備考
823	加工材	板門材	板門材	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭	22.0	9.0	2.0			
824	加工材	丸木材	丸木材	太走向	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
825	加工材	板	板	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
826	加工材	分割材	分割材	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
827	加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
828	加工材	板門材	板門材	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
829	加工材	板	板	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
830	加工材	板	板	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭	47.0	16.0	4.0			
831	加工材	板目材	板目材	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
832	加工材	板	板	クリヤ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
833	加工材	板	板	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
834	加工材	板	板	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
835	加工材	板目材	板目材	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
836	加工材	板	板	クリ	I	SX12	绳文時代中期末～後期初頭						
837	加工材	板	板	クリヤマガヤ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭						
838	加工材	板	板	クリヤマダ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭						
839	加工材	板	板	クリ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭	38.0	8.0	5.0			
840	加工材	丸木材	丸木材	クリ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭	32.0	17.0	6.0			
841	加工材	板	板	クリ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭						
842	加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭	106.0	7.5	3.0			
843	加工材	板	板	マルデ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭	31.0	5.5	2.0			
844	加工材	丸木材	丸木材	マルデ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭	31.0	5.5	2.0			
845	加工材	板目板	板目板	クリ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭	65.0	5.0	3.0			
846	加工材	板	板	コララ部	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭	106.0	7.0	3.0			
847	加工材	板	板	クリ	I	SD13B	绳文時代中期末～後期初頭						
848	加工材	板目板	板目板	スギ	I	SX02	绳文時代中期末～後期初頭	60.0	5.0	0.5			
849	加工材	板目板	板目板	スギ	I	SX02	绳文時代中期末～後期初頭	60.0	5.0	0.5			
850	加工材	板目板	板目板	スギ	I	SX02	绳文時代中期末～後期初頭	60.0	5.0	0.5			
851	加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX02	绳文時代中期末～後期初頭						
852	加工材	板	板	クリ	I	SX02	绳文時代中期末～後期初頭						
853	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭						
854	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭						
855	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭						
856	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭						
857	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭						
858	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭						
859	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭	77.0	8.0	5.0			
860	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭	128.0	7.0	3.5			
861	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭						
862	加工材	板	板	クリ	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭						
863	加工材	板目板	板目板	クリ	I	SX13	绳文時代中期末～後期初頭	118.0	21.0	5.0			
864	加工材	板	板	未定	I	SX13	绳文時代中期末～後期初頭	118.0	21.0	5.0			
865	加工材	分剖材	分剖材	クリ	I	SX04	绳文時代中期末～後期初頭	230.0	18.0	5.0			
866	加工材	板	板	クリ	I	SX04	绳文時代中期末～後期初頭	45.0	14.0	6.0			
867	加工材	板	板	クリ	I	SX04	绳文時代中期末～後期初頭	144.0	10.0	9.0			
868	加工材	板	板	クリ	I	SX04	绳文時代中期末～後期初頭	22.0	5.0	3.0			
869	加工材	板	板	クリ	I	SX05	绳文時代中期末～後期初頭	22.0	5.0	3.0			
870	加工材	板	板	クリ	I	SX05	绳文時代中期末～後期初頭	105.0	20.0	16.0			
871	加工材	板目板	板目板	広葉樹	I	SX01(2)	绳文時代中期末～後期初頭						
872	加工材	板門材	板門材	クリ	I	SX01(2)	绳文時代中期末～後期初頭	90.0	15.0	4.0			
873	加工材	板	板	クリ	I	SX01(2)	绳文時代中期末～後期初頭	56.0	14.0	9.0			
874	加工材	板	板	クリ	I	SX01(2)	绳文時代中期末～後期初頭	51.0	6.0	4.0			
875	加工材	板	板	クリ	I	SX01(2)	绳文時代中期末～後期初頭						
876	加工材	板	板	クリ	I	SX01(2)	绳文時代中期末～後期初頭	55.0	10.0	6.0			
877	加工材	板	板	クリ	I	SX01(2)	绳文時代中期末～後期初頭						
878	加工材	板	板	クリ	I	SX01(2)	绳文時代中期末～後期初頭						
879	加工材	板	板	クリ	I	SX02	绳文時代中期末～後期初頭						
880	加工材	板	板	クリ	I	SX02	绳文時代中期末～後期初頭						
881	加工材	板	板	クリ	I	SX02	绳文時代中期末～後期初頭						
882	加工材	丸木材	丸木材	オニグルミ	I	SX11	绳文時代中期末～後期初頭						
883	加工材	丸木材	丸木材	オニグルミ	I	SX11	绳文時代中期末～後期初頭						
884	加工材	板	板	オニグルミ	I	SX11	绳文時代中期末～後期初頭						
885	加工材	板	板	コナラ類	I	SX11	绳文時代中期末～後期初頭						
886	加工材	板	板	クリ	I	SX11	绳文時代中期末～後期初頭						
887	加工材	板	板	クリ	I	S D 13B	绳文時代中期末～後期初頭						
888	加工材	板	板	クリ	I	S D 13B	绳文時代中期末～後期初頭						
889	加工材	板	板	オニグルミ	I	SX11	绳文時代中期末～後期初頭						
890	加工材	板	板	オニグルミ	I	SX11	绳文時代中期末～後期初頭						
891	加工材	板	板	クヌキ等	I	SX03	绳文時代中期末～後期初頭	90.0	25.0	30.0			

報告番号	区分	種別	木取り	樹種	直径	遺構	時期	高さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ・深さ (cm)	炭化	腐度	備考
892	加工材			クリ	1	SX04	縄文時代中前期～後期初頭						
893	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中前期～後期初頭						
894	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
895	加工材			クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
896	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
897	加工材			クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
898	加工材	分割材	分割材	コナラ郡	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
899	加工材			オニグルミ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭	150.0	55.0	18.0			
900	加工材	板・合板	板・目材	クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	150.0	36.0	8.0			
901	加工材	板		クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	130.0	26.0	10.0			
902	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
903	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
904	加工材			ムラサキシキ屋	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
905	加工材			クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
906	加工材			クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
907	加工材	板・目材	板・目材	カツラ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
908	加工材	板	板	スギ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	88.0	40.0	9.3			
909	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭	83.0	16.0	9.0			
910	加工材	削りだし材	削り出し材	クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
911	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
912	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
913	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
914	加工材			クリ	1	SX03	縄文時代中期末～後期初頭						
915	加工材			クリ	1	SD13	縄文時代中期末～後期初頭						
916	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	46.0	20.0	9.0			
917	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
918	加工材			クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
919	加工材			オニグルミ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
920	加工材			ヤツリバナ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
921	加工材			東国足	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	46.0	6.0	4.0			
922	加工材			イヌガヤ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
923	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
924	加工材			クリ	1	SX11	縄文時代中期末～後期初頭						
925	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭	31.0	18.0	10.0			
926	加工材			クリ	1	SD135	縄文時代中期末～後期初頭	200.0	15.0	14.0			
927	加工材	板	板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	68.0	22.0	4.0			
928	加工材	半剖板	半剖板	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	83.0	19.0	5.0			
929	加工材	半剖材	半剖材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
930	加工材	半剖材	半剖材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭	292.0	12.0	8.0			
931	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	84.0	9.0	3.0			
932	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭	58.0	12.0	2.5			
933	加工材	板	板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
934	加工材	板・合板	板・目板	クリ	1	SX01(2)	縄文時代中期末～後期初頭						
935	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
936	加工材	削りだし材	削り出し材	クリ	1	SX02	縄文時代中期末～後期初頭						
937	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	28.0	8.0	2.0			
938	加工材			クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
939	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
940	加工材	丸木材	分割材	ニレ岡	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	64.0	8.0	4.0			
941	加工材	丸木材	丸木材	イヌエンジュ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
942	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
943	加工材	丸木材	丸木材	イヌエンジュ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	23.0	5.0	4.0			
944	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
945	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
946	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭						
947	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
948	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭						
949	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	122.0	9.0	2.0			
950	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭	122.0	9.0	2.0			
951	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	122.0	9.0	2.0			
952	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX01	縄文時代中期末～後期初頭	136.0	6.0	7.0			
953	加工材	丸木材	丸木材	スダジイ	1	SX14	縄文時代中期末～後期初頭						
954	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	75.0	18.0	8.0			
955	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX13	縄文時代中期末～後期初頭	60.0	8.0	4.0			
956	加工材			クリ	1	SX06	縄文時代中期末～後期初頭	30.0	5.0	3.0			
957	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SX05	縄文時代中期末～後期初頭	103.0	5.0	4.0			
958	加工材	板・目板	板・目板	クリ	1	SX06	縄文時代中期末～後期初頭	25.0	6.0	1.0			
959	加工材			クリ	1	SX06	縄文時代中期末～後期初頭	23.0	9.0	3.0			

機会番号	区分	種別	木取り	樹種	調査年	通過	時期	高さ (cm)	幅×深 (cm)	密度	腐度	備考
960	加工材	板目板	板目板	オニグルミ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	35.0	20.0	3.0		
961	加工材	板目板	板目板	カツラ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	18.0	5.0	4.0		
962	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	11.0	7.0	2.0		
963	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	20.0	8.0	3.0		
964	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	35.0	10.0			
965	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	60.0	10.0			
966	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	35.0	15.0			
967	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	22.0	15.0	6.0		
968	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	16.0	20.0	10.0		
969	加工材	板目板	板目板	オニグルミ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	35.0	10.0	3.0		
970	加工材	丸木材	丸木材	クリ	6	SG-1	縄文時代中期末～後期初期	50.0	10.0	5.0		
971	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	16.0	7.0	3.0		
972	加工材	丸木材	丸木材	カツラ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	10.0	7.0	5.0		
973	加工材	分割材	分割材	カツラ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	35.0	12.0	8.0		
974	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	23.0	9.0	3.0		
975	加工材	分割材	分割材	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	30.0	5.0	2.0		
976	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SD06	縄文時代中期末～後期初期	8.0	8.0	2.0		
977	加工材	丸木材	丸木材	セクレンケル	1	H10	縄文時代中期末以前					
978	加工材	丸木材	丸木材	木同定	1	SK16	縄文時代中期末以前					
979	加工材	丸木材	丸木材	カエデ属	1	SK16	縄文時代中期末以前	110.0	14.0	12.0		
980	加工材	丸木材	丸木材	オニグルミ	1	SK20	縄文時代中期末以前					
981	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK20	縄文時代中期末以前					
982	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK16	縄文時代中期末以前					
983	加工材	丸木材	丸木材	カヤ	1	H10	縄文時代中期末以前	82.0	22.0	4.0		
984	加工材	丸木材	丸木材	カツラ	1	H10	縄文時代中期末以前	110.0	8.0	8.0		
985	加工材	丸木材	丸木材	木同定	1	H10	縄文時代中期末以前					
986	加工材	板目板	板目板	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前					
987	加工材	板目板	板目板	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	55.0	5.0	4.0		
988	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	1	H10	縄文時代中期末以前					
989	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	113.0	9.0	6.0		
990	加工材	削りだし材	削りだし材	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前					
991	加工材	削りだし材	削りだし材	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前					
992	加工材	丸木材	丸木材	イヌガヤ	1	H10	縄文時代中期末以前					
993	加工材	板目材	板目材	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	173.0	18.0	7.0		
994	加工材	板目材	板目材	クリ	1	H10	縄文時代中期末以前	84.0	12.0	6.0		
995	加工材	板目材	板目材	クヌギ属	1	SK22	縄文時代中期末以前					
996	加工材	丸木材	丸木材	コナラ属	1	SK22	縄文時代中期末以前					
997	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK22	縄文時代中期末以前					
998	加工材	丸木材	丸木材	ヤマグワ	1	SK22	縄文時代中期末以前					
999	加工材	丸木材	丸木材	木同定	1	SK22	縄文時代中期末以前	30.0	11.0	4.0		
1000	加工材	丸木材	丸木材	カツラ	1	SK22	縄文時代中期末以前					
1001	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK16	縄文時代中期末以前					
1002	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK16	縄文時代中期末以前					
1003	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK16	縄文時代中期末以前					
1004	加工材	平判材	平判材	クリ	1	SK16	縄文時代中期末以前	30.0	25.0	12.0		
1005	加工材	分割材	分割材	トネリコ属	1	SK22	縄文時代中期末以前					
1006	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK22	縄文時代中期末以前					
1007	加工材	丸木材	丸木材	ヤマグワ	1	SK22	縄文時代中期末以前					
1008	加工材	丸木材	丸木材	トチノキ	1	SK22	縄文時代中期末以前	150.0	27.0	32.0		
1009	加工材	丸木材	丸木材	トチノキ	1	SK22	縄文時代中期末以前	26.0	13.0	5.0		
1010	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK23	縄文時代中期末以前	55.0	17.0	16.0		
1011	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK23	縄文時代中期末以前	112.0	11.0	5.0		
1012	加工材	板目板	板目板	モクラン属	1	SK23	縄文時代中期末以前					
1013	加工材	板目材	板目材	カツラ	1	SK16	縄文時代中期末以前	55.0	12.0	6.0		
1014	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK16	縄文時代中期末以前	75.0	35.0	11.0		
1015	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK17	縄文時代中期末以前					
1016	加工材	丸木材	丸木材	ヤマウルシ	1	SK20	縄文時代中期末以前					
1017	加工材	丸木材	丸木材	ヤマウルシ	1	SK20	縄文時代中期末以前					
1018	加工材	丸木材	丸木材	ブナ属	1	SK22	縄文時代中期末以前	73.0	35.0	16.0		
1019	加工材	丸木材	丸木材	コナラ属	1	SK22	縄文時代中期末以前					
1020	加工材	丸木材	丸木材	コナラ属	1	SK22	縄文時代中期末以前					
1021	加工材	丸木材	丸木材	コナラ属	1	SK16	縄文時代中期末以前					
1022	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK16	縄文時代中期末以前					
1023	加工材	丸木材	丸木材	ブナ属	1	SK22	縄文時代中期末以前	65.0	55	6.0		
1024	加工材	丸木材	丸木材	トネリコ属	1	SK21	縄文時代中期末以前	130.0	18.0			
1025	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK19	縄文時代中期末以前					
1026	加工材	丸木材	丸木材	エノキ属	1	SK19	縄文時代中期末以前					
1027	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK23	縄文時代中期末以前					
1028	加工材	丸木材	丸木材	オニグルミ	1	SK16	縄文時代中期末以前					

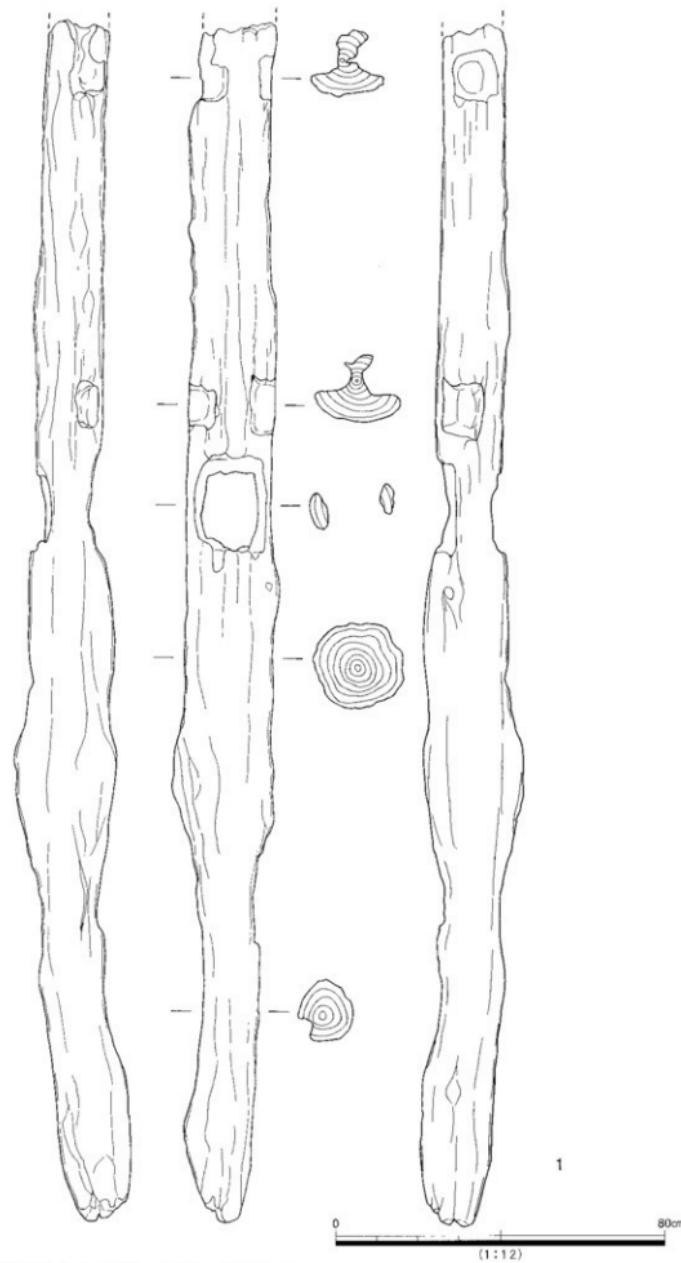
番号	区分	種別	木取り	樹種	調査日	構造	時期	長さ (cm)	幅・径 (cm)	厚さ・高さ (cm)	変化	細	備考
1029	加工材	丸木材	丸木材	クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前	85.0	11.0	8.0			
1030	加工材	丸木材	丸木材	トネリコ属	1	SK21	縄文時代中期未以前	120.0	21.0	13.0			
1031	加工材	丸木材	丸木材	ギハダ	1	SK16	縄文時代中期未以前						
1032	加工材	丸木材	丸木材	ヤマグワ	1	SK21	縄文時代中期未以前						
1033	加工材	丸木材	丸木材	オニグルミ	1	SK21	縄文時代中期未以前						
1034	加工材	分割材	分割材	ウメモチ類	1	SK20	縄文時代中期未以前						
1035	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前	160.0	9.0	4.0			
1036	加工材	板目板	板目板	クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前	110.0	15.0	12.0			
1037	加工材	板	板	クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前	69.0	6.0	2.0			
1038	加工材			クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前						
1039	加工材			クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前						
1040	加工材			クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前						
1041	加工材			クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前						
1042	加工材			クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前						
1043	加工材			クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前						
1044	加工材			クリ	1	SK20	縄文時代中期未以前						
1045	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK15	縄文時代初期中葉	16.5	6.5	1.5			
1046	加工材	根詰み	削材	アカツク	3	SK15	縄文時代初期中葉	14.0	3.5	1.5	○		
1047	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代初期中葉	23.5	9.5	2.0			
1048	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代初期中葉	16.5	3.5	1.0			
1049	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代初期中葉	29.5	9.5	2.5			
1050	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代初期中葉	28.0	10.0	3.0			
1051	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代初期中葉	21.0	6.5	1.5			
1052	加工材	根詰み	白山削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	31.0	8.0	2.0	○		
1053	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	30.0	11.0	5.0			
1054	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	20.5	5.5	0.8			
1055	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	34.0	9.5	3.0			
1056	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	22.0	10.5	2.5			
1057	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	16.5	5.5	3.0			
1058	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	27.5	13.0	3.0			
1059	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	29.0	8.5	2.5			
1060	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	17.5	6.5	2.5			
1061	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	2.8	11.0	2.5			
1062	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	35.0	8.0	4.0			
1063	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	23.0	11.0	1.5			
1064	加工材	根詰み	丸木材	ヤマグワ	3	SK15	縄文時代中期中葉	67.0	7.0	4.5			
1065	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK15	縄文時代中期中葉	41.0	13.0	5.0			○ 片端切断面
1066	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK240	縄文時代初期中葉	17.5	4.0	1.0			
1067	加工材	根詰み	樹皮	不明	3	SK152	縄文時代中期中葉	3.5	2.5	0.3			
1068	加工材	根詰み	木片	不明	3	SK157	縄文時代中期中葉	8.0	3.5	0.5			
1069	加工材	根詰み	木片	クリ	3	SK152	縄文時代中期中葉	14.0	5.0	2.0			
1070	加工材	根詰み	木片	クリ	3	SK152	縄文時代中期中葉	13.0	7.5	2.5			
1071	加工材	根詰み	木片	クリ	3	SK126	縄文時代中期中葉	8.0	5.0	0.5			
1072	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK126	縄文時代中期中葉	38.0	8.0	3.0			
1073	加工材	根詰み	木片	クリ	3	SK126	縄文時代中期中葉	12.0	5.5	1.0			
1074	加工材	根詰み	木片	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	13.0	2.5	1.2			
1075	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	34.0	5.0	1.0			
1076	加工材	根詰み	ミカン削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	63.0	5.5	5.5			
1077	加工材	根詰み	木片	不明	3	SK139	縄文時代中期中葉	10.0	1.8	1.2			
1078	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	45.0	15.0	7.5			
1079	加工材	根詰み	木片	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	20.0	3.5	3.0			
1080	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	52.0	65.0	6.0			
1081	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	6.5	5.0	2.3			
1082	加工材	根詰み	斜め板	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	7.0	4.0	1.0			
1083	加工材	根詰み	板目板	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	69.0	16.0	5.0			
1084	加工材	根詰み	板目削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉			3.0			
1085	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	57.0	5.5	4.5			
1086	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	39.0	3.2	2.0			
1087	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	47.0	3.5	2.0			
1088	加工材	根詰み	木片	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	10.0	2.5	1.5			
1089	加工材	根詰み	削材	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	20.0	3.0	1.5			
1090	加工材	根詰み	板目板	クリ	3	SK139	縄文時代中期中葉	38.0	12.5	3.0			

第 20 章 製品與服務

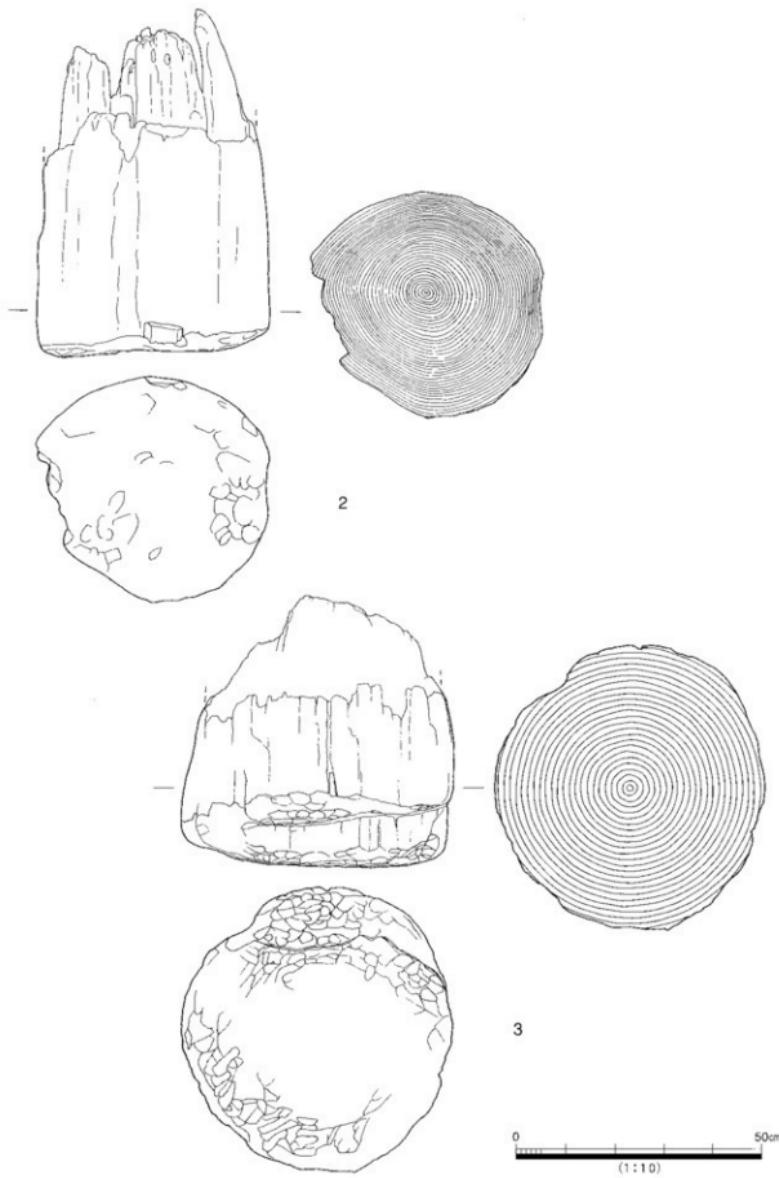
記号	種類	標本の主な 特徴	タテ	ヨコ	高さ または本 数	種類	科	測量区	標高	時間	大きさ(mm)			参考	
											風符部タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	
40	合瓣	門構	—	—	—	—	—	1	S205	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~	—	—
41	不明	不明	—	—	—	—	—	1	S2125	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~	—	—
42	複	複	—	—	—	—	—	1	不明	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
43	複	複	—	—	—	—	—	1	不明	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
44	複	複	—	—	—	—	—	1	不明	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
45	複	複	—	—	—	—	—	1	不明	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
46	複	複	—	—	—	—	—	1	不明	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
47	複	複	—	—	—	—	—	1	不明	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
48	複	複	—	—	—	—	—	1	不明	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
49	複	複	—	—	—	—	—	1	不明	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
50	複	複	—	—	—	—	—	1	SE25	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
51	複	複	—	—	—	—	—	1	S303	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
52	不明	—	—	—	—	—	—	1	S211	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
53	不明	—	—	—	—	—	—	1	S2125	標文部中央部～後部花被片	15	1.1	0.85~0.95	—	—
54	複	複	—	—	—	—	—	6	—	標文部中央部～後部花被片	—	—	—	—	—

報告書抄録

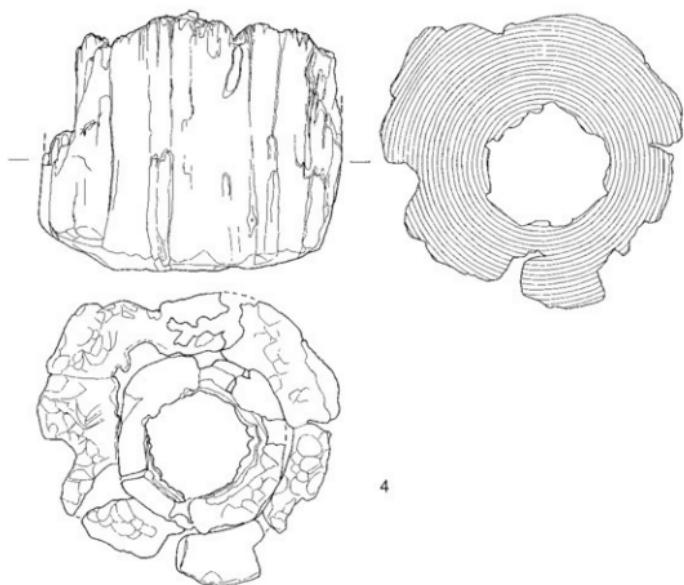
ふりがな	きくらまちいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	桜町遺跡発掘調査報告書							
副書名	木製品・織維製品・植物編							
卷次								
シリーズ名	小矢部市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第60番							
編著者名	中井貞夕							
編集機関	小矢部市教育委員会							
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号							
発行年月日	西暦2007年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡 番号	東経 (世界測地系)	調査期間	面積 (a)	調査原因	
桜町	小矢部市 桜町中出・ 舟岡	16209	21	36° 41' 09" (36° 41' 20")	136° 52' 28" (136° 52' 18")	19870520～ 19871110	3,500	道路(国道8 号線小矢部バ イパス)建設 に伴う事前調 査
						19880309～ 19881227	2,600	
						19900626～ 19901016	1,270	
						19960422～ 19970124	同上継続	
						19980519～ 19981225	同上継続	
						19990401～ 20000128	2,752	
						20000421～ 20001222	同上継続	
						20020530～ 20030328	2,220	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
桜町	散布地	縄文時代早期・ 前期	なし		縄文土器・琰状耳飾り			
	食料・木器 加工場	縄文時代中期末 ～後期初頭	川2・焼土21・木柱根 15・土坑194・埋壟7・木 組み及び木材集中箇所 22・土器満まり5		縄文土器・石器・斧柄・ 刃・編物・貫穴やえつ り穴などの加工のあ る柱材・板材・柱根	水場木組みの木材は建築材 が転用されたものと考えら れている。		
	食料・木器 加工場	縄文時代後期後 葉～晩期	貯蔵穴18・その他の土 坑74・環状木柱列2・そ の他の柱穴4・水場遺 構2・自然流路3		縄文土器・土製品・石 器・石製品・木製品・漆 製品・柱根・堅果類	堅果類の処理に間わると考 えられる木組みの水場遺構 と、貯蔵穴をセットで確認 した。 環状木柱列を2基検出した。		
	生産地	古墳時代前期	樹皮列を伴う木組み1	土師器・鐵 川1				



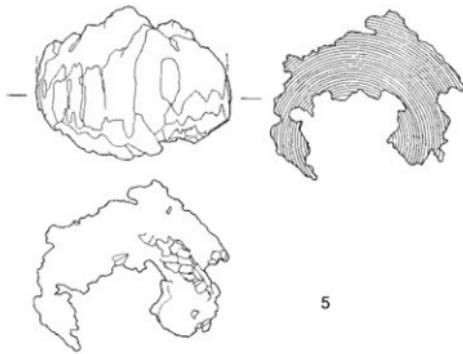
第8図 舟岡地区構築材（1）柱材 中期末～後期初頭



第9図 舟岡地区構築材 (2) 柱根 中期末～後期初頭



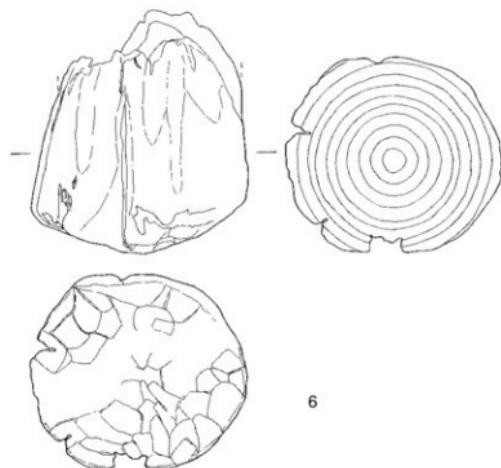
4



5



第10図 舟岡地区構築材（3）柱根 中期末～後期初頭

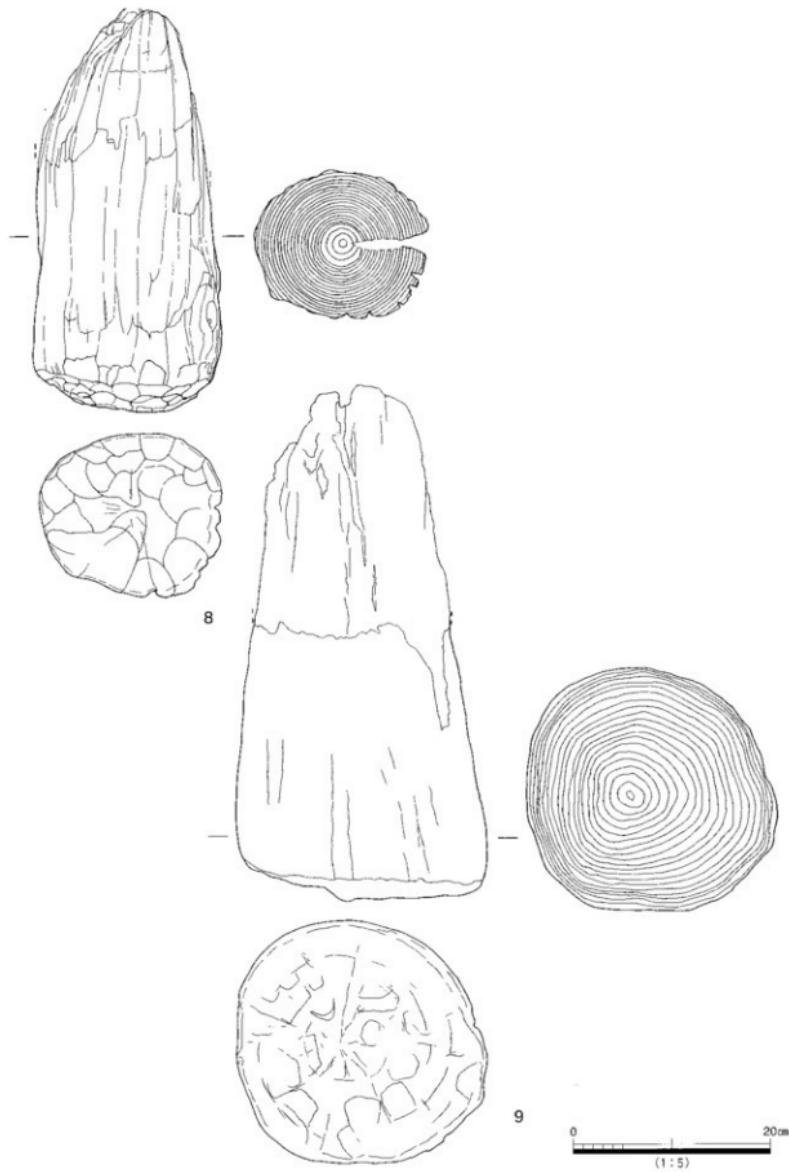


6

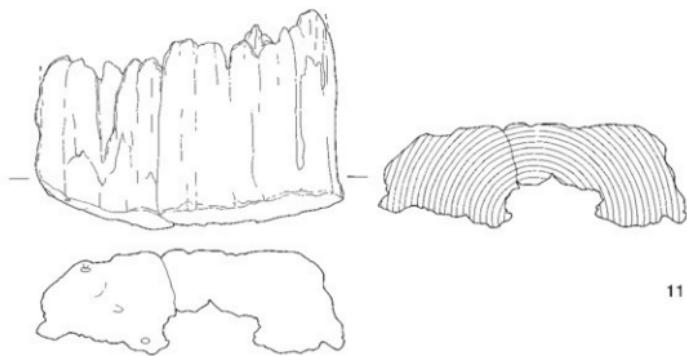
7



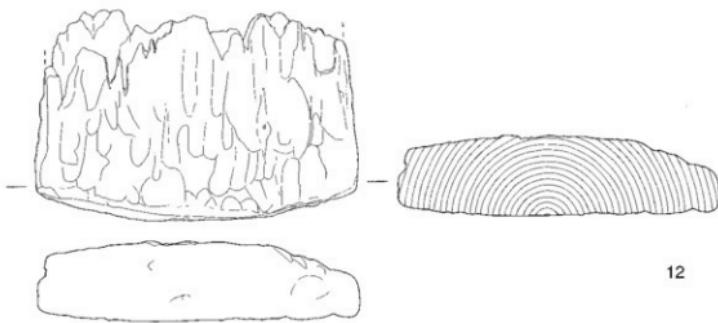
第11図 舟岡地区構築材 (4) 柱根 中期末～後期初頭



第12図 舟岡地区構築材（5）柱根 中期末～後期初頭



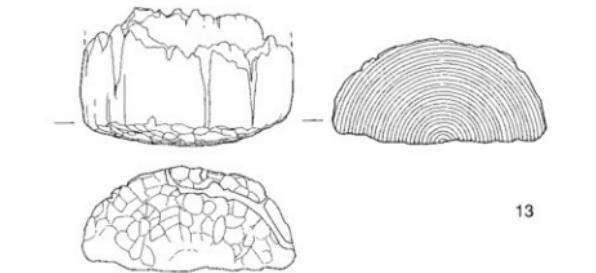
11



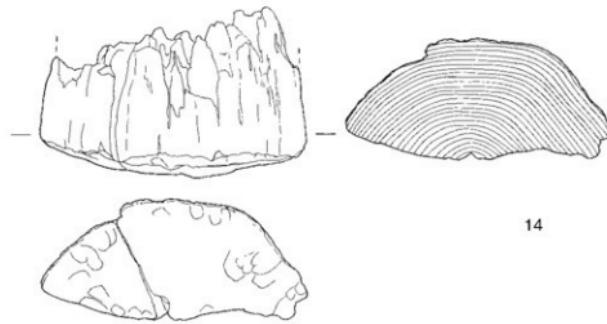
12



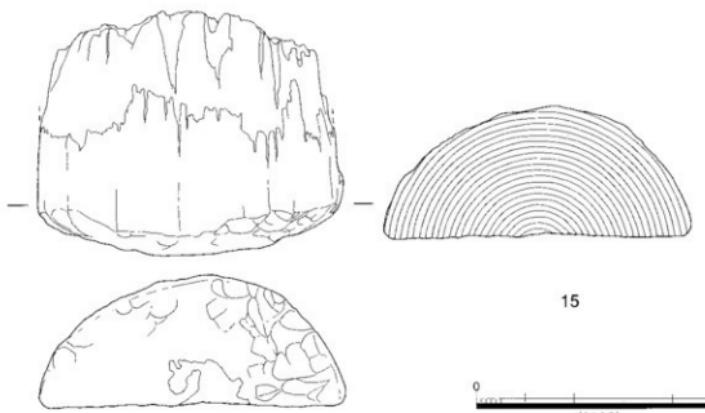
第13図 舟岡地区構築材（6）柱根 晩期中葉



13



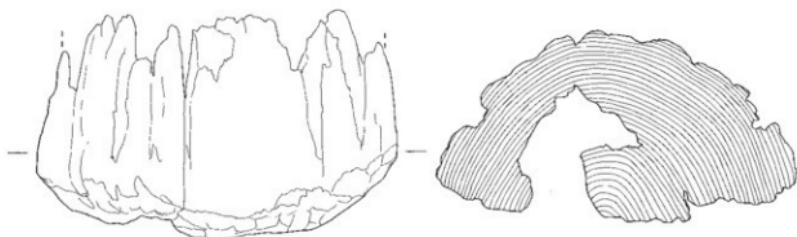
14



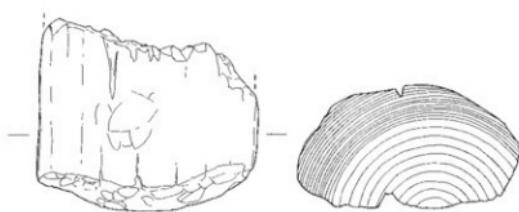
15



第14図 舟岡地区構築材（7）柱根 晩期中葉



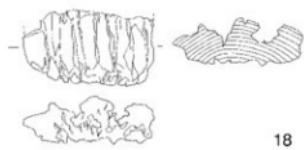
16



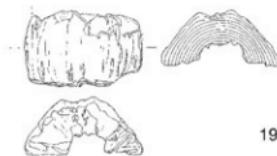
17



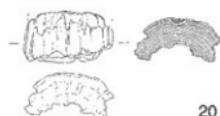
第15図 舟岡地区構築材 (8) 柱根 晩期中葉



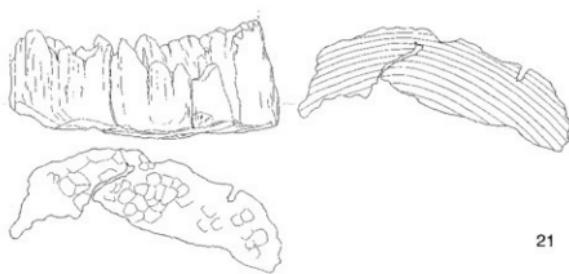
18



19



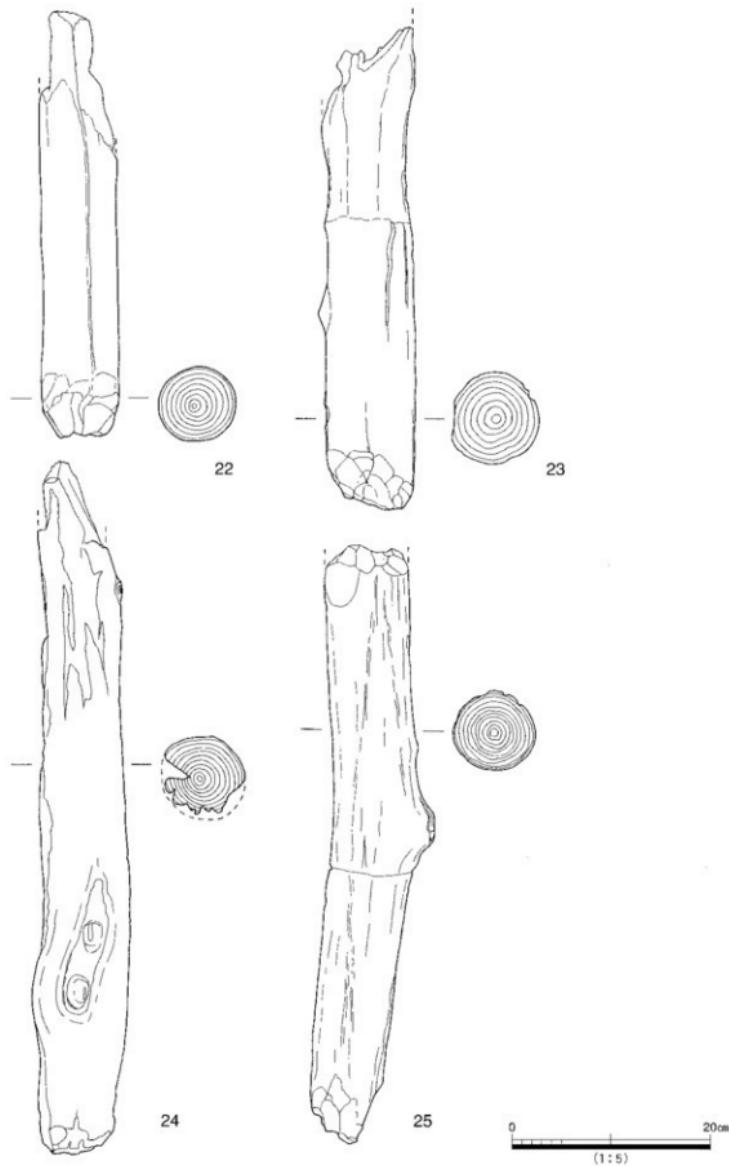
20



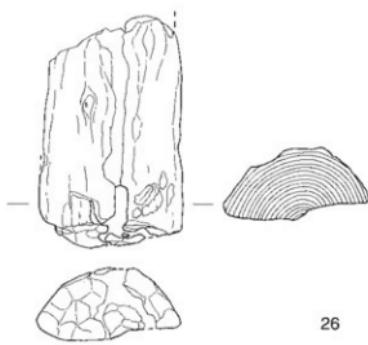
21



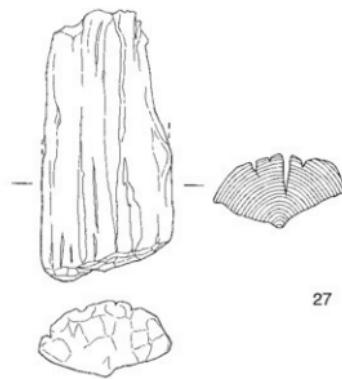
第16図 舟岡地区構築材 (9) 柱根 晩期中葉



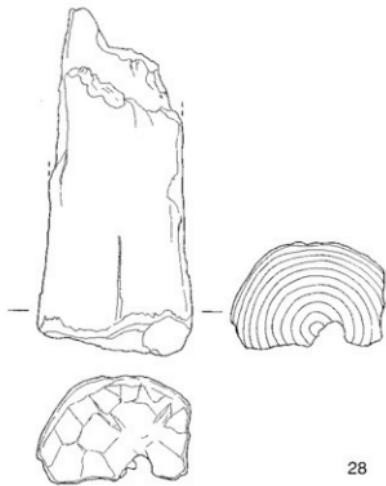
第17図 舟岡地区施設材 (1) 杭群 中期未以前



26



27



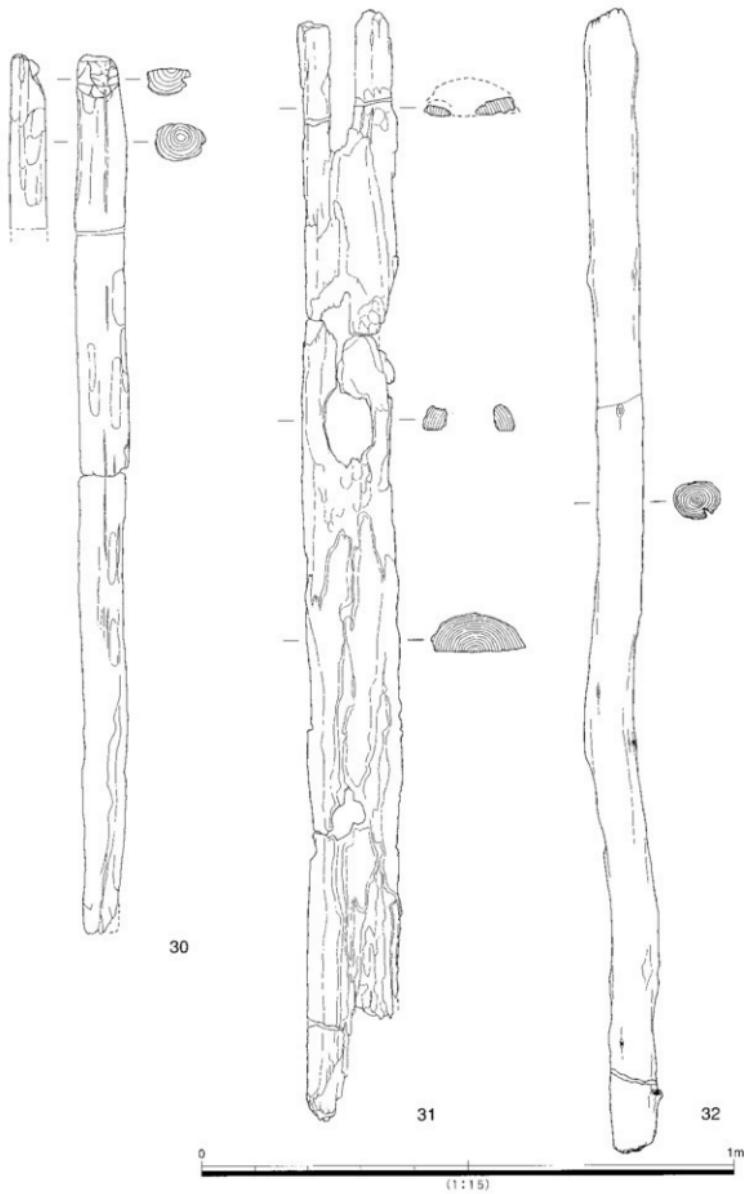
28



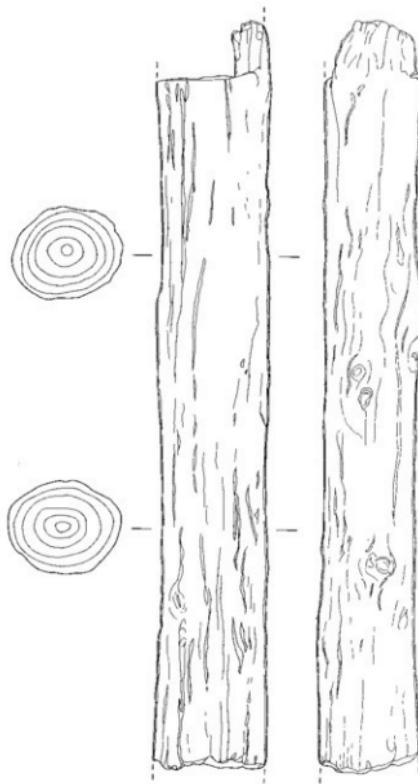
第18図 舟岡地区施設材（2）杭群 中期末以前



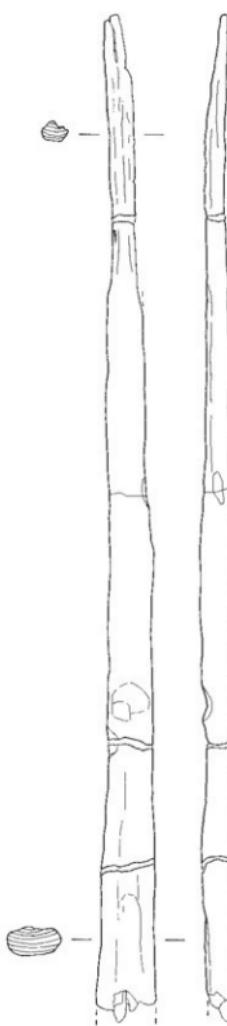
第19図 舟岡地区施設材（3）水場材 中期末～後期初頭



第20図 舟岡地区施設材 (4) 水場材 中期末～後期初頭



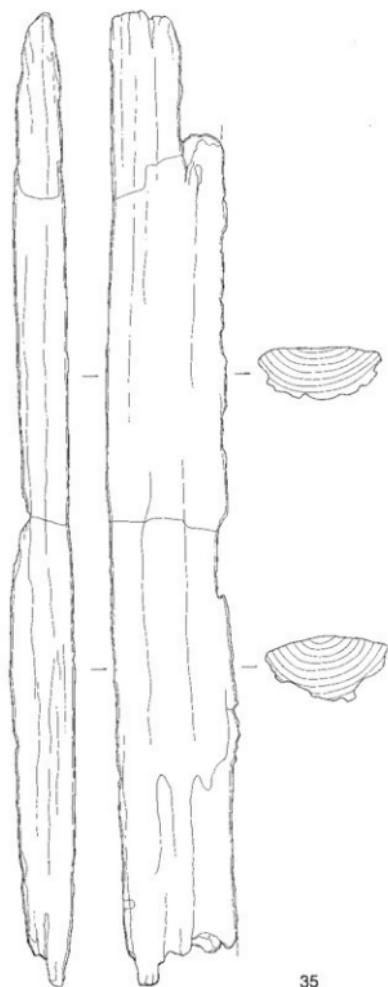
33



34



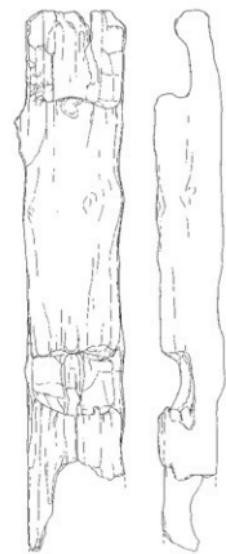
第21図 舟岡地区施設材（5）水場材 中期末～後期初頭



35



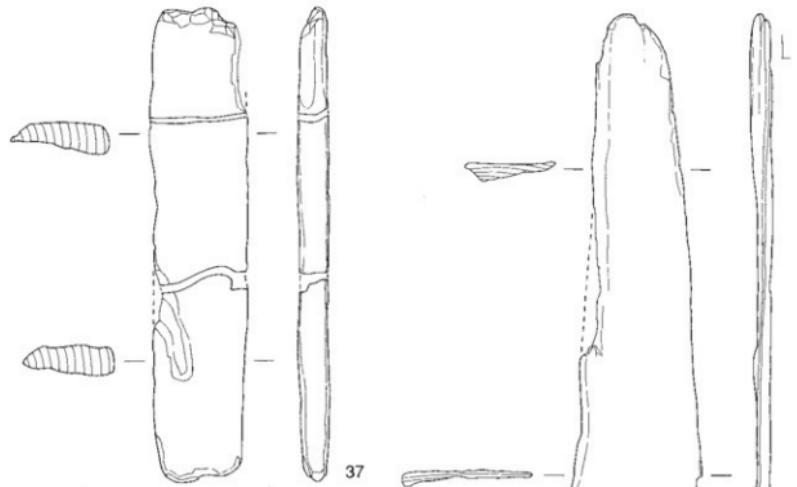
36



278

0 1m
(1:15)

第22図 舟岡地区施設材（6）水場材 中期末～後期初頭



37

38



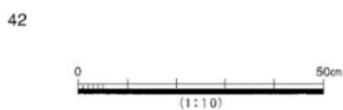
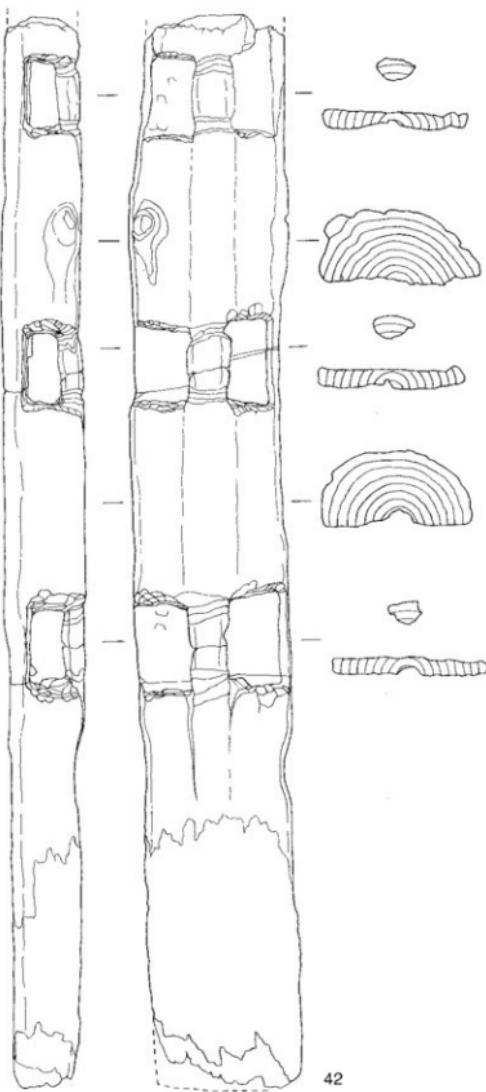
39

0 40cm
(1:6)

第23図 舟岡地区施設材 (7) 水場材 中期末～後期初頭



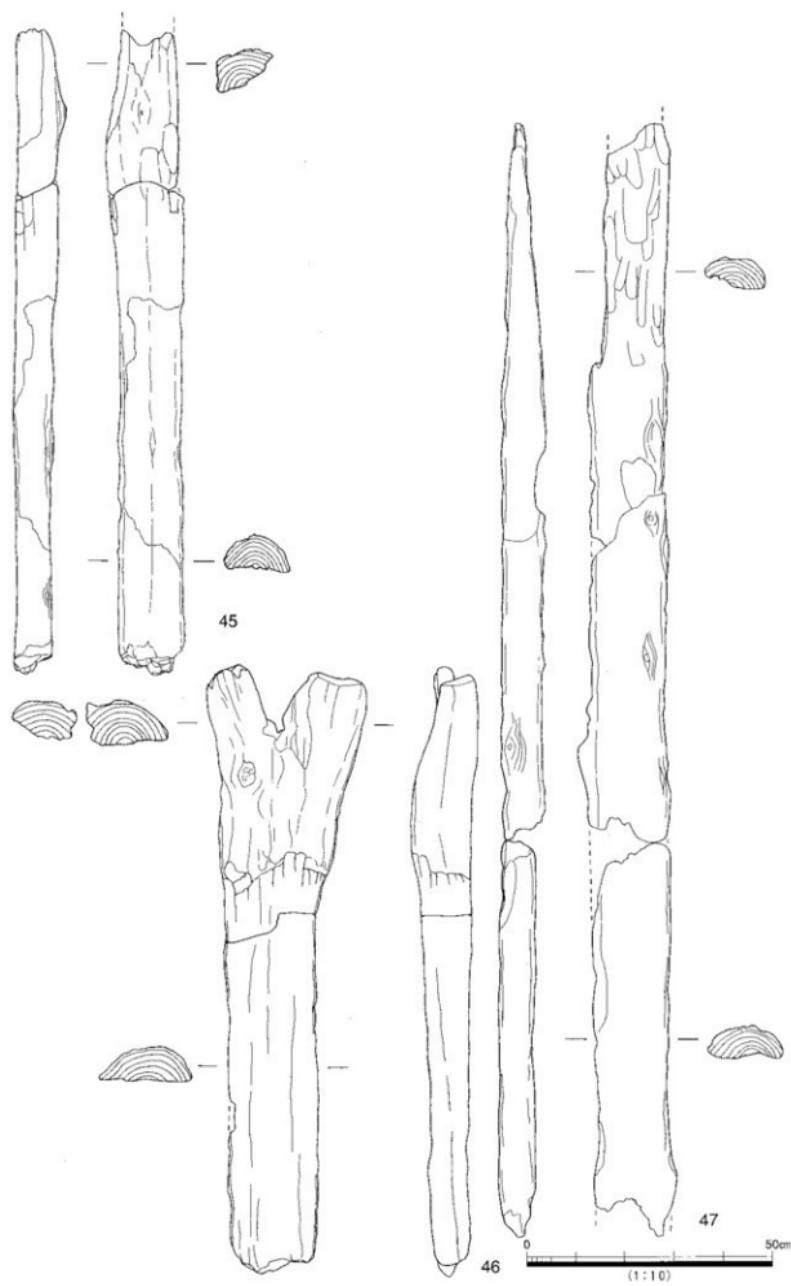
第24図 舟岡地区施設材 (8) 水場材 中期末～後期初頭



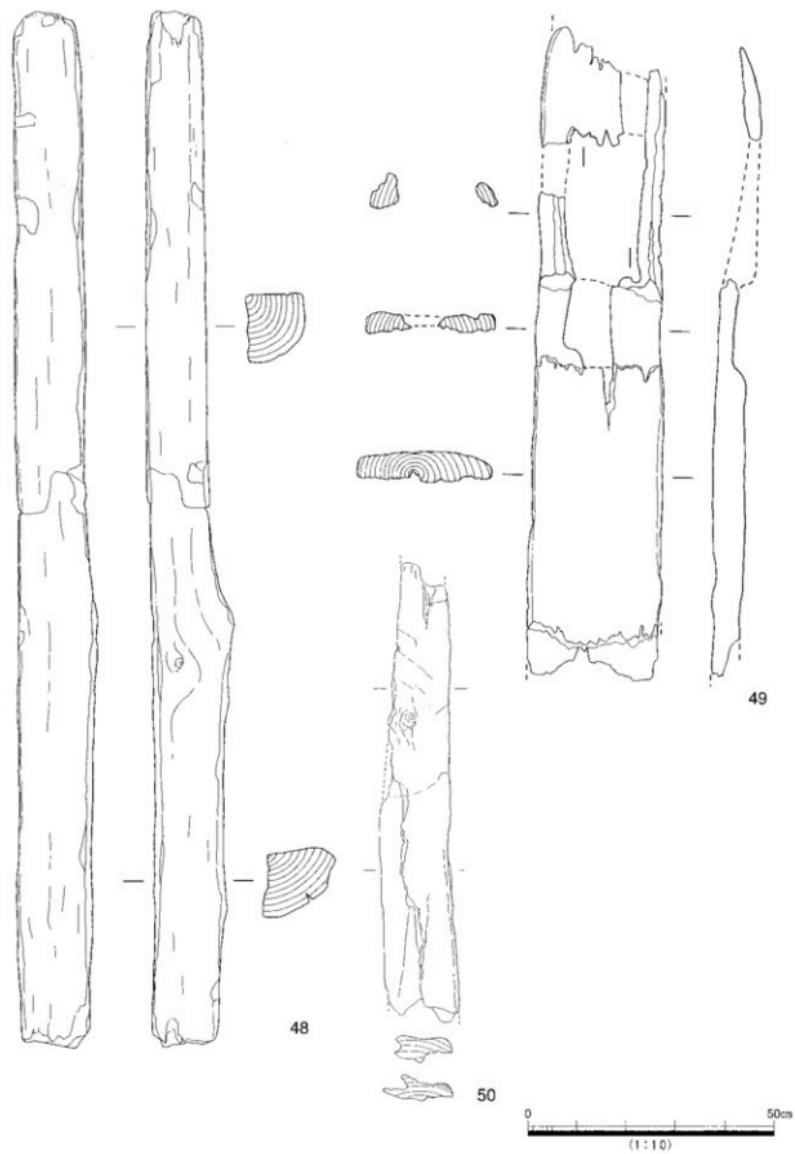
第25図 舟岡地区施設材 (9) 水場材 中期末～後期初頭



第26図 舟岡地区施設材 (10) 水場材 中期末～後期初頭



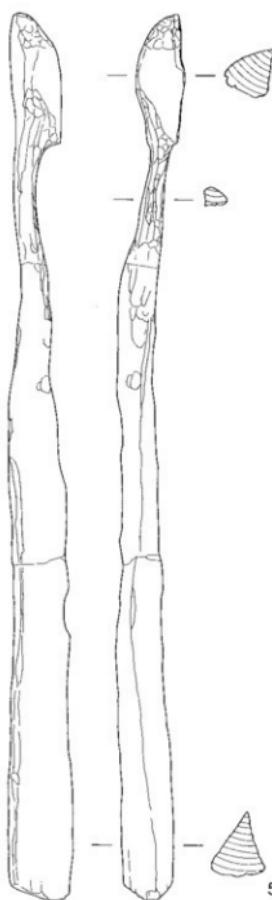
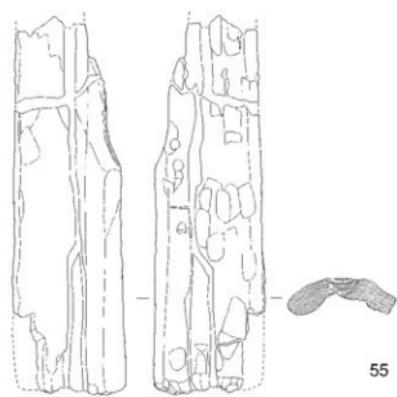
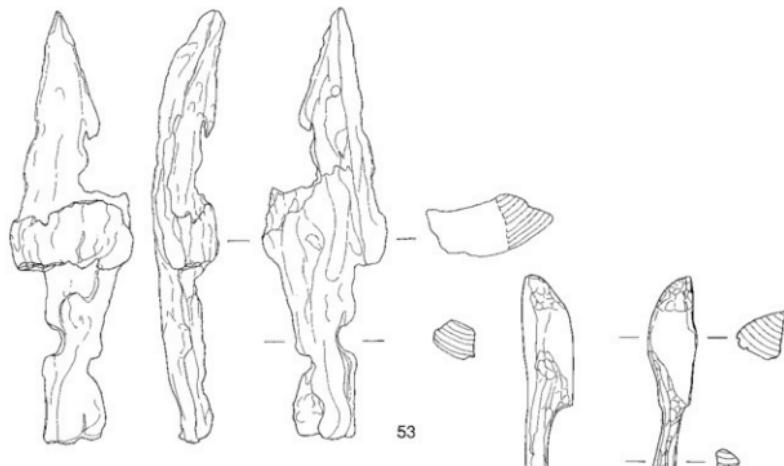
第27図 舟岡地区施設材 (11) 水場材 中期末～後期初頭



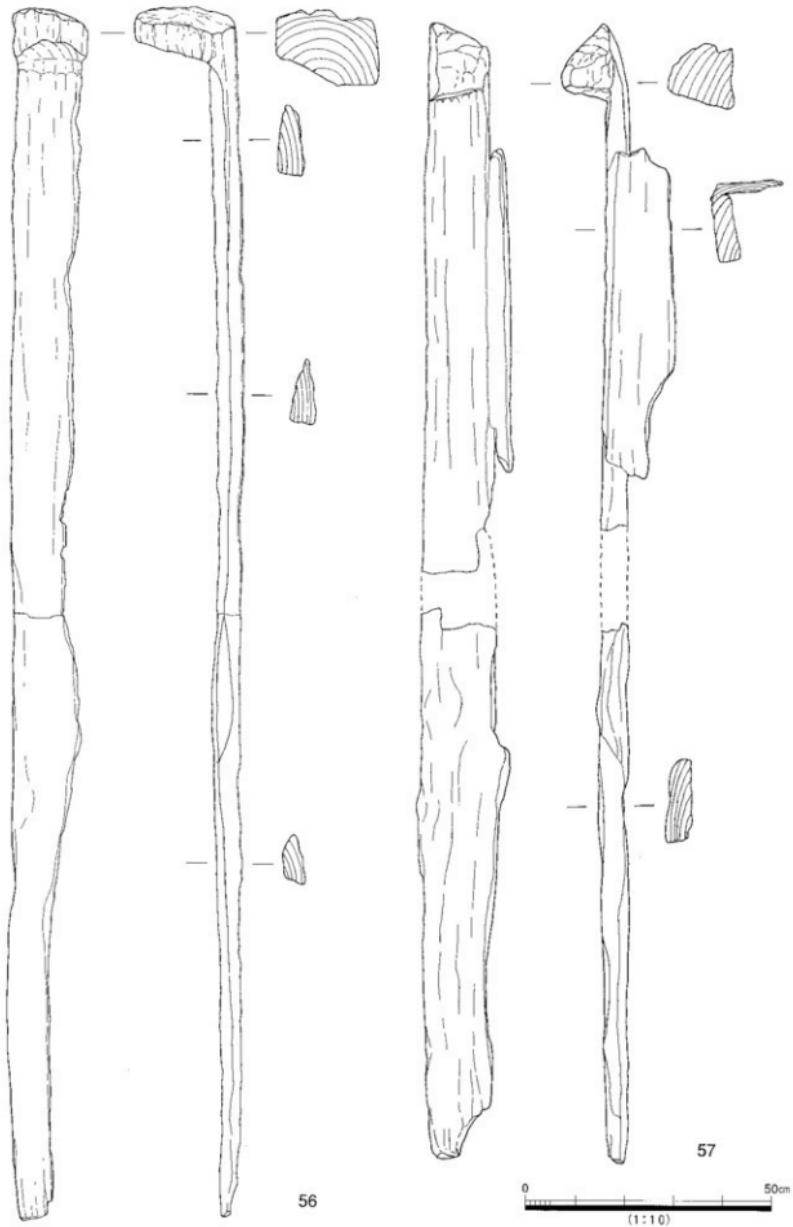
第28図 舟岡地区施設材 (12) 水場材 中期末～後期初頭



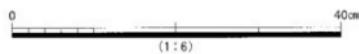
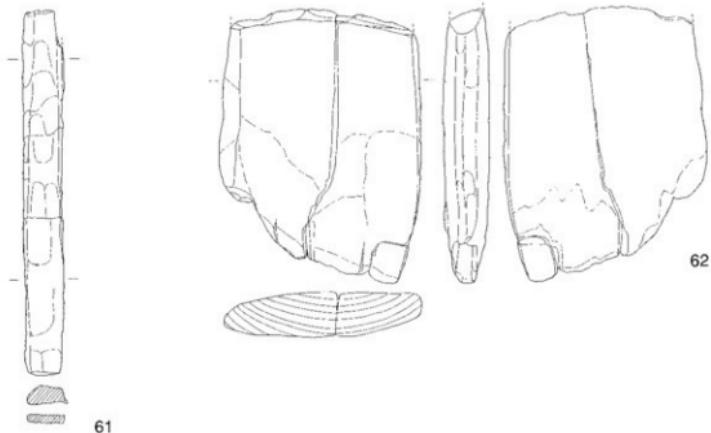
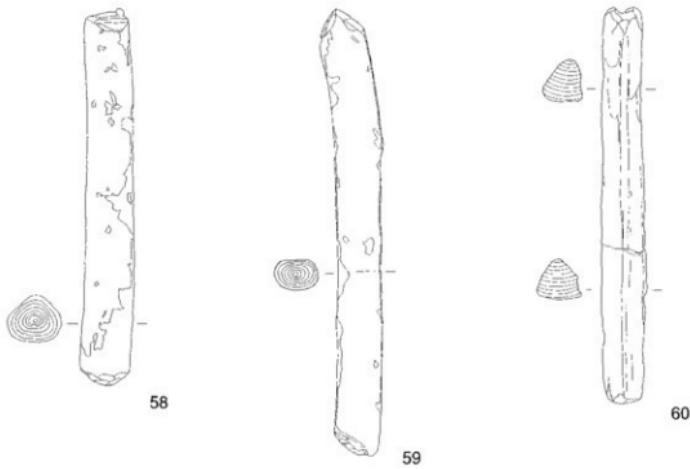
第29図 舟岡地区施設材 (13) 水場材 中期末～後期初頭



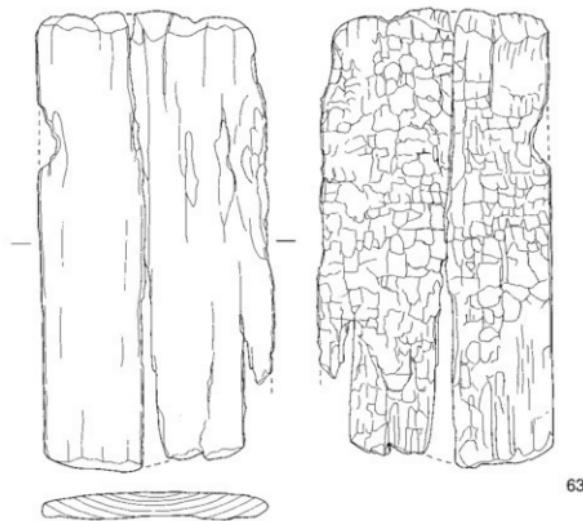
第30図 舟岡地区施設材 (14) 水場材 中期末～後期初頭



第31図 舟岡地区施設材 (15) 水場材 中期末～後期初頭



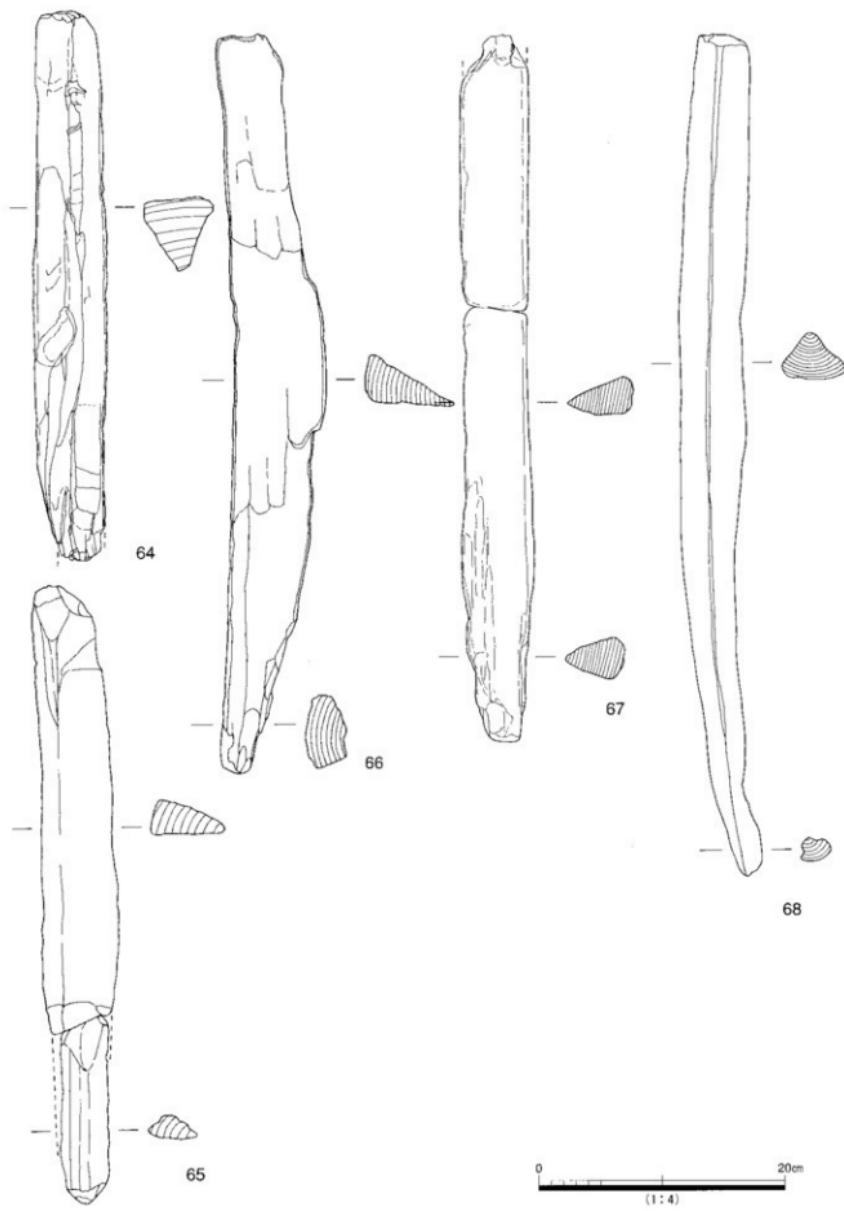
第32図 舟岡地区施設材 (16) 水場材 後期末～晩期前葉



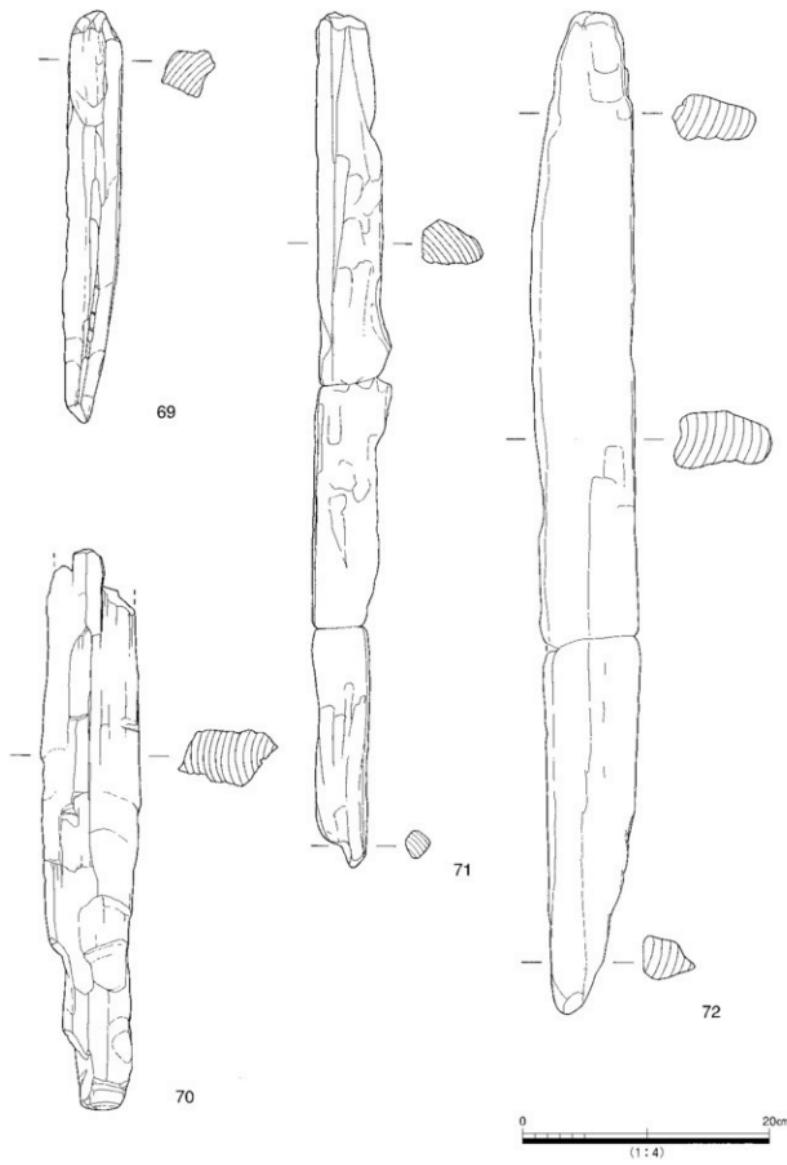
63



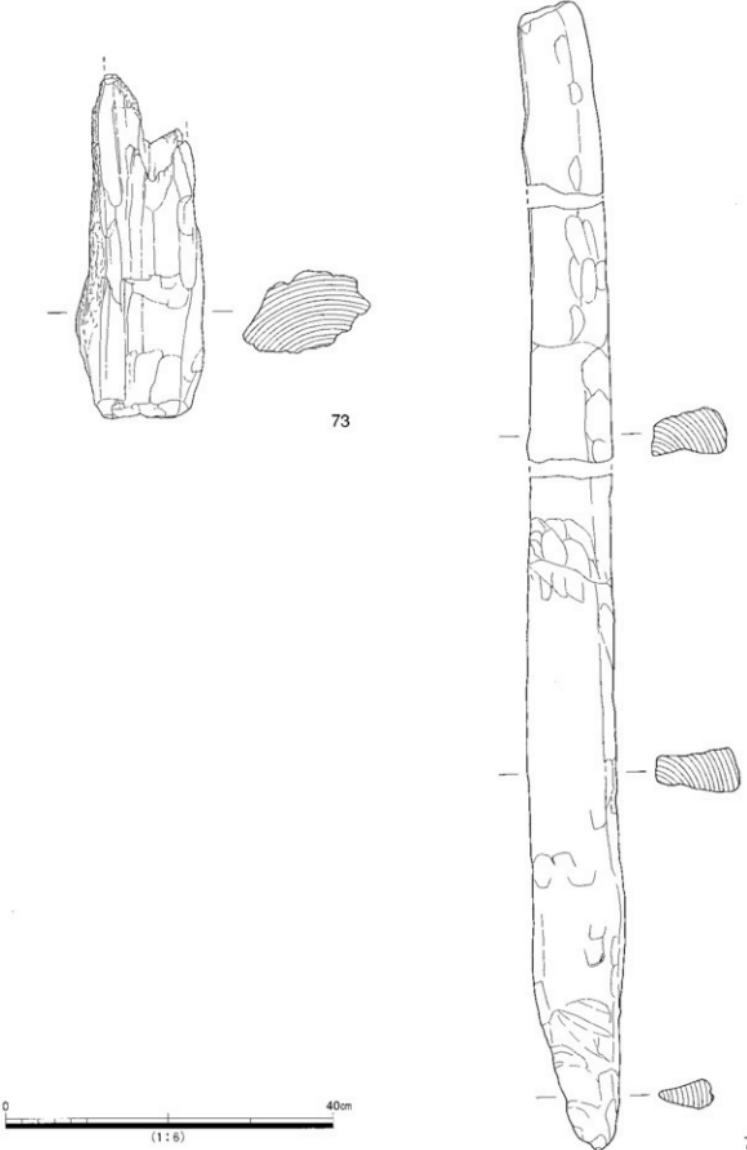
第33図 舟岡地区施設材 (17) 水場材 後期末～晩期前葉



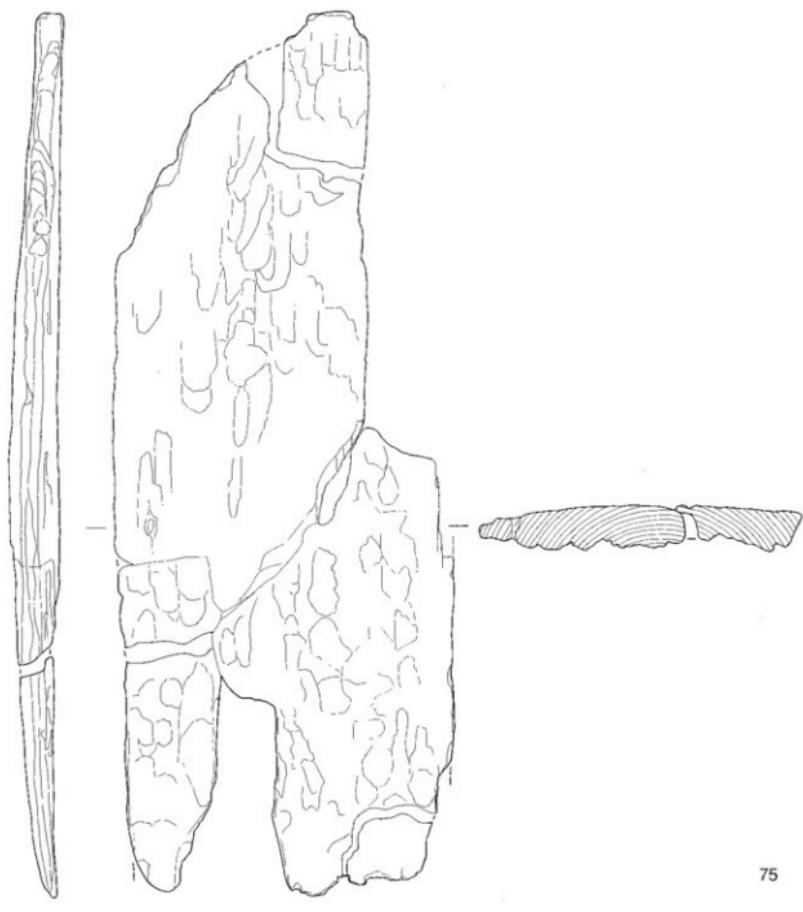
第34図 中出地区施設材 (18) 水場材 中期末～後期初頭



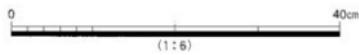
第35図 中出地区施設材 (19) 水場材 中期末～後期初頭



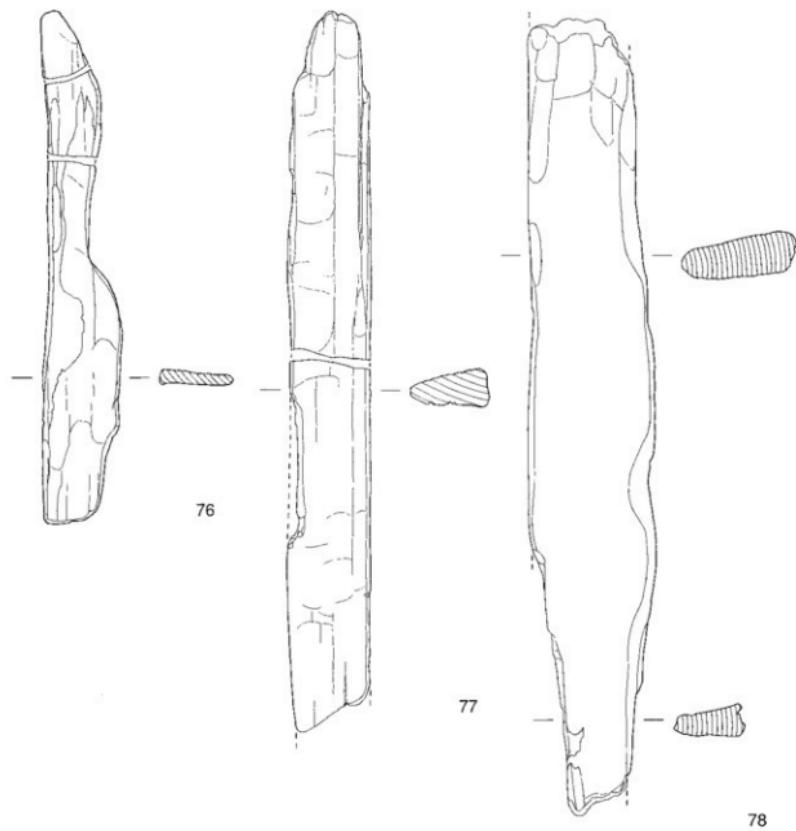
第36図 中出地区施設材 (20) 水場材 中期末～後期初頭



75

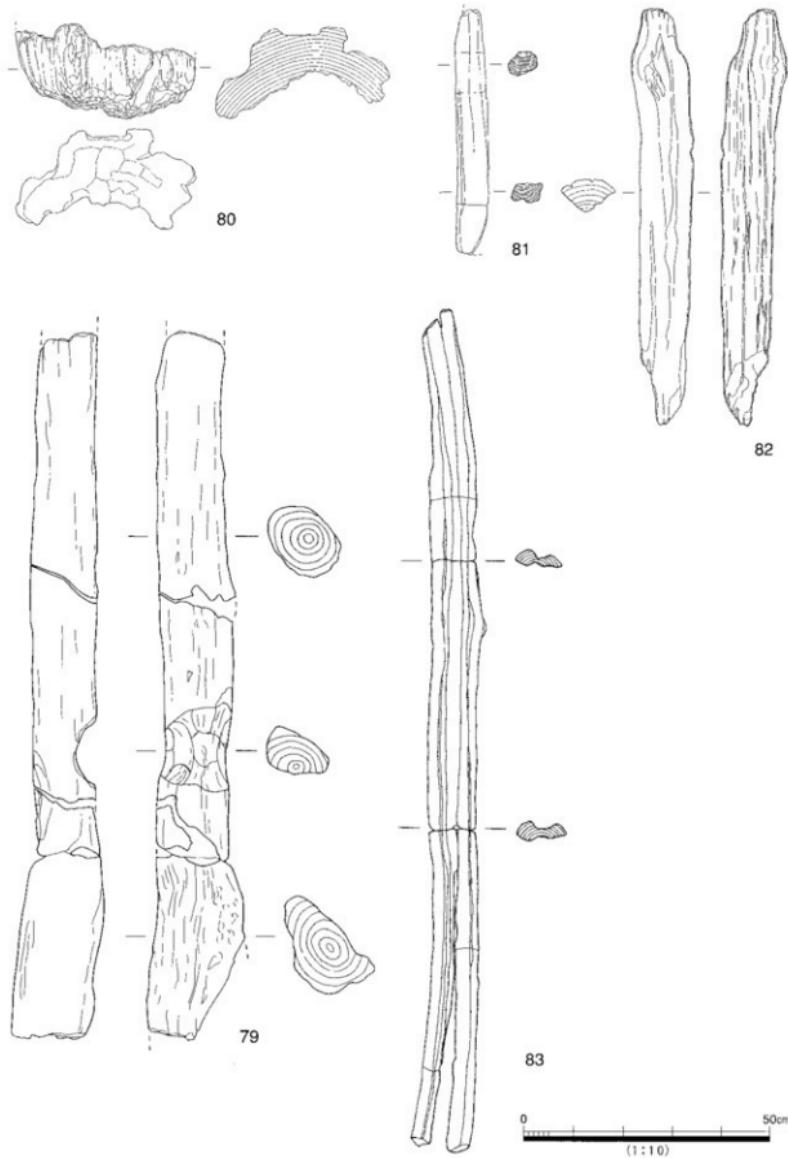


第37図 中出地区施設材 (21) 水場材 中期末～後期初頭

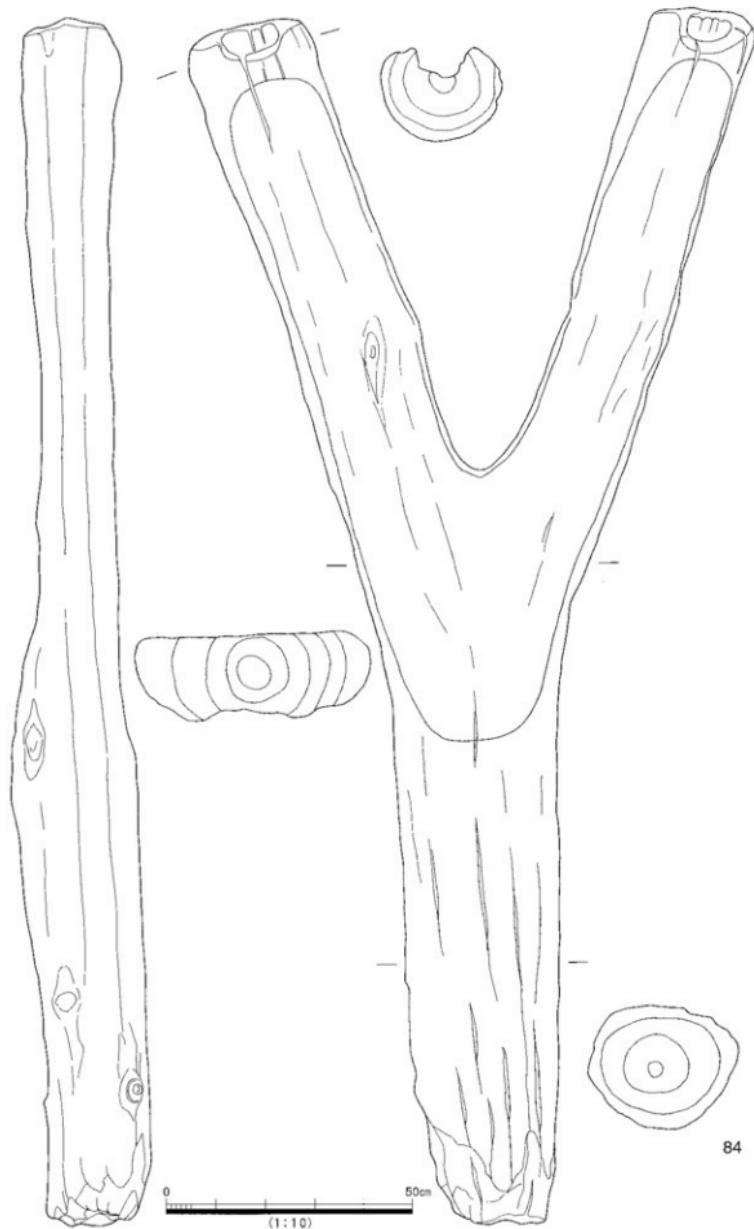


0 20cm
(1:4)

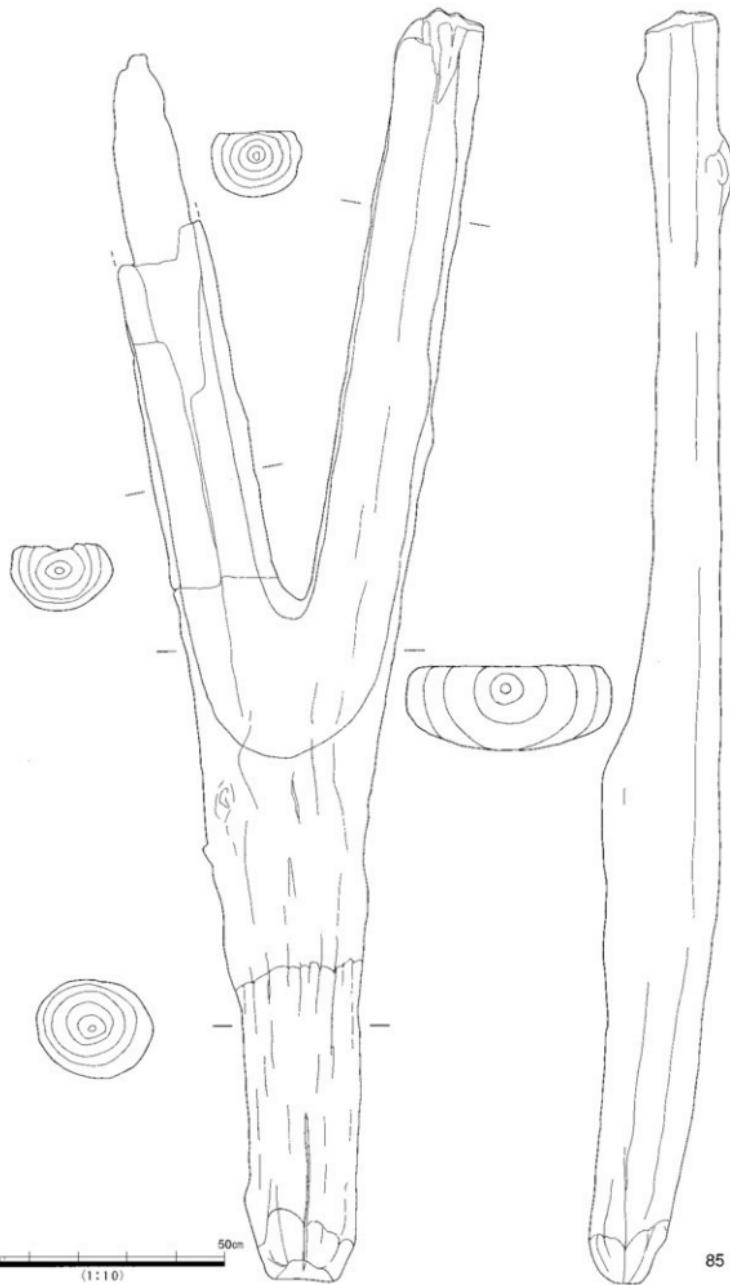
第38図 中出地区施設材 (22) 水場材 中期末～後期初頭



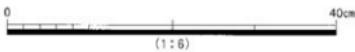
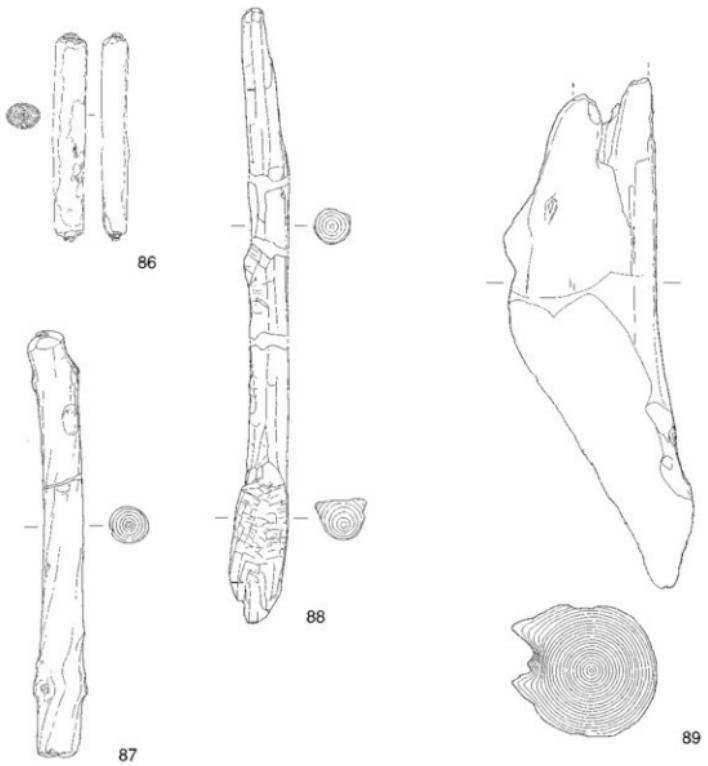
第39図 舟岡地区その他の加工材（1）丸木材・分割材 中期末以前



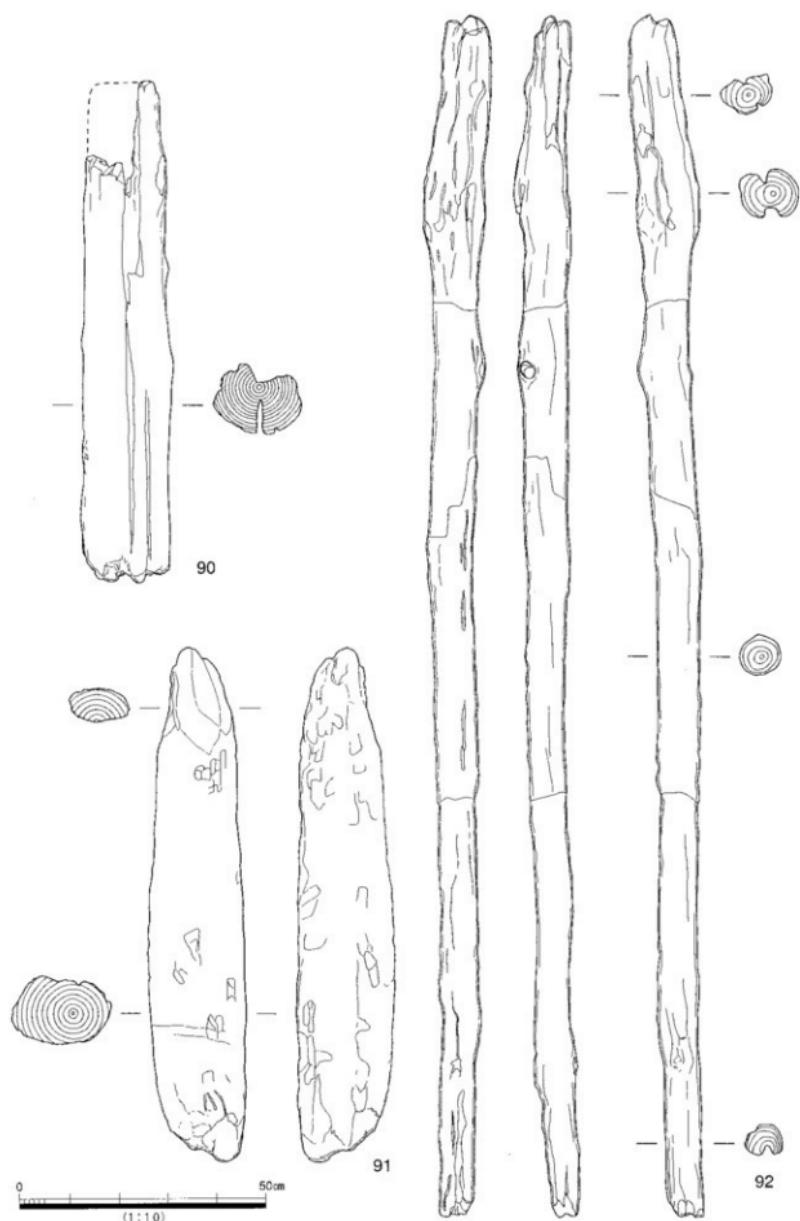
第40図 舟岡地区その他の加工材（2）丸木材 中期末～後期初頭



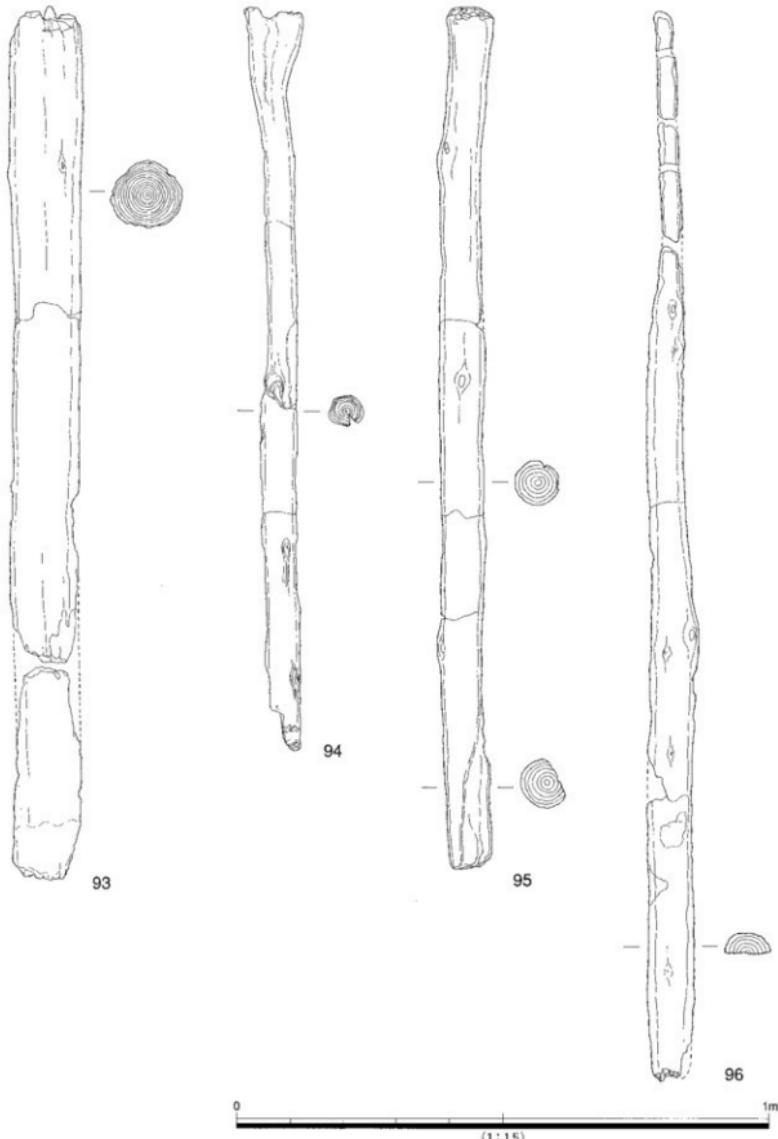
第41図 舟岡地区その他の加工材（3）丸木材 中期末～後期初頭



第42図 舟岡地区その他の加工材 (4) 丸木材 中期末～後期初頭



第43図 舟岡地区その他の加工材（5）丸木材 中期末～後期初頭



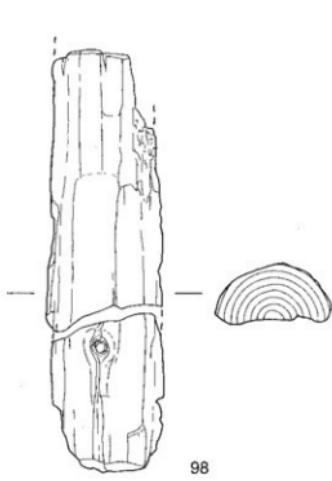
第44図 舟岡地区その他の加工材（6）丸木材・半割材 中期末～後期初頭



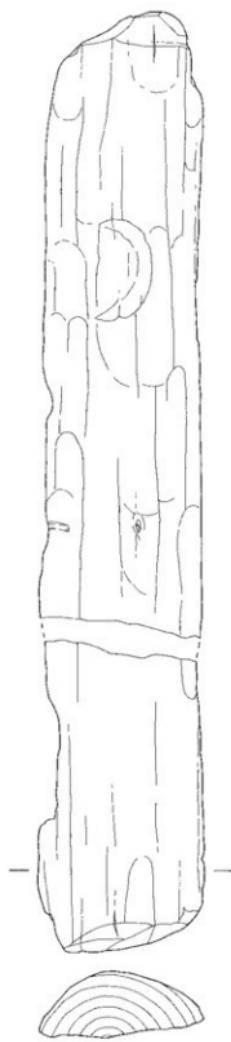
97



第45図 舟岡地区その他の加工材（7）半割材 中期末～後期初頭



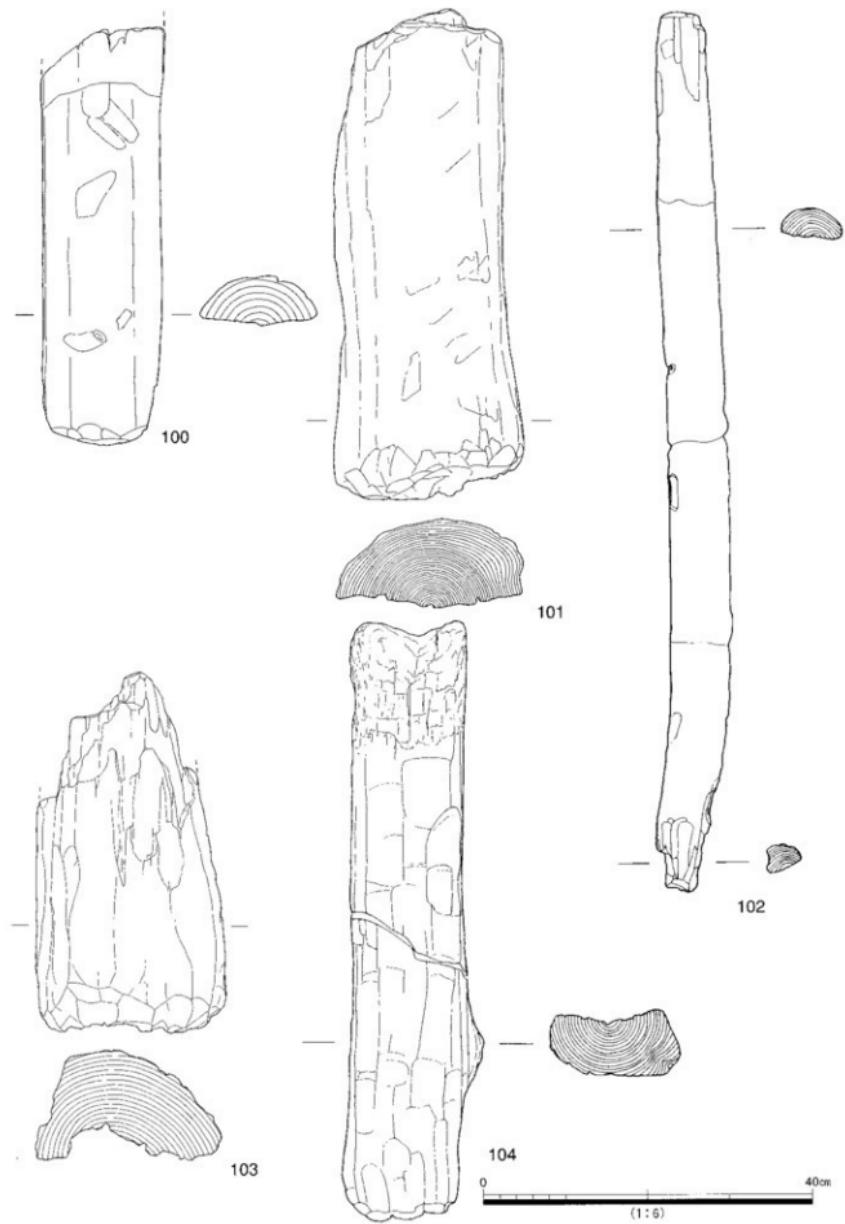
98



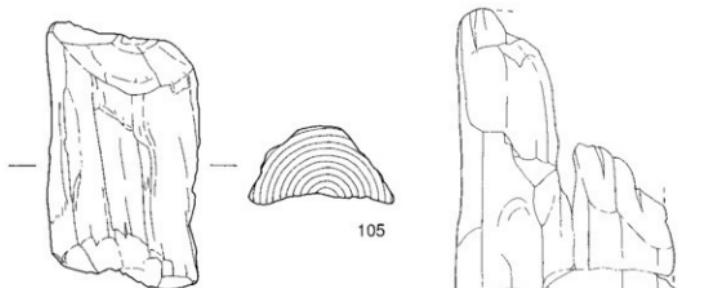
99



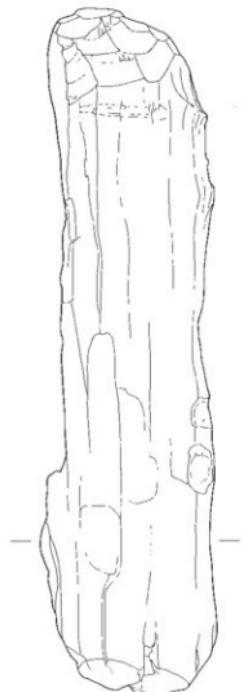
第46図 舟岡地区 その他の加工材 (8) 半割材 中期末～後期初頭



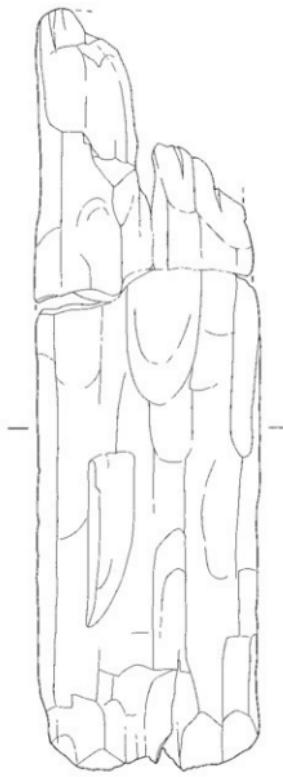
第47図 舟岡地区その他の加工材（9）半割材 中期末～後期初頭



105



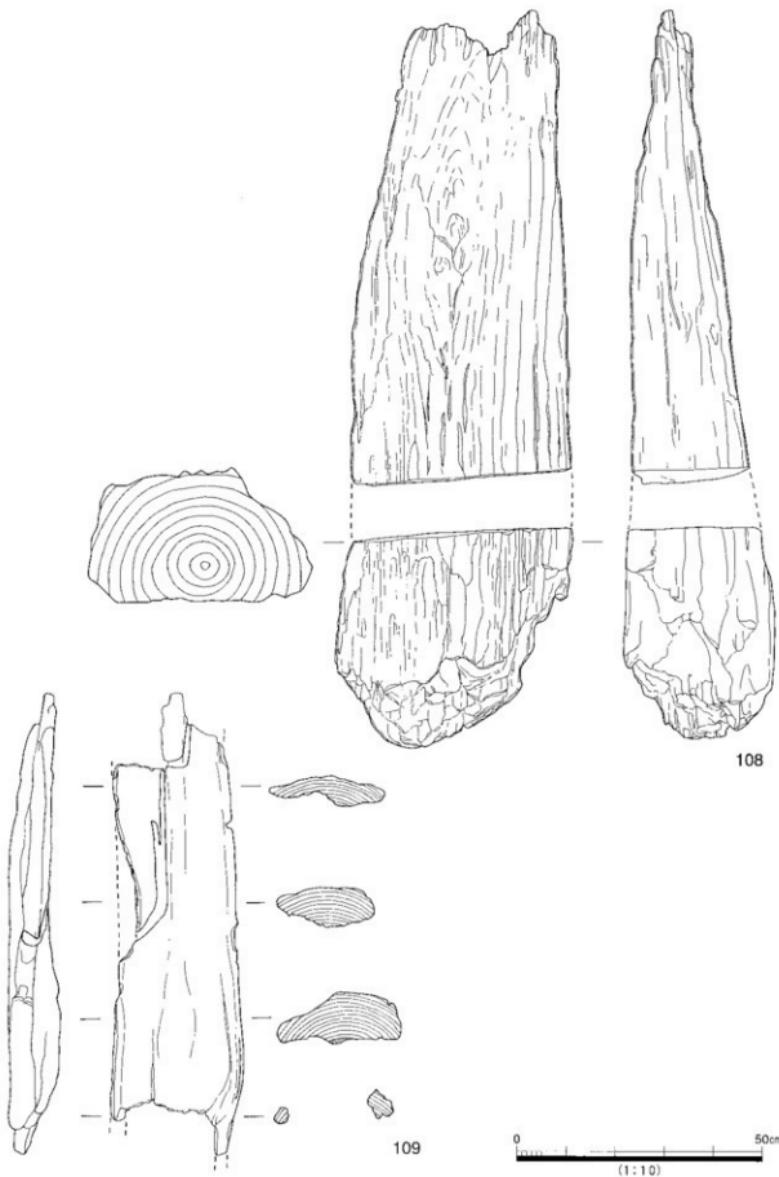
106



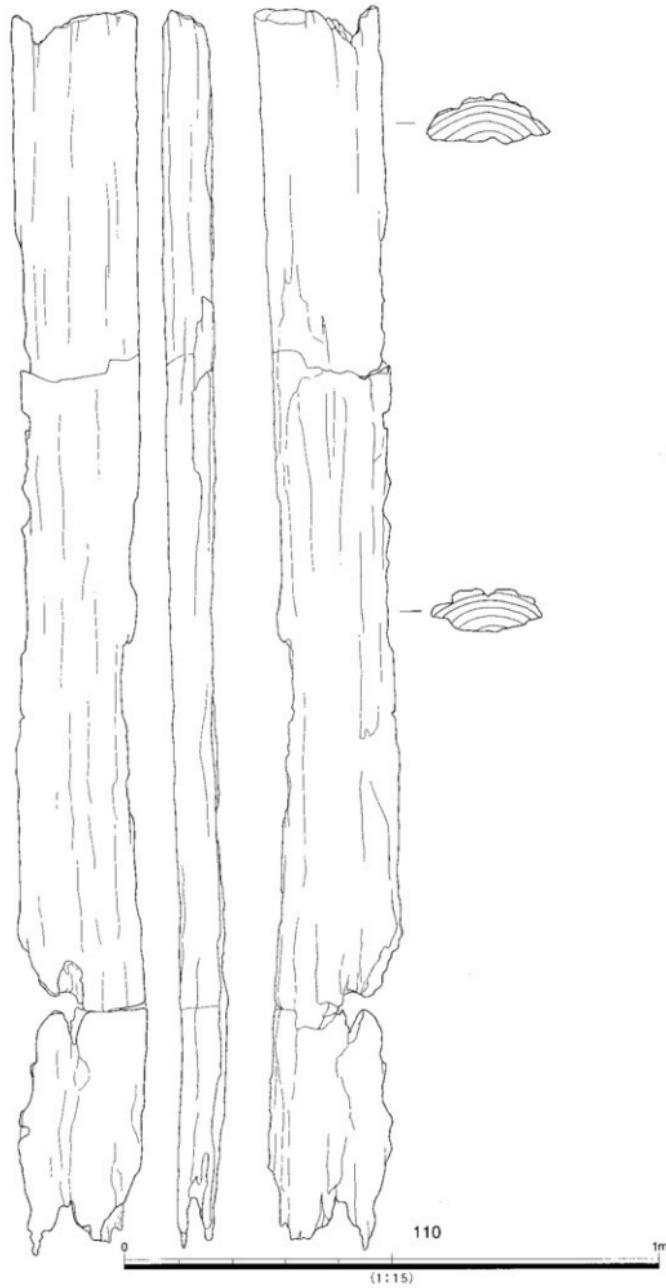
107



第48図 舟岡地区 その他の加工材 (10) 半割材 中期末～後期初頭



第49図 舟岡地区その他の加工材 (11) 半割材・分割材 中期末～後期初頭



第50図 舟岡地区その他の加工材 (12) 分割材 中期木～後期初頭



111

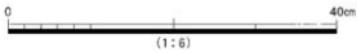
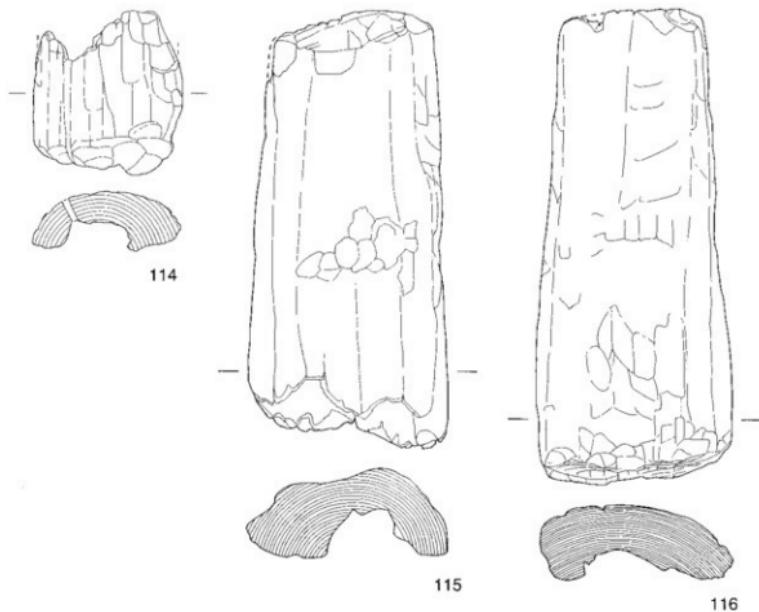


第51図 舟岡地区その他の加工材 (13) 分割材 中期末～後期初頭

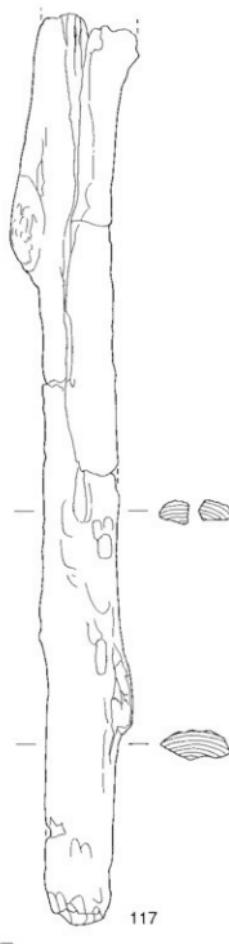


0 1m
(1:15)

第52図 舟岡地区 その他の加工材 (14) 分割材 中期末～後期初頭



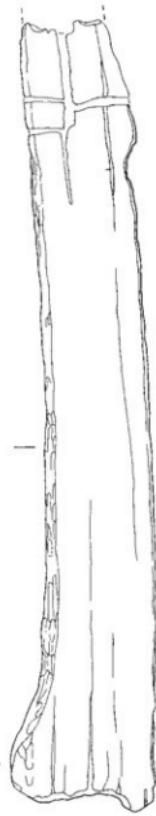
第53図 舟岡地区その他の加工材 (15) 分割材 中期末～後期初頭



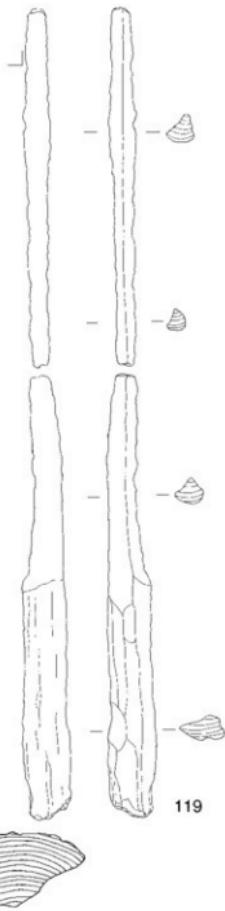
117



—

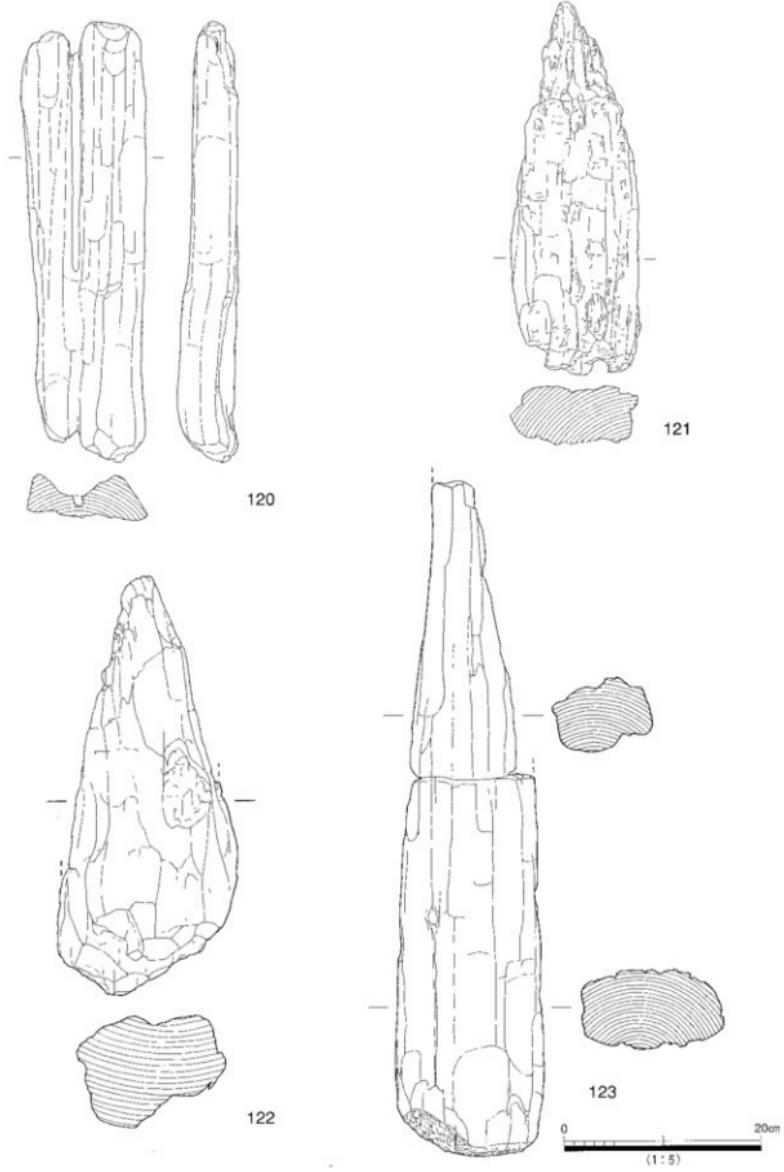


118

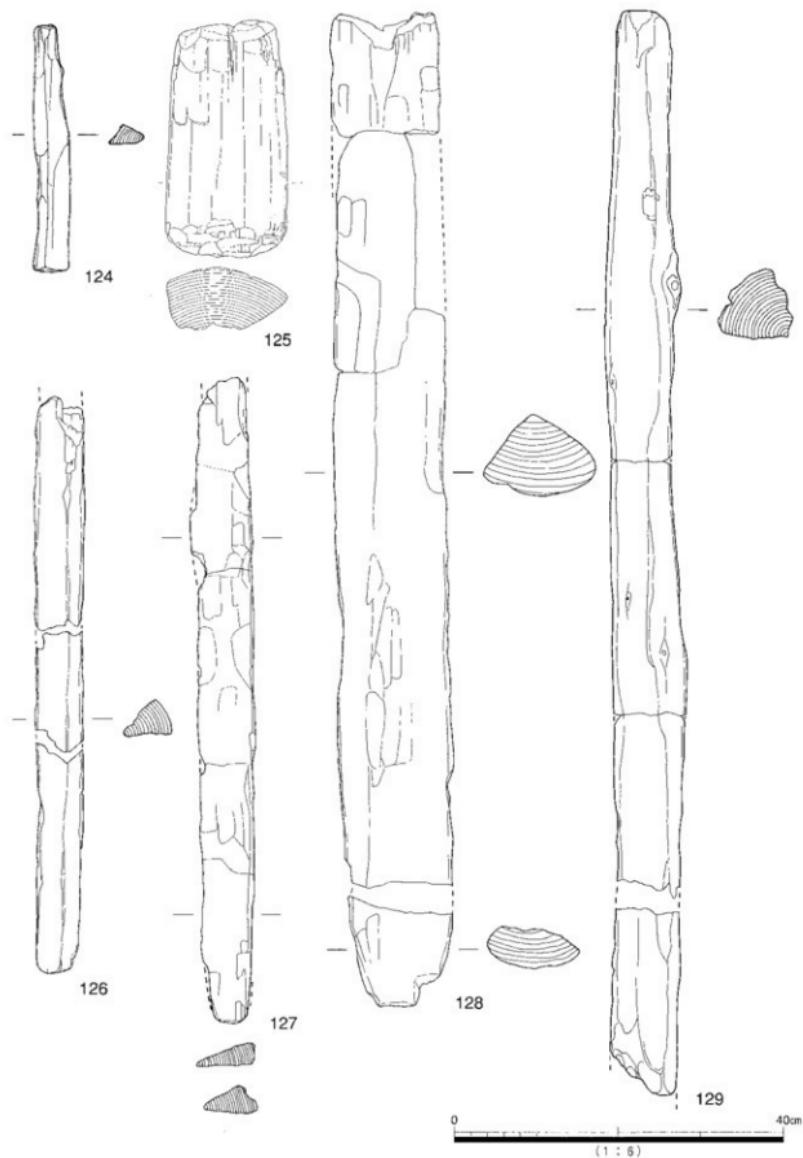
0
50cm
(1:10)

119

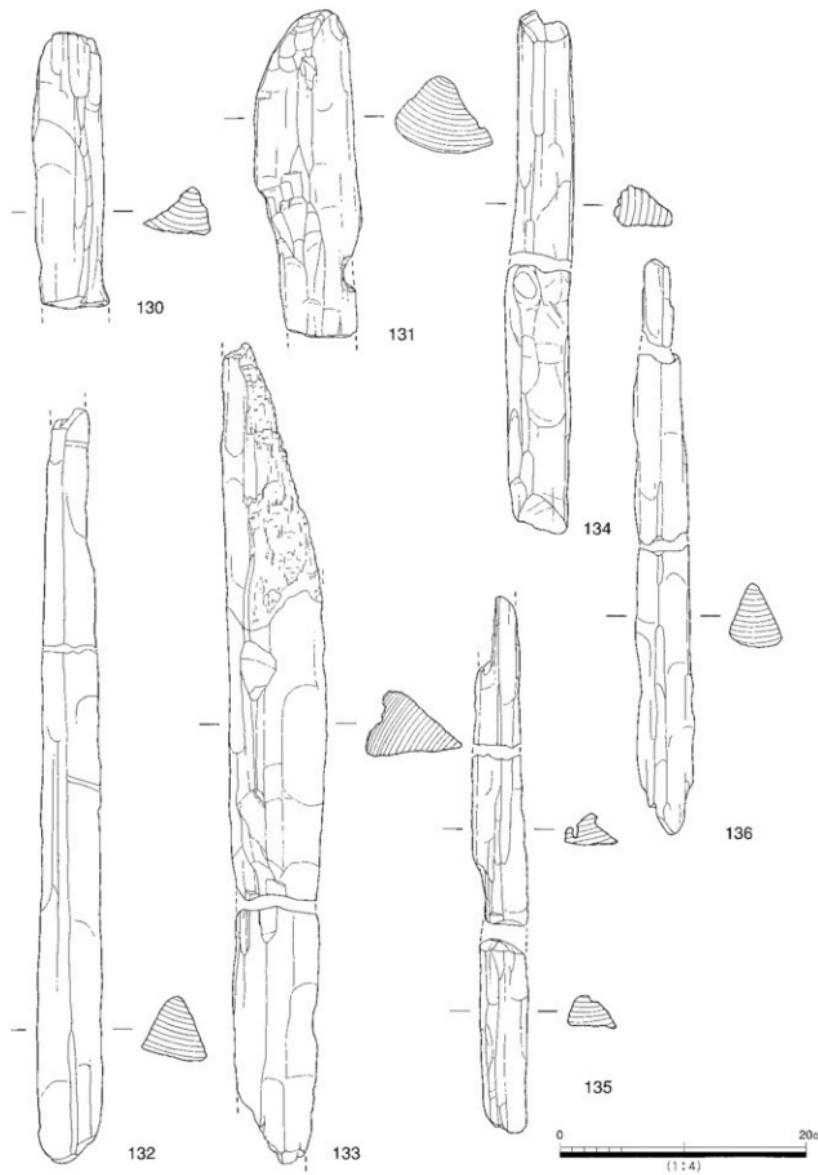
第54図 舟岡地区その他の加工材 (16) 分割材 中期末～後期初頭



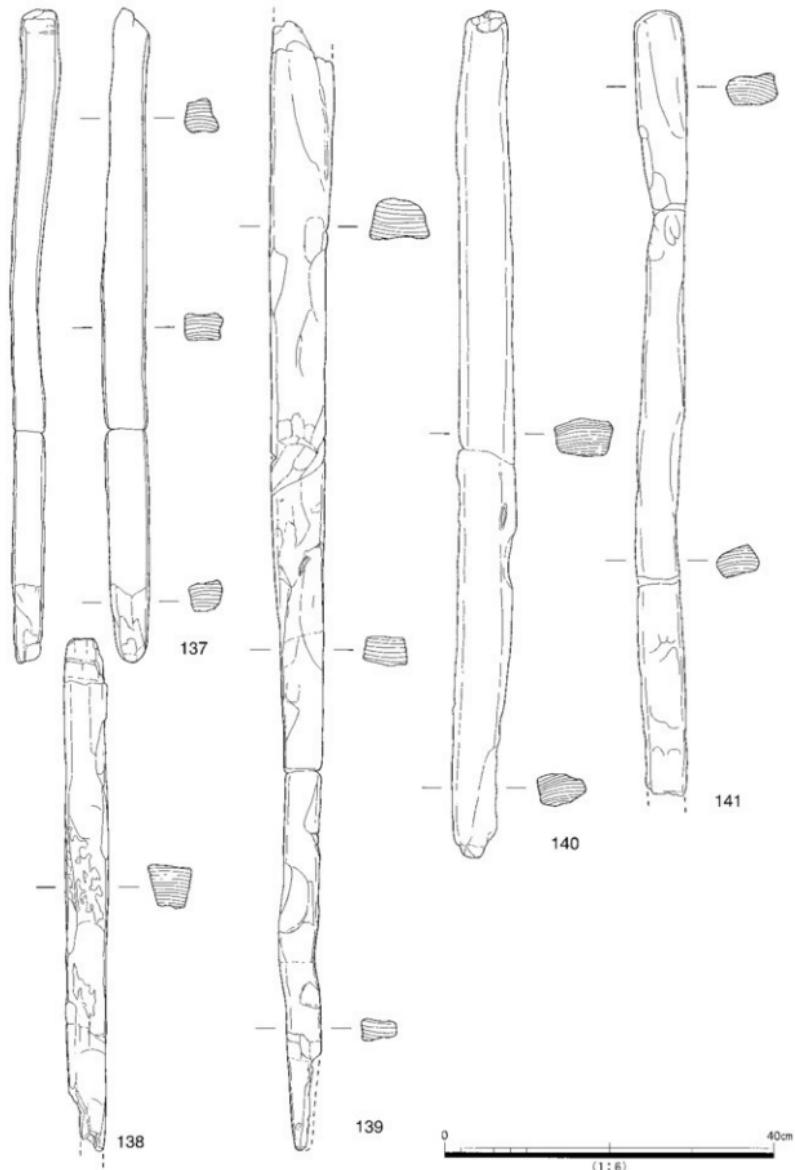
第55図 舟岡地区その他の加工材 (17) 分割材 中期末～後期初頭



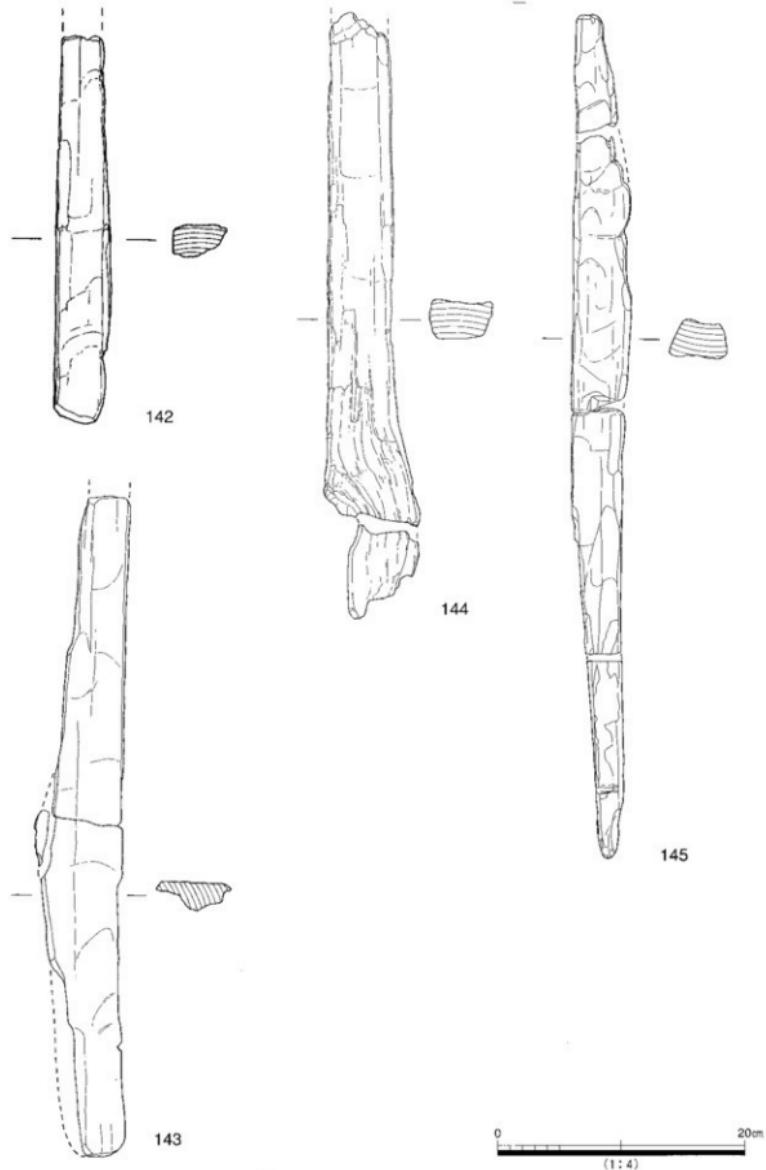
第56図 舟岡地区その他の加工材 (18) 分割材 中期末～後期初頭



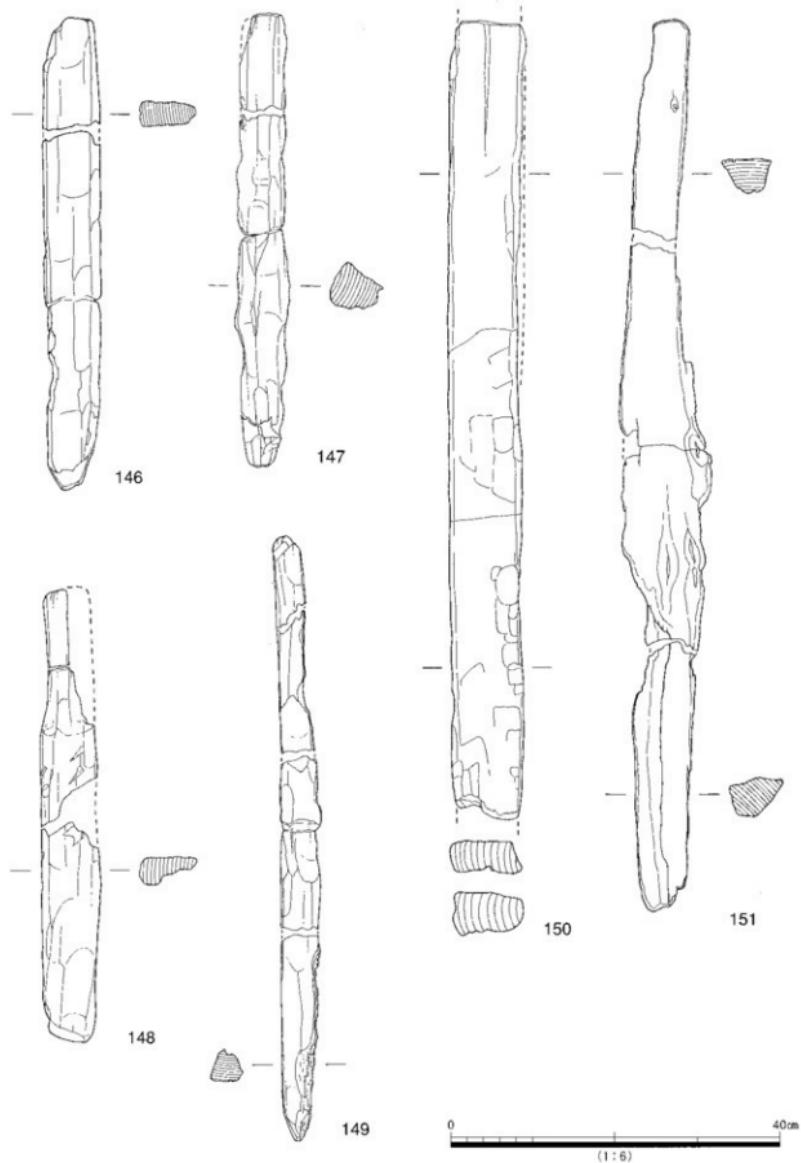
第57図 舟岡地区その他の加工材 (19) 分割材 中期末～後期初頭



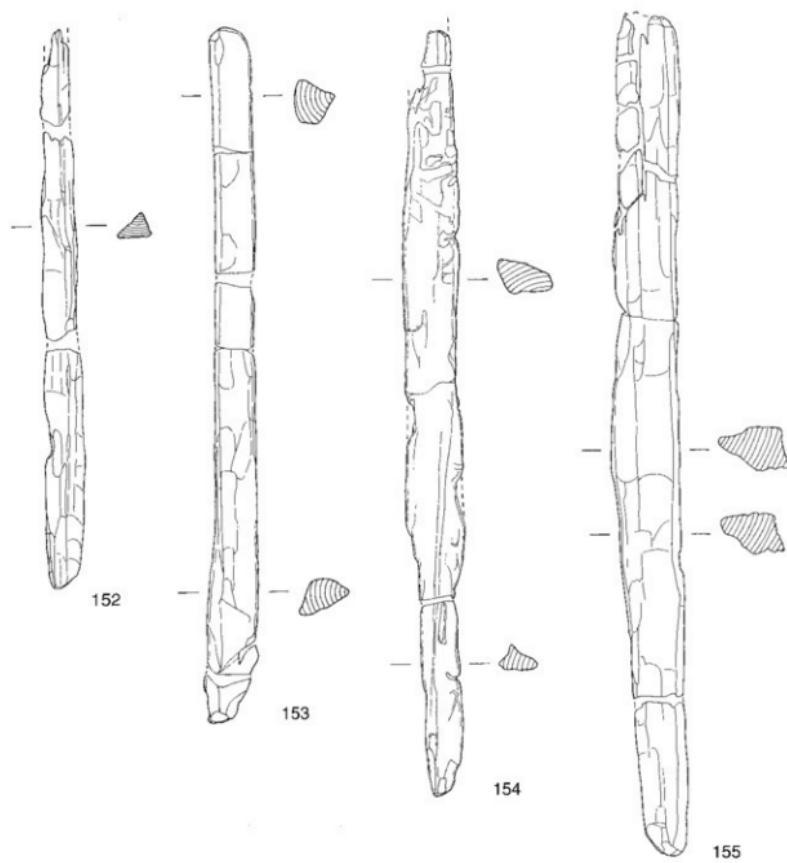
第58図 舟岡地区その他の加工材 (20) 分割材 中期末～後期初頭



第59図 舟岡地区その他の加工材 (21) 分割材 中期末～後期初頭

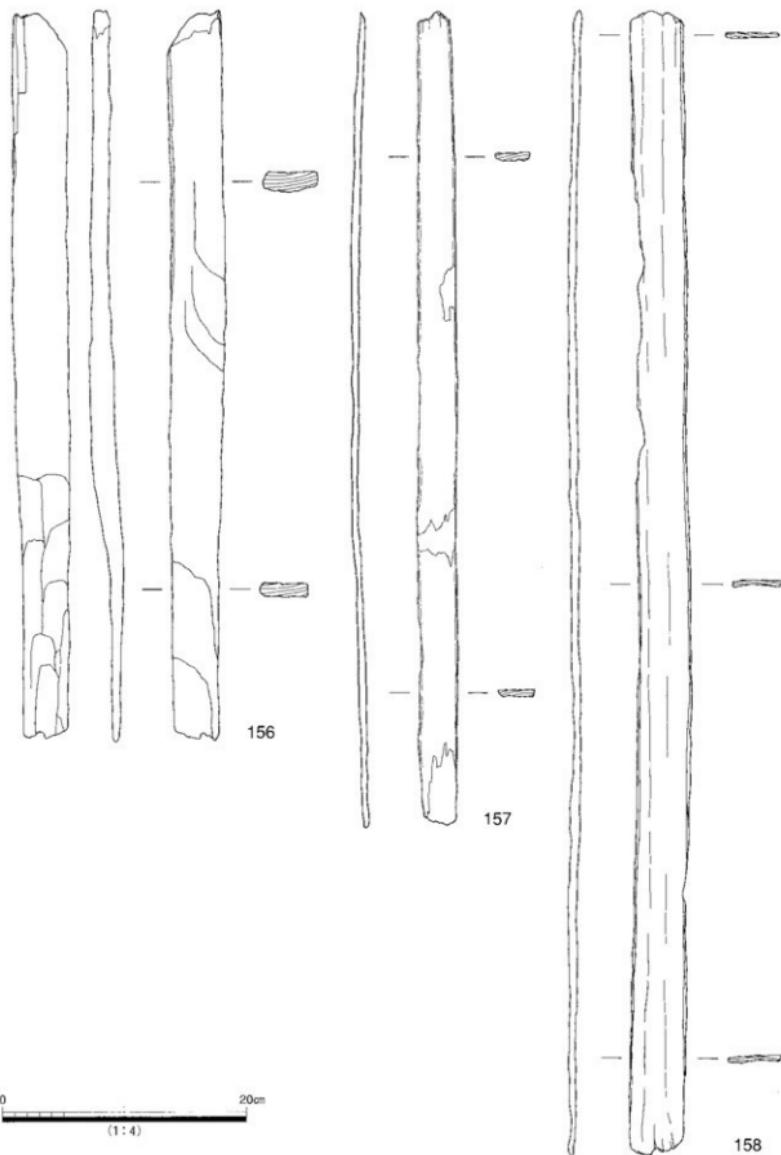


第60図 舟岡地区その他の加工材 (22) 分割材 中期末～後期初頭

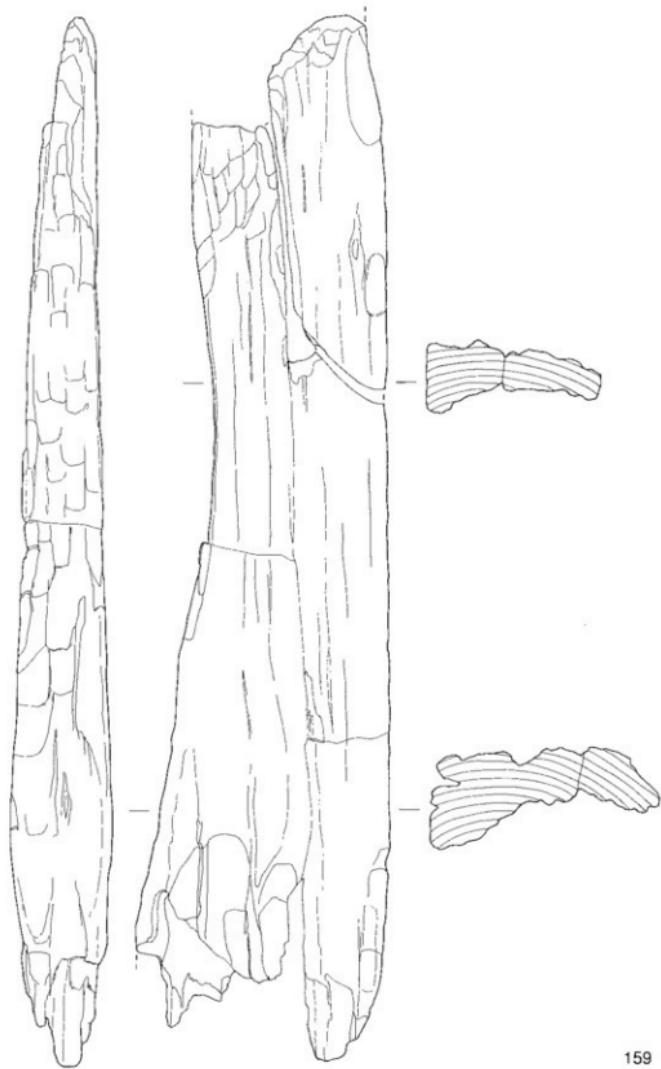


0 40cm
(1:6)

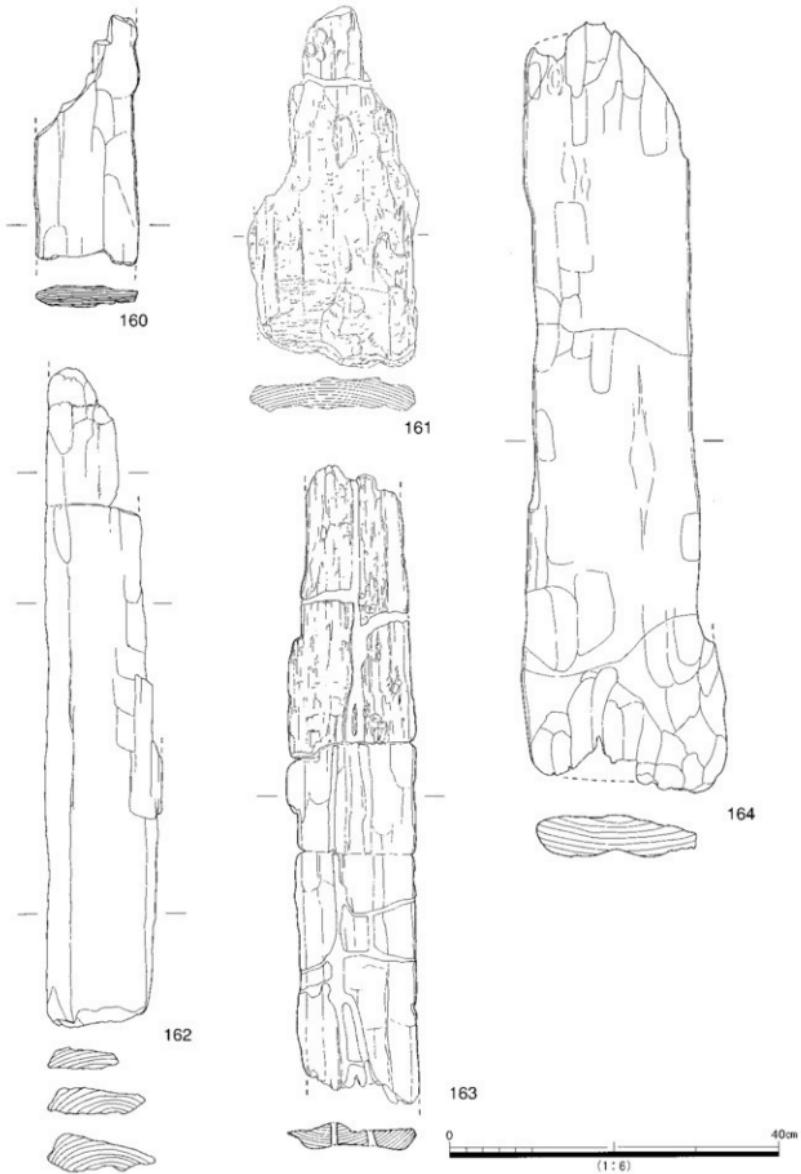
第61図 舟岡地区その他の加工材 (23) 分割材 中期末～後期初頭



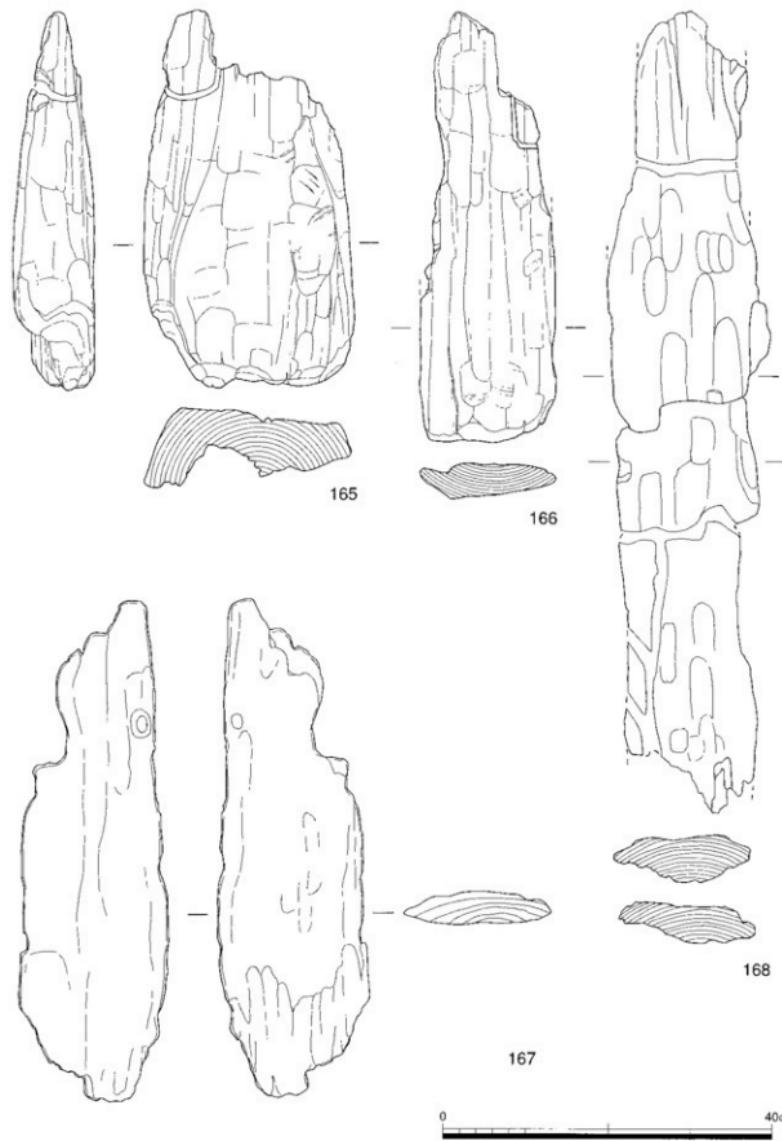
第62図 舟岡地区その他の加工材 (24) 板目板 中期末～後期初頭



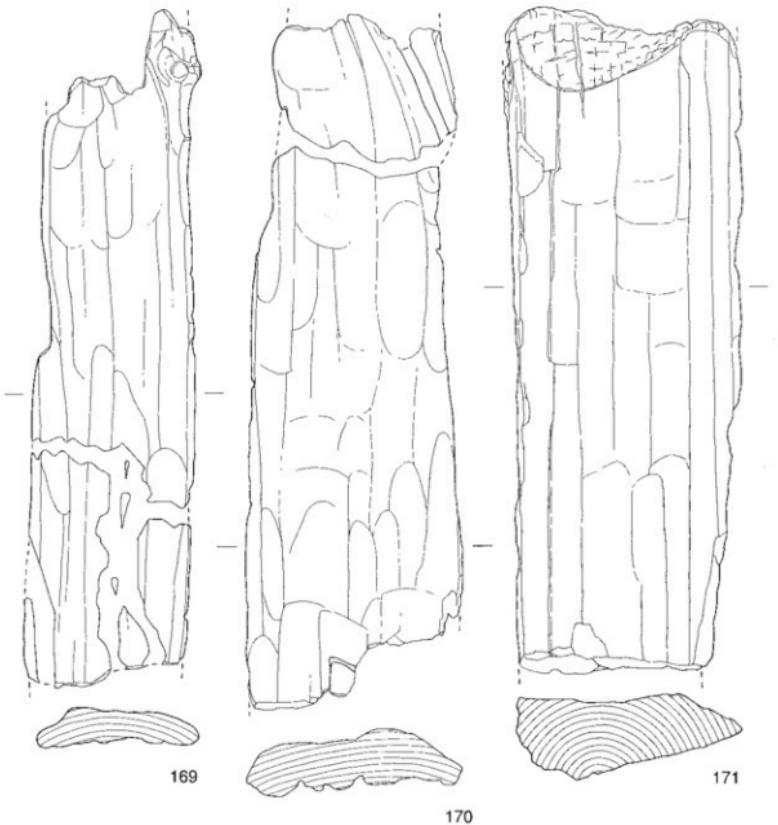
第63図 舟岡地区その他の加工材（25）板目板 中期末～後期初頭



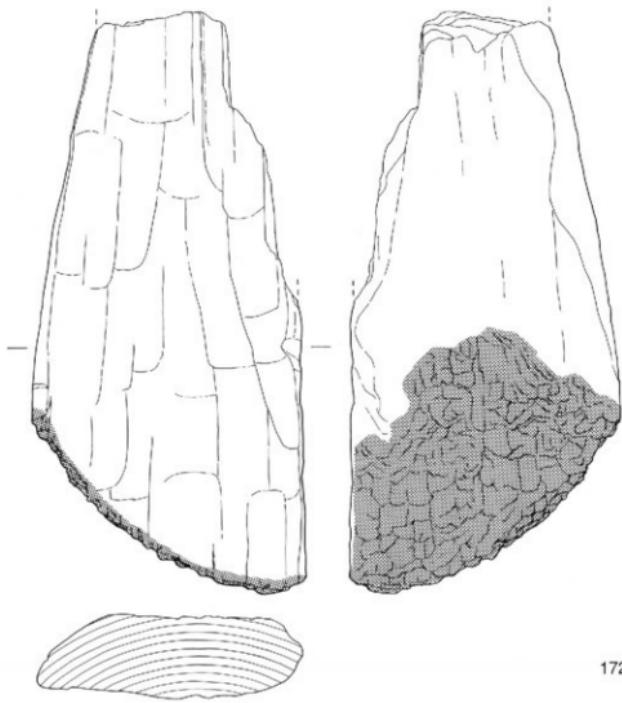
第64図 舟岡地区その他の加工材 (26) 板目板 中期末～後期初頭



第65図 舟岡地区その他の加工材 (27) 板目板 中期末～後期初頭



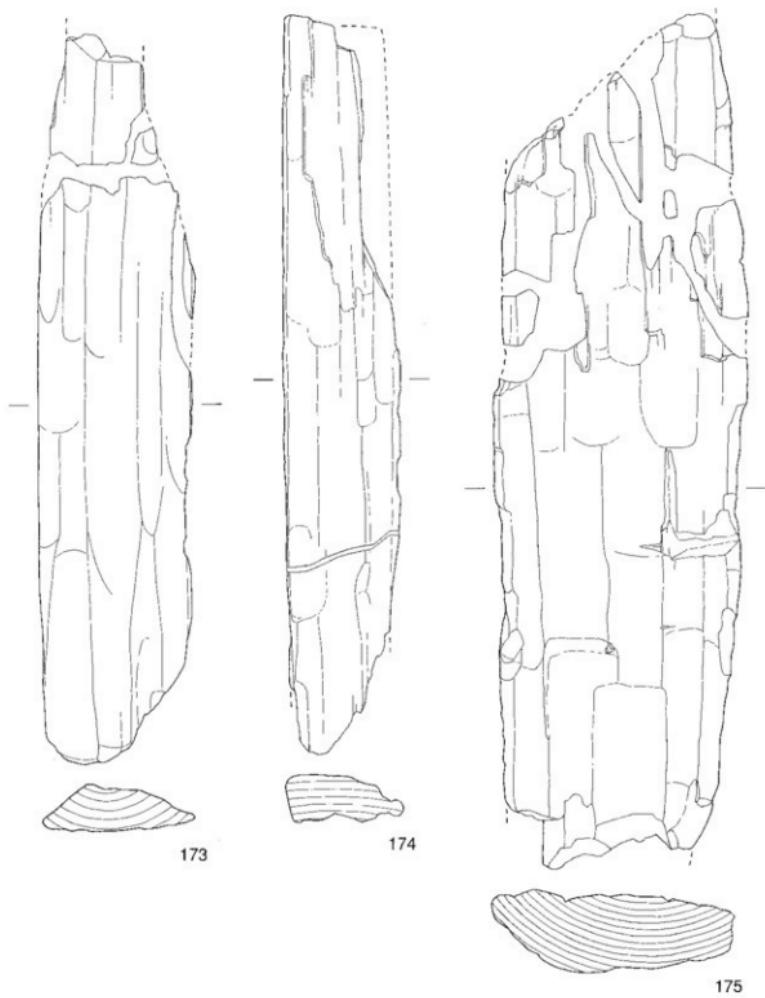
第66図 舟岡地区その他の加工材 (28) 板目板 中期末～後期初頭



172

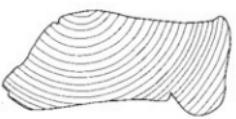


第67図 舟岡地区 その他の加工材 (29) 板目板 中期末～後期初頭

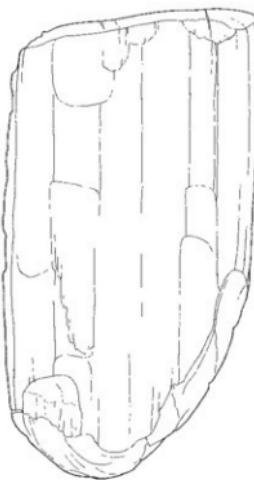


0 20cm
(1:3)

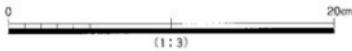
第68図 舟岡地区その他の加工材 (30) 板目板 中期末～後期初頭



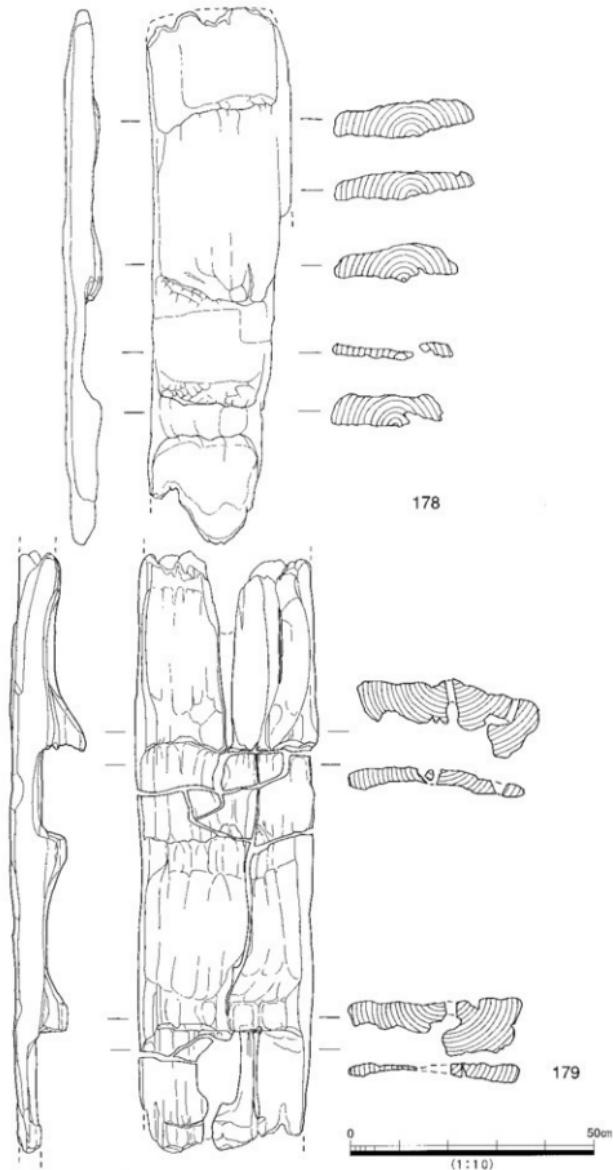
176



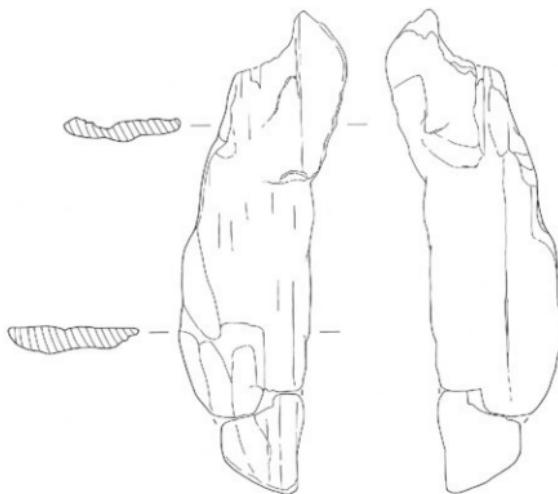
177



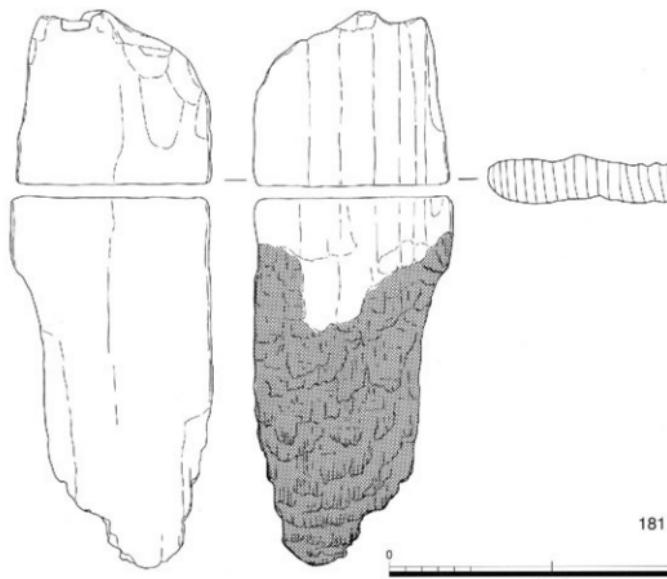
第69図 舟岡地区その他の加工材 (31) 板目板 中期末～後期初頭



第70図 舟岡地区その他の加工材 (32) 柱目板 中期末～後期初頭

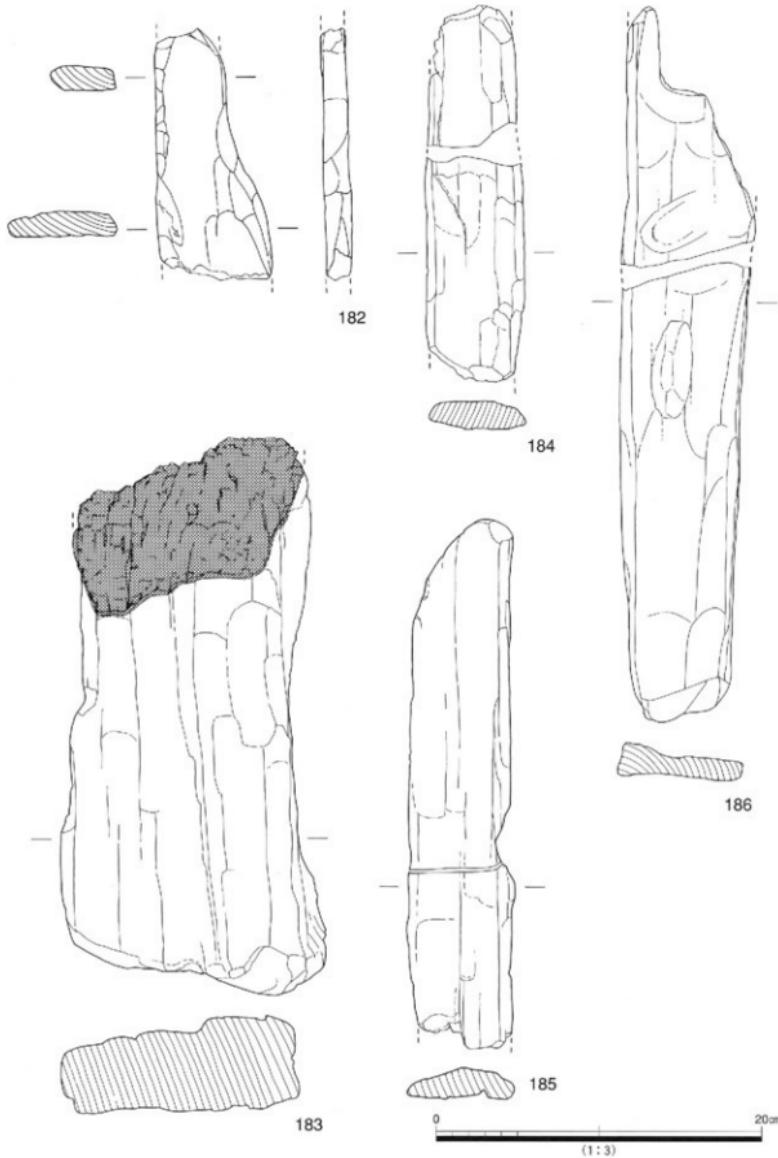


180

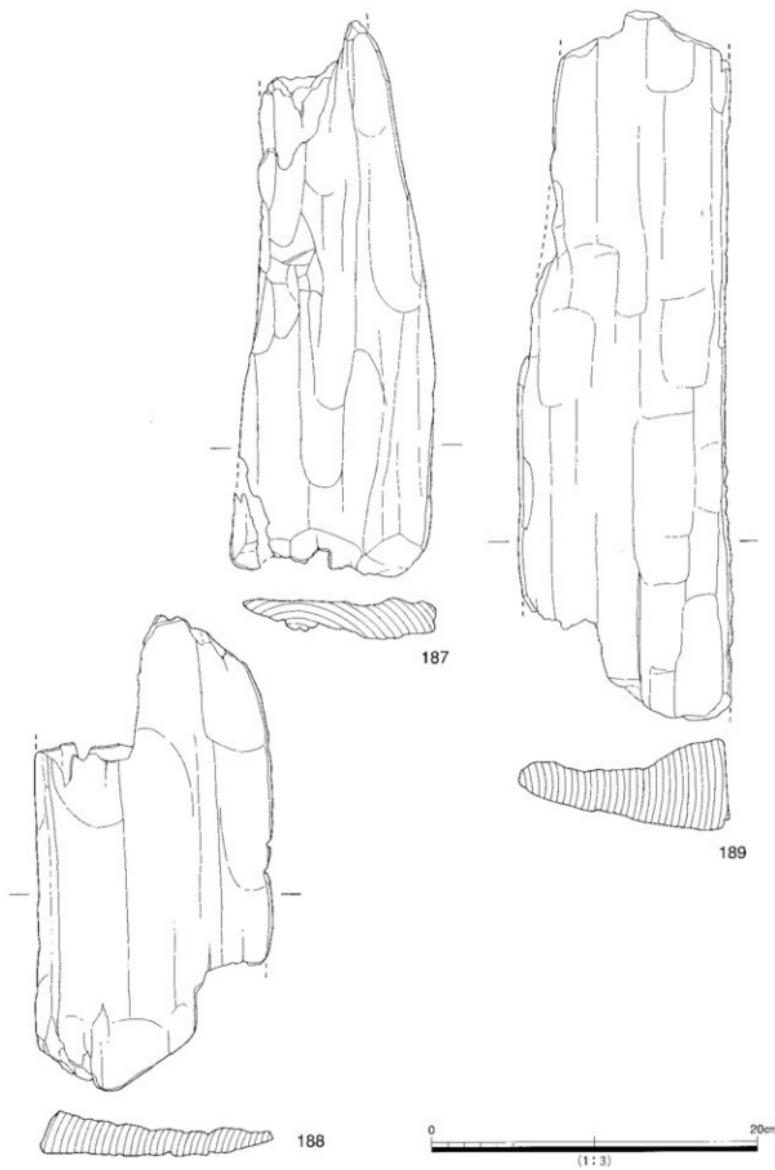


181

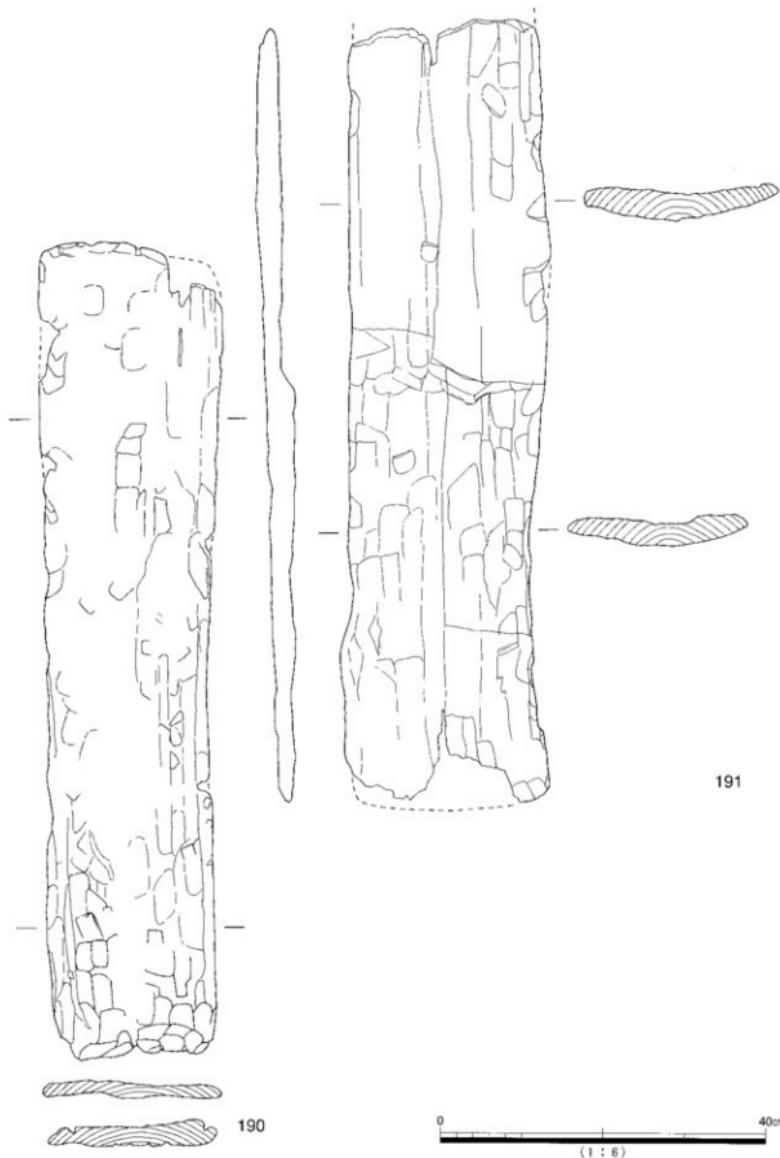
第71図 舟岡地区その他の加工材 (33) 柱目板 中期末～後期初頭



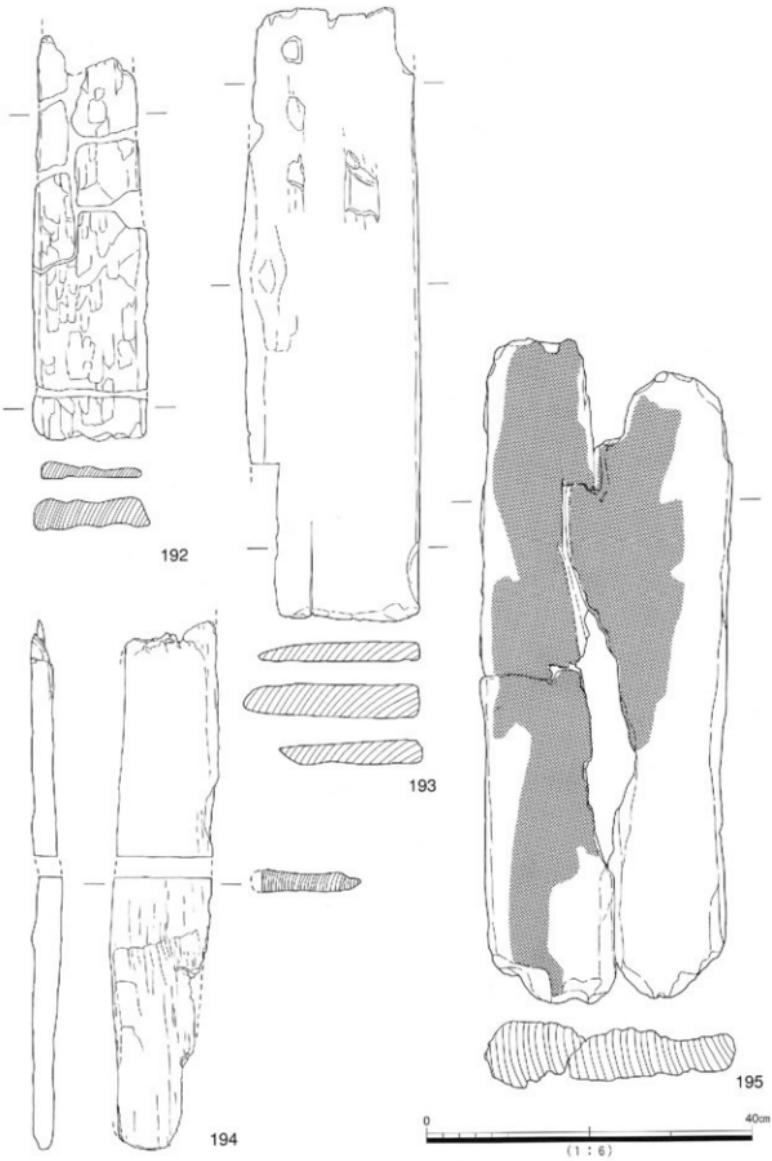
第72図 舟岡地区その他の加工材 (34) 標目板 中期末～後期初頭



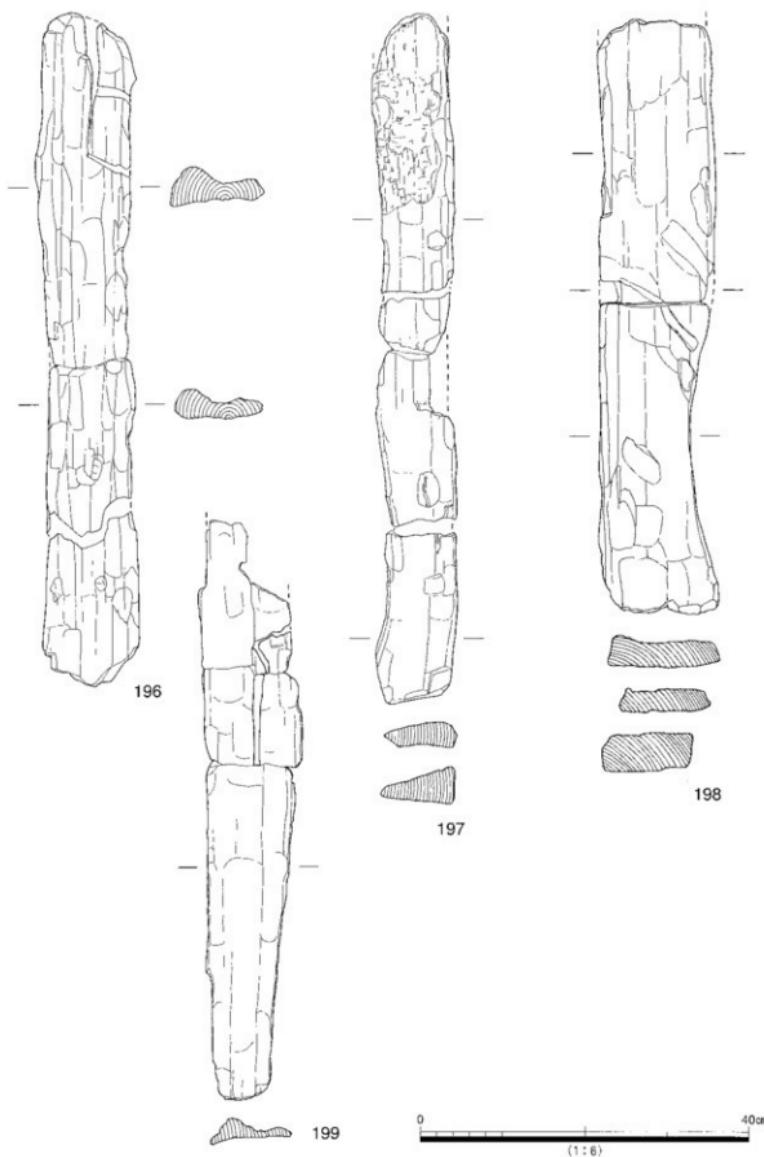
第73図 舟岡地区その他の加工材 (35) 桟目板 中期末～後期初頭



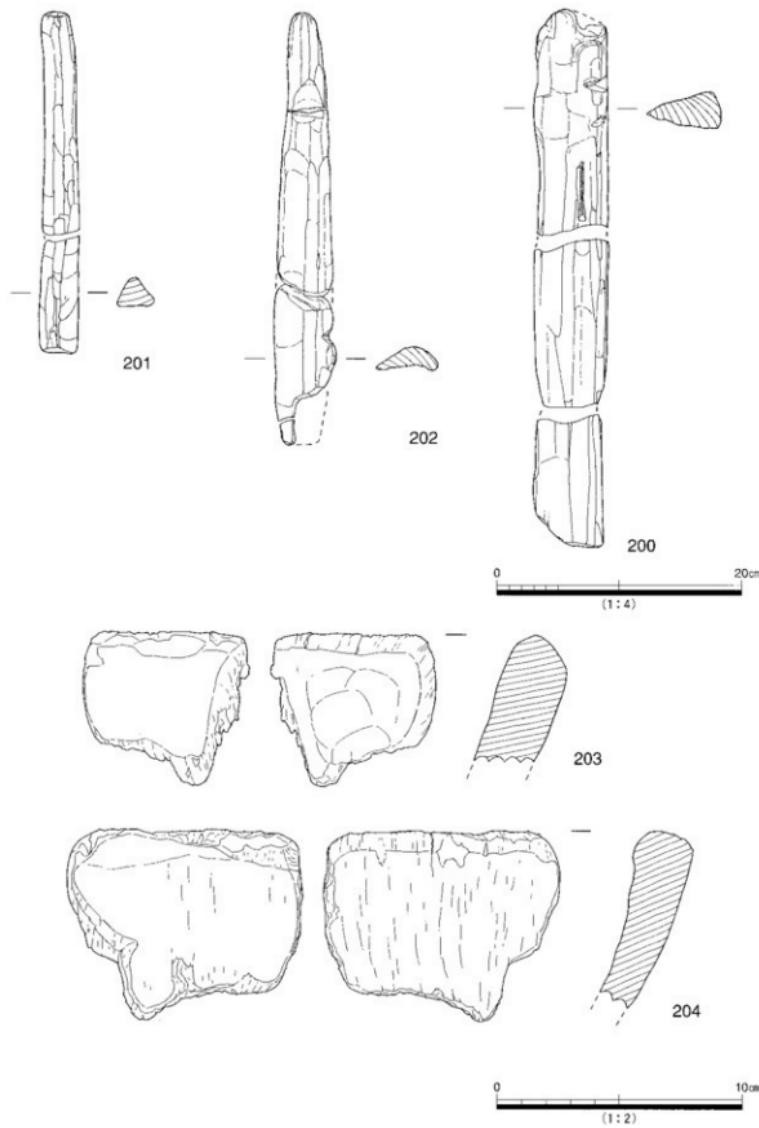
第74図 舟岡地区 その他の加工材 (36) 横目板 中期末～後期初頭



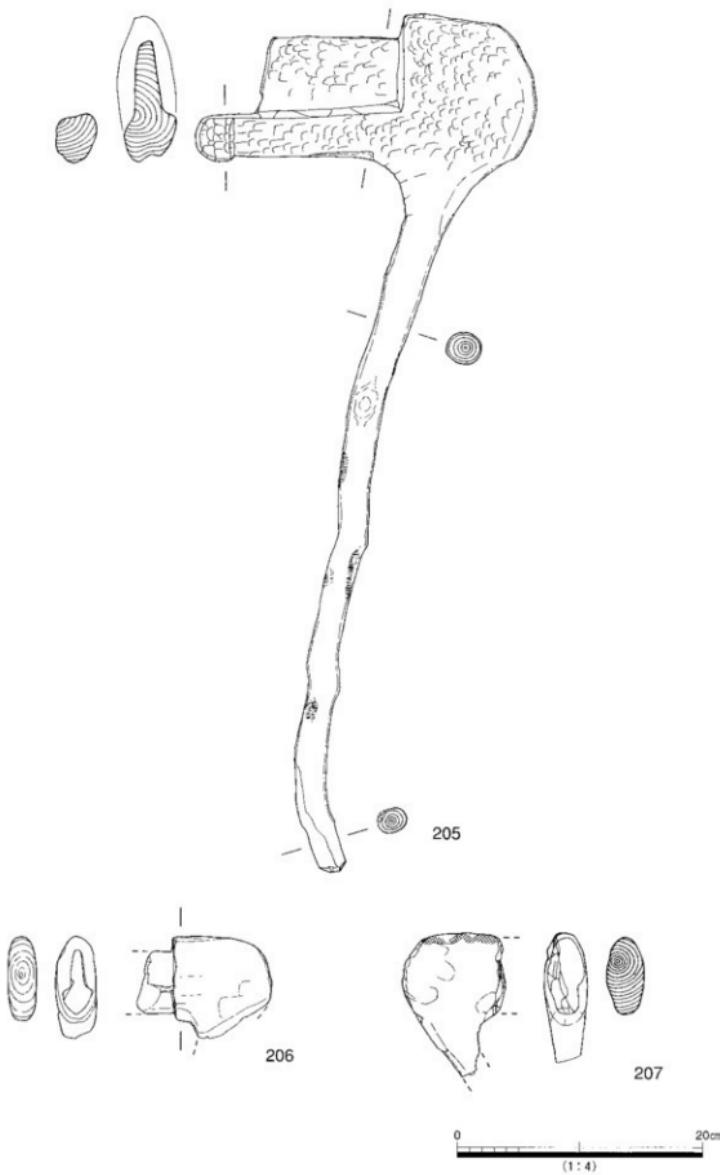
第75図 舟岡地区その他の加工材 (37) 柱目板 中期末～後期初頭



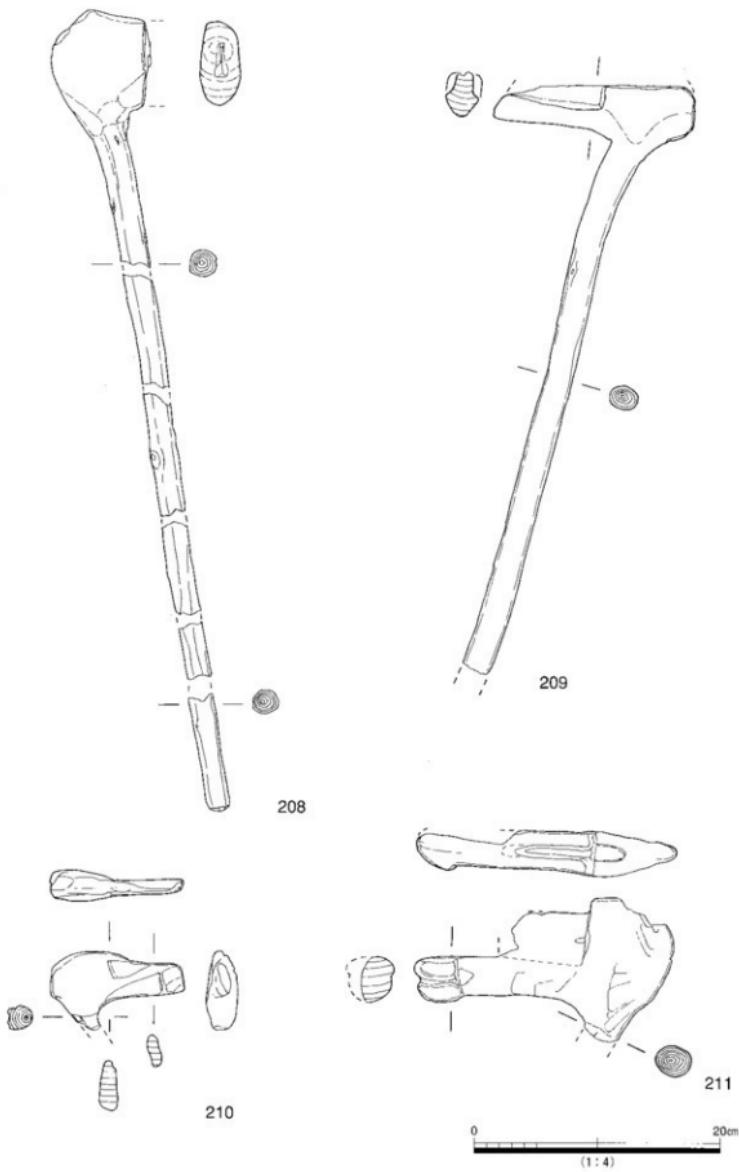
第76図 舟岡地区その他の加工材（38）柾目板 中期末～後期初頭



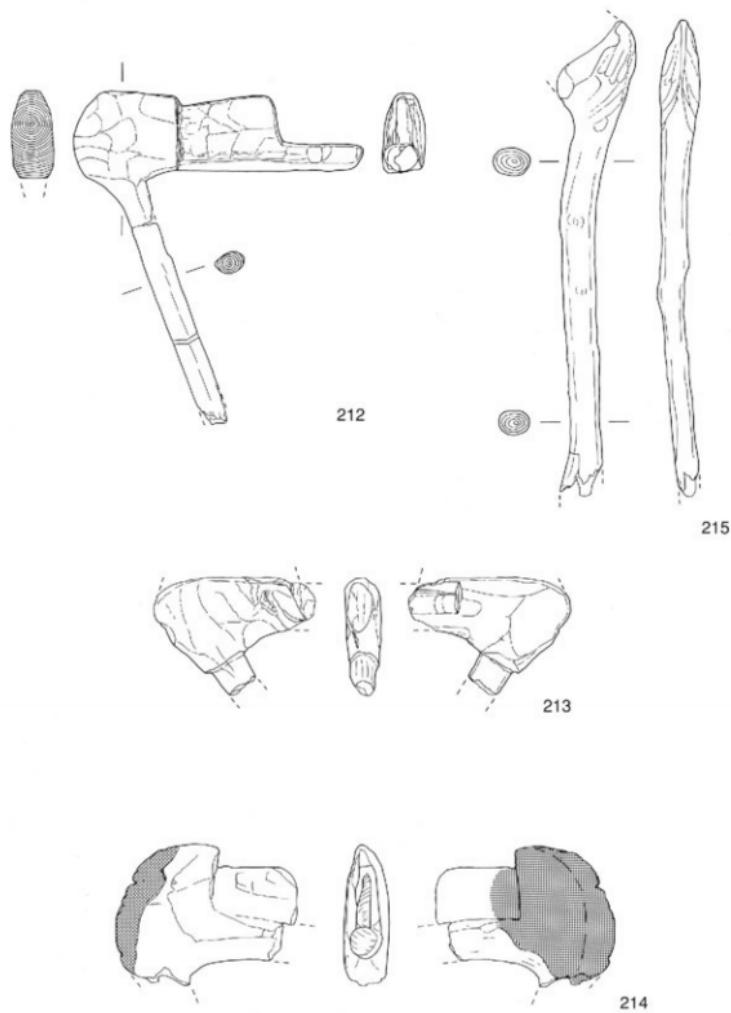
第77図 中出地区 その他の加工材 (39) 分割材 中期末～後期初頭、
舟岡地区器具材 (1) 剥りもの 中期末以前 (下図)



第78図 舟岡地区器具材（2）石斧柄 中期末～後期初頭

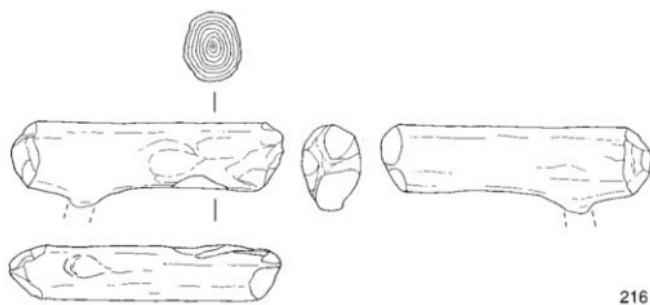


第79図 舟岡地区器具材（3）石斧柄 中期末～後期初頭

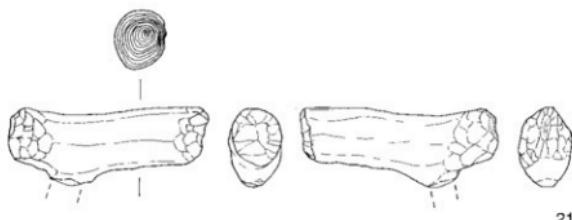


0 20cm
(1:4)

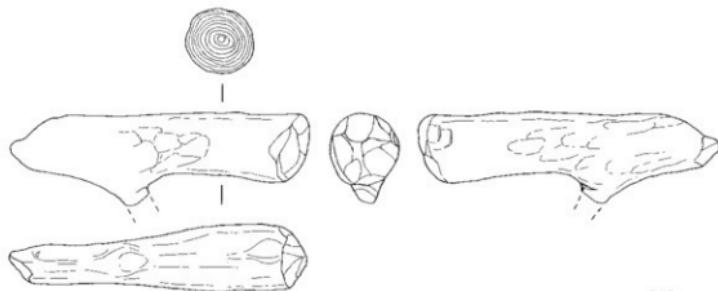
第80図 舟岡地区器具材 (4) 石斧柄 中期末～後期初頭



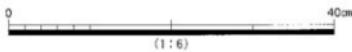
216



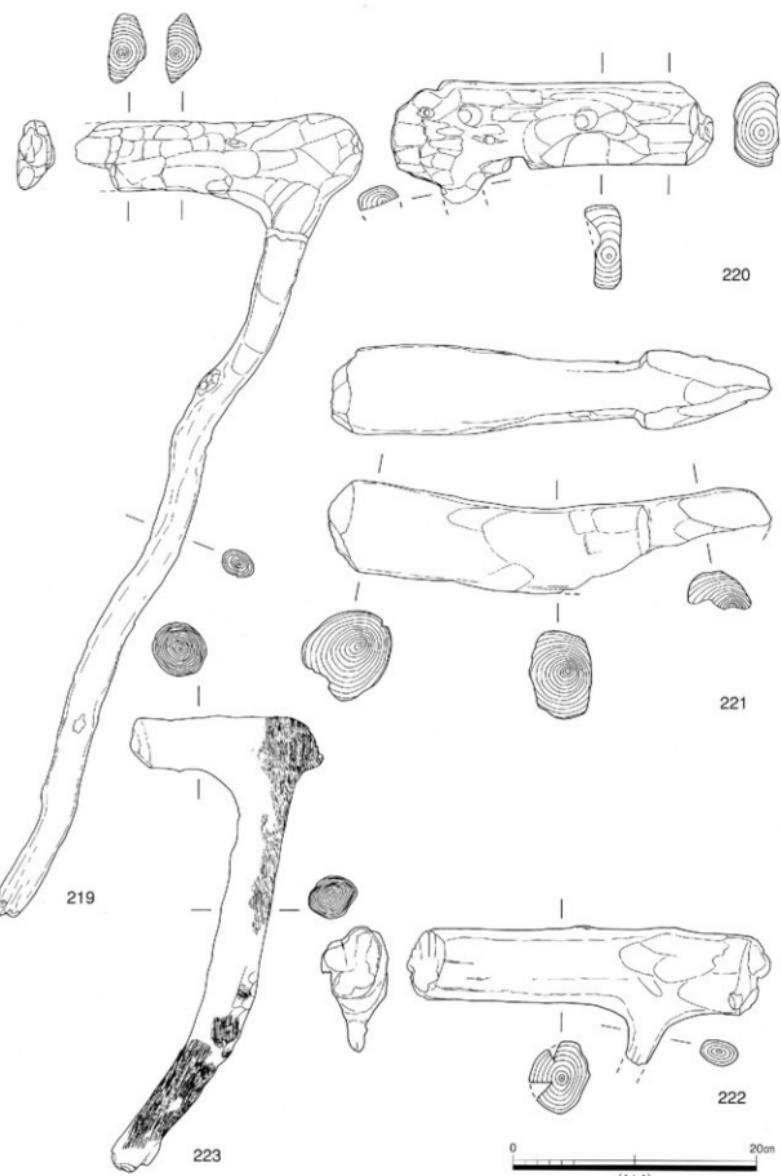
217



218



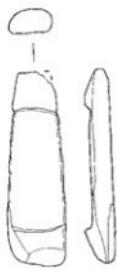
第81図 舟岡地区器具材（5）石斧柄 中期末～後期初頭



第82図 舟岡地区器具材（6）石斧柄 中期末～後期初頭



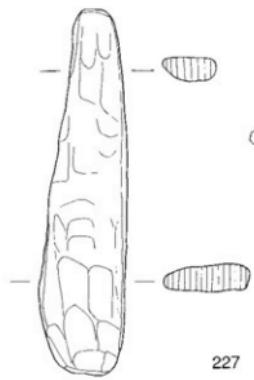
224



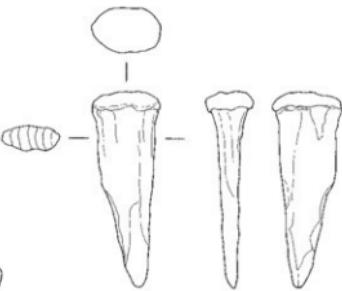
225



226



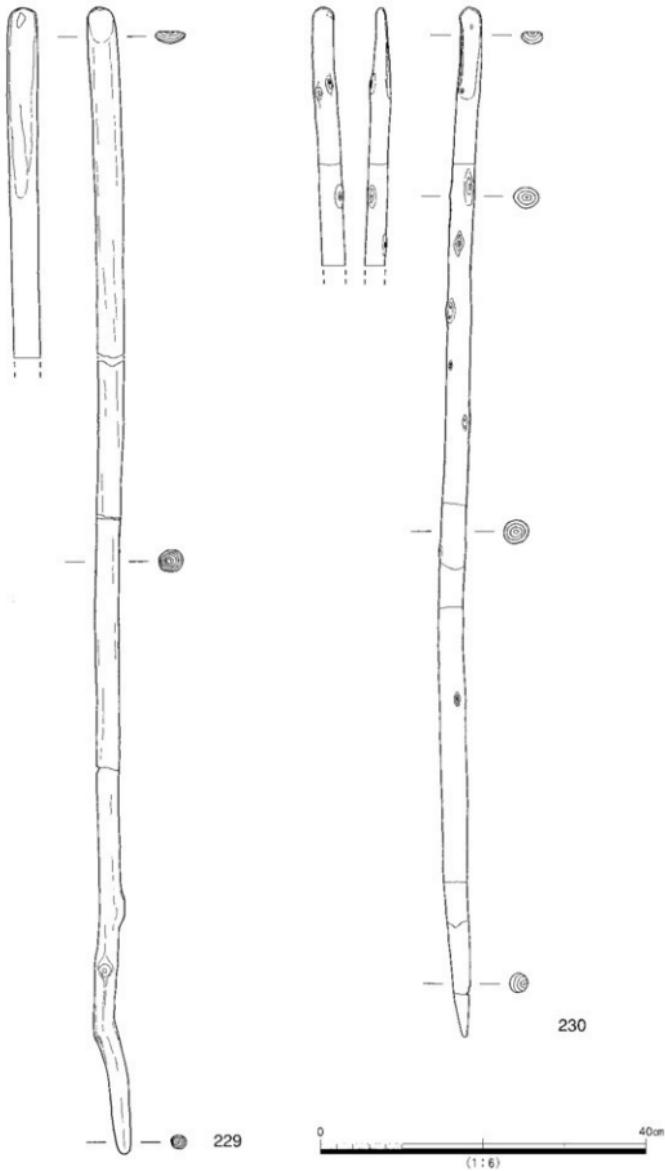
227



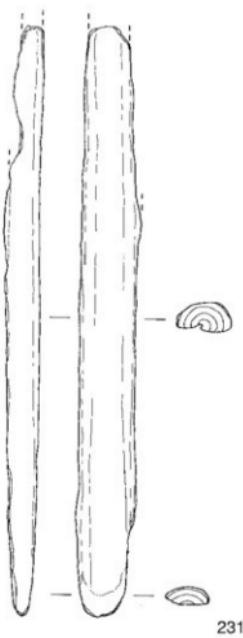
228



第83図 舟岡地区器具材（7）石斧留め具・楔 中期末～後期初頭



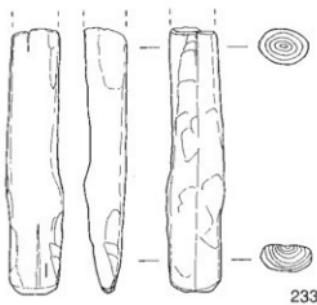
第84図 舟岡地区器具材（8）堀棒 中期末～後期初頭



231



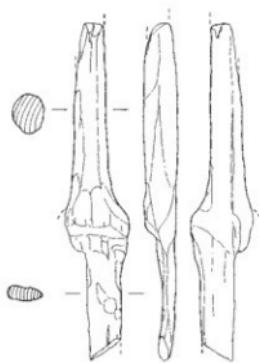
232



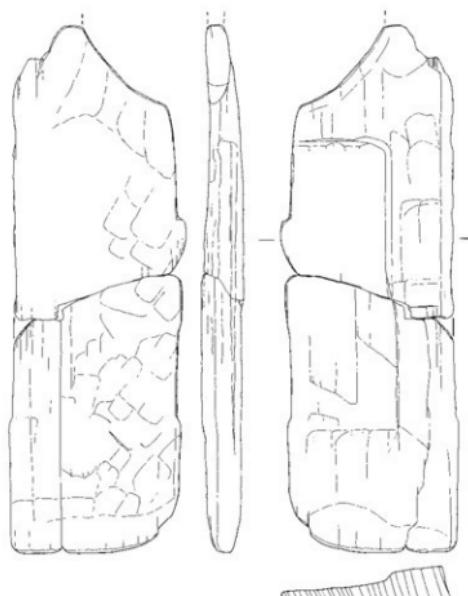
233



第85図 舟岡地区器具材 (9) 堀棒 中期末～後期初頭

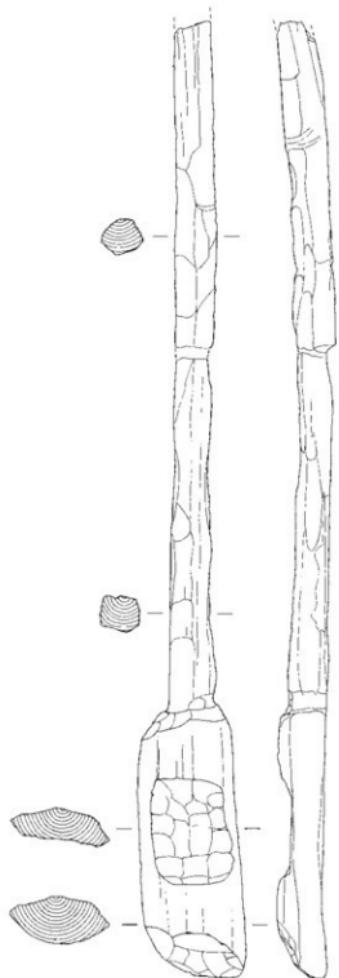


234

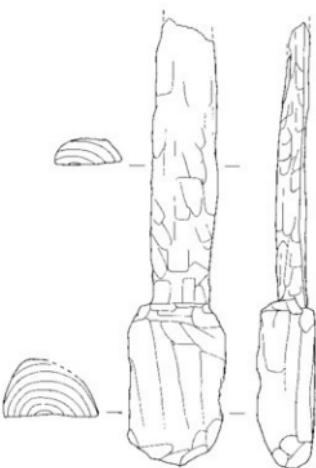


235

第86図 舟岡地区器具材 (10) 鋸状木製品 中期末～後期初頭

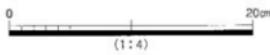


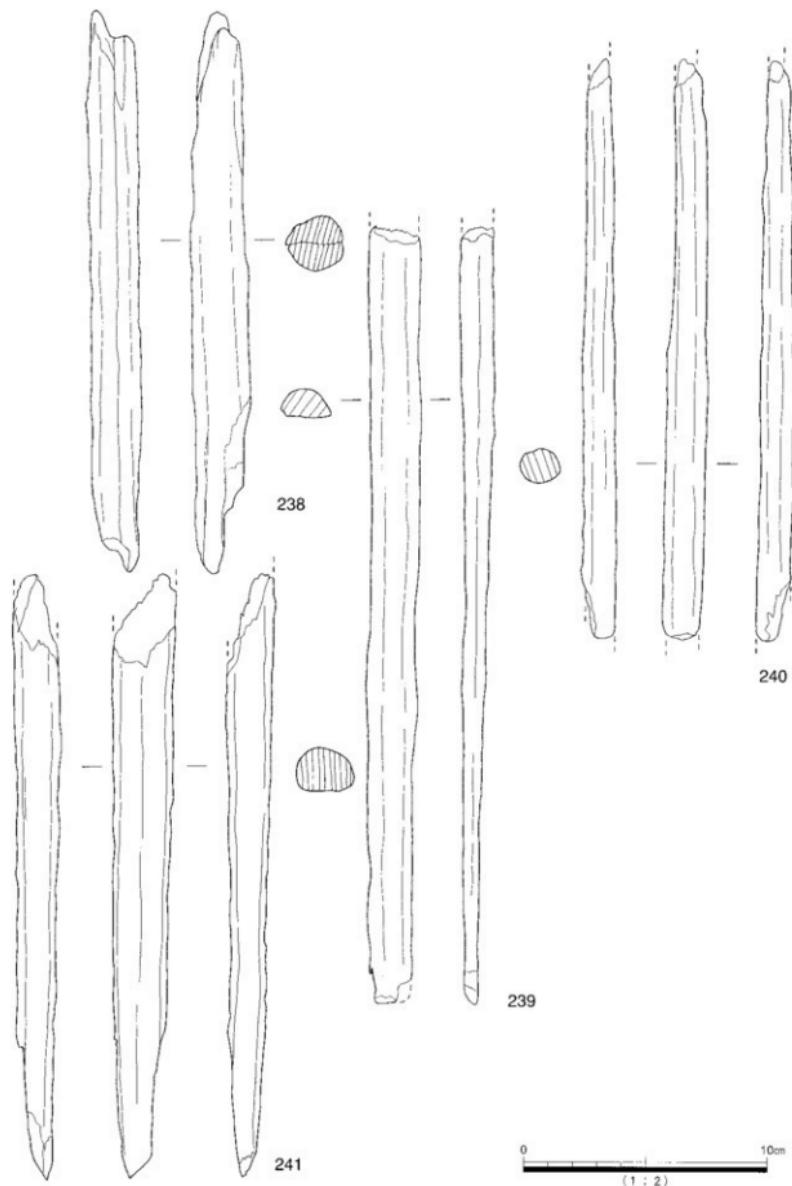
236



237

第87図 舟岡地区器具材 (11) 鋸状木製品 中期末～後期初頭

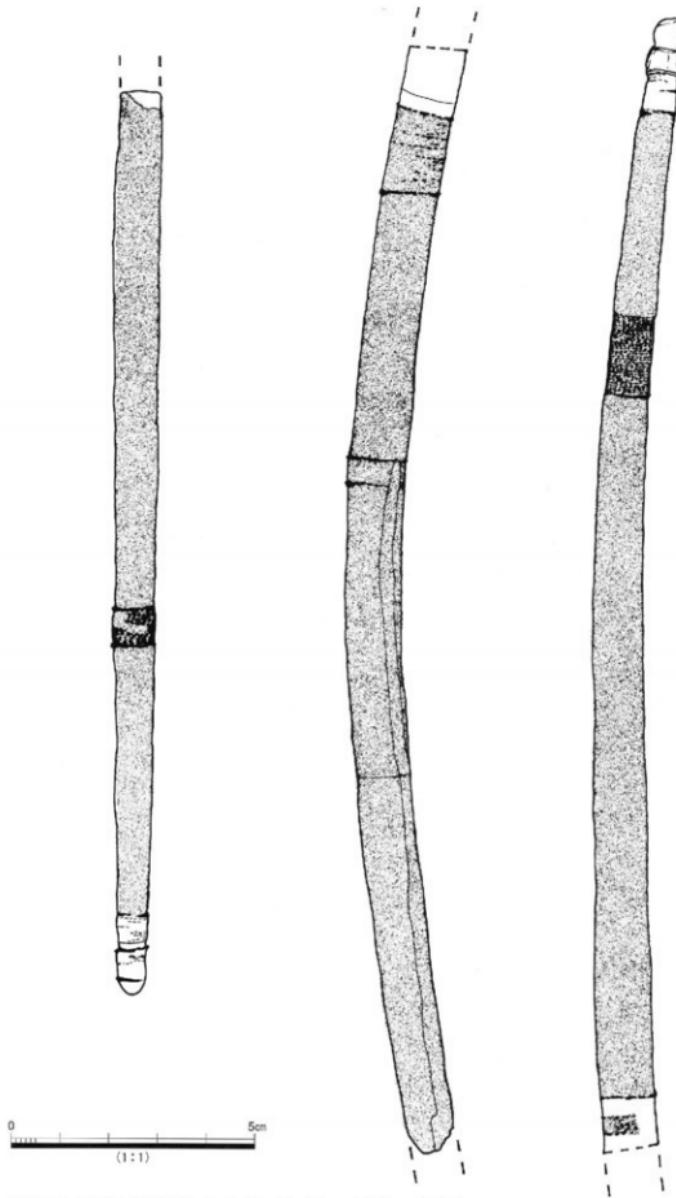




第88図 舟岡地区器具材（12）削りだし棒材 中期末～後期初頭



第89図 舟岡地区器具材 (13) 弓 中期末～後期初頭



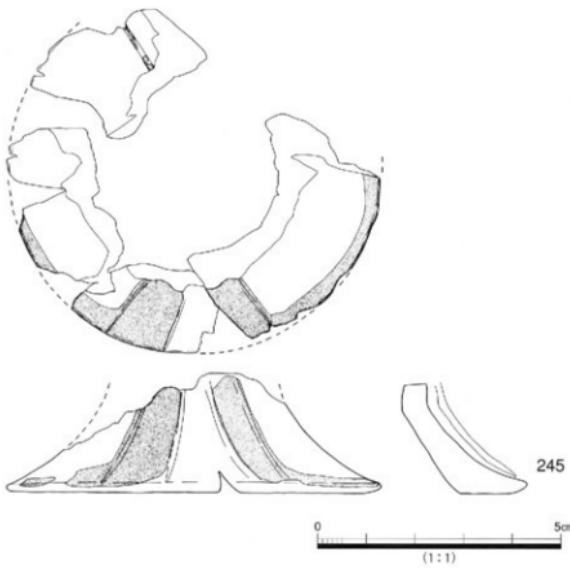
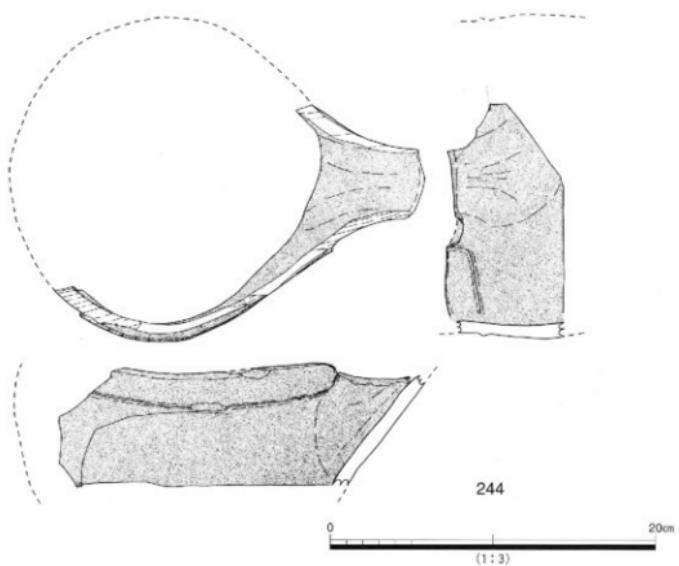
第90図 舟岡地区器具材 (14) 弓 (拡大) 中期末～後期初頭

242



243

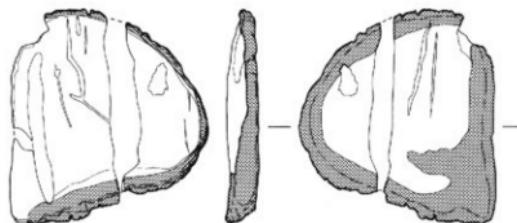
第91図 舟岡地区器具材（15）刺りもの 中期末～後期初頭



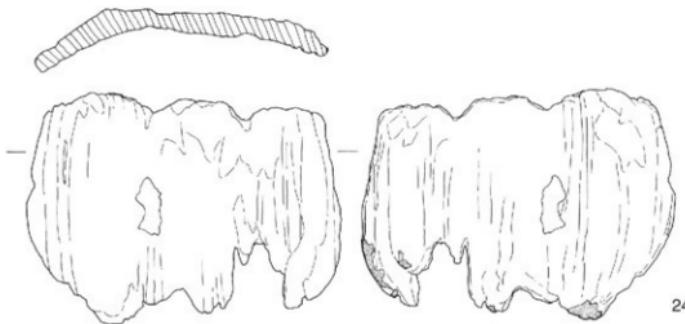
第92図 舟岡地区器具材 (16) 剥りもの 中期末～後期初頭



246



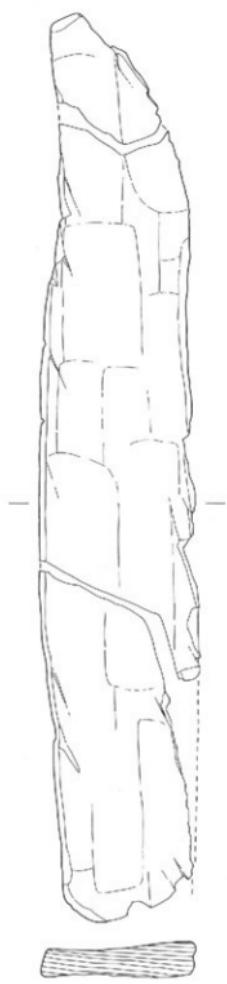
247



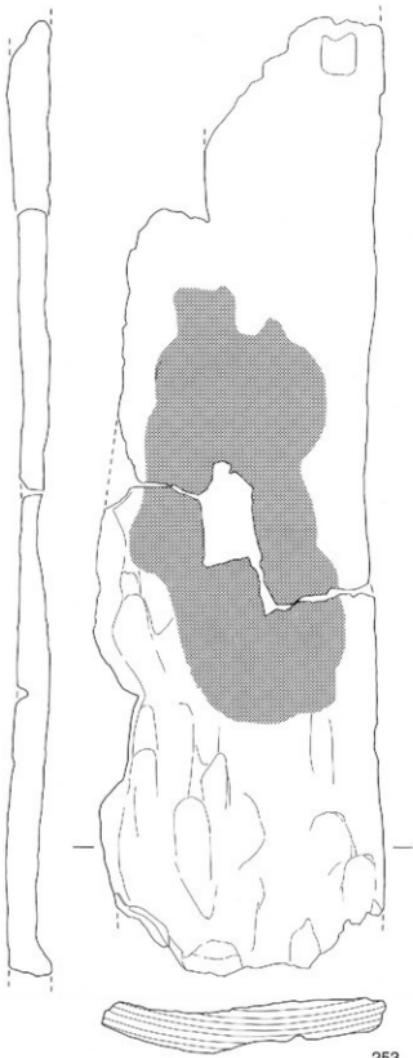
248



第93図 舟岡地区器具材 (17) 剥りもの 中期末～後期初頭



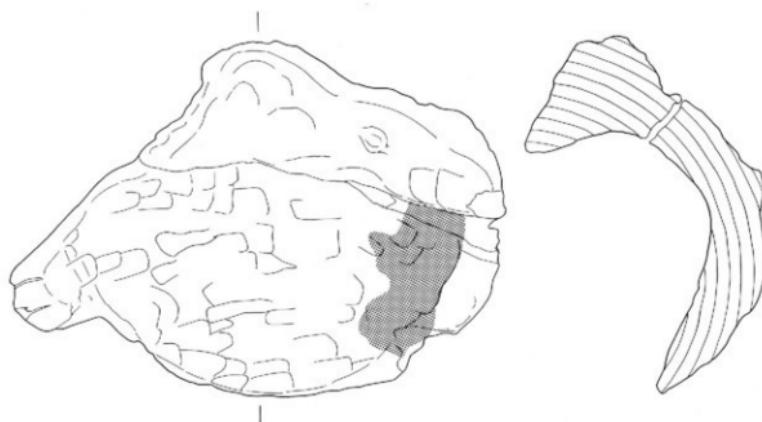
252



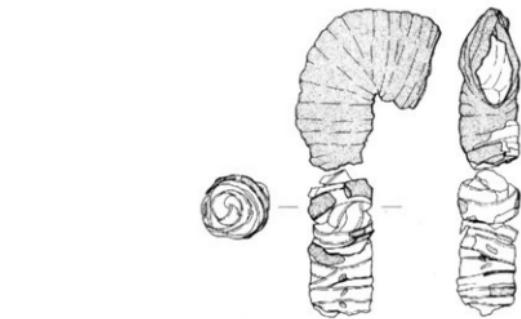
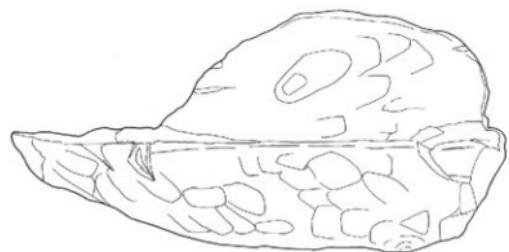
253



第94図 舟岡地区器具材 (18) 刻りもの 中期末～後期初頭



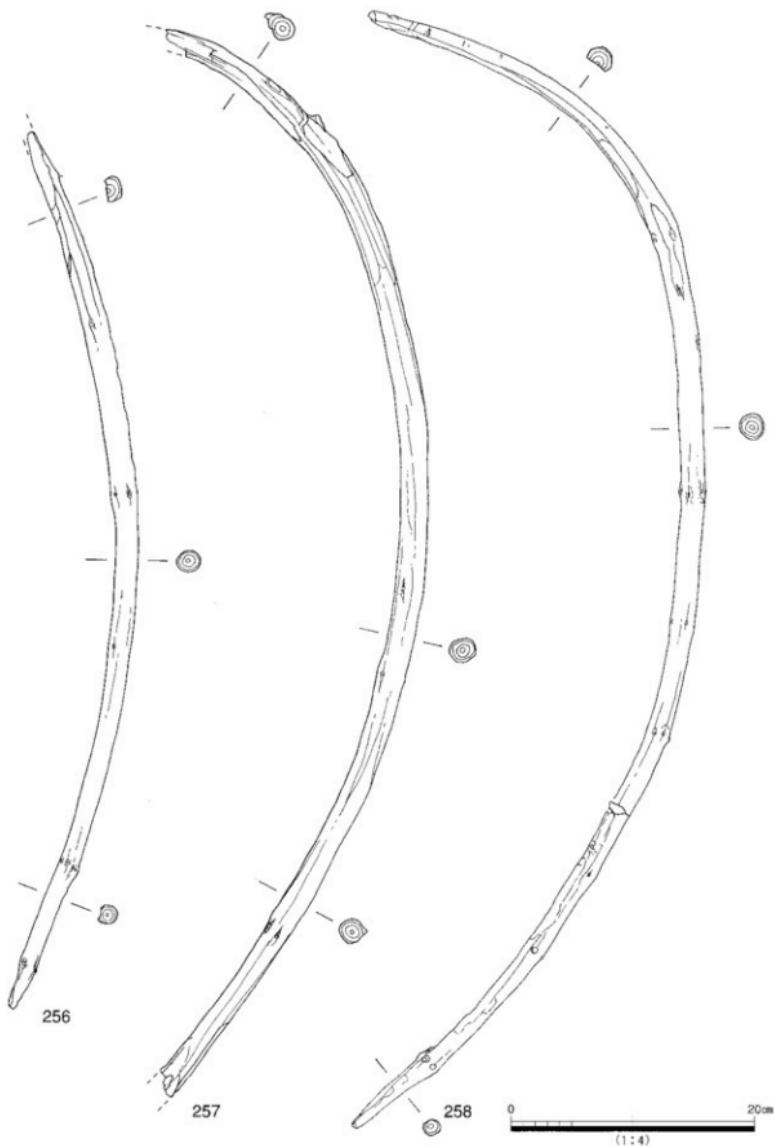
254



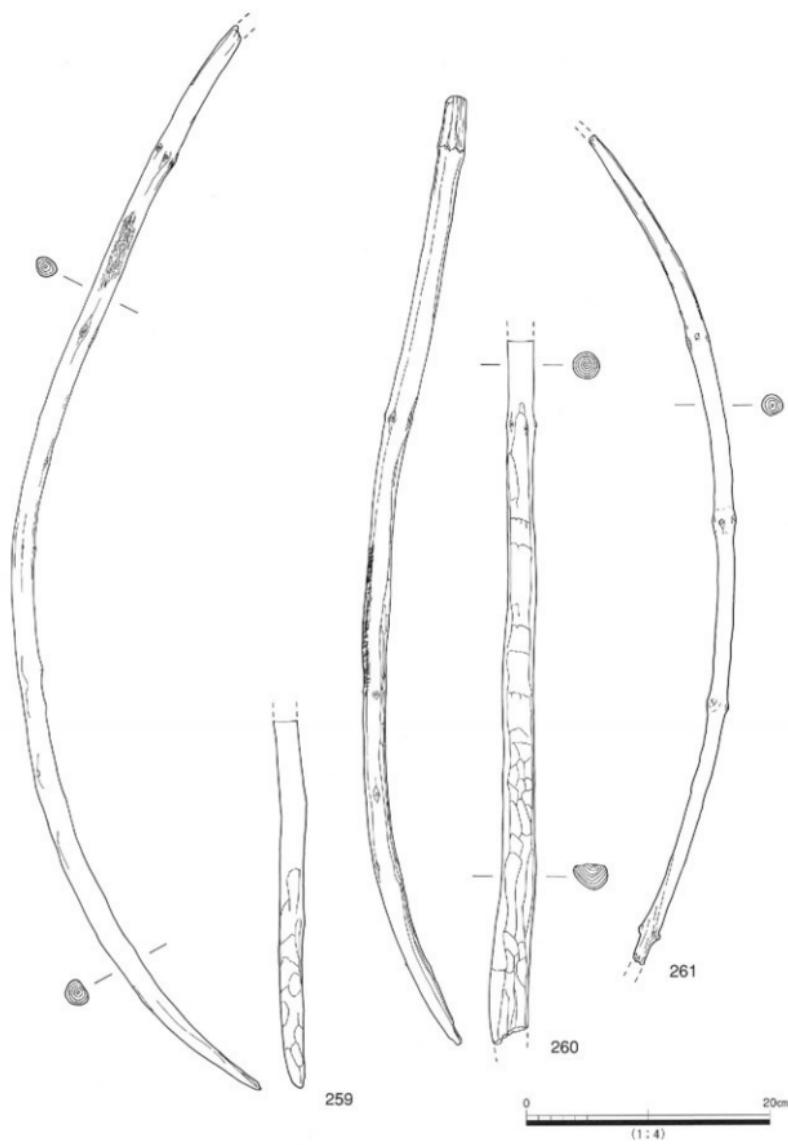
255



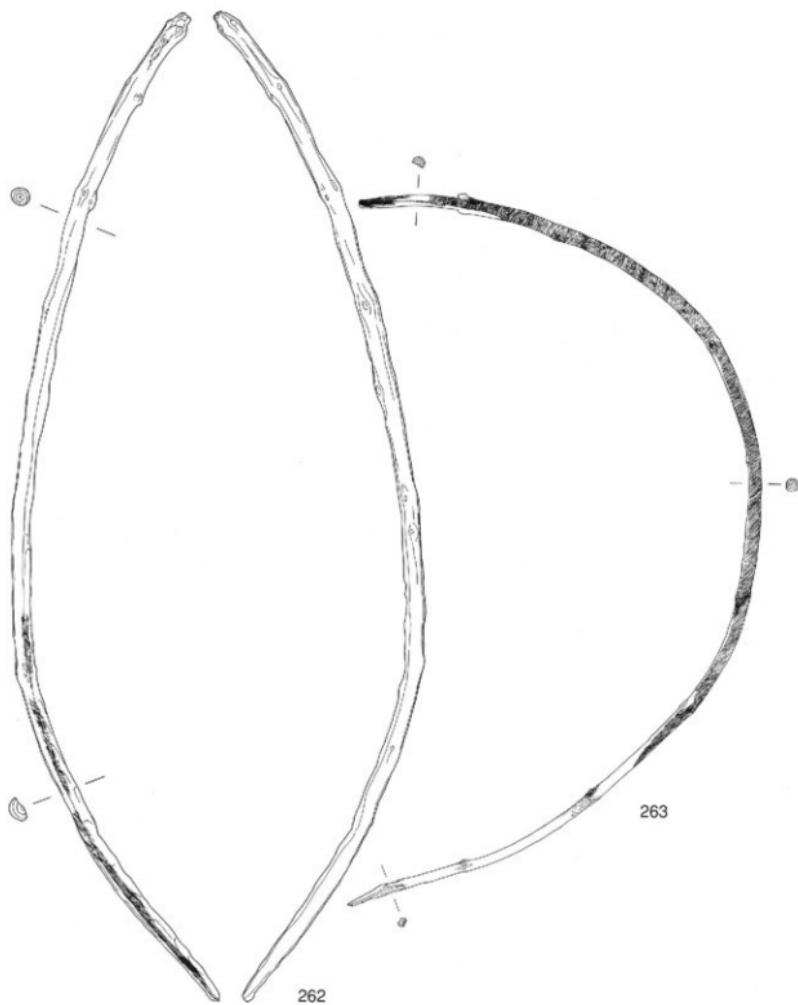
第95図 舟岡地区器具材 (19) 剥りもの・不明漆塗製品 中期末～後期初頭



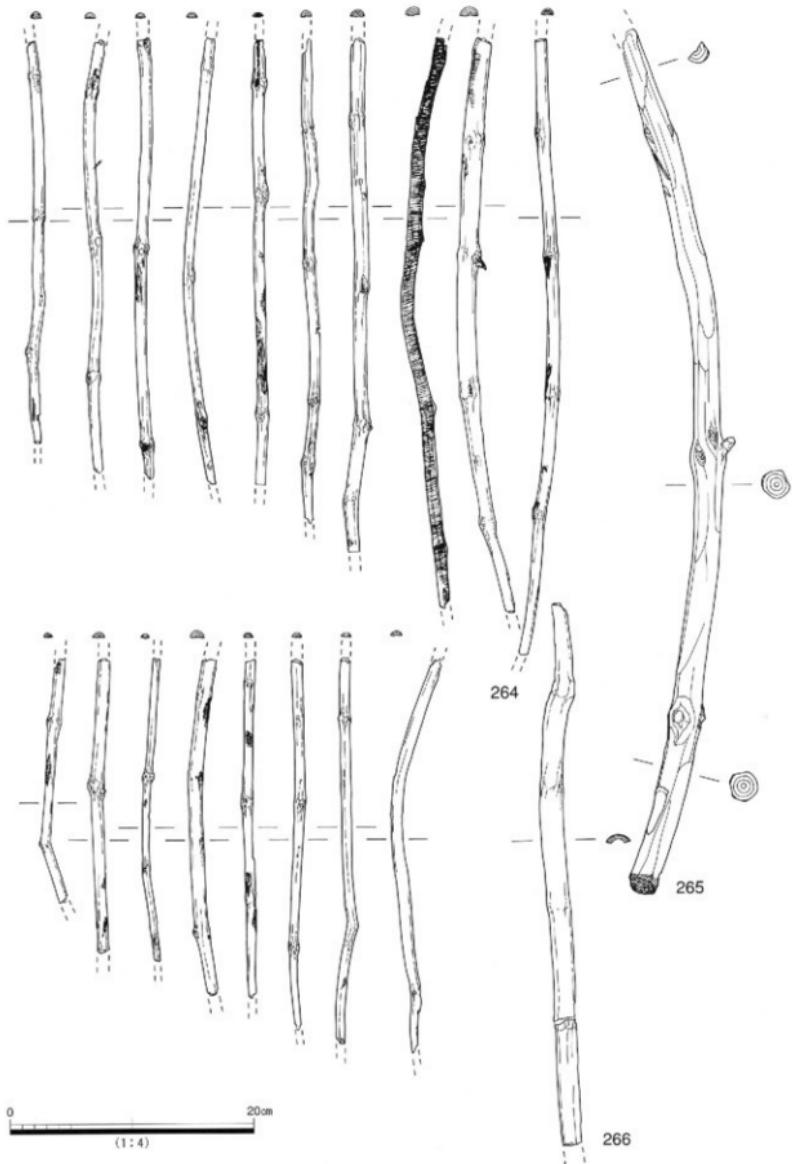
第96図 舟岡地区器具材 (20) 素材 中期末～後期初頭



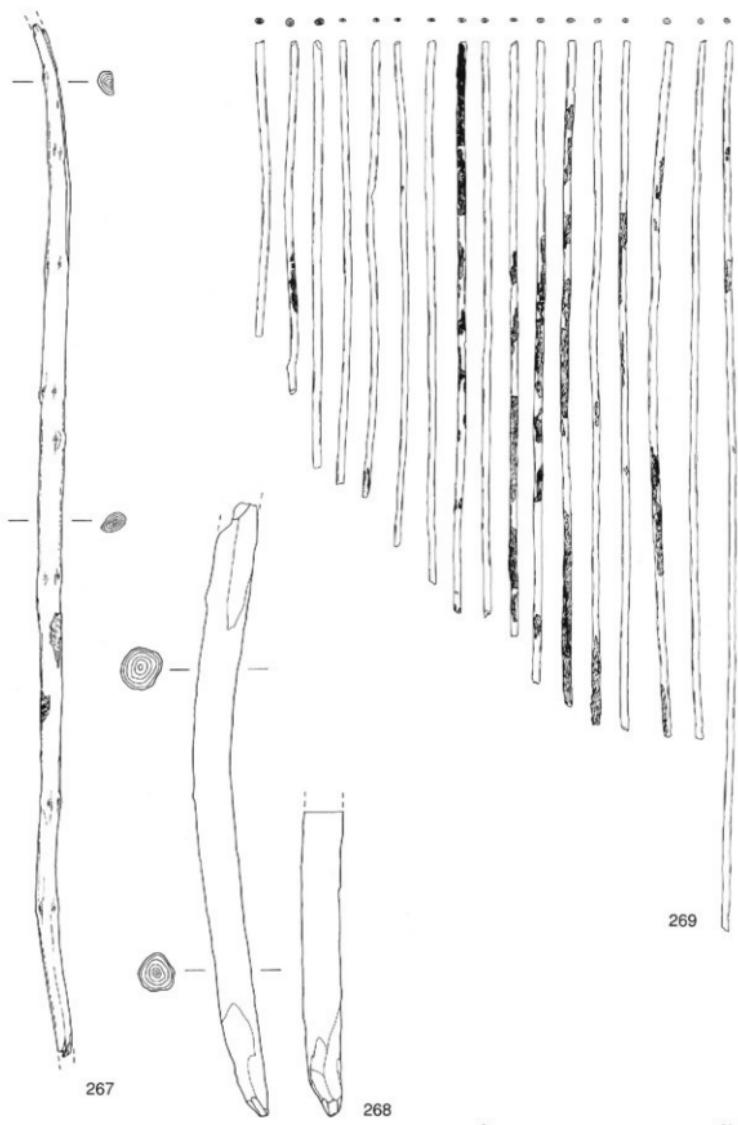
第97図 舟岡地区器具材 (21) 素材 中期末～後期初頭



第98図 舟岡地区器具材 (22) 素材 中期末～後期初頭

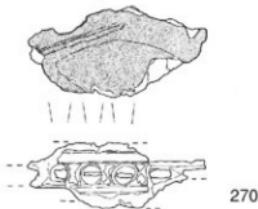


第99図 舟岡地区器具材 (23) 素材 中期末～後期初頭

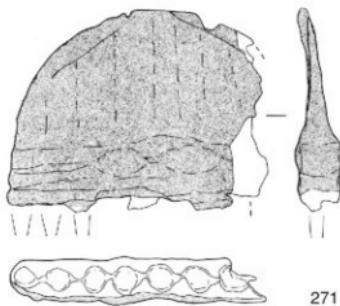


第100図 舟岡地区器具材 (24) 素材 中期末～後期初頭

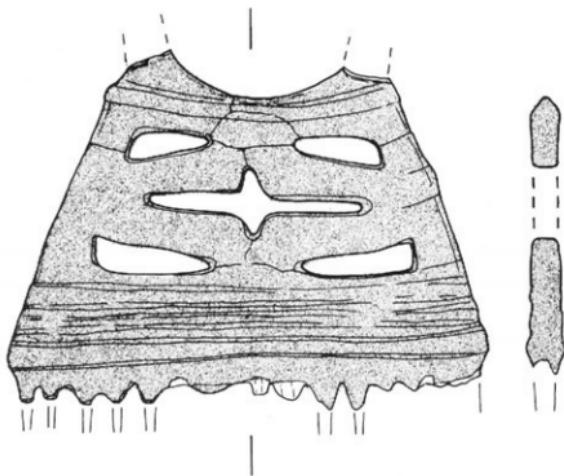
0 20cm
(1:4)



270



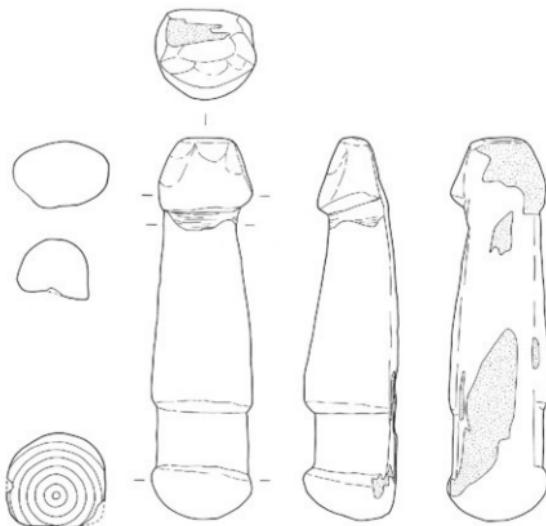
271



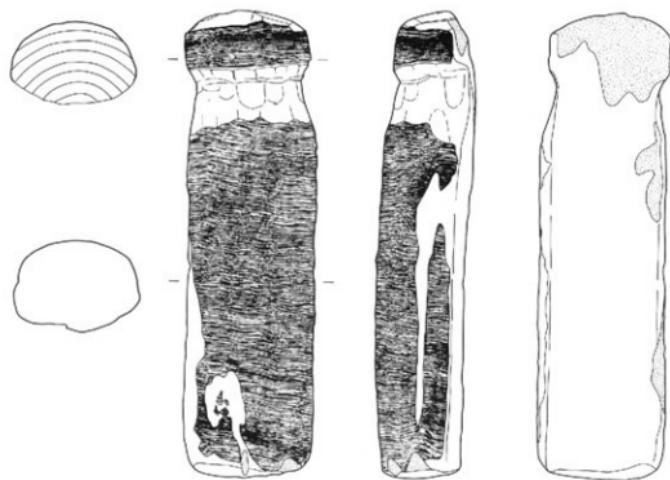
272



第101図 舟岡地区器具材 (25) 櫛 後期末～晩期前葉



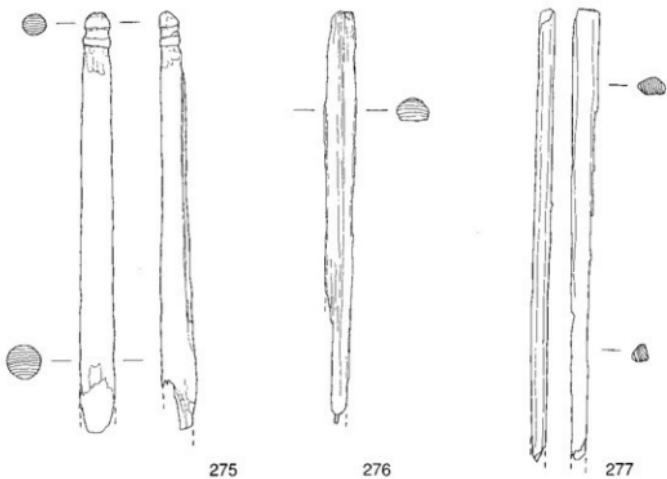
273



274



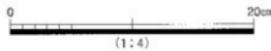
第102図 舟岡地区器具材 (26) 石斧留め具・編錘状木製品 後期末～晩期前葉



275

276

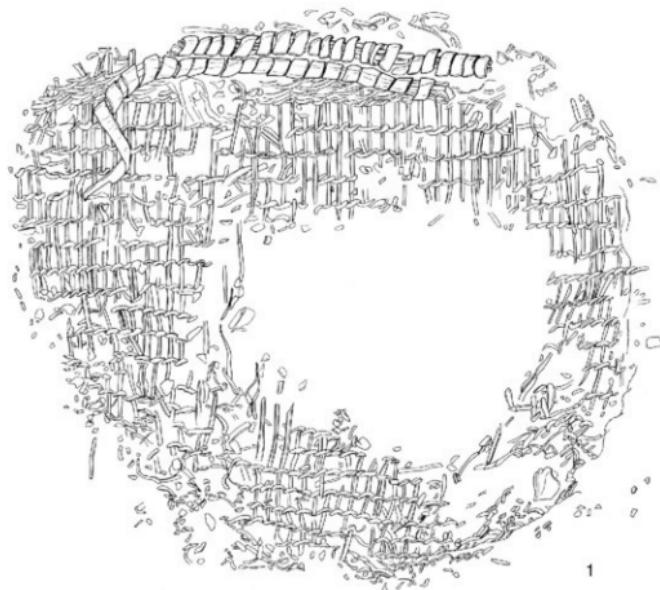
277



第103図 舟岡地区器具材 (27) 削りだし棒材 縄文時代以降 (古墳時代)

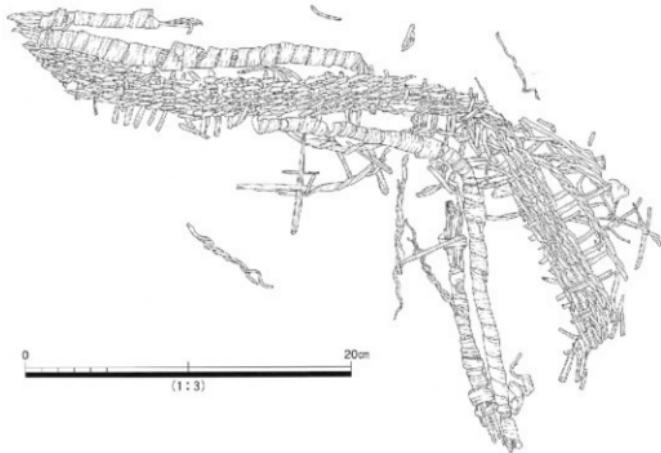
	構築材	施設材	その他の加工材
中期末以前		26 27 28 22 23 25 24	80 81 82 79 83
中期末～後期初頭	6 7 8 9 5 3 2 4 1	45 33 54 52 36 41 42 30 35 43 29 32 40	176 172 183 103 165 101 97 83 158 91 159 111 179 84 116 115 85 112 113 110
後期前葉		58 60 61 59 62 63	
晩期中葉	18 19 21 20 17 14 13 16 15 11 12		0 2m (1:30)

第104図 造作材編年図

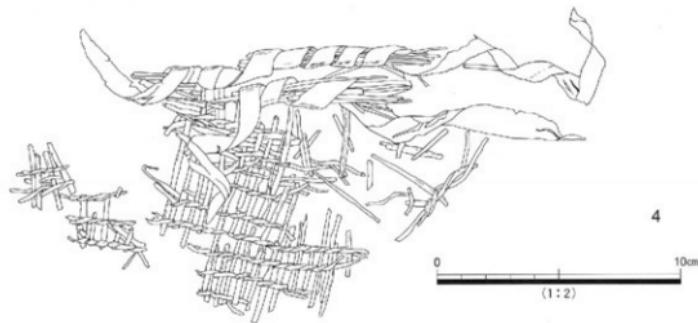


0 10cm
(1:2)

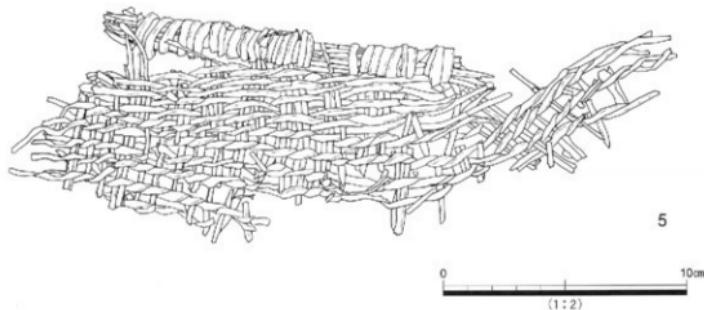
第105図 舟岡地区繊維製品（1）



3



4

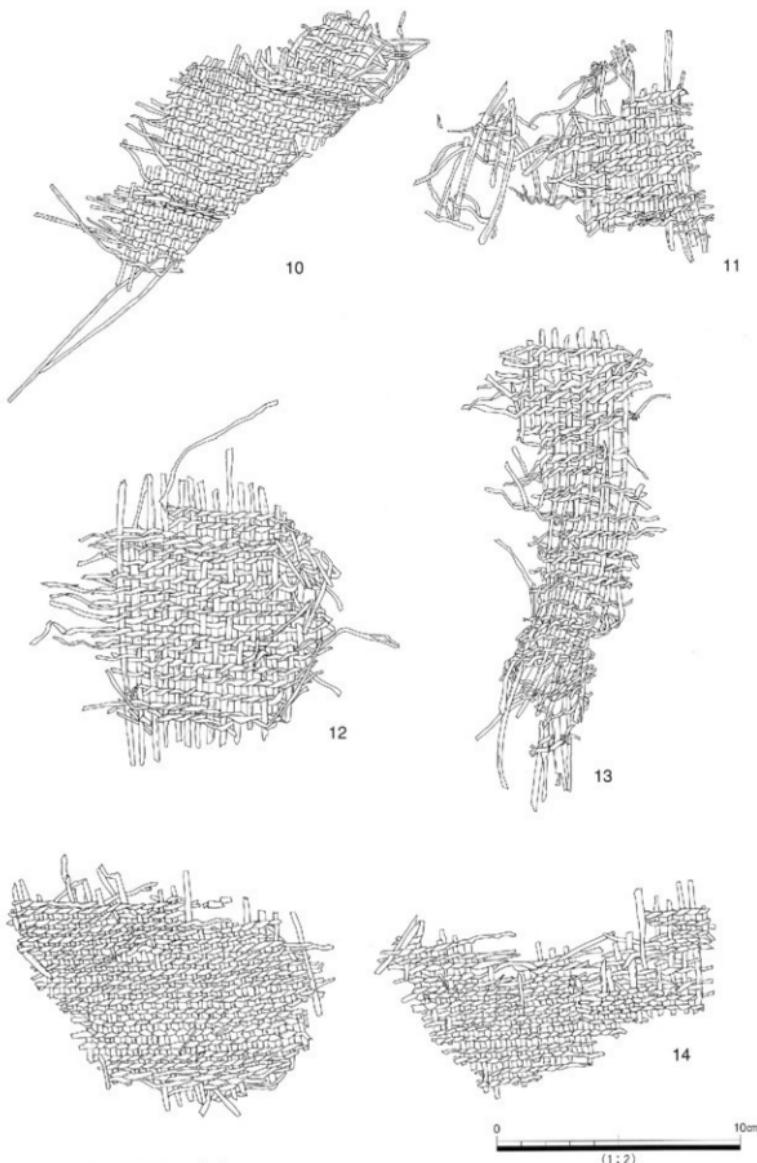


5

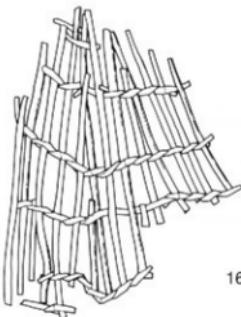
第106図 舟岡地区繊維製品（2）



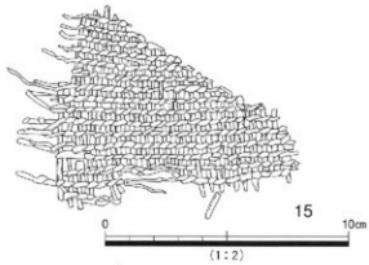
第107図 舟岡地区繊維製品（3）



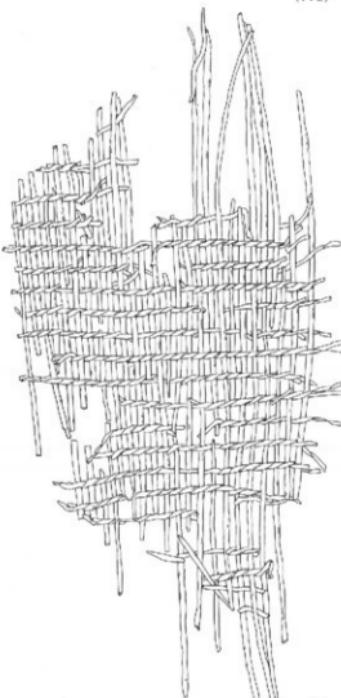
第108図 舟岡地区纖維製品（4）



0 5cm
(1:1)

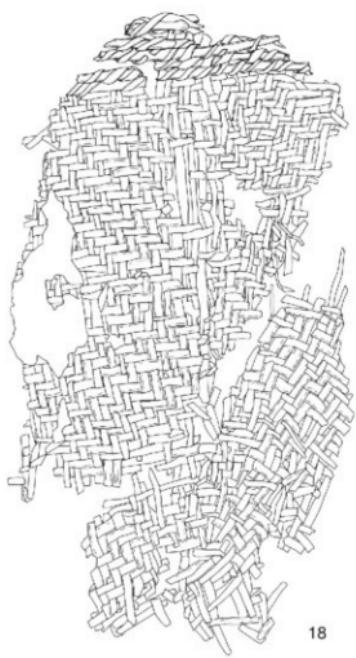


0 10cm
(1:2)



0 10cm
(1:2)

第109図 舟岡地区纖維製品（5）



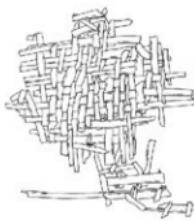
18



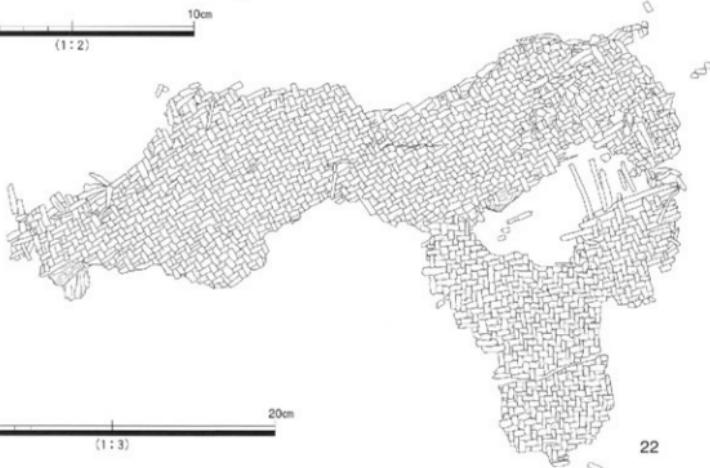
19



20

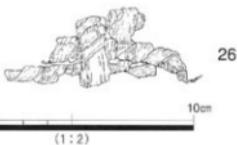
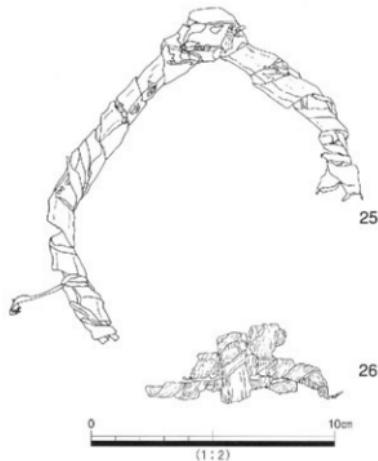
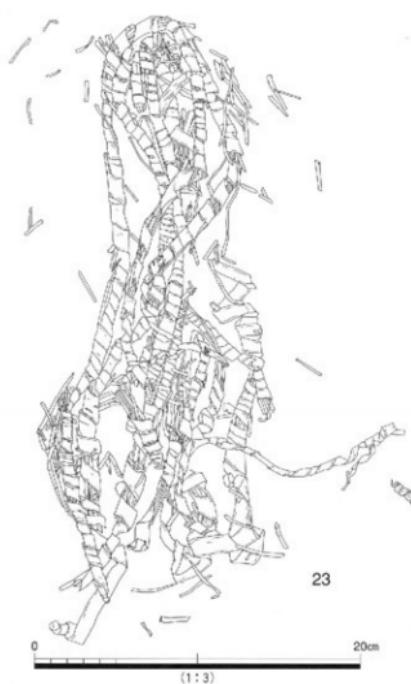


21



22

第110図 舟岡地区纖維製品（6）



第111図 舟岡地区繊維製品（7）

写 真 図 版



1

図版1 舟岡地区構築材（1）柱材 中期末～後期初頭（1：12）



2



3

図版2 舟岡地区構築材(2)柱根 中期末～後期初頭(1:10)



4



5

図版3 舟岡地区構築材（3）柱根 中期末～後期初頭（1:10）



6



8



7



9

図版4 舟岡地区構築材 (4) 柱根 中期末～後期初頭 (1:5)



10

図版5 舟岡地区構築材（5）柱根 中期末～後期初頭（出土状況）



11



12

図版6 舟岡地区構築材（6）柱根 晩期中葉（1:10）



13



14



15

図版7 舟岡地区構築材(7)柱根 晩期中葉(1:10)



16



17

図版 8 舟岡地区構築材 (8) 柱根 晩期中葉 (1:10)



18



19



20



21

図版9 舟岡地区構築材(9)柱根 晩期中葉(1:10)



22



23



24



25



26



28



27



図版10 舟岡地区施設材（1）杭群 中期末以前（1:5）



29

図版11 舟岡地区施設材（2）水場材 中期末～後期初頭（1：15）



30



31



32

図版12 舟岡地区施設材（3）水場材 中期末～後期初頭（1:15）



33



34



35



36

図版14 舟岡地区施設材（5）水場材 中期末～後期初頭（1：15）



37



39



38

図版15 舟岡地区施設材 (6) 水塙材 中期末～後期初頭 (1:6)



40



41

41 (俯瞰)

図版16 舟岡地区施設材 (7) 水場材 中期末～後期初頭 (1:15)



42

図版17 舟岡地区施設材（8）水場材 中期末～後期初頭（1：10）



43



44



279

図版18 舟岡地区施設材（9）水場材 中期末～後期初頭（1：15）



図版19 舟岡地区施設材 (10) 水場材 中期末～後期初頭 (1:10)



48



49



50

図版20 舟岡地区施設材 (11) 水場材 中期末～後期初頭 (1:10)



51



52

図版21 舟岡地区施設材 (12) 水場材 中期末～後期初頭 (1:10)



53



55



54

図版22 舟岡地区施設材 (13) 水場材 中期末～後期初頭 (1:10)



56

57

図版23 舟岡地区施設材 (14) 水塙材 中期末～後期初頭 (1:10)



58



59



60



61

図版24 舟岡地区施設材 (15) 水場材 後期末～晩期前葉 (1:6)



62



63

図版25 舟岡地区施設材 (16) 水塲材 後期末～晩期前葉 (1:6)



64



65



66



67



図版26 中出地区施設材 (17) 水場材 中期末～後期初頭 (1:4)



図版27 中出地区施設材 (18) 水場材 中期末～後期初頭 (1:4)



71



72

図版28 中出地区施設材 (19) 水場材 中期末～後期初頭 (1:4)



74



73



75

図版29 中出地区施設材 (20) 水場材 中期末～後期初頭 (1:6)



76



77



78

図版30 中出地区施設材 (21) 水場材 中期末～後期初頭 (1:4)



80



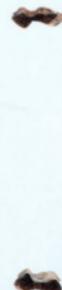
81



82



79



83

図版31 舟岡地区その他の加工材 (1) 丸木材・分割材 中期末以前 (1:10)



84

図版32 舟岡地区その他の加工材（2）丸木材 中期末～後期初頭（1：10）



85

図版33 舟岡地区その他の加工材 (3) 丸木材 中期末～後期初頭 (1:10)



84 裏



85 裏

図版34 舟岡地区その他の加工材 (4) 丸木材 中期末～後期初頭 [任意]



86



87



88



89

図版35 舟岡地区その他の加工材 (5) 丸木材 中期末～後期初頭 (1:6)



90



91

92

図版36 舟岡地区その他の加工材 (6) 丸木材 中期末～後期初頭 (1:10)



93



94



95



96

図版37 舟岡地区その他の加工材 (7) 丸木材・半割材 中期末～後期初頭 (1:15)



97

図版38 舟岡地区その他の加工材 (8) 半割材 中期末～後期初頭 (1:10)



98



99

図版39 舟岡地区その他の加工材 (9) 半割材 中期末～後期初頭 (1:3)



100



103



101



図版40 舟岡地区その他の加工材 (10) 半割材 中期末～後期初頭 (1:6)



102



104

図版41 舟岡地区その他の加工材（11）半割材 中期末～後期初頭（1:6）



105



106



107

図版42 舟岡地区その他の加工材 (12) 半割材 中期末～後期初頭 (1:3)



108



109



図版43 舟岡地区その他の加工材 (13) 半割材・分割材 中期末～後期初頭 (1:10)



110

図版44 舟岡地区 その他の加工材 (14) 分割材 中期末～後期初頭 (1:15)



111

図版45 舟岡地区その他の加工材（15）分割材 中期末～後期初頭（1：10）



図版46 舟岡地区その他の加工材 (16) 分割材 中期末～後期初頭 (1:15)



114



115



116

図版47 舟岡地区その他の加工材（17）分割材 中期末～後期初頭（1:6）



117



118



119



120



121



122



123

図版49 舟岡地区その他の加工材 (19) 分割材 中期末～後期初頭 (1:5)



125



127



129

図版50 舟岡地区その他の加工材 (20) 分割材 中期末～後期初頭 (1:6)



130

131

134

132

133

135

136

図版51 舟岡地区その他の加工材 (21) 分割材 中期末～後期初頭 (1:4)



137



137



141



138



139

図版52 舟岡地区その他の加工材（22）分割材 中期末～後期初頭（1:6）



142



144



145



143

図版53 舟岡地区その他の加工材 (23) 分割材 中期末～後期初頭 (1:4)



146



147



150



151



148



149

図版54 舟岡地区その他の加工材 (24) 分割材 中期末～後期初頭 (1:6)



図版55 舟岡地区その他の加工材 (25) 分割材 中期末～後期初頭 (1:6)



156



157



158

図版56 舟岡地区その他の加工材 (26) 板目板 中期末～後期初頭 (1:4)



159

図版57 舟岡地区その他の加工材 (27) 板目板 中期末～後期初頭 (1:6)



160



161



162



163



164



図版58 舟岡地区その他の加工材 (28) 板目板 中期末～後期初頭 (1:6)



165



168

167

166

図版59 舟岡地区その他の加工材 (29) 板目板 中期末～後期初頭 (1:6)



169



170

図版60 舟岡地区その他の加工材（30）板目板 中期末～後期初頭（1：3）



171



172

図版61 舟岡地区その他の加工材 (31) 板目板 中期末～後期初頭 (1:3)



173



174



175

図版63 舟岡地区その他の加工材（33）板目板 中期末～後期初頭（1：3）



176



177



178



179



180



181

図版66 舟岡地区その他の加工材（36）柾目板 中期末～後期初頭（1：3）



182



184



185



186

図版67 舟岡地区その他の加工材（37）柾目板 中期末～後期初頭（1：3）



183



187

図版68 舟岡地区その他の加工材 (38) 横目板 中期末～後期初頭 (1:3)



188



189

図版69 舟岡地区その他の加工材（39）柾目板 中期末～後期初頭（1：3）



190



191



192



193

図版70 舟岡地区 その他の加工材 (40) 板目板・柾目板 中期末～後期初頭 (1:6)



194



195



198

196

197



199



200



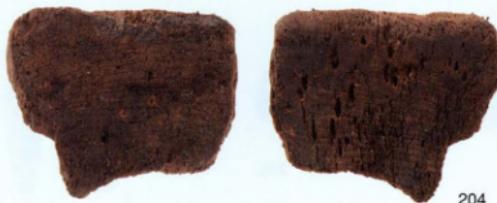
202



201



203



204

図版73 中出地区その他の加工材 (43) 分割材 中期末～後期初頭 (上図, 1:4)、
舟岡地区器具材 (1) 剥りもの 中期末以前 (下図, 1:2)



205

206

207

図版74 舟岡地区器具材（2）石斧柄 中期末～後期初頭（1:4）



208



210

211

図版75 舟岡地区器具材（3）石斧柄 中期末～後期初頭（1：4）

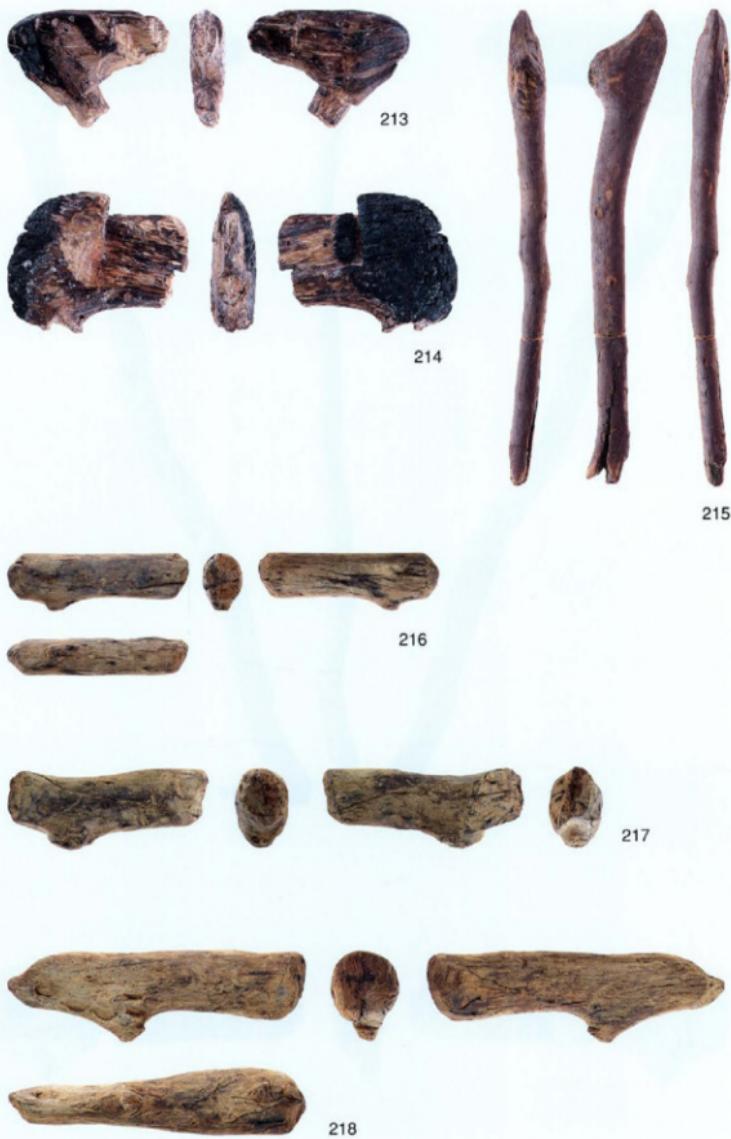


209



212

図版76 舟岡地区器具材（4）石斧柄 中期末～後期初頭（1：4）



図版77 舟岡地区器具材（5）石斧柄 中期末～後期初頭（213～215は1：4、216～218は1：6）



219



220

图版78 舟岡地区器具材（6）石斧柄 中期末～後期初頭（1：4）



221



222



223

図版79 舟岡地区器具材（7）石斧柄 中期末～後期初頭（1：4）



224

225



226



227

228

図版80 舟岡地区器具材（8）石斧留め具、楔 中期末～後期初頭（1：2）



図版81 舟岡地区器具材（9）堀棒 中期末～後期初頭（1:6）



231



232



233

図版82 舟岡地区器具材 (10) 堀棒 中期末～後期初頭 (1:3)



234



235

図版83 舟岡地区器具材 (11) 鐘状木製品 中期末～後期初頭 (1:4)



236

237

図版84 舟岡地区器具材 (12) 鋤状木製品 中期末～後期初頭 (1:4)



238



239



240



241

図版85 舟岡地区器具材 (13) 削りだし棒材 中期末～後期初頭 (1:2)



242

図版86 舟岡地区器具材 (14) 弓 (1:8) • 部分拡大 (1:2) 中期末～後期初頭



243



244

図版87 舟岡地区器具材(15) 刻りもの 中期末～後期初頭(1:3)



245

図版88 舟岡地区器具材 (16) 刺りもの 中期末～後期初頭 (1:1)



図版89 舟岡地区器具材 (17) 剥りもの 中期末～後期初頭 (1:3)



253

図版90 舟岡地区器具材 (18) 刺りもの 中期末～後期初頭 (1:3)



252



254

図版91 舟岡地区器具材 (19) 刻りもの 中期末～後期初頭 (252は1:3, 254は1:4)



255

図版92 舟岡地区器具材 (20) 不明漆塗製品 中期末～後期初頭 (1:4)



図版93 舟岡地区器具材 (21) 素材 中期末～後期初頭 (1:4)



図版94 舟岡地区器具材 (22) 素材 中期末～後期初頭 (1:4)



図版95 舟岡地区器具材 (23) 素材 中期末～後期初頭 (1:6)



264



265



266

図版96 舟岡地区器具材 (24) 素材 中期末～後期初頭 (1:4)



267

268

269

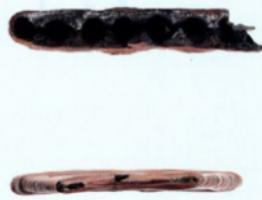
図版97 舟岡地区器具材 (25) 素材 中期末～後期初頭 (1:4)



270



271



272

図版98 舟岡地区器具材 (26) 櫛 後期末～晩期前葉 (270, 271は1:1, 272は1:2)



273



274

図版99 舟岡地区器具材 (27) 石斧留め具・編錘状木製品 後期末～晩期前葉 (1:2)



275

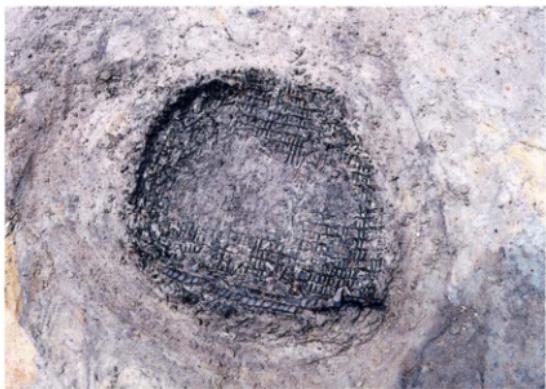


276



277

図版100 舟岡地区器具材 (28) 削りだし棒材 繩文時代以降 (古墳時代) (1:4)



1



2



18

図版101 舟岡地区繊維製品（1） 中期末～後期初頭（出土状況）



43



45



46



54

図版102 舟岡地区繊維製品（2） 中期末～後期初頭
(43, 45, 46は出土状況, 54は3倍大)



1



2



3

図版103 舟岡地区植物 中期末～後期初頭（任意）

富山県小矢部市
桜町遺跡発掘調査報告書

木製品・繊維製品・植物編

発行日 平成19年3月30日

編集・発行 小矢部市教育委員会
〒932-8611 富山県小矢部市本町1-1
TEL 0766-67-1760

印 刷 株式会社 アヤト
